

2005年度

法学部シラバス

獨協大学

「法学部シラバス」について

法学部長 柴田 平三郎

シラバス (syllabus) とは、授業科目の内容などを要約した一覧のことです。学生諸君の教室内および教室外の勉学に資するために、本学はシラバスを冊子形式で作成しています。

冊子形式のシラバスは学部別に分冊化されており、「法学部シラバス」では、すべての法学部開設科目（法律学科・国際関係法学科）を収載しています（ただし、演習等特別の開講形態のものは除く）。またインターネット上では、全学共通授業科目や他学部の開設科目についても見るすることができます。

これによって法学部のカリキュラムの全容がわかりますので、まずは全体に目をとおしてみてください。科目ごとに、①講義目的および講義概要、②テキスト・参考文献、③評価方法、④学期授業計画、の4項目からなっています。書式の基本は共通ですが、記述の仕方にはおのずから教員の個性や教育理念が現れていることでしょう。

このうち、「講義目的および講義概要」欄には、教員による科目の位置づけや、受講者にとっての達成目標、および学期ごと授業の概略や講義の方法が記されています。「テキスト・参考文献」欄には授業で使用する教科書や参考とすべき文献の情報が載っています。「評価方法」欄を見れば、試験やレポートについて、また授業そのものについて、教員がなにを望んでいるかを知ることができます。さらに「学期授業計画」欄には、授業の詳細な内容とその進め方が、12週または24週分にわたって記載されていますので、受講者はこれを参考に学期ごとの学習計画を立てることができます。

シラバスは、学年初めの履修登録のときにだけ必要なものではありません。シラバスは教員と学生諸君とのあいだの授業に関する約束ですから、教員はこれに則して授業を進めたり成績評価をするべきですし、受講者もこれにしたがって授業に参加し成績評価を受けねばなりません。そのためには、授業期間をつうじてシラバスを参照する必要があります。

大学の授業は、教員と学生とが共同して作りあげるものです。その成否は、学生諸君の場合には成績として現れますし、教員の場合にはいわゆる授業評価によって試されることとなります。そのためにも、法学部の授業をさらに良くする第一歩として、学生諸君がこのシラバスを大いに活用されることを希望します。

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が、学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。学生諸君は、シラバスを良く読み、計画的な履修登録をしてください。

※2003年度以降入学者の開設科目は、すべて春学期または秋学期で完結します。

※2002年度以前入学者の開設科目は、原則通年で開講されます。（一部半期完結の科目を開設）

※履修不可学科の表記 外：外国語学部 経：経済学部 律：法律学科 国：国際関係法学科

*上段は、春学期科目です。

① 適用年度・学科	② 科目名	③ 担当者
適用年度・学科 適用年度・学科	科目名 科目名	
④ 講義目的、講義概要		⑤ 授業計画
【 春学期 】		第1週
		第2週
		第3週
		第4週
		第5週
		第6週
		第7週
		第8週
		第9週
		第10週
		第11週
		第12週
⑥ テキスト、参考文献		⑦ 評価方法

適用年度・学科	科目名	担当者
適用年度・学科 適用年度・学科	科目名 科目名	
講義目的、講義概要		授業計画
【 秋学期 】		第1週
		第2週
		第3週
		第4週
		第5週
		第6週
		第7週
		第8週
		第9週
		第10週
		第11週
		第12週
テキスト、参考文献		評価方法

*下段は、秋学期科目です。
各項目の記載については、春学期と同一です。

【記載内容】

- ① 適用年度・適用学科
- ② ①の適用年度・学科に対応した科目名を記載
(*****の場合は開設されていません)

適用年度・学科

【03~05 律/国】

2003年度～2005年度入学 法律学科/国際関係法学科を
対象とした科目です。

【99~02 律/国】

1999年度～2002年度入学 法律学科/国際関係法学科を
対象とした科目です。

【98以前 律】

1998年度以前入学 法律学科
を対象とした科目です。

- ③ 担当教員氏名
- ④ 授業の目的や講義全体の説明、
学生への要望が記載してあります。
- ⑤ 学期の授業計画についての欄です。
原則として各週ごとに講義するテーマが記載して
あります。
- ⑥ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載
してあります。
- ⑦ 2003年度以降入学者のすべてと2002年度以前
入学者の半期完結科目は、春・秋の学期末に成績
評価が出ます。それ以外の通年科目は年度末に成
績評価が出ます。

【注意】

1.登録条件

秋学期の科目には、春学期の科目履修登録または、
単位の修得を条件にした科目があります。

2.2002年度以前入学者の半期完結科目

(法律学特講B、模擬国際裁判、地域の法特講、国際
関係特講B、地域研究特講B)

(民法Ⅰ、商法Ⅱ、商法Ⅲは週2コマ開講で半期完結)

3.新・旧カリキュラム合併の科目について

講義目的欄等に各自のカリキュラムに相当しない科目名
が記載されている場合がありますが、この科目名は合併
している他のカリキュラムの科目名となっています。

例) 自然科学概論→宇宙論 a、宇宙論 b (講義目的欄)

4.受講制限の科目について

外国法講読、国際関係法講読、国際政治講読、外国法文
献研究、国際関係法文献研究については、受講希望者数
により選抜する場合があります。

5.定員

「全学共通授業科目」については定員を設けていますので、
「授業時間割表」を参照してください。

学科・入学年度別

《学則別表・目次一覽》

I	法律学科 2003～2005 年度入学生	I—1～4
II	国際関係法学科 2003～2005 年度入学生	II—1～4
III	法律学科 1999～2002 年度入学生	III—1～5
IV	国際関係法学科 1999～2002 年度入学生	IV—1～5
V	法律学科 1998 年度以前入学生	V—1～5
VI	外国語科目 (2002 年度以前入学生)	VI—1～2
	外国人学生用科目	VI—2
VII	体育科目 (共通)	VII—1～2

学則別表

法律学科授業科目表(学則別表より)2003年度以降入学者用

部門	科目	単位数	履修開始学期	政策法務コース			企業法務コース			法曹コース		
				必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択
基礎	フレッシュマンプログラム	2	1	2			2			2		
	公法入門	2	2									
	民法入門	2	2									
	刑法入門	2	2		4			4			4	
	国際関係法入門	2	2									
	政治学入門	2	2									
	基礎演習	2	4	2			2			2		
	社会科学概論	2	1									
	社会科学情報検索法a	2	1									
	社会科学情報検索法b	2	2									
	法思想史	2	3									
	法哲学	2	4									
	日本法制史	2	3									
	日本近代法史	2	4									
	西洋法制史a	2	3									
	西洋法制史b	2	4									
	法社会学a	2	3									
法社会学b	2	4										
法心理学a	2	3										
法心理学b	2	4										
外国法	英米法a	2	5									
	英米法b	2	6									
	ドイツ法a	2	5									
	ドイツ法b	2	6									
	フランス法a	2	5									
	フランス法b	2	6									
	アジア法a	2	5									
	アジア法b	2	6									
	地域共同体法a	2	5									
	地域共同体法b	2	6									
公法	憲法I	2	1	2						2		
	憲法II	2	2	2						2		
	憲法III	2	3									
	行政法I	2	3	2								
	行政法II	2	4	2								
	行政法III	2	5									
	比較公法	2	5									
	租税法a	2	5									
	租税法b	2	6									
	地方自治法a	2	5									
	地方自治法b	2	6									
	教育法a	2	3									
	教育法b	2	4									
民事法	民法I	4	3				4			4		
	民法II	2	4									
	民法III	2	3									
	民法IV	2	4									
	民法V	2	1									
	会社法	4	4				4			4		
	手形・小切手法	2	5									
	商法総則・商行為	2	5									
	保険法	2	5									
	国際私法a	2	3									
	国際私法b	2	4									
刑事法	国際取引法	2	5									
	刑法総論I	2	3							2		
	刑法総論II	2	4							2		
	刑法各論	2	3									
	刑事政策a	2	5									
刑事政策b	2	6										

学則別表

社会法	労働法a	2	3																	
	労働法b	2	4																	
	社会保障法a	2	5																	
	社会保障法b	2	6																	
	環境法a	2	3																	
	環境法b	2	4																	
	経済法	2	5																	
	消費者法	2	5																	
	知的財産権法a	2	5																	
	知的財産権法b	2	6																	
	手続法	民事訴訟法a	2	5																
		民事訴訟法b	2	6																
民事執行・保全法		2	5																	
倒産法		2	5																	
刑事訴訟法a		2	3																	
刑事訴訟法b		2	4																	
国際関係	国際法I	2	3																	
	国際法II	2	4																	
	国際法III	2	5																	
	国際人道法	2	6																	
	国際政治学a	2	3																	
	国際政治学b	2	4																	
	日本政治外交史a	2	3																	
	日本政治外交史b	2	4																	
政治	政治学原論a	2	3																	
	政治学原論b	2	4																	
	日本政治論a	2	3																	
	日本政治論b	2	4																	
	地方自治論a	2	5																	
	地方自治論b	2	6																	
	政治思想史a	2	5																	
	政治思想史b	2	6																	
	行政学a	2	5																	
	行政学b	2	6																	
特講	法律学特講	2	5																	
	法曹特講	2	5																	
関連	経済原論a	2	3																	
	経済原論b	2	4																	
	会計学a	2	5																	
	会計学b	2	6																	
総合講座	法政総合講座	2	3																	
演習	演習I a	2	5																	
	演習I b	2	6																	
	演習II a	2	7																	
	演習II b	2	8																	
小計				12	4	72	12	4	72	22	4	62								
全学共通授業科目（別表Ⅳ）																				
全学総合科目	ｶﾞｺﾞﾘ-I	4			4			4												
	ｶﾞｺﾞﾘ-II		20			20					20									
	ｶﾞｺﾞﾘ-III																			
	ｶﾞｺﾞﾘ-IV																			
	ｶﾞｺﾞﾘ-V																			
外国語科目	英語科目	8*	8**		8*	8**		8*	8**		8*	8**								
	英語以外の外国語科目																			
合計				24	32	72	24	32	72	34	32	62								
				128				128				128								

備考

- (1) *外国語は、第一外国語としてEnglish、ドイツ語、フランス語のうちいずれか一カ国語とする。
 **Englishを第一外国語とする場合、第二外国語はドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、ロシア語、朝鮮語のうち、いずれか一カ国語とする。ドイツ語、フランス語を第一外国語とする場合は、既習者にかぎる。また、その場合は、Englishを第二外国語とする。
 第一外国語は1学年に4単位、2学年に4単位、合計8単位を修得するものとする。
 第二外国語は1学年に4単位、2学年に4単位、合計8単位を修得するものとする。
 なお、第二外国語8単位については、別表Ⅲ-1の他の科目で振り替えることができる。
 - (2) 全学共通授業科目のうち、「全学総合講座」4単位を必修として履修する。
 - (3) 所定の単位数を超えて修得した選択必修の科目の単位は、選択科目の単位数に算入することができる。ただし、全学共通授業科目・外国語を除く。
 - (4) 卒業に必要な選択科目のうち、12単位までは国際関係法学科の科目の単位をもって代用できる。
- 本表は2003年度入学者より適用する。

目 次

I 【法律学科】 2003～2005年度入学生

専 門 科 目

春学期開講科目名	秋学期開講科目名	担当教員	曜日 時限	開始 学年	履修不可の 学部・学科			ページ
					外	経	国	
フレッシュマンプログラム		各専任教員	水2/水3	1	外	経	国	1
公法入門	公法入門	大藤 紀子	水1	1	外	経	国	2
民法入門		常岡 史子	水3	1	外	経	国	3
	民法入門	小柳 春一郎	水1	1	外	経	国	4
刑事法入門		安部 哲夫	水1	1	外	経	国	5
	刑事法入門	滝沢 誠	火2	1	外	経	国	6
国際関係法入門		鈴木 淳一	水3	1	外	経	国	7
	国際関係法入門	田島 裕	水3	1	外	経	国	8
政治学入門		星野 昭吉	水1	1	外	経	国	9
	政治学入門	福永 文夫	金1	1	外	経	国	9
社会科学概論-1	社会科学概論-2	杉田 孝夫	木1	1	外	経	国	10
社会科学情報検索法a	社会科学情報検索法b	鈴木 淳一	火3	1	外	経	国	11
法思想史	法哲学	高須 則行	金4	2				12
日本法制史	日本近代法史	小柳 春一郎	月2	2				13
法社会学a	法社会学b	森 謙二	月2	2				14
法心理学a	法心理学b	渡辺 昭一	金5	2				15
英米法a	英米法b	田島 裕	月3	3			国	16
ドイツ法a	ドイツ法b	滝沢 誠	月2	3	外		国	17
フランス法a	フランス法b	小柳 春一郎	火4	3			国	18
アジア法a	アジア法b	大村 泰樹	月2	3			国	19
地域共同体法a	地域共同体法b	廣部 和也	火4	3			国	20
外国法講読 I	外国法講読 II	小川 健	木2	2	外	経	国	21
外国法講読 I		田島 裕	金3	2	外	経	国	22
外国法講読 I		市川 須美子	水3	2	外	経	国	23
	外国法講読 II	常岡 史子	水3	2	外	経	国	24
憲法 I	憲法 II	大藤 紀子	金2	1	外	経	国	25
憲法 I	憲法 II	古関 彰一	木3	1	外	経	国	26
憲法 III		古関 彰一	火1	2			国	27
行政法 I	行政法 II	磯部 哲	月3	2			国	28
行政法 III		野村 武司	木1	3				29
比較公法		高佐 智美	木3	3			国	30
租税法a	租税法b	阿部 徳幸	金1	3				31
地方自治法a	地方自治法b	磯部 哲	火1	3				32
教育法a	教育法b	市川 須美子	金1	2	外	経		33
民法 I		遠藤 研一郎	金3/金4	2	外	経	国	34
民法 I		藤田 貴宏	木4/木5	2	外	経	国	35
	民法 II	遠藤 研一郎	水1	2			国	36
民法 III		亀岡 倫史	木4	2			国	37
	民法 IV	亀岡 倫史	木4	2				38
民法 V		常岡 史子	金1	1				39
	会社法	明田川 昌幸	金3/金4	2		経	国	40
	会社法	潘 阿憲	水4/水5	2		経	国	41
手形・小切手法		明田川 昌幸	金2	3				42
商法総則・商行為		明田川 昌幸	月1	3			国	43
保険法		明田川 昌幸	金4	3				44
国際私法a	国際私法b	山田 恒久	金3	2			国	45
国際取引法	国際取引法	土屋 弘三	金2	3			国	46

目次

I 【法律学科】 2003~2005年度入学生

専門科目

春学期開講科目名	秋学期開講科目名	担当教員	曜日 時限	開始 学年	履修不可の 学部・学科			ページ
					外	経	国	
刑法総論 I	刑法総論 II	内山 良雄	火2	2			国	47
刑法総論 I	刑法総論 II	中空 壽雅	木3	2			国	48
刑法各論	刑法各論	野村 稔	火3	2			国	49
刑事政策a	刑事政策b	安部 哲夫	月2	3			国	50
労働法a	労働法b	石井 保雄	月1	2				51
社会保障法a	社会保障法b	新田 秀樹	火2	3				52
環境法a	環境法b	一之瀬 高博	木1	2				53
経済法	経済法	山部 俊文	木4	3				54
消費者法		岩重 佳治	金2	3				55
知的財産権法a	知的財産権法b	長塚 真琴	木3	3				56
民事訴訟法a	民事訴訟法b	山田 恒久	金2	3				57
民事執行・保全法		小川 健	水1	3				58
倒産法		小川 健	木3	3				59
刑事訴訟法a	刑事訴訟法b	滝沢 誠	月1	2				60
国際法 I	国際法 II	松田 幹夫	木2	2			国	61
国際法 III	国際人道法	鈴木 淳一	火1	3			国	62
国際政治学a	国際政治学b	星野 昭吉	月2	2	外		国	63
日本政治外交史a	日本政治外交史b	福永 文夫	木2	2	外		国	64
政治学原論a	政治学原論b	福永 文夫	金2	2			国	65
日本政治論a	日本政治論b	光田 剛	月1	2			国	66
地方自治論a	地方自治論b	雨宮 昭一	火3	3			国	67
政治思想史a	政治思想史b	柴田 平三郎	火2	3			国	68
行政学a	行政学b	雨宮 昭一	水1	3				69
法律学特講(青少年保護法総論)	法律学特講(青少年保護法各論)	安部 哲夫	火4	3				70
法律学特講(初めての著作権法)	法律学特講(著作権法の諸問題)	長塚 真琴	金2	3		経		71
法律学特講(経済刑法1)	法律学特講(経済刑法2)	野村 稔	火4	3				72
	法律学特講(相続法)	常岡 史子	金1	3				39
	法律学特講(商行為)	明田川 昌幸	月1	3				43
	法律学特講(消費者法)	岩重 佳治	金2	3				55
	法律学特講(借地借家法)	小柳 春一郎	火2	3				73
	法律学特講(ヨーロッパ法史)	藤田 貴宏	火2	3				74
	法律学特講(民事執行・保全法)	小川 健	水1	3				58
	法律学特講(倒産法)	小川 健	木3	3				59
法曹特講(民事法1)		遠藤 研一郎	火2	3	外	経	国	75
	法曹特講(刑事法1)	中空 壽雅	木1	3	外	経	国	76
経済原論a	経済原論b	野村 容康	火1	2	外	経		77
会計学a	会計学b	内倉 滋	火2	3		経		78
法政総合講座「犯罪被害者と司法の課題」		安部 哲夫	水3	2	外	経	国	79
	法政総合講座「21世紀の地球規模問題」	一之瀬 高博	水3	2	外	経	国	79

学則別表

国際関係法学科授業科目表(学則別表より)2003年度以降入学者用

部 門	科 目	単 位 数	履 修 開 始 学 期	必 修	選 択 必 修	選 択
基 礎	フレッシュマンプログラム	2	1	2		
	公法入門	2	2		4	
	民法入門	2	2			
	刑事法入門	2	2			
	国際関係法入門	2	2			
	政治学入門	2	2			
	基礎演習	2	4		2	
	社会科学概論	2	1			
	社会科学情報検索法a	2	1			
	社会科学情報検索法b	2	2			
	憲法I	2	1			
	憲法II	2	2			
	民法I	4	3			
	国際法I	2	3			
	国際法II	2	4			
	国際法III	2	5			
	国際政治学a	2	3			
	国際政治学b	2	4			
	比較法概論a	2	3			
	比較法概論b	2	4			
	国際私法a	2	3			
	国際私法b	2	4			
	国際人道法	2	6			
比較政治a	2	5				
比較政治b	2	6				
国 際 関 係 法	国際組織法	2	3			
	国際人権法a	2	3			
	国際人権法b	2	4			
	国際環境法a	2	5			
	国際環境法b	2	6			
	国際経済法	2	5			
	国際開発協力法	2	5			
	国際租税法	2	5			
	国際取引法	2	5			
	国際知的財産権法	2	5			
	国際家族法	2	5			
	国際民事訴訟法	2	5			
	模擬国際裁判	2	5			
	国際関係法特講	2	5			
比 較 法	比較公法	2	5			
	比較私法	2	5			
	比較会社法a	2	5			
	比較会社法b	2	6			
	地域共同体法a	2	5			
	地域共同体法b	2	6			
	英米法a	2	5			
	英米法b	2	6			
	ドイツ法a	2	5			
	ドイツ法b	2	6			
外 国 法	フランス法a	2	5			
	フランス法b	2	6			
	アジア法a	2	5			
	アジア法b	2	6			
	憲法III	2	3			
	民法II	2	4			
関 連 法	民法III	2	3			
	商法総則・商行為	2	5			
	会社法	4	4			
	行政法I	2	3			
	行政法II	2	4			
	刑法総論I	2	3			
	刑法総論II	2	4			
	刑法各論	2	3			
	刑事政策a	2	5			
	刑事政策b	2	6			

80

学則別表

国 際 政 治	国際関係論a	2	3	
	国際関係論b	2	4	
	日本政治外交史a	2	3	
	日本政治外交史b	2	4	
	平和学a	2	5	
	平和学b	2	6	
	国際協力論a	2	5	
	国際協力論b	2	6	
	国際関係史a	2	5	
	国際関係史b	2	6	
	アメリカ政治外交史a	2	5	
	アメリカ政治外交史b	2	6	
	国際政治特講	2	5	
	国 際 経 済	現代経済論a	2	3
現代経済論b		2	4	
日本経済論a		2	5	
日本経済論b		2	6	
国際経済論a		2	5	
国際経済論b		2	6	
国際金融論a		2	5	
国際金融論b		2	6	
多国籍企業論a		2	5	
多国籍企業論b		2	6	
比 較 ・ 地 域 研 究	政治学原論a	2	3	
	政治学原論b	2	4	
	日本政治論a	2	3	
	日本政治論b	2	4	
	西洋政治史a	2	5	
	西洋政治史b	2	6	
	西洋政治思想史a	2	5	
	西洋政治思想史b	2	6	
	行政学a	2	5	
	行政学b	2	6	
	アジア政治論a	2	5	
	アジア政治論b	2	6	
	地方自治論a	2	5	
	地方自治論b	2	6	
地域研究特講	2	5		
文 献 講 読	国際関係法講読Ⅰ	2	3	
	国際関係法講読Ⅱ	2	4	
	外国法講読Ⅰ	2	3	
	外国法講読Ⅱ	2	4	
	国際政治講読Ⅰ	2	3	
	国際政治講読Ⅱ	2	4	
総合講座	法政総合講座	2	3	
演 習	演習Ⅰa	2	5	
	演習Ⅰb	2	6	
	演習Ⅱa	2	7	
	演習Ⅱb	2	8	
	小 計		4	4
全学共通授業科目（別表Ⅳ）				
全 学 総 合 科 目	ガリ-Ⅰ	4	16	
	ガリ-Ⅱ			
	ガリ-Ⅲ			
	ガリ-Ⅳ			
	ガリ-Ⅴ			
外国語 科目	英語科目	12*		
	英語以外の外国語科目		8**	
合 計		20	28	80
			128	

備考

- (1) *外国語は、Englishを第一外国語とする。
**第二外国語はドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、ロシア語、朝鮮語のうち、いずれか一カ国語とする。
第一外国語は1学年に6単位、2学年に6単位、合計12単位を修得するものとする。
第二外国語は1学年に4単位、2学年に4単位、合計8単位を修得するものとする。
なお、第二外国語8単位については、別表Ⅲ-2の他の科目で振り替えることができる。
 - (2) 全学共通授業科目のうち、「全学総合講座」4単位を必修として履修する。
 - (3) 所定の単位数を超えて修得した選択必修の科目の単位は、選択科目の単位数に算入することができる。
ただし、全学共通授業科目・外国語を除く。
 - (4) 卒業に必要な選択科目のうち、12単位までは法律学科の科目の単位をもって代用できる。
- 本表は2003年度入学者より適用する。

目 次

Ⅱ 【国際関係法学科】 2003～2005年度入学生

春学期開講科目名	秋学期開講科目名	担当教員	曜日 時限	開始 学年	履修不可の 学部・学科			ページ
					外	経	律	
フレッシュマンプログラム		各専任教員	水2/水3	1	外	経	律	1
公法入門	公法入門	大藤 紀子	水1	1	外	経	律	2
民法入門		常岡 史子	水3	1	外	経	律	3
	民法入門	小柳 春一郎	水1	1	外	経	律	4
刑法入門		安部 哲夫	水1	1	外	経	律	5
	刑法入門	滝沢 誠	火2	1	外	経	律	6
国際関係法入門		鈴木 淳一	水3	1	外	経	律	7
	国際関係法入門	田島 裕	水3	1	外	経	律	8
政治学入門		星野 昭吉	水1	1	外	経	律	9
	政治学入門	福永 文夫	金1	1	外	経	律	9
社会科学概論-1	社会科学概論-2	杉田 孝夫	木1	1	外	経	律	10
社会科学情報検索法a	社会科学情報検索法b	鈴木 淳一	火3	1	外	経	律	11
憲法Ⅰ	憲法Ⅱ	大藤 紀子	金2	1	外	経	律	25
憲法Ⅰ	憲法Ⅱ	古関 彰一	木3	1	外	経	律	26
民法Ⅰ		遠藤 研一郎	金3/金4	2	外	経	律	34
民法Ⅰ		藤田 貴宏	木4/木5	2	外	経	律	35
国際法Ⅰ	国際法Ⅱ	松田 幹夫	木2	2			律	61
国際法Ⅲ	国際人道法	鈴木 淳一	火1	3			律	62
国際政治学a	国際政治学b	星野 昭吉	月2	2	外		律	63
比較法概論a	比較法概論b	田島 裕	月1	2				80
国際私法a	国際私法b	山田 恒久	金3	2			律	45
比較政治a	比較政治b	浦部 浩之	月2	3				81
国際組織法	国際組織法	松田 幹夫	金2	2	外			82
国際人権法a	国際人権法b	高佐 智美	木1	2				83
国際環境法a	国際環境法b	一之瀬 高博	火2	3				84
国際経済法		櫻井 雅夫	金3	3				85
国際開発協力法		櫻井 雅夫	金2	3				86
国際租税法-1	国際租税法-2	石村 耕治	木2	3				87
国際取引法	国際取引法	土屋 弘三	金2	3			律	46
国際知的財産権法		長塚 真琴	金1	3				88
国際家族法		常岡 史子	木2	3				89
国際民事訴訟法		山田 恒久	木4	3				90
	模擬国際裁判	鈴木 淳一	月2	3	外	経		91
国際関係法特講(国際労働法1)	国際関係法特講(国際労働法2)	石井 保雄	金2	3				92
国際関係法特講(東南アジア)		今泉 慎也	月2	3				93
	国際関係法特講(国際経済法)	櫻井 雅夫	金3	3				85
	国際関係法特講(国際開発協力法)	櫻井 雅夫	金2	3				86
	国際関係法特講(国際人権関連文書研究)	高佐 智美	木3	3				30
	国際関係法特講(グローバル化と知的財産権)	長塚 真琴	金1	3				88
	国際関係法特講(国際民事訴訟法)	山田 恒久	木4	3				90
比較公法		高佐 智美	木3	3			律	30
比較私法		藤田 貴宏	火2	3				94
比較会社法a	比較会社法b	周 劍龍	水2	3				95
地域共同体法a	地域共同体法b	廣部 和也	火4	3			律	20
英米法a	英米法b	田島 裕	月3	3			律	16
ドイツ法a	ドイツ法b	滝沢 誠	月2	3			律	17
フランス法a	フランス法b	小柳 春一郎	火4	3			律	18
アジア法a	アジア法b	大村 泰樹	月2	3			律	19

目次

Ⅱ 【国際関係法学科】 2003～2005年度入学生

春学期開講科目名	秋学期開講科目名	担当教員	曜日 時限	開始 学年	履修不可の 学部・学科			ページ
					外	経	律	
憲法Ⅲ		古関 彰一	火1	2			律	27
	民法Ⅱ	遠藤 研一郎	水1	2			律	36
民法Ⅲ		亀岡 倫史	木4	2			律	37
商法総則・商行為		明田川 昌幸	月1	3			律	43
	会社法	明田川 昌幸	金3/金4	2			律	40
	会社法	潘 阿憲	水4/水5	2			律	41
行政法Ⅰ	行政法Ⅱ	磯部 哲	月3	2			律	28
刑法総論Ⅰ	刑法総論Ⅱ	内山 良雄	火2	2			律	47
刑法総論Ⅰ	刑法総論Ⅱ	中空 壽雅	木3	2			律	48
刑法各論	刑法各論	野村 稔	火3	2			律	49
刑事政策a	刑事政策b	安部 哲夫	月2	3			律	50
国際関係論a	国際関係論b	賀川 真理	月1	2				96
日本政治外交史a	日本政治外交史b	福永 文夫	木2	2	外		律	64
平和学a	平和学b	星野 昭吉	水2	3				97
国際協力論a	国際協力論b	片岡 貞治	火2	3				98
国際関係史a	国際関係史b	永野 隆行	月2	3	外			99
アメリカ政治外交史a	アメリカ政治外交史b	賀川 真理	月2	3				100
現代経済論a	現代経済論b	黒木 亮	月1	2		経		101
日本経済論a	日本経済論b	波形 昭一	火5	3	外	経		102
国際経済論a	国際経済論b	益山 光央	火3	3	外	経		103
国際金融論a	国際金融論b	山本 美樹子	月3	3		経		104
多国籍企業論a	多国籍企業論b	小林 哲也	木3	3		経		105
政治学原論a	政治学原論b	福永 文夫	金2	2			律	65
日本政治論a	日本政治論b	光田 剛	月1	2				66
西洋政治史a	西洋政治史b	井上 スズ	水1	3				106
西洋政治思想史a	西洋政治思想史b	柴田 平三郎	火2	3			律	68
行政学a	行政学b	雨宮 昭一	水1	3			律	69
アジア政治論a	アジア政治論b	光田 剛	月2	3				107
地方自治論a	地方自治論b	雨宮 昭一	火3	3			律	67
地域研究特講(ラテンアメリカ政治経済論)		今井 圭子	火4	3				108
地域研究特講(中・東欧とロシア1)	地域研究特講(中・東欧とロシア2)	志摩 園子	木1	3				109
国際関係法講読Ⅰ		一之瀬 高博	火3	2	外	経		110
	国際関係法講読Ⅱ	高佐 智美	火3	2	外	経		110
国際関係法講読Ⅰ	国際関係法講読Ⅱ	土屋 弘三	金3	2	外	経		111
外国法講読Ⅰ	外国法講読Ⅱ	小川 健	木2	2	外	経	律	21
外国法講読Ⅰ		田島 裕	金3	2	外	経	律	22
外国法講読Ⅰ		市川 須美子	水3	2	外	経	律	23
	外国法講読Ⅱ	常岡 史子	水3	2	外	経	律	24
	国際政治講読Ⅱ	星野 昭吉	水1	2	外	経		112
法政総合講座「犯罪被害者と司法の課題」		安部 哲夫	水3	2	外	経	律	79
	法政総合講座「21世紀の地球規模問題」	一之瀬 高博	水3	2	外	経	律	79

学則別表

法律学科授業科目表（学則別表より）1999年度～2002年度入学者用

科 目 群	部 門	科 目	単 位 数	I 類				II 類				備 考
				履 修 開 始 学 年	必 修	選 択 必 修	選 択	履 修 開 始 学 年	必 修	選 択 必 修	選 択	
外 国 語 科 目	第 一 外 国 語	英語 I	2	1				1			ドイツ語またはフランス語を第一外国と語する場合は既習者にかぎる。 第一外国語がドイツ語・フランス語の者は第二外国語は英語となる。 第二外国語8単位については、基礎科目および専門科目で振り替えることができる。	
		ドイツ語 I	2	1	4			1	4			
		フランス語 I	2	1				1				
		英語 II	2	2				2				
		ドイツ語 II	2	2	4			2	4			
		フランス語 II	2	2				2				
	第 二 外 国 語	ドイツ語 I	2	1				1				4
		英語 I	2	1				1				
		フランス語 I	2	1				1				
		スペイン語 I	2	1			4	1				
		ロシア語 I	2	1				1				
		中国語 I	2	1				1				
		朝鮮語 I	2	1				1				
		ドイツ語 II	2	2				2				
		英語 II	2	2				2				
		フランス語 II	2	2				2				
		スペイン語 II	2	2			4	2				
		ロシア語 II	2	2				2				
		中国語 II	2	2				2				
		朝鮮語 II	2	2				2				
小 計				8		8		8		8		
				16				16				
基 礎 科 目	社 会 学	法学入門	4	1	4			1	4		20	
		社会科学概論	4	1				1				
		政治学入門	4	1				1				
		経済学	4	1				1				
		社会学	4	1				1				
		社会思想史	4	1				1				
	人 文 学	社会科学情報検索法	4	1				1				
		歴史学概論	4	1				1				
		国語表現法	4	1				1				
		心理学	4	1			20	1				
	自 然 学	文化人類学	4	1				1				
		自然科学概論	4	1				1				
		地球環境論	4	1				1				
		情報処理	4	1				1				
		統計学	4	1				1				
	体 育	健康学	4	1				1				
		体育 I	2	1				1				
		体育 II	2	1				1				
	基礎演習		基礎演習	4	2	4			2	4		
	小 計				8		20		8			20
				28				28				

学則別表

専 門 科 目	基 礎 法	法哲学	4	3			3			*は半期完結科目である。 所定の単位数を超えて修得した選択 必修科目の単位は、選択科目の単位 数に参入される。 卒業に必要な選択科目のうち、12単 位までは国際関係法学科の科目の単 位をもって代用できる。(詳細は、授業 時間割表参照)
		日本法制史	4	3			3			
		西洋法制史	4	3			3			
		法社会学	4	3			3			
		法心理学	4	3			3			
	外 国 法	英米法	4	3		4	3		4	
		ドイツ法	4	3			3			
		フランス法	4	3			3			
		地域共同体法	4	3			3			
		外国法文献研究	4	2			2			
	公 法	憲法Ⅰ	4	1	4		1	4		
		憲法Ⅱ	4	2	4		2		4	
		行政法Ⅰ	4	2	4		2			
		行政法Ⅱ	4	3	4		3			
		比較憲法	4	3			3			
		税法	4	3			3			
		地方自治法	4	3			3			
		教育法	4	3			3			
	民 事 法	民法Ⅰ	4	1	4		1	4		
		民法Ⅱ	4	2		4	2	4		
		民法Ⅲ	4	2			2	4		
		民法Ⅳ	4	3			3	4		
		民法Ⅴ	4	3			3	4		
		商法Ⅱ	4	2			2	4		
		商法Ⅲ	4	3			3	4		
		商法Ⅰ	4	3			3		4	
		商法Ⅳ	4	3			3			
		国際私法	4	3			3		4	
		国際取引法	4	3			3			
		刑 事 法	刑法Ⅰ	4	1	4	32	1	4	
	刑法Ⅱ		4	2		4	2			
	刑事政策		4	3			3			
	社 会 法	社会保障法	4	3		4	3			
		労働法	4	2		4	2		4	
		経済法	4	3			3			
		環境法	4	2			2			
		消費者法	4	3			3			
		知的財産権法	4	3			3			
	手 続 法	刑事訴訟法	4	3		4	3		4	
		民事訴訟法	4	3			3			
		民事執行・保全法	4	3			3			
		倒産法	4	3			3			
	国 際 関 係	国際法Ⅰ	4	2	4		2			
		国際法Ⅱ	4	3			3			
国際政治学		4	2			2				
日本政治外交史		4	2			2				
政 治	政治学原論	4	2	4		2				
	地方自治	4	3		4	3				
	政治思想史	4	3			3				
	行政学	4	3			3				
特 講	法律学特講A	4	3			3				
	法律学特講B	2*	3			3				
関 連	経済原論	4	2			2				
	会計学	4	3			3				
総合講座	法政総合講座	4	2			2				
演 習	演習Ⅰ	4	3			3				
	演習Ⅱ	4	4			4				
小計				32	24	32		36	20	32
				88				88		
合計				48	24	60		52	20	60
				132				132		

目次

Ⅲ【法律学科】1999～2002年度入学生

基礎科目

科目名	担当教員	曜日 時限	開始 学年	履修不可の 学部・学科			ページ
				外	経	国	
法学入門	内山 良雄	木3	1	外	経	国	113
社会科学概論	杉田 孝夫	木1	1			国	10
政治学入門	星野 昭吉／福永 文夫	水1／金1	1	外	経	国	9
経済学	片岡 晴雄	火1	1	外	経	国	120
経済学	浜本 光紹	水2	1	外	経	国	121
社会学	岡村 圭子	土1／土2	1	外	経	国	122
社会思想史	市川 達人	火4	1	外		国	123
社会科学情報検索法	鈴木 淳一	火3	1	外	経	国	11
歴史学概論(日本史)	新井 孝重	土1	1	外	経	国	124
歴史学概論(日本史)	丸浜 昭	木4	1	外	経	国	125
歴史学概論(東洋史)	熊谷 哲也	木3	1	外	経	国	126
歴史学概論(東洋史)	張 士陽	木4	1	外	経	国	127
歴史学概論(西洋史)	佐藤 唯行	金3	1	外	経	国	128
歴史学概論(西洋史)	増谷 英樹	火2	1	外	経	国	129
国語表現法	飯島 一彦	火1／木2	1	外	経	国	130
国語表現法	小島 幸枝	火3	1	外	経	国	131
国語表現法	小島 幸枝	水2	1	外	経	国	132
国語表現法	佐藤 毅	水1	1	外	経	国	133
国語表現法	福沢 健	月4	1	外	経	国	134
心理学	杉山 憲司	木1／木2	1	外	経	国	135
心理学	田口 雅徳	火2	1	外	経	国	136
文化人類学	井上 兼行	火2／火3	1	外	経	国	137
自然科学概論	福井 尚生	月1	1	外	経	国	138
自然科学概論	福井 尚生	金3	1	外	経	国	139
地球環境論(生物学)	加藤 億重	火1／火3	1	外	経	国	140
地球環境論(地理学)	犬井 正	月2	1	外	経	国	141
情報処理	各担当教員	時間割参照	1	外	経	国	142
情報処理(アドヴァンス)	加藤 由樹	火5	1	外	経	国	143
統計学	富田 幸弘	木2／木3	1		経	国	144
統計学	本田 勝	火3／火4	1		経	国	145
統計学	松井 敬	火2／火3	1		経	国	146
健康学	中野 隆史	火4	1		経	国	147

目 次

Ⅲ 【法律学科】 1999～2002年度入学生

専 門 科 目

科 目 名	担当教員	曜日 時限	開始 学年	履修不可の 学部・学科			ページ
				外	経	国	
法哲学	高須 則行	金4	3				12
日本法制史	小柳 春一郎	月2	3				13
法社会学	森 謙二	月2	3				14
法心理学	渡辺 昭一	金5	3				15
英米法	田島 裕	月3	3			国	16
ドイツ法	滝沢 誠	月2	3	外		国	17
フランス法	小柳 春一郎	火4	3			国	18
地域共同体法	廣部 和也	火4	3			国	20
外国法文献研究	小川 健	木2	2	外	経	国	21
憲法Ⅰ	大藤 紀子	金2	1	外	経	国	25
憲法Ⅰ	古関 彰一	木3	1	外	経	国	26
憲法Ⅱ	加藤 一彦	火1	2			国	114
行政法Ⅰ	磯部 哲	月3	2			国	28
行政法Ⅱ	市川 須美子	火3	3			国	115
比較憲法	高佐 智美	木3	3			国	30
税法	阿部 徳幸	金1	3				31
地方自治法	磯部 哲	火1	3				32
教育法	市川 須美子	金1	3				33
民法Ⅰ	(春)遠藤 研一郎	金3/金4	1	外	経	国	34
民法Ⅰ	(春)藤田 貴宏	木4/木5	1	外	経	国	35
民法Ⅱ	遠藤 研一郎	水1	2				36
民法Ⅲ	亀岡 倫史	木3	2			国	116
民法Ⅳ	藤田 貴宏	火1	3			国	117
民法Ⅴ	常岡 史子	金1	3			注1	39
商法Ⅱ	(秋)明田川 昌幸	金3/金4	2			国	40
商法Ⅱ	(秋)藩 阿憲	水4/水5	2			国	41
商法Ⅲ	(春)藩 阿憲	水4/水5	3			国	118
商法Ⅰ	明田川 昌幸	月1	3				43
国際私法	山田 恒久	金3	3			国	45
国際取引法	土屋 弘三	金2	3			国	46
刑法Ⅰ	内山 良雄	火2	1			国	47
刑法Ⅰ	中空 壽雅	木3	1			国	48
刑法Ⅱ	内山 良雄	木1	2			国	119
刑事政策	安部 哲夫	月2	3				50
社会保障法	新田 秀樹	火2	3				52
労働法	石井 保雄	月1	2				51
経済法	山部 俊文	木4	3				54
環境法	一之瀬 高博	木1	2				53
消費者法	岩重 佳治	金2	3				55
知的財産権法	長塚 真琴	木3	3				56

注1) 国際関係法学科の学生で、2004年度「国際家族法」を履修済みの場合、2005年度「民法Ⅴ」は履修できません。

目次

Ⅲ【法律学科】1999～2002年度入学生

専門科目

科目名	担当教員	曜日 時限	開始 学年	履修不可の 学部・学科			ページ
				外	経	国	
刑事訴訟法	滝沢 誠	月1	3				60
民事訴訟法	山田 恒久	金2	3				57
民事執行・保全法	小川 健	水1	3				58
倒産法	小川 健	木3	3				59
国際法Ⅰ	松田 幹夫	木2	2			国	61
国際法Ⅱ	鈴木 淳一	火1	3			国	62
国際政治学	星野 昭吉	月2	2	外		国	63
日本政治外交史	福永 文夫	木2	2	外		国	64
政治学原論	福永 文夫	金2	2			国	65
地方自治	雨宮 昭一	火3	3			国	67
政治思想史	柴田 平三郎	火2	3			国	68
行政学	雨宮 昭一	水1	3			国	69
法律学特講B(青少年保護法総論-少年犯罪と少年法)	(春)安部 哲夫	火4	3				70
法律学特講B(青少年保護法各論-被害者としての青少年)	(秋)安部 哲夫	火4	3				70
法律学特講B(初めての著作権法)	(春)長塚 真琴	金2	3		経		71
法律学特講B(著作権法の諸問題)	(秋)長塚 真琴	金2	3		経		71
法律学特講B(経済刑法1)	(春)野村 稔	火4	3				72
法律学特講B(経済刑法2)	(秋)野村 稔	火4	3				72
法律学特講B(借地借家法)	(秋)小柳 春一郎	火2	3				73
法律学特講B(ヨーロッパ法史)	(秋)藤田 貴宏	火2	3				74
経済原論	野村 容康	火1	2	外	経		77
会計学	内倉 滋	火2	3		経		78
法政総合講座 「犯罪被害者と司法の課題」/「21世紀の地球規模問題」	安部 哲夫/一之瀬 高博	水3	2	外	経	国	79

学則別表

国際関係法学科授業科目表（学則別表より）1999年度～2002年度入学者用

科 目 群	部 門	科 目	単 位 数	履 修 開 始 学 年	必 修	選 択 必 修	選 択	備 考
外 国 語 科 目	第 一 外 国 語	英語 I	2	1	6		4	4
		英語 II	2	2	6			
	第 二 外 国 語	ドイツ語 I	2	1				
		フランス語 I	2	1				
		スペイン語 I	2	1				
		中国語 I	2	1				
		ロシア語 I	2	1				
		朝鮮語 I	2	1				
		ドイツ語 II	2	2				
		フランス語 II	2	2				
		スペイン語 II	2	2				
		中国語 II	2	2				
		ロシア語 II	2	2				
		朝鮮語 II	2	2				
		小 計						
					20			
基 礎 科 目	社 会 科 学	国際関係法入門	4	1	4		20	
		社会科学概論	4	1				
		経済学	4	1				
		社会学	4	1				
		社会思想史	4	1				
		社会科学情報検索法	4	1				
	人 文 科 学	歴史学概論	4	1				
		国語表現法	4	1				
		心理学	4	1				
		文化人類学	4	1				
	自 然 科 学	自然科学概論	4	1				
		地球環境論	4	1				
		情報処理	4	1				
		統計学	4	1				
		健康学	4	1				
	体 育	体育 I	2	1				
		体育 II	2	1				
基礎演習	基礎演習	4	2	4				
小 計					8	20		
					28			
専 門 科 目	基 本	憲法 I	4	1	4		4	24
		民法 I	4	1	4			
		国際法 I	4	2	4			
		国際政治学	4	2	4			
		比較法原論	4	2				
		国際私法	4	2				
		国際法 II	4	3				
	比較政治	4	3					
	国 際 関 係 法	国際組織法	4	2	4			
		国際人権法	4	2	4			
		外国人法	4	3				
		国際環境法	4	3				
		国際経済法	4	3				
		国際開発協力法	4	3				
		国際租税法	4	3				
国際取引法		4	3					
国際労働法	4	3						
国際知的財産権法	4	3						
国際家族法	4	3						

*は半期完結する科目である。

所定の単位数を超えて修得した選択必修の科目の単位は、選択科目の単位数に参入される。

卒業に必要な選択科目のうち、12単位までは法律学科の科目の単位をもって代用できる。(詳細は、授業時間割表参照)

学則別表

専 門		国際民事訴訟法	4	3	8				
		模擬国際裁判	2*	3					
		国際関係法特講A	4	3					
		国際関係法特講B	2*	3					
	比較 法・ 外国 法	比較憲法	4	3					
		比較契約法	4	3					
		比較会社法	4	3					
		比較刑事法	4	3					
		比較社会保障法	4	3					
		地域共同体法	4	3					
		英米法	4	3					
		ドイツ法	4	3					
		フランス法	4	3					
		アジア法	4	3					
	地域の法特講	2*	3						
	関 連 法	憲法Ⅱ	4	2					4
		民法Ⅱ	4	2					
		商法Ⅰ	4	2					
		商法Ⅱ	4	2					
		行政法	4	2					
刑法		4	2						
国 際 政 治 関 係	国 際 政 治	国際関係論	4	2	4				
		日本政治外交史	4	2					
		平和学	4	3					
		国際協力論	4	3					
		第三世界論	4	3					
	国 際 経 済	国際関係史	4	3					
		アメリカ政治外交史	4	3					
		国際関係特講A	4	3					
		国際関係特講B	2*	3					
		現代経済理論	4	2					
比 較 ・ 地 域 研 究	国 際 経 済	日本経済論	4	3					
		国際経済論	4	3					
		国際金融論	4	3					
		多国籍企業論	4	3					
		政治学	4	2					
		日本政治論	4	2					
		西洋政治史	4	3					
		西洋政治思想史	4	3					
		行政学	4	3					
		アジア政治論	4	3					
地方自治論	4	3							
文 献 研 究	地域研究特講A	4	3						
	地域研究特講B	2*	3						
	国際関係法文献研究	4	2						
文 献 研 究	外国法文献研究	4	2	4					
	国際関係文献研究	4	2						
総 合 講 座	法政総合講座	4	2						
	演習Ⅰ	4	3						
演 習	演習Ⅱ	4	4						
	小計			24	36	24			
				84					
合 計				44	36	52			
				132					

**国際経済部門は、2科目8単位まで卒業単位に参入される。

目次

IV 【国際関係法学科】 1999～2002年度入学生

基礎科目

科目名	担当教員	曜日 時限	開始 学年	履修不可の 学部・学科			ページ
				外	経	律	
国際関係法入門	内山 良雄	木3	1	外	経	律	113
社会科学概論	杉田 孝夫	木1	1			律	10
経済学	片岡 晴雄	火1	1	外	経	律	120
経済学	浜本 光紹	水2	1	外	経	律	121
社会学	岡村 圭子	土1/土2	1	外	経	律	122
社会思想史	市川 達人	火4	1	外		律	123
社会科学情報検索法	鈴木 淳一	火3	1	外	経	律	11
歴史学概論(日本史)	新井 孝重	土1	1	外	経	律	124
歴史学概論(日本史)	丸浜 昭	木4	1	外	経	律	125
歴史学概論(東洋史)	熊谷 哲也	木3	1	外	経	律	126
歴史学概論(東洋史)	張 士陽	木4	1	外	経	律	127
歴史学概論(西洋史)	佐藤 唯行	金3	1	外	経	律	128
歴史学概論(西洋史)	増谷 英樹	火2	1	外	経	律	129
国語表現法	飯島 一彦	火1/木2	1	外	経	律	130
国語表現法	小島 幸枝	火3	1	外	経	律	131
国語表現法	小島 幸枝	水2	1	外	経	律	132
国語表現法	佐藤 毅	水1	1	外	経	律	133
国語表現法	福沢 健	月4	1	外	経	律	134
心理学	杉山 憲司	木1/木2	1	外	経	律	135
心理学	田口 雅徳	火2	1	外	経	律	136
文化人類学	井上 兼行	火2/火3	1	外	経	律	137
自然科学概論	福井 尚生	月1	1	外	経	律	138
自然科学概論	福井 尚生	金3	1	外	経	律	139
地球環境論(生物学)	加藤 億重	火1/火3	1	外	経	律	140
地球環境論(地理学)	犬井 正	月2	1	外	経	律	141
情報処理	各担当教員	時間割参照	1	外	経	律	142
情報処理(アドヴァンス)	加藤 由樹	火5	1	外	経	律	143
統計学	富田 幸弘	木2/木3	1		経	律	144
統計学	本田 勝	火3/火4	1		経	律	145
統計学	松井 敬	火2/火3	1		経	律	146
健康学	中野 隆史	火4	1		経	律	147

目次

IV【国際関係法学科】1999～2002年度入学生

専門科目

科目名	担当教員	曜日 時限	開始 学年	履修不可の 学部・学科			ページ
				外	経	律	
憲法Ⅰ	大藤 紀子	金2	1	外	経	律	25
憲法Ⅰ	古関 彰一	木3	1	外	経	律	26
民法Ⅰ	(春)遠藤 研一郎	金3/金4	1	外	経	律	34
民法Ⅰ	(春)藤田 貴宏	木4/木5	1	外	経	律	35
国際法Ⅰ	松田 幹夫	木2	2			律	61
国際政治学	星野 昭吉	月2	2	外		律	63
比較法原論	田島 裕	月1	2				80
国際私法	山田 恒久	金3	2			律	45
国際法Ⅱ	鈴木 淳一	火1	3			律	62
比較政治	浦部 浩之	月2	3				81
国際組織法	松田 幹夫	金2	2	外			82
国際人権法	高佐 智美	木1	2				83
国際環境法	一之瀬 高博	火2	3				84
国際経済法	櫻井 雅夫	金3	3				85
国際開発協力法	櫻井 雅夫	金2	3				86
国際租税法	石村 耕治	木2	3				87
国際取引法	土屋 弘三	金2	3			律	46
国際労働法	石井 保雄	金2	3				92
国際知的財産権法	長塚 真琴	金1	3				88
国際家族法	常岡 史子	木2	3				89
国際民事訴訟法	山田 恒久	木4	3				90
模擬国際裁判	(秋)鈴木 淳一	月2	3				91
比較憲法	高佐 智美	木3	3			律	30
比較契約法	藤田 貴宏/遠藤 研一郎	火2	3				94
比較会社法	周 劍龍	水2	3				95
地域共同体法	廣部 和也	火4	3			律	20
英米法	田島 裕	月3	3			律	16
ドイツ法	滝沢 誠	月2	3	外		律	17
フランス法	小柳 春一郎	火4	3			律	18
アジア法	大村 泰樹	月2	3				19
地域の法特講(東南アジア)	(春)今泉 慎也	月2	3				93
憲法Ⅱ	加藤 一彦	火1	2				114
民法Ⅱ-1	亀岡 倫史	木3	2			律	116
民法Ⅱ-2	藤田 貴宏	火1	2			律	117
商法Ⅰ	(春)藩 阿憲	水4/水5	2			律	118
商法Ⅱ	(秋)明田川 昌幸	金3/金4	2			律	40
商法Ⅱ	(秋)藩 阿憲	水4/水5	2			律	41
行政法-1	磯部 哲	月3	2			律	28
行政法-2	市川 須美子	火3	2			律	115
刑法-1	内山 良雄	火2	2			律	47
刑法-1	中空 壽雅	木3	2			律	48
刑法-2	内山 良雄	木1	2			律	119

目次

IV【国際関係法学科】1999～2002年度入学生

専門科目

科目名	担当教員	曜日 時限	開始 学年	履修不可の 学部・学科			ページ
				外	経	律	
国際関係論	賀川 真理	月1	2				96
日本政治外交史	福永 文夫	木2	2	外		律	64
平和学	星野 昭吉	水2	3				97
国際協力論	片岡 貞治	火2	3				98
国際関係史	永野 隆行	月2	3	外			99
アメリカ政治外交史	賀川 真理	月2	3				100
現代経済理論	黒木 亮	月1	2		経		101
日本経済論	波形 昭一	火5	3	外	経		102
国際経済論	益山 光央	火3	3	外	経		103
国際金融論	山本 美樹子	月3	3		経		104
多国籍企業論	小林 哲也	木3	3		経		105
政治学	福永 文夫	金2	2			律	65
日本政治論	光田 剛	月1	2				66
西洋政治史	井上 スズ	水1	3				106
西洋政治思想史	柴田 平三郎	火2	3			律	68
行政学	雨宮 昭一	水1	3			律	69
アジア政治論	光田 剛	月2	3				107
地方自治論	雨宮 昭一	火3	3			律	67
地域研究特講B(ラテンアメリカ政治経済論)	(春)今井 圭子	火4	3				108
地域研究特講B(中・東欧とロシア1)	(春)志摩 園子	木1	3				109
地域研究特講B(中・東欧とロシア2)	(秋)志摩 園子	木1	3				109
国際関係法文献研究	一之瀬 高博／高佐 智美	火3	2	外	経		110
国際関係法文献研究	土屋 弘三	金3	2	外	経		111
外国法文献研究	小川 健	木2	2	外	経	律	21
法政総合講座 「犯罪被害者と司法の課題」／「21世紀の地球規模問題」	安部 哲夫／一之瀬 高博	水3	2	外	経	律	79

学則別表

法学部授業科目表(学則別表より)1998年度以前入学者用

別表Ⅲ-1 外国語科目

	第一外国語(必修)	第二外国語(選択)
	英 語	ドイツ語またはフランス語
	ドイツ語またはフランス語	英 語
第1学年	4	4
第2学年	4	4
小 計	8	8
合 計	16	

備考

(1)ドイツ語またはフランス語を第一外国語とする場合は、既修者にかぎる。

(2)第二外国語は、8単位修得しなければ卒業単位として認められない。

第二外国語を履修しない場合は、専門科目および基礎科目(Ⅲ～Ⅵ群)の中から8単位分修得すること。

○ 本表は、1994年度入学者から適用する。

別表Ⅲ-2 基礎科目

群	科 目	単 位	必修	選択必修	選択
I	法学入門	4	4		
	政治学入門	4		4	
	国際関係論入門	4			
II	基礎演習	4	4		
III	社会科学概論	4			16
	経 済 学	4			
	社 会 学	4			
	社会思想史	4			
IV	歴史学概論	4			
	文学概論	4			
	国語表現法	4			
	心 理 学	4			
	文化人類学	4			
V	自然科学概論	4			
	地球環境論	4			
	情報処理	4			
	統 計 学	4			
	健 康 学	4			
VI	体 育 I	2			
	体 育 II	2			
合 計			8	4	16
			28		

備考

「政治学入門」と「国際関係論入門」の2科目8単位を修得した場合は、うち1科目4単位は選択科目の単位数に算入される。

○ 本表は、1994年度入学者から適用する。

学則別表

別表Ⅲ-3 専門科目

部門	科目	単位数	Ⅰ類			Ⅱ類			Ⅲ類					
			必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択			
基礎法	法哲学	4												
	日本法制史	4												
	西洋法制史	4												
	法社会学	4												
	法心理学	4												
外国法	英米法	4		4			4			4				
	ドイツ法	4												
	フランス法	4												
	地域共同体法	4												
	外国法文献研究	4								**				
公法	憲法Ⅰ	4	4			4			4					
	憲法Ⅱ	4	4											
	行政法Ⅰ	4	4				4			4				
	行政法Ⅱ	4	4											
	比較憲法	4												
	税法	4												
	地方自治法	4												
	教育法	4												
民事法	民法Ⅰ	4	4			4			4					
	民法Ⅱ	4				4								
	民法Ⅲ	4		4		4								
	民法Ⅳ	4				4								
	民法Ⅴ	4				4								
	商法Ⅱ	4				4								
	商法Ⅲ	4				4								
	商法Ⅰ	4												
	商法Ⅳ	4												
	国際私法	4					4							
国際取引法	4													
刑事法	刑法Ⅰ	4	4			4								
	刑法Ⅱ	4												
	刑事政策	4		4										
社会法	社会保障法	4												
	労働法	4		4										
	経済法	4												
	環境法	4					4							
	消費者法	4												
	知的財産権法	4												
手続法	刑事訴訟法	4		4										
	民事訴訟法	4					4							
	民事執行・保全法	4												
	倒産法	4												

部門	科目名	単位数	Ⅰ類			Ⅱ類			Ⅲ類				
			必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択		
国際関係	国際法Ⅰ	4	4							4			
	国際法Ⅱ	4								4			
	国際政治学	4								4			
	比較政治	4								4			
	日本外交史	4										8	
	西洋外交史	4											8
	アメリカ外交史	4											
	国際経済論	4											
	国際組織	4											
	国際開発論	4											
政治	平和学	4											
	国際関係文献研究	4										**	
	政治学原論	4	4							4			
	地方自治	4											8
	政治思想史	4											
	政治史	4		4									
	行政学	4											
	日本の政治	4											
	欧米の政治	4											
	第三世界の政治	4											
特講	政治学文献研究	4										**	
	法律学特講A	4											
	法律学特講B	2*											
	国際関係特講A	4											
	国際関係特講B	2*											
	政治学特講A	4											
関連	政治学特講B	2*											
	経済原論	4											
	会計学	4											
総合	環境保健論	4											
	総合講座	4											
演習	演習Ⅰ	4											
	演習Ⅱ	4											
合計			32	24	32	36	20	32	28	28	32		
			88			88			88				

備考

(1) *は半期で完結する科目である。

(2) Ⅲ類は、選択必修科目として、**の「外国法文献研究」、「国際関係文献研究」、「政治学文献研究」のいずれか1科目4単位を含めて28単位を修得すること。

(3) 演習を履修する場合は、演習Ⅰ、演習Ⅱの8単位を修得しなければ、卒業単位として認められない。

(4) 所定の単位数を越えて修得した選択必修科目の単位は、選択科目の単位数に算入される。

○ 本表は、1994年度入学者から適用する。

目次

V 【法律学科】 1998年度以前入学生

基礎科目

科目名	担当教員	曜日 時限	開始 学年	履修不可の 学部・学科		ページ
				外	経	
法学入門	内山 良雄	木3	1	外	経	113
政治学入門	星野 昭吉／福永 文夫	水1／金1	1	外	経	9
社会科学概論	杉田 孝夫	木1	1			10
経済学	片岡 晴雄	火1	1	外	経	120
経済学	浜本 光紹	水2	1	外	経	121
社会学	岡村 圭子	土1／土2	1	外	経	122
社会思想史	市川 達人	火4	1	外		123
歴史学概論(日本史)	新井 孝重	火5	1	外	経	124
歴史学概論(日本史)	丸浜 昭	金4	1	外	経	125
歴史学概論(東洋史)	熊谷 哲也	木3	1	外	経	126
歴史学概論(東洋史)	張 士陽	木4	1	外	経	127
歴史学概論(西洋史)	佐藤 唯行	金3	1	外	経	128
歴史学概論(西洋史)	増谷 英樹	火2	1	外	経	129
文学概論(日本)	佐藤 毅	水2	1	外	経	148
文学概論(日本)	福沢 健	月3	1	外	経	149
文学概論(外国)	野々山 ミチコ	水3	1	外	経	150
文学概論(外国)	宮谷 尚実	火2	1	外	経	151
国語表現法	飯島 一彦	火1／木2	1	外	経	130
国語表現法	小島 幸枝	火3	1	外	経	131
国語表現法	小島 幸枝	水2	1	外	経	132
国語表現法	佐藤 毅	水1	1	外	経	133
国語表現法	福沢 健	月4	1	外	経	134
心理学	杉山 憲司	木1／木2	1	外	経	135
心理学	田口 雅徳	火2	1	外	経	136
文化人類学	井上 兼行	火2／火3	1	外	経	137
自然科学概論	福井 尚生	月1	1	外	経	138
自然科学概論	福井 尚生	金3	1	外	経	139
地球環境論(生物学)	加藤 億重	火1／火3	1	外	経	140
地球環境論(地理学)	犬井 正	月2	1	外	経	141
情報処理	各担当教員	時間割参照	1	外	経	142
情報処理(アドヴァンス)	加藤 由樹	火5	1	外	経	143
統計学	富田 幸弘	木2／木3	1		経	144
統計学	本田 勝	火3／火4	1		経	145
統計学	松井 敬	火2／火3	1		経	146
健康学	中野 隆史	火4	1		経	147

目次

V 【法律学科】1998年度以前入学生

専門科目

科目名	担当教員	曜日 時限	開始 学年	履修不可の 学部・学科		ページ
				外	経	
法哲学	高須 則行	金4	3			12
日本法制史	小柳 春一郎	月2	3			13
法社会学	森 謙二	月2	3			14
法心理学	渡辺 昭一	金5	3			15
英米法	田島 裕	月3	3			16
ドイツ法	滝沢 誠	月2	3	外		17
フランス法	小柳 春一郎	火4	3			18
地域共同体法	廣部 和也	火4	3			20
外国法文献研究	小川 健	木2	2	外	経	21
憲法Ⅰ	大藤 紀子	金2	1	外	経	25
憲法Ⅰ	古関 彰一	木3	1	外	経	26
憲法Ⅱ	加藤 一彦	火1	2			114
行政法Ⅰ	磯部 哲	月3	2			28
行政法Ⅱ	市川 須美子	火3	3			115
比較憲法	高佐 智美	木3	3			30
税法	阿部 徳幸	金1	3			31
地方自治法	磯部 哲	火1	3			32
教育法	市川 須美子	金1	3			33
民法Ⅰ	(春)遠藤 研一郎	金3/金4	1	外	経	34
民法Ⅰ	(春)藤田 貴宏	木4/木5	1	外	経	35
民法Ⅱ	遠藤 研一郎	水1	2			36
民法Ⅲ	亀岡 倫史	木3	2			116
民法Ⅳ	藤田 貴宏	火1	3			117
民法Ⅴ	常岡 史子	金1	3			39
商法Ⅱ	(秋)明田川 昌幸	金3/金4	2			40
商法Ⅱ	(秋)藩 阿憲	水4/水5	2			41
商法Ⅲ	(春)藩 阿憲	水4/水5	3			118
商法Ⅰ	明田川 昌幸	月1	3			43
国際私法	山田 恒久	金3	3			45
国際取引法	土屋 弘三	金2	3			46
刑法Ⅰ	内山 良雄	火2	1			47
刑法Ⅰ	中空 壽雅	木3	1			48
刑法Ⅱ	内山 良雄	木1	2			119
刑事政策	安部 哲夫	月2	3			50
社会保険法	新田 秀樹	火2	3			52
労働法	石井 保雄	月1	2			51
経済法	山部 俊文	木4	3			54
環境法	一之瀬 高博	木1	2			53
消費者法	岩重 佳治	金2	3			55
知的財産権法	長塚 真琴	木3	3			56
刑事訴訟法	滝沢 誠	月1	3			60
民事訴訟法	山田 恒久	金2	3			57
民事執行・保全法	小川 健	水1	3			58
倒産法	小川 健	木3	3			59

目次

V 【法律学科】1998年度以前入学生

専門科目

科目名	担当教員	曜日 時限	開始 学年	履修不可の 学部・学科		ページ
				外	経	
国際法Ⅰ	松田 幹夫	木2	2			61
国際法Ⅱ	鈴木 淳一	火1	3			62
国際政治学	星野 昭吉	月2	2			63
比較政治	浦部 浩之	月2	3			81
日本外交史	福永 文夫	木2	2			64
アメリカ外交史	賀川 真理	月2	3			100
国際経済論	益山 光央	火3	3			103
国際組織	松田 幹夫	金2	3			82
国際開発論	片岡 貞治	火2	3			98
平和学	星野 昭吉	水2	3			97
政治学原論	福永 文夫	金2	2			65
地方自治	雨宮 昭一	火3	3			67
政治思想史	柴田平三郎	火2	3			68
政治史	井上 スズ	水1	3			106
行政学	雨宮 昭一	水1	3			69
日本の政治	光田 剛	月1	3			66
法律学特講B(青少年保護法総論-少年犯罪と少年法)	(春)安部 哲夫	火4	3			70
法律学特講B(青少年保護法各論-被害者としての青少年)	(秋)安部 哲夫	火4	3			70
法律学特講B(初めての著作権法)	(春)長塚 真琴	金2	3		経	71
法律学特講B(著作権法の諸問題)	(秋)長塚 真琴	金2	3		経	71
法律学特講B(経済刑法1)	(春)野村 稔	火4	3			72
法律学特講B(経済刑法2)	(秋)野村 稔	火4	3			72
法律学特講B(借地借家法)	(秋)小柳 春一郎	月3	3			73
法律学特講B(ヨーロッパ法史)	(秋)藤田 貴宏	火2	3			74
国際関係特講B(ラテンアメリカ政治経済論)	(春)今井 圭子	火4	3			108
国際関係特講B(中・東欧とロシア1)	(春)志摩 園子	木1	3			109
国際関係特講B(中・東欧とロシア2)	(秋)志摩 園子	木1	3			109
経済原論	野村 容康	火1	2	外	経	77
会計学	内倉 滋	火2	3		経	78
総合講座 「犯罪被害者と司法の課題」/「21世紀の地球規模問題」	安部 哲夫/一之瀬 高博	水3	2	外	経	79

目次 (VI 外国語科目・外国人学生用科目)

【法律学科】2002年度以前入学生

英語科目

科目名	担当教員	曜日 時限	開始 学年	履修不可の 学部・学科			ページ
				外	経	国	
英語Ⅰ講読	各担当教員	時間割参照	1	外	経	国	152
英語Ⅰ会話	各担当教員	時間割参照	1	外	経	国	153
英語Ⅱ講読	各担当教員	時間割参照	2	外	経	国	154
英語Ⅱ会話	各担当教員	時間割参照	2	外	経	国	155

【国際関係法学科】1999～2002年度入学生

英語科目

科目名	担当教員	曜日 時限	開始 学年	履修不可の 学部・学科			ページ
				外	経	律	
英語Ⅰ総合	*履修希望者は教務課法学部担当係で相談のこと		1	外	経	律	* *
英語Ⅰ講読	各担当教員	時間割参照	1	外	経	律	152
英語Ⅰ会話	各担当教員	時間割参照	1	外	経	律	153
英語Ⅱ講読	各担当教員	時間割参照	2	外	経	律	154
英語Ⅱ会話	各担当教員	時間割参照	2	外	経	律	155
英語Ⅱ総合	田平 幸代	土1	2	外	経	律	156
英語Ⅱ総合	沼 隆三	土2	2	外	経	律	157

【法律・国際関係法学科共通】1999～2002年度入学生

* 法律学科1998年度以前入学者はドイツ語・フランス語のみ履修可

第二外国語

科目名	担当教員	曜日 時限	開始 学年	履修不可の 学部・学科			ページ
				外	経	国	
ドイツ語ⅠB(読解練習)	各担当教員	時間割参照	1	外	経	国	158
ドイツ語ⅠC(口頭練習)	各担当教員	時間割参照	1	外	経	国	159
ドイツ語ⅡB(読解練習)	各担当教員	時間割参照	1	外	経	国	160
ドイツ語ⅡC(口頭練習)	各担当教員	時間割参照	1	外	経	国	161
フランス語ⅠB	各担当教員	時間割参照	1	外	経	国	162
フランス語ⅠC	各担当教員	時間割参照	1	外	経	国	163
フランス語ⅡB	各担当教員	時間割参照	2	外	経	国	164
フランス語ⅡC	各担当教員	時間割参照	2	外	経	国	165
スペイン語Ⅰ(会話)	各担当教員	時間割参照	1	外	経	国	166
スペイン語Ⅰ(総合)	各担当教員	時間割参照	1	外	経	国	167
スペイン語Ⅱ(会話)	各担当教員	時間割参照	2	外	経	国	168
スペイン語Ⅱ(総合)	各担当教員	時間割参照	2	外	経	国	169
ロシア語Ⅰ(文法)	齊藤 毅	水4	1	外	経	国	170
ロシア語Ⅰ(会話)	佐藤 千登勢	金4	1	外	経	国	171
ロシア語Ⅱ(総合)	佐藤 千登勢	金3	2	外	経	国	172
ロシア語Ⅱ(講読)	齊藤 毅	水3	2	外	経	国	173

目 次 (VI 外国語科目・外国人学生用科目)

【法律・国際関係法学科共通】1999～2002年度入学生

第 二 外 国 語

科目名	担当教員	曜日 時限	開始 学年	履修不可の 学部・学科			ページ
				外	経	国	
中国語Ⅰ(会話)	各担当教員	時間割参照	1	外	経	国	174
中国語Ⅰ(講読)	各担当教員	時間割参照	1	外	経	国	175
中国語Ⅱ(会話)	各担当教員	時間割参照	2	外	経	国	176
中国語Ⅱ(講読)	各担当教員	時間割参照	2	外	経	国	177
朝鮮語Ⅰ(文法)	各担当教員	時間割参照	1	外	経	国	178
朝鮮語Ⅰ(講読)	各担当教員	時間割参照	1	外	経	国	179
朝鮮語Ⅱ(総合)	各担当教員	時間割参照	2	外	経	国	180
朝鮮語Ⅱ(講読)	各担当教員	時間割参照	2	外	経	国	181

外国人学生用科目

科目名	担当教員	曜日 時限	開始 学年	履修不可の 学部・学科			ページ
				外	経	国	
日本事情a・b (日本事情Ⅰ)	新井 孝重	木5	1	外	経	国	182
日本語Ⅱa・b (日本語Ⅱ)	斎藤 明	月2/月3	2	外	経	国	183
日本語Ⅱa・b (日本語Ⅱ)	浅山 佳郎/小川 治子	金2	2	外	経	国	184
日本語Ⅱa・b (日本語Ⅱ)	武田 明子/小川 治子	金3	2	外	経	国	185

目 次 (Ⅶ 体育科目)

2003～2005年度入学生 カテゴリーⅤ 体育科目

2002年度以前入学生 体育Ⅰ・体育Ⅱ

2003～2005年度入学生	2002年度以前入学生	開講学期	曜日時限	担当教員	開始 学年	ページ
スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春	火 3	青柳 多恵子	1	186
スポーツ・レクリエーション(アウトドア山岳)		春	集中	青柳 多恵子	1	186
スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)	体育Ⅰ・体育Ⅱ *履修方法については シラバス参照	春	金 2	和田 智	1	187
スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)		春	水 2	和田 智	1	187
スポーツ・レクリエーション(アウトドア海浜)		春	集中	和田 智	1	187
スポーツ・レクリエーション(ウインドサーフィン)		春	集中	和田 智	1	187
スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション)		秋	火 2	和田 智	1	188
スポーツ・レクリエーション(スケートトレーニング)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	秋	集中	和田 智	1	188
スポーツ・レクリエーション(インラインスケートa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	水 1	和田 智	1	189
スポーツ・レクリエーション(インラインスケートa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	土	和田 智	1	189
スポーツ・レクリエーション(インラインスケートb)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	秋	土 1	松原 裕	1	190
スポーツ・レクリエーション(スノースポーツ)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	秋	集中	松原 裕	1	190
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	木 1	田中 茂宏	1	191
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	木	田中 茂宏	1	191
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	火 1	松原 裕	1	192
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	火	松原 裕	1	192
スポーツ・レクリエーション(硬式テニスa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	火 3	松原 裕	1	192
スポーツ・レクリエーション(ゴルフa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	月	山中 邦夫	1	193
スポーツ・レクリエーション(ゴルフa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	月 2	山中 邦夫	1	193
スポーツ・レクリエーション(ゴルフa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	金	吉田 卓司	1	194
スポーツ・レクリエーション(ゴルフa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	金 2	吉田 卓司	1	194
スポーツ・レクリエーション(サッカーa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	木	檜山 康	1	195
スポーツ・レクリエーション(サッカーa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	土 2	松原 裕	1	196
スポーツ・レクリエーション(サッカーa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	月	松本 光弘	1	197
スポーツ・レクリエーション(サッカーa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	月 3	松本 光弘	1	197
スポーツ・レクリエーション(スポーツエクササイズa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	水	梶野 克之	1	198
スポーツ・レクリエーション(ソフトボールa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	火 1	池垣 功一	1	199
スポーツ・レクリエーション(ソフトボールa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	火	池垣 功一	1	199
スポーツ・レクリエーション(ソフトボールa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	金 2	太田 朝博	1	200
スポーツ・レクリエーション(ソフトボールa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	木	萩野 元祐	1	201
スポーツ・レクリエーション(ソフトボールa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	木 2	萩野 元祐	1	201
スポーツ・レクリエーション(卓球a/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	月	奥野 忠枝	1	202
スポーツ・レクリエーション(卓球a/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	月 2	奥野 忠枝	1	202
スポーツ・レクリエーション(卓球a/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	金	本田 稔祐	1	203
スポーツ・レクリエーション(卓球a/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	金 2	本田 稔祐	1	203
スポーツ・レクリエーション(卓球a/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	土	本田 稔祐	1	203
スポーツ・レクリエーション(卓球a/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	土 2	本田 稔祐	1	203
スポーツ・レクリエーション(バスケットボールa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	金	勝瀬 武	1	204
スポーツ・レクリエーション(バスケットボールa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	金 2	勝瀬 武	1	204
スポーツ・レクリエーション(バスケットボールa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	水	蓬郷 尚代	1	205
スポーツ・レクリエーション(バスケットボールa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	水 2	蓬郷 尚代	1	205

目 次 (Ⅶ 体育科目)

2003～2005年度入学生 カテゴリーⅤ 体育科目

2002年度以前入学生 体育Ⅰ・体育Ⅱ

2003～2005年度入学生	2002年度以前入学生	開講学期	曜日時限	担当教員	開始 学年	ページ
スポーツ・レクリエーション(バドミントンa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	金	太田 朝博	1	206
スポーツ・レクリエーション(バドミントンa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	火 1	梶野 克之	1	207
スポーツ・レクリエーション(バドミントンa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	火	梶野 克之	1	207
スポーツ・レクリエーション(バドミントンa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	木 3	梶野 克之	1	207
スポーツ・レクリエーション(バレーボールa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	月	小川 又八朗	1	208
スポーツ・レクリエーション(バレーボールa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	月 3	小川 又八朗	1	208
スポーツ・レクリエーション(バレーボールa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	土	小山 さなえ	1	209
スポーツ・レクリエーション(バレーボールa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	土 2	小山 さなえ	1	209
スポーツ・レクリエーション(フットサルa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	木	檜山 康	1	210
スポーツ・レクリエーション(フットサルa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	木 1	松原 裕	1	211
スポーツ・レクリエーション(フリスビーa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	金	和田 智	1	212
スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンスa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	火 2	青柳 多恵子	1	213
スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンスa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	水	青柳 多恵子	1	213
スポーツ・レクリエーション(ボールルームダンスa/b)	体育Ⅰ・体育Ⅱ	春・秋	木 2	青柳 多恵子	1	213

03～05 律/国	フレッシュマンプログラム / フレッシュマンプログラム	担当者	各専任教員
99～02 律/国	***** / *****		
98以前 律	***** / *****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、法学部の新入生全員が最初の学期（一年次の春学期）に履修する科目です。18人程度のクラスに分かれ、演習（ゼミナール）形式で授業が行なわれます。この授業では、大学での勉学の心がまえ、勉強の方法、専門的な書物の読み方、論文・レポートの書き方、報告や討論のしかたなどを学びます。大学生としてどのように勉学に取り組んでゆくかの指針を与えることが目的の科目です。</p> <p>各担当教員は、クラス・アドバイザーをかねていますので、履修のしかたや勉強にしかたなど、なんでも相談してください。</p>		<p>具体的な授業計画は、第一回目の授業の際に、各担当教員から配布されます。</p> <p>基本的には、講義の聞き方、ノートを取り方、文献の読み方、レポートの書き方などを、各数回行います。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員から、開講時に指示があります。		出席、報告、レポート等の課題、授業への参加度などにより総合的に評価されます。	

03～05 律/国	***** / *****	担当者	各専任教員
99～02 律/国	***** / *****		
98以前 律	***** / *****		
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03～05 律/国	公法入門 / 公法入門	担当者	大藤 紀子 他
99～02 律/国	**** / ****		
98以前 律	****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「公法」に関連するテーマについて、憲法・行政法・教育法の「ホット」な話題を5人の教員が、それぞれの研究や関心に則して、交代で講義する。</p> <p>5つのテーマの具体的な内容や講義の方式は、各担当の際に、授業で明らかにする。</p>		<p>1 はじめに</p> <p>2・3 テーマ1 日本国憲法の誕生</p> <p>4・5 テーマ2 外国人の人権</p> <p>6・7 テーマ3 医療・生命倫理と法</p> <p>8・9 テーマ4 教育法学と子どもの人権〔仮題〕</p> <p>10・11 テーマ5 欧州連合と憲法</p> <p>12 おわりに (レポート課題提示)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業において、各教員が指示する。 六法持参のこと。		レポートによる評価。	

03～05 律/国	公法入門 / 公法入門	担当者	大藤 紀子 他
99～02 律/国	**** / ****		
98以前 律	****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「公法」に関連するテーマについて、憲法・行政法・教育法の「ホット」な話題を5人の教員が、それぞれの研究や関心に則して、交代で講義する。</p> <p>5つのテーマの具体的な内容や講義の方式は、各担当の際に、授業で明らかにする。</p>		<p>1 はじめに</p> <p>2・3 テーマ1 日本国憲法の誕生</p> <p>4・5 テーマ2 外国人の人権</p> <p>6・7 テーマ3 医療・生命倫理と法</p> <p>8・9 テーマ4 教育法学と子どもの人権〔仮題〕</p> <p>10・11 テーマ5 欧州連合と憲法</p> <p>12 おわりに (レポート課題提示)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業において、各教員が指示する。 六法持参のこと。		レポートによる評価。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	民事法入門 / 民事法入門 ***** / ***** *****	担当者	常岡 史子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>民事法とは、民事裁判の基準となる私法の実体法（民法、商法、労働法、知的財産権法等）およびその手続法（民事訴訟法、民事執行法等）の総称である。市民相互の関係を規律し、その権利の実現を保障するための一連の法でもある。</p> <p>民事法の世界は広範であり、その全体像をつかむためには体系的な学習が必要である。本講義は、一方では基本となる事項を明らかにして、今後の学習のための確かな基礎をつくと同時に、他方では受講生の興味を呼び起こすための導入という役割を持たせるものである。今後、各専門科目についての進んだ学習を進めるに際して、大切な一歩となる。</p> <p>各回の講義は、本学部の民事法に関連する各教員による専門性を生かしたオムニバス（乗り合い）方式になっている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 民事法の基礎 2. 法典編纂と民法 3. 民法—権利の主体、法律行為（契約） 4. 民法—所有権 5. 民法—債務不履行 6. 民法—不法行為 7. 民事判例の学び方 8. 労働法 9. 商法 10. 商法 11. 民事訴訟法 12. 知的所有権 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜、資料等を配布する		定期試験の成績を中心に評価を行なう。 必要に応じてレポート、小テスト等を実施することがある。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	***** / ***** ***** / ***** *****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03～05 律/国	***** / *****	担当者	*****
99～02 律/国	***** / *****		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03～05 律/国	民法法入門 / 民法法入門	担当者	小柳 春一郎
99～02 律/国	***** / *****		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>民法法とは、民事裁判の基準となる私法の実体法（民法、商法、労働法、知的財産権法等）および手続法（民事訴訟法、民事執行法等）の総称である。市民相互の関係を規律し、その権利の実現を保障するための一連の法でもある。</p> <p>民法法の世界は、広範であり、その全体像をつかむためには体系的な学習が必要である。本講義は、一方では基本となる事項を明らかにして、今後の学習のための確かな基礎をつくと同時に、他方では受講生に興味を呼び起こすための導入という役割を持たせるものである。今後、各専門科目についての進んだ学習を進めるに際して、大切な一步となる。</p> <p>各回の講義は、本学部の民法法に関連する各教員による専門性をいかしたオムニバス（乗り合い）方式になっている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 民法法の基礎 2. 法典編纂と民法 3. 民法——権利の主体・法律行為 4. 民法——所有権 5. 民法——契約 6. 民法——不法行為 7. 民法法判例の学び方 8. 労働法 9. 商法 10. 商法 11. 民事訴訟法 12. 知的財産法 	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義直前に教科書が出版されている予定であり、9月中旬に指定する。		期末試験を中心に評価を行う。	

03～05 律/国	刑事法入門 / 刑事法入門	担当者	安部 哲夫
99～02 律/国	***** / *****		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>刑事法の世界は、犯罪概念を定立（規範定立）して、犯罪成立をめぐる解釈論を中心とする「刑法学」と、その犯罪立証の手続きとしての「刑事訴訟法学」、そして犯罪の現状を把握し、適切な犯罪対策と犯罪者の処遇を講ずる「刑事政策学」から構成されている。学期を進むと、いずれ刑事法のそれぞれの学習を深めることになるが、その前に、刑事法全般につき鳥瞰する必要がある。</p> <p>そこで本授業では、まず刑事法の基本理念やその役割を論じ、刑法の歴史と刑法学の系譜とを通覧し、刑事司法の全領域における現代的課題について論じることとする。</p> <p>受講者には、犯罪報道や刑事裁判に関する報道に注意しつつ講義に臨んでもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 刑事法とは何か。刑事裁判とは何か。 2. 刑事制裁の意義について。刑罰とは何か。 3. 刑法学とは何か。近代刑法の基本原理。 4. 刑事司法の流れ① 警察、検察 5. 刑事司法の流れ② 裁判、証拠主義 6. 刑事司法の流れ③ 矯正、保護 7. 誤った裁判と死刑囚 8. 犯罪論の体系① 不作為犯、正当防衛 9. 犯罪論の体系② 中止犯、共犯 10. 家庭内犯罪への対応 11. 生命の刑法的保護と倫理 12. 刑事裁判と少年審判 	
テキスト、参考文献		評価方法	
指定教材：佐久間修ほか『いちばんやさしい刑事法入門』有斐閣、2003年		出席およびレポートによって評価する。	

03～05 律/国	***** / *****	担当者	*****
99～02 律/国	***** / *****		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献			

03～05 律／国	***** / *****	担当者	*****
99～02 律／国	***** / *****		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03～05 律／国	刑事法入門 / 刑事法入門	担当者	滝沢 誠
99～02 律／国	***** / *****		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>われわれの日常生活では、犯罪が発生し、犯人が逮捕され、起訴されたといったマス・コミュニケーションの報道に、頻繁に接します。そのため、犯罪と刑罰を扱う刑事法は、法律に違反した時に、刑罰が科されるという最も法的なものとしてイメージしやすい科目であると思われます。しかし、現実には、多くの事件は、起訴されないものの、刑事法の法効果は、犯罪者の生命を奪う死刑をはじめとして、峻厳な刑罰が予定されるものであるため、起訴された場合には、法解釈には厳密さが要求されます。</p> <p>刑事法は、どのような行為が犯罪であり、どれだけの刑罰が科せられるかを定める刑法、犯罪を行ったとされる被疑者の身柄を確保し、証拠を収集する捜査手続及び証拠により被告人が犯罪を行ったかどうかを明らかにする刑事手続を規律する刑事訴訟法及び犯罪の発生の予防・犯罪者の処遇を扱う刑事政策学、さらには、犯罪発生の要因を研究する犯罪学、そして、犯罪の被害を受けた被害者について研究する被害者学からなります。</p> <p>そこで、本講義では、できるだけやさしく、しかも、これから学ぶ刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法あるいは刑事政策などの刑事法科目の学習がスムーズに進められるようにするために、刑事法制度を展望したいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 刑事法とは？ 2. 罪刑法定主義 3. 犯罪の成立要件 構成要件 4. 犯罪の成立要件 違法性 5. 犯罪の成立要件 責任 6. 過失犯・中止犯・共犯 7. 正当防衛・過剰防衛・誤想防衛・誤想過剰防衛 8. 刑罰の種類・刑の量定 9. 捜査手続 10. 公判手続 11. 刑事政策 犯罪予防・犯罪者の社会復帰 12. 犯罪学・被害者学 	
テキスト、参考文献		評価方法	
三井誠・曾根威彦・瀬川晃編『入門刑事法』第3版（2003年、有斐閣）		学期末に実施する筆記試験のみとします。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	国際関係法入門 / 国際関係法入門 ***** / ***** *****	担当者	鈴木 淳一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 この講義は、卒業後に何らかのかたちで国際的な仕事につきたいと思っている学生に、国際法・比較法の観点から、国際関係の法的側面を概説しようとするものです。</p> <p>国際的な仕事とは、例えば国際公務員になって国連で働くこと、公務員になって国際取決めのドラフティングをすること、会社員になって国際取引に従事すること、外国法律弁護士になって国際契約の交渉をすること、国際NGOに所属してボランティア活動をするなどです。</p> <p>〔講義の概要〕 国際関係法という用語の厳密な定義はありませんが、考察の対象となる広範な法領域をカバーするため、本講義では英米法・比較法の専門家（田島）と国際法の専門家（鈴木）のコラボレーションによって開講します。</p> <p>なお、本講義では、ビデオを利用したり、外部の専門家をお招きしたりすることがあります。</p>		<p>導入 インTRODダクシヨN（田島・鈴木）</p> <p>総論1 国際法・外国法・比較法総論（田島）</p> <p>総論2 国際機構法・EU法（田島）</p> <p>各論1 ヨーロッパ人権規約と比較刑事法（田島）</p> <p>各論2 英米法と大陸法の比較（田島）</p> <p>各論3 国際慣習法としての英米法（田島）</p> <p>各論4 国際法の法源（鈴木）</p> <p>各論5 国際法の主体（鈴木）</p> <p>各論6 戦争・平和維持・安全保障の法（鈴木）</p> <p>各論7 国際人道法（テロの規制を含む）（鈴木）</p> <p>各論8 国際人権法（鈴木）</p> <p>総括 まとめ（鈴木）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 櫻井雅夫『国際関係法入門』（有信堂、2004年） ・ http://www.iclds.com/iclds/japanese/index.asp 		成績は、原則として、学期末の記述式テストによります。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	***** / ***** ***** / ***** *****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03～05 律/国	***** / *****	担当者	*****
99～02 律/国	***** / *****		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03～05 律/国	国際関係法入門 / 国際関係法入門	担当者	田島 裕
99～02 律/国	***** / *****		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 この講義は、卒業後に何らかのかたちで国際的な仕事につきたいと思っている学生に、国際法・比較法の観点から、国際関係の法的側面を概説しようとするものです。</p> <p>国際的な仕事とは、例えば国際公務員になって国連で働くこと、公務員になって国際取決めのドラフティングをすること、会社員になって国際取引に従事すること、外国法律弁護士になって国際契約の交渉をすること、国際NGOに所属してボランティア活動をするなどです。</p> <p>〔講義の概要〕 国際関係法という用語の厳密な定義はありませんが、考察の対象となる広範な法領域をカバーするため、本講義では英米法・比較法の専門家（田島）と国際法の専門家（鈴木）のコラボレーションによって開講します。</p> <p>なお、本講義では、ビデオを利用したり、外部の専門家をお招きしたりすることがあります。</p>		<p>導入 インTRODダクシヨン（田島・鈴木）</p> <p>総論1 国際法・外国法・比較法総論（田島）</p> <p>総論2 国際機構法・EU法（田島）</p> <p>各論1 ヨーロッパ人権規約と比較刑事法（田島）</p> <p>各論2 英米法と大陸法の比較（田島）</p> <p>各論3 国際慣習法としての英米法（田島）</p> <p>各論4 国際法の法源（鈴木）</p> <p>各論5 国際法の主体（鈴木）</p> <p>各論6 戦争・平和維持・安全保障の法（鈴木）</p> <p>各論7 国際人道法（テロの規制を含む）（鈴木）</p> <p>各論8 国際人権法（鈴木）</p> <p>総括 まとめ（鈴木）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 櫻井雅夫『国際関係法入門』（有信堂、2004年） ・ http://www.iclds.com/iclds/japanese/index.asp 		成績は、原則として、学期末の記述式テストによります。	

03～05 律/国	政治学入門 / 政治学入門	担当者	星野 昭吉
99～02 律/国	政治学入門 / ****		
98以前 律	政治学入門		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今日、われわれの生存や日常生活の在り方は政治世界の在り方に大きく依存している。われわれが好むと好まざるにかかわらず、無条件に政治がわれわれの社会生活に浸透し、それを自由に左右している。政治の世界がますます巨大化し、複雑化し、その不確実性を高めると同時に、一層その魔力性を高めている。それだけに、政治世界を形成し、動かしていくメカニズム。存在意義、そして政治世界に内在する課題を体系的に見定めていかねばならない。その上で、好ましい政治世界の創造のための方向と条件を検討していく必要がある。春学期では、政治世界を描き、説明し、その動きを予測し、そして変革していくに不可欠な基本的枠組みを理論的観点から模索していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに—政治世界への理論的アプローチ— 2 政治的概念の歴史性(1):全体の枠組み 3 政治的概念の歴史性(2):日本と中国の政治概念の比較検討 4 政治的概念の歴史性(3):古代ギリシャ世界 5 政治的概念の歴史性(4):近代世界 6 政治的概念の歴史性(5):現代世界 7 国家と国民 8 政治権力(1) 9 政治権力(2) 10 議会政治と民主主義(1) 11 議会政治と民主主義(2) 12 政治文化 13 現代政治世界の課題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
開講後に参考文献リストを配布する。		試験、レポート(書評)、出欠状況による総合評価	

03～05 律/国	政治学入門 / 政治学入門	担当者	福永 文夫
99～02 律/国	政治学入門 / ****		
98以前 律	政治学入門		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代の政治は国の内側においても外側においても複雑を極めていく。この政治学入門は文字通り政治の入口の役目を果たしていると思われる。講義では、身近な日本政治を例に、現在政治に関わる諸問題の内実と問題点を解き明かしたい。そして、政治学を学ぶ際に必要不可欠な考え方、および基礎知識を身に付けることができるようにしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 政治を見る眼—現代日本の政治の現場から— 2. 「鉄の三角同盟」は何? 3. 官か民か—規制緩和— 4. 誰が政治を動かしているか—企業と政治— 5. 選挙と政治 6. 国と地方—地方分権— 7. マスコミと政治 8. 国会は機能しているか? 9. 行政—内閣と総理大臣— 10. 官僚と政治 11. 世界の中の日本政治 12. おわりに 	
テキスト、参考文献		評価方法	
真淵勝・久米郁男・北山俊哉『はじめて出会う政治学』有斐閣		定期試験を基本に評価する。その間、講義中に小テストあるいはレポートを課す場合もありうる。	

03~05 律/国 99~02 律/国 98以前 律	社会科学概論-1 / 社会科学概論-1 社会科学概論 / 社会科学概論 社会科学概論	担当者	杉田 孝夫
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツにおける近代家族観の成立過程を対象にして市民社会と家族の観念の構造的連関をその成立、展開過程に即して明らかにするとともに、現代社会と家族の関係にかかわる諸問題の根源を明らかにする。		1.市民社会と家族 2.一般ラント法における家族と社会 3.カントの家族観（1） 4.カントの家族観（2） 5.カントの家族観（3） 6.フィヒテの家族観（1） 7.フィヒテの家族観（2） 8.フィヒテの家族観（3） 9.ヘーゲルの家族観（1） 10.ヘーゲルの家族観（2） 11.ヘーゲルの家族観（3） 12.ドイツ民法における家族と社会	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の中で随時紹介する。		講義への出席と学期末試験によって評価する。	

03~05 律/国 99~02 律/国 98以前 律	社会科学概論-2 / 社会科学概論-2 社会科学概論 / 社会科学概論 社会科学概論	担当者	杉田 孝夫
講義目的、講義概要		授業計画	
近代西洋政治思想の展開のなかで政治とジェンダーを考える。 近代政治思想史の代表的テキストのなかで、人間（男-女-子ども）、家族、社会、公私関係はどのように原理的に構成されたのであろうか。近代社会の形成過程でどのようにジェンダーが基礎づけられ、展開したのか。そしてなにがどのように批判の対象となるにいたったのか、その過程をテキストが登場した時代の精神と連関させつつテキストに即して明らかにする。		1.ロック：家族社会と政治社会の峻別 2.ルソー：「エミール」と「社会契約論」 3.オランプ・ドゥ・グージュ：「女性の権利宣言」 4.ウルストーンクラフト：「女性の権利の擁護」 5.カント：「家長個人主義」の誕生 6.フィヒテ：「夫婦で一票」 7.ヘーゲル：「家族・市民社会・国家」 8.J.S. ミル：女性の隷従からの解放 9.エンゲルス「家族・私有財産・国家の起源」 10.ベーベル：「婦人論」は何を目ざしたのか 11.エレン・ケイ：「児童の世紀」の意味するもの 12.ボーヴォワール「第二の性」	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の中で随時紹介する。		講義への出席と学期末試験によって評価する。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	社会科学情報検索法 a / 社会科学情報検索法 a 社会科学情報検索法 / 社会科学情報検索法 *****	担当者	鈴木 淳一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的 社会科学(主として法律学・政治学)を学ぶ上で、必要不可欠な情報の収集・分析・加工の技術を学ぶことを、主たる目的とする。情報収集の手段には、大別して、マニュアル(紙媒体)によるものと、コンピュータシステム(CD-ROM、オンラインデータベース、インターネット)を利用するものが考えられる。本講義では、この両者を扱う。</p> <p>講義概要 もとより、収集された情報は、分析・加工をまけて意味のあるものとなる。したがって、その、加工・分析には専門的な、法律学・政治学の学習・研究が不可欠なはいうまでもない。したがって、最新の情報を適切な方法で独得する技術の習得とほぼ同様に、法律学・政治学の基礎的な知識の修得もその内容とする。そうした意味で、本講義は、単なるコンピュータの操作の習熟を目的とするものではなく、法律学・政治学を学ぶ上での基礎知識を習得する目的をも持つものである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 パソコンの基本操作①…全般 3 パソコンの基本操作②…ファイル管理 4 パソコンの基本操作③…文字入力 5 Internet の基礎・メールの基礎・情報倫理 6 MS-W o r d の基礎① 7 MS-W o r d の基礎② 8 MS-W o r d の基礎③ 9 MS-E x c e l の基礎① 10 MS-E x c e l の基礎② 11 MS-E x c e l の基礎③ 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
獨協大学情報センター『コンピュータ入門』		講義の内容の性質上、出席の状況、レポート、受講の様子を特に重視する。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	社会科学情報検索法 b / 社会科学情報検索法 b 社会科学情報検索法 / 社会科学情報検索法 *****	担当者	鈴木 淳一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的 社会科学(主として法律学・政治学)を学ぶ上で、必要不可欠な情報の収集・分析・加工の技術を学ぶことを、主たる目的とする。情報収集の手段には、大別して、マニュアル(紙媒体)によるものと、コンピュータシステム(CD-ROM、オンラインデータベース、インターネット)を利用するものが考えられる。本講義では、この両者を扱う。</p> <p>講義概要 講義は原則として法学部教員がオムニバス形式で行うが、獨協大学図書館の協力を得て、演習形式で実施することもある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 図書館と図書館資料の検索—その 1 3 図書館と図書館資料の検索—その 2 4 図書館と図書館資料の検索—その 3 5 法学文献入門 6 法令・判例・政府出版物 7 外国法①…外国法文献学入門 8 外国法②…英米法 9 外国法③…大陸法 10 情報化社会と知的財産権法 11 国際法・国際機関—その 1 12 国際法・国際機関—その 2 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは、後日、指定する。 参考文献：いしかわ他『リーガル・リサーチ』(日本評論社)</p>		講義の内容の性質上、出席の状況、レポート、受講の様子を特に重視する。	

03～05 律/国	法思想史 / ***	担当者	高須 則行
99～02 律/国	法哲学 / ***		
98 以前 律	法哲学		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>我が国の法学会に影響を与え続けている主要な西洋の法思想をできる限り紹介することによって、現代の法制度の理解や実定法学の勉強を側面から支援するとともに、法思想と密接に関連する「法哲学」の理解をも深めさせることを目的にしています。</p> <p>本講義の進め方は、「〈逆進〉の法思想史」とも呼べるようなものです。つまり、従来の講義のように、古代ギリシャからはじめ、中世、啓蒙期を経由し、近世・近代に至り、最後に現代の法思想に触れるというのではなく、重点を20世紀の法思想に置き、そのルーツを辿るという形で法思想の歴史の針を逆に回し、過去に向かって遡るという進め方をします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 法思想史へのいざない 2 ハンス・ケルゼンの純粹法学 3 H・L・A・ハートのルール法の法理論 4 ロナルド・ドゥオーキンの新自由法論 5 ジョン・ロールズの正義論 6 リバタリアニズムと共同体論 7 ニクラス・ルーマンの法社会学 8 アメリカの法思想 (フランク・パウンド・ホームズ) 9 グスタフ・ラードブルフの価値相対主義法哲学 10 利益法学と自由法運動 (ヘック・カントロヴィッツ・エールリッヒ) 11 ドイツの近代法学の展開 (イエーリング・ヴィントシヤイト・サヴィニー) 12 イギリスの法思想 (オースティン・メイン) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
田中成明・竹下賢・深田三徳・亀本洋・平野仁彦著『法思想史〔第2版〕』(有斐閣・1997)		基本的には、定期試験の得点によって判断しますが、平常点を考慮する場合があります。	

03～05 律/国	法哲学 / ***	担当者	高須 則行
99～02 律/国	法哲学 / ***		
98 以前 律	法哲学		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>法哲学は法現象を対象にした哲学的考察です。皆さんは憲法学、民法学、刑法学等といった実定法学、いわゆる法解釈学を学んできていることから法現象についてのイメージは持っていると思われます。それでは、哲学的に考察するとはどのようなことでしょうか？ それは実定法学の世界においてほとんど当然のこととして誰からも疑われてこなかった「常識」とされる事柄をひとまず疑ってみて、その上でできる限りその根拠を探り当てみようとする知的作業です。そのことによって実定法学の拠って立つ理論的基盤を問い、それと同時にそれを学んでいる皆さん自身の基盤をも反省する機会を提供し、その結果を実定法学の学習に反映させ、より深い専門知識を習得してもらうことを目的にしています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 法哲学へのいざない (変化する社会と法) 2 法の一般理論Ⅰ (法と強制秩序、規範体系の構造) 3 法の一般理論Ⅱ (法の実効性と妥当性) 4 法の一般理論Ⅲ (近代法の限界と現代法の特質) 5 法の一般理論Ⅳ (危害原理、パターンリズム) 6 法的思考Ⅰ (法解釈とは何か) 7 法的思考Ⅱ (法解釈の技法) 8 法的思考Ⅲ (解釈技法の使い方) 9 法的思考Ⅳ (法的思考と経済学的思考) 10 法的正義Ⅰ (正義概念の多様性) 11 法的正義Ⅱ (価値相対主義) 12 法的正義Ⅲ (リベラリズム、リバタリアニズム、共同体論) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
平野仁彦・亀本洋・服部高宏著『法哲学』(有斐閣アルマ、2002)		基本的には、定期試験の得点によって判断しますが、平常点を考慮する場合があります。	

03～05 律/国	日本法制史 / *****	担当者	小柳 春一郎
99～02 律/国	日本法制史 / *****		
98 以前 律	日本法制史		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近代日本は、土地法制においてもダイナミックな変化を体験している。講義の目的は、明治初年から平成15年までの近代日本の土地法制について歴史的な理解を与えることである。講義は、明治初年における私的土地所有権の付与に始まり、最近の一連の土地対策までの土地法制の変化を公法、私法の枠にとられることなく検討することにより、現在の土地法・土地秩序が歴史の積み重ねであることを示す。</p> <p>近代日本の土地法制を、大きく2つに区分する。春学期においては、第二次世界大戦前について論ずる。明治、大正、昭和の3時期、戦後については、昭和20年代までを検討する。その上で、各期の重要な法律を取り上げ、立法理由、法の主な内容、その後の法律改正、主な裁判例について解説する。</p>		<p>1 明治期1・地租改正 現在の登記簿上の土地情報はいつうまれたか。地券のない土地はどうか。</p> <p>2 明治期2・民法 民法の制定は、土地秩序にどのような影響を与えたか。</p> <p>3 大正期1・建物保護法・借地法・借家法 借地制度は、なぜ発達したか。</p> <p>4 大正期2・都市計画法 最初の都市計画法にはどのような特徴があったか。</p> <p>5 大正期3・特別都市計画法 関東大震災は、東京の都市整備にどのような影響を与えたか。</p> <p>6 昭和戦前期1・借地法等改正 正当事由制度は、なぜ導入されたか。</p> <p>7 昭和戦前期2・戦時罹災土地物件令・罹災都市借地借家臨時処理法 戦災はどんな法を残したか。</p> <p>8 戦後復興期1・農地改革・財産税 土地所有細分化がなぜおこったか。</p> <p>9 戦後復興期2・建築基準法 憲法制定は、土地法にどのような影響を与えたか。</p> <p>10 戦後復興期3・宅地建物取引業法 不動産業への規制は、どのようになされたか。</p> <p>11 経済回復期1・首都圏整備法 グリーンベルト構想は、なぜ失敗したか。</p> <p>12 経済回復期2・日本住宅公団法</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
稲本洋之助＝小柳春一郎＝周藤利一『日本の土地法——歴史と現状』(成文堂, 2004年) 2700円		出席も数度とるが基本的には期末試験による。	

03～05 律/国	日本近代法史 / *****	担当者	小柳 春一郎
99～02 律/国	日本法制史 / *****		
98 以前 律	日本法制史		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近代日本は、土地法制においてもダイナミックな変化を体験している。講義の目的は、明治初年から現在までの近代日本の土地法制について歴史的な理解を与えることである。講義は、明治初年における私的土地所有権の付与に始まり、最近の一連の土地対策までの土地法制の変化を公法、私法の枠にとられることなく検討することにより、現在の土地法・土地秩序が歴史の積み重ねであることを示す。</p> <p>近代日本の土地法制を、大きく2つに区分する。秋学期においては、戦後とりわけ昭和30年代の高度経済成長期以後の土地法制について論ずる。昭和30年代、40年代、石油ショックから昭和55年まで、その後のバブル期、更に経済低迷期という時代区分をする。その上で、各期の重要な法律を取り上げ、立法理由、法の主な内容、その後の法律改正、主な裁判例について解説する。</p>		<p>1 高度成長期1・都市計画法 市街化区域と市街化調整区域の線引きはどのような意味を持つか。</p> <p>2 高度成長期2・農振法 高度成長は、農地所有権にどのような影響を与えたか。</p> <p>3 高度成長期3・都市再開発法 駅前シリーズと呼ばれる市街地再開発事業の特徴と限界は何か。</p> <p>4 高度成長期4・開発指導要綱 市町村が土地利用をコントロールする手法はないか。</p> <p>5 高度成長期5・地価公示法 土地価格について公的機関はどのような情報を有するか。</p> <p>6 安定成長期1・国土利用計画法 土地価格規制の手法にはどのようなものがあるか。</p> <p>7 安定成長期2・生産緑地法 市街化区域内農地についてどのような位置づけを与えるか。</p> <p>8 地価バブル期1・土地基本法 なぜ制定されたか。地価税法は、どのような内容であったか。</p> <p>9 地価バブル期2・都市計画法改正 用途地域詳細化と市町村による土地利用規制がなぜ必要か。</p> <p>10 地価バブル期3・借地借家法 定期借地権・定期借家権はなぜ創設されたか。</p> <p>11 経済低迷期1・密集法 阪神・淡路大震災は、日本の土地法にどのような影響を与えたか。</p> <p>12 経済低迷期2・大深度地下法</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
稲本洋之助＝小柳春一郎＝周藤利一『日本の土地法——歴史と現状』(成文堂, 2004年) 2700円		出席も数度とるが基本的には期末試験による。	

03～05 律/国	法社会学 a / *****		担当者	森 謙二
99～02 律/国	法社会学 / *****			
99 以前 律	法社会学 / *****			
講義目的、講義概要		授業計画		
<p>近代から現代への法の変化について考えていきたいと思ひます。講義の目標は、現在私たちが生きている「現代」をどのように理解するか、法がどのような役割を果たすか、について考えていきたいと思ひます。</p> <p>中心となる領域は、「市民社会」と「家族」です。不確実なリスク社会の中での法のあり方についても言及することができればと考えています。</p>		<p>授業計画、</p> <p>I 法社会学はどのような学問か？ 法社会学と他の社会諸科学</p> <p>II 市民社会と法</p> <p>1.近代市民法の構造</p> <p>2.市民的公共性の成立と世論</p> <p>3.市民的公共性の崩壊</p> <p>4.社会法の形成と福祉国家論</p> <p>5.現代における権利の性格</p> <p>6.公共的親密圏（地域社会）</p> <p>III 家族と法</p> <p>1.近代家族の成立</p> <p>2.家族機能の解除</p> <p>3.「家族の個人化」現象</p>		
テキスト、参考文献		評価方法		
<p>エールリッヒ『法社会学の基礎理論』みすず書房・ヴェーバー『法社会学』創文社・六本佳平『法社会学』（有斐閣）・ハーバーマス『公共性の構造転換』未来社</p>		<p>試験・レポート・出席などを総合的に見て、評価します。成績のつける上での配分は、テスト=40%、レポート=30%、出席=30% です。</p>		

03～05 律/国	法社会学 b / *****		担当者	森 謙二
99～02 律/国	法社会学 / *****			
99 以前 律	法社会学 / *****			
講義目的、講義概要		授業計画		
<p>日本社会はどのような社会なのか、近代から現代までの変化を中心に講義を進めていきます。</p> <p>日本における近代法の展開といっても、実定法の形成を念頭に置いているのではなく、近代天皇制を支える社会構造がどのように形成されたのか、ヨーロッパ型の近代社会とどこに違いがあったのか、について考えていきます。</p> <p>戦後の日本においては、戦前と戦後がどのように繋がり、どのように断絶していたかという問題から、「日本型」と呼ばれる社会システムがどのように壊れていったのかについて考えていきます。</p>		<p>I.日本社会と法…問題の視座</p> <p>II 明治国家の中の日本</p> <p>1.近代法の受容の条件</p> <p>2.近代天皇制と国家神道</p> <p>3.明治国家と家—祖先祭祀の意味</p> <p>4.日本型近代家族の成立</p> <p>5.近代家族—ヨーロッパと日本</p> <p>6.年功序列と終身雇用制（戦前と戦後の連続性）</p> <p>III 戦後日本の法体制とその変動</p> <p>1.冷戦構造の確立と戦後改革</p> <p>2.高度成長と日本型福祉国家</p> <p>3.冷戦構造の崩壊—日本安保体制</p> <p>4.戦後日本家族の展開・「日本型近代家族」の崩壊</p> <p>5.リスク社会と法</p>		
テキスト、参考文献		評価方法		
<p>江守五夫『日本村落社の構造』『日本の婚姻』『家族の歴史人類学』（ともに弘文堂）・森謙二『墓と葬送の現代』東京堂出版・水林彪他編『法社会学史』（山川出版社）・『家族革命』（弘文堂）</p>		<p>試験・レポート・出席などを総合的に見て、評価します。成績のつける上での配分は、テスト=40%、レポート=30%、出席=30% です。</p>		

03～05 律/国	法心理学 a / *****		
99～02 律/国	法心理学 / *****	担当者	渡辺 昭一
98 以前 律	法心理学		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>法心理学は、民事および刑事司法システムへの心理学的知見の提示と応用に関連する学問領域である。この講義では、法執行過程におけるさまざまな心理学的問題について、最近の研究と具体的な事例を紹介し、法心理学への理解を深めることを目的とする。</p> <p>法心理学は、目撃証言の評価、捜査面接、犯罪者プロファイリング、法廷証言、犯罪者の処遇、犯罪被害者支援、犯罪者の心理と行動および理論構築など、法執行のすべてのプロセスにわたる領域を含んでいる。春学期は、これらの領域のうち、目撃者の証言、捜査面接、虚偽検出検査（ポリグラフ検査）などについて、事例や裁判例を紹介しながら講義する予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 法心理学とは何か 2 目撃者の証言（1）：目撃者の記憶 3 目撃者の証言（2）：顔の識別と再構成 4 目撃者の証言（3）：写真面割り 5 捜査面接：目撃者と被害者の面接 6 取調べと自白（1）：否認の心理 7 取調べと自白（2）：取調べ 8 取調べと自白（3）：自白の心理 9 虚偽検出検査（1）：検査の方法と妥当性 10 虚偽検出検査（2）：法的諸問題 11 犯罪情報分析（1）：分析の手法 12 犯罪情報分析（2）：海外の動向 	
テキスト、参考文献		評価方法	
渡辺昭一編『捜査心理学』北大路書房 2004年		出席、試験による。	

03～05 律/国	法心理学 b / *****		
99～02 律/国	法心理学 / *****	担当者	渡辺 昭一
98 以前 律	法心理学		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、犯罪者プロファイリング（犯人像推定）、児童虐待、最近の少年非行の特徴と非行少年の処遇、犯罪被害者支援、犯罪の防止などについて、具体的な事例を交えながら講義する予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 犯罪者プロファイリング（1）：FBIの手法 2 犯罪者プロファイリング（2）：英国の手法 3 地理的プロファイリング 4 犯罪手口情報分析 5 犯罪者の心理と行動（1） 6 犯罪者の心理と行動（2） 7 犯罪者の心理と行動（3） 8 犯罪者の心理と行動（4） 9 少年非行と非行少年の処遇 10 犯罪被害者支援 11 環境犯罪学：犯罪の防止 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
渡辺昭一編『捜査心理学』北大路書房 2004年		出席、試験による。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	英米法 a / 英米法 a 英米法 / 英米法 英米法	担当者	田島 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今日の国際社会において、ある程度の外国法の知識なしに生きてゆくことはできない。中でも「英米法」は、「大陸法」の法系と対比される重要な法系をなしており、比較法の観点からも必須の科目であるといつてよい。英米法の特徴は、その判例法主義にあり、それゆえ当然に、「法律家、裁判所、陪審制」が研究の中心になる。法源としての判例法は、コモン・ローとエクイティに大別される。そして、コモン・ローのシステムは、先例拘束性の原理によって構築されている。このような英米の歴史的伝統が、議会民主制の中でどのように働いているかを学習することが、前半の講義の主要目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 比較法の中の英米法 2 英米法の本質 3 英米の法律家——イギリス 4 英米の法律家——アメリカ 5 英米の裁判所 6 陪審制の本質 7 議会主権と法の支配 8 先例拘束性の原理 9 国会制定法の解釈 10 英米法の分離——UC 憲法の成立 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>田島裕著『イギリス法入門』（信山社、2001年） 田島裕著『アメリカ憲法』（信山社、2004年）</p>		定期試験（資料の持込を認めない）によって評価する。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	英米法 b / 英米法 b 英米法 / 英米法 英米法	担当者	田島 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英米法は歴史性をもっており、歴史的に進化発展してきた。そこで、英米法の各論については、歴史的発展のプロセスに従って講義を進める。しかし、後半の講義の導入部として、最初に英米の憲法構造を説明する。その後、(1) 土地法、信託法、家族法、(2) 契約法、(3) 不法行為法、(4) アメリカ自然法論、(5) リアリズムという順序で法原理を説明する。とくに、UCC（統一商事法典）第2編および第9編には注目したい。最後に、英米法の将来を展望し、イギリス法とアメリカ法が分離する傾向があることを説明したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 イギリス憲法 2 アメリカ憲法 3 中世の判例法——土地法、信託法の形成、家族法 4 契約の自由 5 不法行為法——過失責任を中心として 6 英米刑法 7 アメリカ自然法論——基本的人権 8 リアリズム法学 9 英米法の国際化 10 イギリス法とアメリカ法の分離 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>前半の参考書のほか、田島裕訳・解説『UCC2001』（商事法務、2002年）。また、随時、テーマごとに講義の中で紹介する。</p>		定期試験（資料の持込を認めない）によって評価する。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	ドイツ法 a / ドイツ法 a ドイツ法 / ドイツ法 ドイツ法	担当者	滝沢 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>明治維新政府は、ヨーロッパ大陸諸国（とりわけ、ドイツ及びフランス）の法制度を輸入し、近代化を遂げてきました。しかし、第二次世界大戦後は、英米法、とりわけ、アメリカ法の影響を強く受けながらも、わが国の法制度の基本概念、規定等は、一部の法領域の例外はあるものの、依然として、大陸法（とりわけ、ドイツ法）の影響を強く受けています。</p> <p>ところで、わが国の法制度の基礎となった外国の法制度を眺めることは、わが国の法解釈・理解、さらには、わが国の法制度において解決できない問題を解決する指針を提供することもあります。外国法を学ぶ必要性が見出せるものと思われます。</p> <p>他方で、法制度は、社会から浮遊したものではなく、社会のあり方と密接に結びついておりますので、ドイツの法制度の理解は、ドイツ社会・文化の理解につながることもあるかと思われます。</p> <p>そこで、本講義では、わが国・ドイツの法制度、社会及び文化理解の一助のために、日本の法制度を概観しながら、ドイツの法制度及び社会・文化の特徴を模索したいと思います。なお、ドイツ留学を希望する学生には、一定の情報を提供したいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本法とドイツ法 比較法の意義・限界 2. ドイツ連邦共和国とは 3. 基本法 連邦制度 4. 基本法 法治国家 5. 基本法 基本権 6. 民法、商法 7. 刑法 8. 司法制度 9. 民事訴訟法 10. 刑事訴訟法 11. 行政法、労働法 12. ドイツの教育制度・大学制度・法学教育 	
テキスト、参考文献		評価方法	
村上淳一・マルチュケ・ハンス・ペーター『ドイツ法入門』改訂第5版（2002年、有斐閣）		学期末に実施する択一式試験のみとします。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	ドイツ法 b / ドイツ法 b ドイツ法 / ドイツ法 ドイツ法	担当者	滝沢 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>比較法の意義の一つには、わが国の法解釈で解決できない問題があるときに、それを解決できる外国の解釈及び法制度を検討し、わが国の法解釈及び立法に指針を与えることにあります。特に、わが国と比べると、ドイツにおいては、新しい法律問題が発生したときには、立法府がこまめに法改正を行い、法運用を規律する特徴が見られます。</p> <p>そこで、本講義では、春学期の講義を前提としながら、近年のドイツ法における新しい議論、わが国及びドイツに共通する新しい法律問題及び学会での議論のいくつかを選び出し、検討することで、わが国及びドイツの法制度、社会及び文化の特徴を模索してみたいと思います。なお、ドイツ留学を希望する学生には、一定の情報を提供したいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツ法のヨーロッパ化 (Europäisierung) 2. ヨーロッパ人権保障条約 (EMRK) 3. 法曹育成改革 4. 違憲立法審査と Juniorprofessor 5. カント没後 200 年 (2003) と刑法 6. 医事刑法 (Medizinrecht) 7. 触法精神障害者の処遇 8. 改善保安処分導入の可能性 9. 国民の司法参加 (Schöffengericht) 10. 犯罪被害者の訴訟参加 (Nebenklage) 11. 付帯私訴 (Adhäsionsverfahren) 12. 性犯罪者の出所情報の通知 	
テキスト、参考文献		評価方法	
村上淳一・マルチュケ・ハンス・ペーター『ドイツ法入門』改訂第5版（2002年、有斐閣）		学期末に実施する択一式試験のみとします。	

03~05 律/国 99~02 律/国 98以前 律	フランス法 a / フランス法 a フランス法 / フランス法 フランス法	担当者	小柳 春一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランス法は、ドイツ法と並んで大陸法を代表する外国法であり、日本の近代法の形成にも大きな影響を与えてきた。本講義の目的は、日本法を考える場合にも参考になるような視点に配慮しながらフランス法の特徴を明らかにすることにある。本講義では、フランス法の歴史的・全体的な特徴を明らかにした後に、いくつかの具体的制度を取り上げて、生きたフランス法の姿を明らかにしたい。</p> <p>春学期では、フランス公法の制度的特質を概念的に明らかにする。具体的には、現在のフランス第5共和制の大統領制の特質等を示した後に、大革命を出発点にするフランス近代公法・私法の歴史的形成を論ずる。単純な歴史順よりも、現在を出発点とした方が関心が深まるからである。</p> <p>TV放送録画・映画などを積極的に利用し、学生諸君がフランス法のイメージを得られるようにする。</p>		<p>1 フランス第5共和制の成立 現在の憲法体制は、いつどのように生まれたか。</p> <p>2 大統領制 フランス大統領制の特質は何か。2002年大統領選挙はどうであったか。</p> <p>3 内閣 大統領により任命される首相は大統領とどのような関係に立つか。</p> <p>4 議会 両院はどのような位置づけを与えられているか。選挙の方式はどうか。</p> <p>5 裁判制度 民刑事裁判所の特徴は何か。法学部はどのような雰囲気か。</p> <p>6 憲法院 フランスの事前違憲審査はどのようなものか。</p> <p>7 地方制度 3万以上ある市町村の役割はどのようなものか。</p> <p>8 歴史1 フランス古法の特徴は何か。大革命でどのように克服されたか。</p> <p>9 歴史2 フランス革命による人権宣言は、現在いかに位置づけられているか。</p> <p>10 歴史3 フランス革命はフランス民法にどのような影響を与えたか。</p> <p>11 日本法への影響1 19世紀私法学の特徴は何か。</p> <p>12 日本法への影響2 明治初年に来日したボワソナードは、日本法に何をもたらしたか。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義ではレジメを配布する。		期末試験を中心にする。 出席について点数化し、評価に加算する。	

03~05 律/国 99~02 律/国 98以前 律	フランス法 b / フランス法 b フランス法 / フランス法 フランス法	担当者	小柳 春一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランス法は、ドイツ法と並んで大陸法を代表する外国法であり、日本の近代法の形成にも大きな影響を与えてきた。本講義の目的は、日本法を考える場合にも参考になるような視点に配慮しながらフランス法の特徴を明らかにすることにある。本講義では、フランス法の歴史的・全体的な特徴を明らかにした後に、いくつかの具体的制度を取り上げて、生きたフランス法の姿を明らかにしたい。</p> <p>秋学期では、家族法を取り上げ、日本との比較に注意しながら検討する。例えば、婚姻の成立一つを取り上げても、儀式が法律上は意味を持たない日本民法に比べて、儀式においてフランス民法の条文を朗読することを規定しているフランス民法とでは大きな相違がある。相違の由来する理由についても検討する。</p> <p>TV放送録画・映画などを積極的に利用し、学生諸君がフランス法のイメージを得られるようにする。</p>		<p>1 婚姻の成立 フランス独自の民事婚とはどのようなものか。なぜ市役所に式場があるか。</p> <p>2 婚姻の効果 夫が家族の長であったのは、いつまでか。夫婦の平等はいかに達成されたか。</p> <p>3 夫婦の財産関係 婚姻中に配偶者が取得した財産について他の配偶者はどのような権利を有するか。これと配偶者相続権はいかなる関係になるか。</p> <p>4 離婚手続 協議離婚に相当する離婚制度はフランスに存在するか。有責配偶者は離婚請求できるか。</p> <p>5 離婚の効果 離婚の際の財産分与にはどのようなルールがあるか。</p> <p>6 内縁 同性愛同棲にも一定の法的効果を認めるパックス法はどのようにして成立したか。</p> <p>7 内縁 パックス法は、いかなる内容か。パックスカップルは、夫婦とどう違うか。</p> <p>8 氏・名 フランスにおいて夫婦は同姓か。親の命名権に制限があるか。</p> <p>9 親子 婚姻から生まれた子供にはどのような保護があるか。</p> <p>10 親子 非嫡出子は嫡出子と平等の扱いか。</p> <p>11 親子 フランスの養子制度の特徴は何か。</p> <p>12 親子 親権制度は、いかに発展してきたか。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義ではレジメを配布する。		期末試験を中心にする。 出席について点数化し、評価に加算する。	

03～05 律/国	アジア法 a / アジア法 a	担当者	大村 泰樹
99～02 律/国	***** / アジア法		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>東アジア、東南アジアを中心にアジア諸国の法制度（主として公法制度）を概観し、その特質を検討します。また南アジア諸国の法制度やイスラム法にも可能な限り言及したいと考えています。「アジア法」の理解には、単に法制度にとどまらず、歴史、文化、経済等にも関わる理解も必要になってくるため包括的な講義になると考えています。観念的に議論をするのではなく、行動でアジアに関わっていつてくれるような受講生を生み出すことが目的です。本年度は教員（大村）の都合で授業計画が変則になる可能性があります。</p> <p>成績評価の方法は、春・秋期の最後の授業日に試験に代わる教室レポートを行います。課題の範囲は、通常、試験日の二週間前に告知します。レポートの時間は90分で、自筆ノートの持ち込みも可能です。すでにある資料をまとめるだけでなく、「自分の意見」を組み立てることが求められています。単位取得には最大限の配慮をしますが、出席は重視します。</p>		<p><春期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.総論（欧米近・現代法システムとアジア諸国法） 3. 〃 4. 〃 5.東南アジア（タイ国） 6. 〃（ 〃 ） 7. 〃（ 〃 ） 8. 〃（マレーシア） 9. 〃（ 〃 ） 10. 〃（シンガポール） 11. 〃（ 〃 ） 12.春期教室レポート 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書として作本編『アジア諸国の憲法制度』、大村＝小林編『東アジアの憲法制度』（共にアジア経済研究所）		試験に代わる「教室レポート」を行います。	

03～05 律/国	アジア法 b / アジア法 b	担当者	大村 泰樹
99～02 律/国	***** / アジア法		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		<p><秋期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.東南アジア（インドネシア） 2. 〃（ 〃 ） 3. 〃（フィリピン） 4. 〃（ 〃 ） 5. 〃（インドシナ3国） 6.南アジア（インド） 7. 〃（ 〃 ） 8.東アジア（韓国） 9. 〃（ 〃 ） 10. 〃（中国） 11. 〃（ 〃 ） 12.秋期教室レポート 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書として作本編『アジア諸国の憲法制度』、大村＝小林編『東アジアの憲法制度』（共にアジア経済研究所）		試験に代わる「教室レポート」を行います。	

03～05 律/国	地域共同体法 a / 地域共同体法 a		
99～02 律/国	地域共同体法 / 地域共同体法	担当者	廣部 和也
98 以前 律	地域共同体法		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 現在の国際社会において、地域共同体法と言えるのは EU (European Union/ヨーロッパ連合) 法のみである。本講義は、EU 法の基本制度を学ぶものである。特に、通常の国際関係の法である国際法との対比及び EU 法の憲法化現象を意識したい。</p> <p>講義概要 まず、ヨーロッパ連合成立までの歴史的過程・背景をよく理解することが必要である。その上で、EU の組織と各機関の権限、EU 法の存在形式とその特質、裁判制度、EU 憲法体制の成立などについて概観する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義全般について 2. ヨーロッパ連合の歴史的展開 1 3. ヨーロッパ連合の歴史的展開 2 4. ヨーロッパ連合の歴史的展開 3 5. ヨーロッパ連合の歴史的展開 4 6. ヨーロッパ連合の歴史的展開 5 7. ヨーロッパ連合の組織・権限 1 8. ヨーロッパ連合の組織・権限 2 9. ヨーロッパ連合の組織・権限 3 10. 共同体法の法源 11. 共同体法の法的性格 1 12. 共同体法の法的性格 2 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ヨーロッパの変容—EC 憲法体制の形成—』 ジョゼフ・ワイラー著 南義清・他訳 (北樹出版)		試験による。	

03～05 律/国	地域共同体法 b / 地域共同体法 b		
99～02 律/国	地域共同体法 / 地域共同体法	担当者	廣部 和也
98 以前 律	地域共同体法		
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<ol style="list-style-type: none"> 1. 共同体法の法的性格 3 2. 共同体裁判所の制度・管轄権 1 3. 共同体裁判所の制度・管轄権 2 4. 共同体裁判所の制度・管轄権 3 5. ヨーロッパ憲法体制の成立 1 6. ヨーロッパ憲法体制の成立 2 7. ヨーロッパ憲法体制の成立 3 8. ヨーロッパ憲法体制の成立 4 9. 共同体の対外関係 1 10. 共同体の対外関係 2 11. 共同体の対外関係 3 12. EU の展望 	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	外国法講読Ⅰ / 外国法講読Ⅰ 外国法文献研究 / 外国法文献研究 外国法文献研究	担当者	小川 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランス法は、近代法の先駆けとなったナポレオン法典の制定以来、世界各国の近代および現代の法制に大きな影響を与えてきている。日本法にも、ドイツ法や英米法と並んでこの国の法制は強い影響を与えており、日本法の理解のためにその学習は欠くことができない。</p> <p>また、今後我が国が諸外国と様々な関係を続け、その関係を発展させていくためには外国諸制度に対する対応や調整がどうしても必要となってくるであろう。この点でも、国連および EU の主要な構成国であるとともに国際取引の分野に影響力のあるこの国の法制や法認識の理解は我が国にとって重要なものであり続ける筈である。</p> <p>フランス法学習の導入を担当する科目として、本演習では、フランス語の読みやすい文献を参照しながら、フランス法の基礎的な知識を学ぶとともに、フランス法学の問題の分析の仕方が解るように授業をすすめていければと考えている。</p> <p>受講者に、英米法や他の大陸法の理解、日本法の理解、フランス語の能力、等の不足が認められる場合は、必要に応じこれを補っていくつもりである。</p> <p>(下段に続く)</p>		<p>1回 授業への要望に関するアンケート 簡単なテスト (辞書を必要とする受講者は持参していただきたい)</p> <p>2回以降 テキスト講読 関連文献講読</p> <p>5回前後 受講者の知識、能力、要望、等を考慮の上、テキストや授業の進め方を調整する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
下段 (講義目的、講義概要の欄) 参照。 学生は記載された図書を購入する必要はとりあえない。		演習であるから、受講時の、担当者および他の受講者への質問、担当者および他の受講者からの質問に対する回答、等を通じた、授業に対する貢献の程度により評価したい。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	外国法講読Ⅱ / 外国法講読Ⅱ 外国法文献研究 / 外国法文献研究 外国法文献研究	担当者	小川 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>テキストについては 受講者の興味のある所在、フランス語の能力等を勘案して、話し合って決めるが、 J.-L. Aubert, Introduction au droit, Que sais-je?, PUF, 2002. 「法学入門」; H. Batiffol, La Philosophie du droit, Que sais-je?, PUF, 2000. 「法哲学」. (いずれもわが国で言う新書の様なもの) または、 F. Terré, Introduction générale au droit, 6e éd., précis Dalloz, 2003. 「法学入門」(フランスの大学における法学入門の教科書) あるいは、仏文の新聞や雑誌の記事あたりであろうか。</p> <p>また、初学者にも使いやすい本格的な仏和辞書として、少々かさばり、値も張るが、田村 毅、他編・ロワイヤル仏和中辞典 (1985)、4,725 円、を一応あげておく。むろん他のものでも一向にかまわない。</p> <p>なお、他の受講者に迷惑となるので正当な理由のない欠席は認めない。</p>		<p>春学期の授業計画と同じ。 春学期と受講者が全員同一ならば、アンケートは行わない。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
上段 (講義目的、講義概要の欄) 参照 学生は記載された図書を購入する必要はとりあえない。		演習であるから、受講時の、担当者および他の受講者への質問、担当者および他の受講者からの質問に対する回答、等を通じた、授業に対する貢献の程度により評価したい。	

03～05 律/国	外国法講読 I / 外国法講読 I		
99～02 律/国	***** / *****	担当者	田島 裕
98 以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わが国の法学研究では、外国の影響が多くみられ、外国語（とくに英語）の文献を読む必要がある。この講義では、法律の専門書の読み方を教える。専門用語の解説をし、日本の文献とは違った扱い方の必要性を説く。本年度は春期だけの講義なので、教材は昨年と同じ Sir Paul Vinogradoff, Common Sense in Law (Oxford U. P. [3rd Hanbury ed.] 1959)を使い、昨年読みきれなかった部分を使うこととする。この本は、(1) 社会規範、(2) 法規範、(3) 法的権利と義務、(4) 事実と法律行為、(5) 立法、(6) 慣習法、(7) 司法先例、(8) エクイティ、(9) 自然法からなる。本年度の講義は、第6章の慣習法からはじめる。ちなみに、この本はオックスフォード大学の講義であり、古典的な書籍である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の進め方の説明（報告担当者の割当て） 2 第1章から第5章までの概説 3 慣習法 4 司法先例 5 エクイティ 6 自然法 <p>章によっては2,3週にまたがることもある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Sir Paul Vinogradoff, Common Sense in Law (Oxford U. P. [3rd Hanbury ed.] 1959)[テキスト] 田島裕著『法律情報の検索と論文の書き方』（丸善、1998年）[参考書]</p>		<p>予め承認された研究テーマについてレポートを作成してもらい、このレポートに基づいて評価する。</p>	

03～05 律/国	***** / *****		
99～02 律/国	***** / *****	担当者	*****
98 以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03～05 律/国	外国法講読 I / 外国法講読 I		
99～02 律/国	***** / *****	担当者	市川 須美子
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ法のテキスト購読能力の開発とドイツ法の基礎知識の習得を目指します。</p> <p>教科書購読、判例および判例評釈の購読、論文購読などいろいろな方法がありますが、今回は、国会論議が1月に始まった差別禁止法の政府法案をテキストに、ドイツ法とEU法との関係を意識しながら、ドイツ差別禁止法の現状と論点を一緒に考えて見たいと思います。ドイツ語既習者を対象とします。</p>		<p>毎回報告者を決めて、担当部分の全訳と論点提起を行い、進めてゆきます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはインターネットから検索してもらうか、コピーします。</p>		<p>出席と発表内容を重視します</p>	

03～05 律/国	***** / *****		
99～02 律/国	***** / *****	担当者	*****
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03～05 律/国	***** / *****	担当者	*****
99～02 律/国	***** / *****		
98 以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03～05 律/国	外国法講読 II / 外国法講読 II	担当者	常岡 史子
99～02 律/国	***** / *****		
98 以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、外国（アメリカ）の法律書を講読することにより、英語の読解力を向上させるとともに、英米法の法律用語に親しみ、その法制度の一環に触れることを目的とする。具体的には、離婚に伴う子の監護措置に関するアメリカの制度を取り上げる。</p> <p>授業は、毎回受講者全員が予習してくることを前提として、順次指名による発表の形式で行う。</p>		<p>以下のような順序で、各項目に2回ずつ当てながら授業を進めたいと考えているが、受講者の状況に応じて進度を適宜調整する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Overview 2. Kramer vs. Kramer Revisited: The Sole Custody / Adversary System Paradigm 3. Divorce, Children, and Courts: An Empirical Perspective 4. Parents Are Forever I: Joint Custody and Parenting Plans 5. Parents Are Forever II: Alternative Dispute Resolution and Mediation 6. Parents Are Forever III: Court-Affiliated Educational Programs 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Andrew I. Schepard, <i>Children, Courts, and Custody</i> , Cambridge University Press		毎回の授業における出席・発表と学期中に行う小テストによって評価する。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	憲法Ⅰ / 憲法Ⅰ 憲法Ⅰ / 憲法Ⅰ 憲法Ⅰ	担当者	大藤 紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本国憲法の基礎的な理解を得ることを目標とする。憲法Ⅱ・Ⅲの理解を助けるべく、憲法とは何か、人権や統治の基本的な問題について扱いたい。</p> <p>論点ごとに、講義・教科書・参考文献・判例集を参考に、各自ノート整理をすること。</p> <p>参考文献（テキストの内容を理解し、ノートをまとめる際に参考にすべき文献）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野中俊彦他『憲法Ⅰ』（有斐閣） ・大津浩他『憲法四重奏』（有信堂高文社） ・山内敏弘編『新現代憲法入門』（法律文化社） <p>判例集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芦部信喜・高橋和之編『憲法判例百選Ⅰ』（有斐閣） ・右崎正博・浦田一郎編『基本判例 憲法』（法学書院） <p>六法必携</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 憲法の意味 2. 憲法の特質 3. 日本国憲法の基本原理 4. 国民主権 5. 象徴天皇制 6. 平和主義と第9条 7. 人権の観念 8. 人権の享有主体① 9. 人権の享有主体② 10. 人権と公共の福祉 11. 人権の私人間効力 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』（岩波書店） 		試験期間中の論述試験の結果による評価。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	憲法Ⅱ / 憲法Ⅱ 憲法Ⅰ / 憲法Ⅰ 憲法Ⅰ	担当者	大藤 紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>憲法で保障される基本的人権についての理解を深める。</p> <p>論点ごとに、講義・教科書・参考文献・判例集を参考に、各自ノート整理をすること。</p> <p>参考文献（テキストの内容を理解し、ノートをまとめる際に参考にすべき文献）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野中俊彦他『憲法Ⅰ』（有斐閣） ・辻村みよ子『憲法』（日本評論社） ・大津浩他『憲法四重奏』（有信堂高文社） ・山内敏弘編『新現代憲法入門』（法律文化社） <p>判例集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芦部信喜・高橋和之編『憲法判例百選Ⅰ』（有斐閣） ・右崎正博・浦田一郎編『基本判例 憲法』（法学書院） <p>六法必携</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命・自由・幸福追求権 2. 法の下での平等 3. 思想・良心の自由 4. 学問の自由 5. 信教の自由 6. 政教分離原則 7. 表現の自由① 8. 表現の自由② 9. 人身の自由と刑事手続上の人権 10. 生存権 11. 教育を受ける権利 12. 労働基本権 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』（岩波書店） 		試験期間中の論述試験の結果による評価。	

03～05 律/国	憲法Ⅰ / 憲法Ⅰ	担当者	古関 彰一
99～02 律/国	憲法Ⅰ / 憲法Ⅰ		
98以前 律	憲法Ⅰ		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>憲法講義の入門編です。日本国憲法を理解する上で、基礎的と考えられる諸問題について講義します。憲法Ⅱ（人権）憲法Ⅲ（統治機構）を理解しやすくすることを目的としています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 開講にあたって（近代憲法とは何か） 2 基本的人権の歴史 3 基本的人権適用の限界 4 外国人の人権 5 基本的人権の私法関係への適用 6 明治憲法の構造 7 平和主義と憲法9条 8 日米安保条約の構造 9 国民主権と人民主権 10 代表民主制と直接民主制 11 選挙権の法的性格と選挙定数 12 春学期のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法・第三版』（岩波書店、2002年）、芦部・高橋編『憲法判例百選・第4版Ⅰ』（有斐閣、2000年）</p>		<p>春学期の最後の試験期間中に1回論述式の試験を行い、その結果に基づいて評価をします。</p>	

03～05 律/国	憲法Ⅱ / 憲法Ⅱ	担当者	古関 彰一
99～02 律/国	憲法Ⅰ / 憲法Ⅰ		
98以前 律	憲法Ⅰ		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本国憲法の人権諸条項について基本的な考え方を講義することを目的として、日本国憲法第3章に定める人権諸条項を講義します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 平等権の概念 2 平等権をめぐる学説・判例 3 信教の自由と政教分離 4 表現の自由の意義 5 表現の自由と名誉・プライバシー 6 表現の自由と知る権利 7 表現の自由と検閲 8 学問の自由/教育権 9 生存権の意義と学説・判例 10 環境権の法的性格と判例 11 営業の自由とその制約 12 秋学期のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法・第三版』（岩波書店、2002年）、芦部・高橋編『憲法判例百選・第三版Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣、2000年）</p>		<p>秋学期の最後の試験期間中に1回論述式の試験を行い、その結果に基づいて評価をします。</p>	

03~05 律/国	憲法Ⅲ / 憲法Ⅲ	担当者	古関 彰一
99~02 律/国	*** / ***		
98以前 律	***		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本国憲法の統治機構について、基本的な考え方を講義することを目的とし、日本国憲法の第4章、5章、6章、8章、9章を講義します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 開講の辞（現代国家と主権者） 2 権力分立制 3 立法機関の法的性格と二院制 4 国政調査権 5 議院内閣制 6 司法権の意義と範囲 7 司法権の独立/裁判所の構成 8 裁判への国民参加（陪審・参審・裁判員制度） 9 違憲法令審査権 10 地方自治の本旨/住民自治 11 団体自治と条例制定権 12 憲法改正手続 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法・第三版』（岩波書店、2002年）、芦部・高橋編『憲法判例百選・第4版 II』（有斐閣、2000年）</p>		<p>春学期の最後の試験期間中に1回論述式の試験を行い、その結果に基づいて評価をします。</p>	

03~05 律/国	*** / ***	担当者	*****
99~02 律/国	*** / ***		
98以前 律	***		
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	行政法Ⅰ / 行政法Ⅰ 行政法Ⅰ / 行政法Ⅰ-1 行政法Ⅰ	担当者	磯部 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義で扱うのは、「行政法総論」の前半部分である。したがって、行政法総論を一通り勉強したというためには、秋学期の行政法Ⅱも続けて履修することが望まれる。</p> <p>基本方針としては、実益の乏しい問題の説明はできるだけ控え、重要と思われる論点について突っ込んだ説明を行っていきたいと考えている。</p> <p>行政法Ⅰでは、行政組織論の概説、行政作用と法の関係（法治行政の原理、裁量論など）のほか、行政手続・情報公開など近時の重要テーマを中心に講義する予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 行政・行政法とは何か？—現代行政(法)の特徴 2 行政のしくみ(1)—行政主体と行政庁 3 行政のしくみ(2)—行政組織内部の法 4 行政のしくみ(3)—行政と説明責任、情報公開 5 行政の作用と法(1)—法治行政 6 行政の作用と法(2)—行政裁量 7 行政の作用と法(3)—法の存在形式、行政立法 8 行政処分と行政手続法(1)—「行政行為」の類型的整理と行政手続 9 行政処分と行政手続法(2)—申請に対する処分 10 行政処分と行政手続法(3)—不利益処分 11 行政処分と行政手続法(4)—取消訴訟との関連(手続の瑕疵) 12 予備 	
テキスト、参考文献		評価方法	
原田尚彦『行政法要論〔全訂第五版〕』(学陽書房)。大きめの六法、『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ〔第四版〕』(有斐閣)		学期末の試験による。なお、旧カリ「行政法Ⅰ」(4単位)の履修者は、春と秋二回とも試験を受けること。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	行政法Ⅱ / 行政法Ⅱ 行政法Ⅰ / 行政法Ⅰ-1 行政法Ⅰ	担当者	磯部 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義で扱うのは、「行政法総論」の後半部分である。したがって、行政法総論を一通り勉強したというためには、春学期の行政法Ⅰから引き続いて履修することが望まれる。</p> <p>基本方針としては、実益の乏しい問題の説明はできるだけ控え、重要と思われる論点について突っ込んだ説明を行っていきたいと考えている。</p> <p>行政法Ⅱでは、行政活動の行為形式ごとの概念整理と法的統制のあり方、さらに行政の実効性確保に関する法制度を中心に講義する予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 春学期分のおさらい 2 行政処分(1)—行政処分の特質と効力 3 行政処分(2)—行政処分の瑕疵 4 行政処分(3)—取消しと撤回 5 行政上の強制措置(1)—概説、即時強制 6 行政上の強制措置(2)—代執行ほか 7 行政上の強制措置(3)—行政罰 8 行政処分以外の行為形式(1)—行政計画 9 行政処分以外の行為形式(2)—行政指導 10 行政処分以外の行為形式(3)—行政契約 11 行政調査 12 行政上の利害の調整 	
テキスト、参考文献		評価方法	
原田尚彦『行政法要論〔全訂第五版〕』(学陽書房)。大きめの六法、『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ〔第四版〕』(有斐閣)		学期末の試験による。なお、旧カリ「行政法Ⅰ」(4単位)の履修者は、春と秋二回とも試験を受けること。	

03～05 律/国	行政法Ⅲ	****	****	担当者	野村 武司
99～02 律/国	****	****	****		
98以前 律	****	****	****		
講義目的、講義概要			授業計画		
<p>行政法Ⅲでは、違法もしくは不当な行政処分その他行政活動から、市民がどのように救済されるか、逆に言えば、市民は行政をどのようなやり方で訴えることができるのかをみていく。現代社会において、市民が許認可や給付等の行政手続に関与する機会が増え、その権利保障のあり方が問われていることをふまえ、行政に対する市民の権利保障を救済の側面から考察するのが本講義の目的である。</p> <p>行政救済法分野は、大きく分けて2つから成り立っている。その第一は、「行政争訟手続」である。行政処分後の事後手続法制として位置づけることができるが、これは、さらに行政上の手続に当たる「行政不服申立て手続」と、裁判上の救済手続に当たる「行政訴訟手続」に区分することができる。第二は、行政活動に伴う財産的被害、損失からの救済を問題にする「国家補償手続」である。国家補償には、損失補償と国家賠償が含まれるが、損失補償については、行政法Ⅱで利害調整の仕組みとして扱われているので、国家賠償のみを取り上げて論ずることとする。</p>			<ol style="list-style-type: none"> 1. 手続法的な観点からの行政法の把握と行政救済法の位置づけ。行政救済法の体系 2. 行政不服申立て手続(1) 概要 3. 行政不服申立て手続(2) 審査請求手続 4. 行政不服申立て手続(3) 手続の終了と裁決・定決 5. 行政事件訴訟法(1) 沿革と概要 6. 行政事件訴訟法(2) 取消訴訟とその基本構造 7. 行政事件訴訟法(3) 取消訴訟の訴訟要件① 8. 行政事件訴訟法(4) 取消訴訟の訴訟要件② 9. 行政事件訴訟法(5) 審理手続・仮の救済・判決 10. 国家賠償法(1) 意義と概要 11. 国家賠償法(2) 公権力責任 12. 国家賠償法(3) 営造物責任 		
テキスト、参考文献			評価方法		
原田尚彦「行政法要論」最新版、学陽書房 「行政判例百選（第4版）」ⅠⅡ、有斐閣			原則として定期試験による。		

03～05 律/国	****	****	****	担当者	*****
99～02 律/国	****	****	****		
98以前 律	****	****	****		
講義目的、講義概要			授業計画		
テキスト、参考文献			評価方法		

03～05 律/国 99～02 律/国 98 以前 律	比較公法 / 比較公法 比較憲法 / 比較憲法 比較憲法	担当者	高佐 智美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(1) 講義目的</p> <p>① アメリカ憲法の特徴を理解する</p> <p>② 日本との相違 or 類似点を比較検討する</p> <p>(2) 講義概要</p> <p>① アメリカ憲法史</p> <p>② アメリカ憲法の理念、内容、特色、統治制度</p> <p>詳しくは、 http://www2.dokkyo.ac.jp/~less0061/ の introduction 参照。</p>		<p>1 ガイダンス</p> <p>2 アメリカ憲法史-1</p> <p>3 アメリカ憲法史-2</p> <p>4 アメリカ憲法史-3</p> <p>5 アメリカ憲法史-4</p> <p>6 アメリカ憲法の理念-1</p> <p>7 アメリカ憲法の理念-2</p> <p>8 アメリカ憲法の特徴-1</p> <p>9 アメリカ憲法の特徴-2</p> <p>10 主要判例評釈-1</p> <p>11 主要判例評釈-2</p> <p>12 主要判例評釈-3</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし 講義中別途指示		人数が少ない場合はゼミ形式（学生が報告）でやりますので、報告内容と受講態度を総合的に評価します。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98 以前 律	*** / 国際関係法特講（国際人権関連文書研究） 比較憲法 / 比較憲法 比較憲法	担当者	高佐 智美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(1) 講義目的</p> <p>アメリカ憲法の特徴の理解を前提とした上で、日本における憲法の考え方との相違 or 類似点を比較検討する。</p> <p>(2) 講義概要</p> <p>アメリカにおける最新の判例評釈を行い、日本における類似の事例との比較考察を行う。</p> <p>詳しくは、 http://www2.dokkyo.ac.jp/~less0061/ の introduction 参照。</p>		<p>1 ガイダンス～アメリカにおける人権の考え方</p> <p>2 アメリカにおける最新判例について評釈</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>10</p> <p>11</p> <p>12</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし 講義中別途指示		比較憲法/比較公法（春期）を受講していることが前提。ゼミ形式（学生が報告）でやりますので、報告内容と受講態度を総合的に評価します。	

03～05 律/国	租税法 a / ***	担当者	阿部 徳幸
99～02 律/国	税法 / ***		
98以前 律	税法		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学生諸君にとって「税」は、日常生活において身近な存在である反面、「税法」は、法律の中でも遠いところに位置する存在ではないだろうか。したがって、税法は、マイナーなイメージがあるかもしれない。</p> <p>本講座においては、このような立場の税法の基礎理論を中心に、法律学としての租税法の視点から講義を行う。講義の方法については、なるべく税務の現場での実態（税理士実務を中心に）を、つまり実際の事例を紹介しながら行う。講義の目的としては「理解する」というところに重点を置き、わかりやすい講義を心かけたい。さあ、みんなで「明るく」「楽しく」「元気よく」、租税法を勉強しましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、税法学の特質 2、租税法律主義 3、租税回避 4、応能負担原則 5、課税最低限 6、課税の限界 7、税法の体系 8、租税手続法—確定手続 9、租税手続法—税務調査 10、租税救済法—不服申立 12、租税救済法—税務訴訟 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>北野弘久編『現在税法講義 4 訂版』法律文化社 北野弘久著『税法学原論第五版』青林書院 北野弘久著『納税者の権利』岩波新書</p>		<p>毎回の講義への出席を重視する（50%）。学期末に基本的重点につき論文式の筆記試験を行う（50%）。</p>	

03～05 律/国	租税法 b / ***	担当者	阿部 徳幸
99～02 律/国	税法 / ***		
98以前 律	税法		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学生諸君にとって「税」は、日常生活において身近な存在である反面、「税法」は、法律の中でも遠いところに位置する存在ではないだろうか。したがって、税法は、マイナーなイメージがあるかもしれない。</p> <p>本講座においては、このような立場の税法の基礎理論を中心に、法律学としての租税法の視点から講義を行う。講義の方法については、なるべく税務の現場での実態（税理士実務を中心に）を、つまり実際の事例を紹介しながら行う。講義の目的としては「理解する」というところに重点を置き、わかりやすい講義を心かけたい。さあ、みんなで「明るく」「楽しく」「元気よく」、租税法を勉強しましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、税務処罰法 2、所得税法—所得概念 3、所得税法—納税義務の範囲 4、所得税法—課税単位 5、所得税法—所得分類 6、所得税法—給与所得課税 7、消費税法—消費税の基礎 8、消費税法—多段階付加価値税 9、消費税法—非課税・ゼロ税率 10、法人税法の基礎 11、相続税法の基礎 12、税の使途 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>北野弘久編『現在税法講義 4 訂版』法律文化社 北野弘久著『税法学原論第五版』青林書院 北野弘久著『納税者の権利』岩波新書</p>		<p>毎回の講義への出席を重視する（50%）。学期末に基本的重点につき論文式の筆記試験を行う（50%）</p>	

03～05 律/国	地方自治法 a / *****	担当者	磯部 哲
99～02 律/国	地方自治法 / *****		
98以前 律	地方自治法		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、地方公共団体の行政活動を規律する法律＝「地方自治法」にまつわる話しが中心ですが、けっしてそういう名前の法律を第1条から読んでいくという類のものではありません。「地方行政」という、私たちの日常生活と密接に関係する魅力的な素材を対象に、その組織や運営がどのように定められているかを知り、地方行政と市民生活との法的かかわりについて勉強し、地方自治の今後の課題などにも思いをめぐらしてみたい、ということになります。</p> <p>地方「行政」を「法」的に検討するわけですから、地方自治法の講義とあわせ、「行政法（Ⅰ・Ⅱ）」も並行して履修するか、あるいは履修済みであることが望ましいです。また、できるだけ秋学期の「地方自治法 b」も続けて履修するようにしてください。</p> <p>その他、講義の概要等については、授業計画（予定）を参照してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、わが国法体系における地方自治法、地方行政と住民の生活 2. 地方自治の意義・2つの要素、「地方自治の本旨」 3. わが国地方自治制度の沿革（1）一戦前～日本国憲法下の制度 4. わが国地方自治制度の沿革（2）一地方分権改革のあらまし 5. 普通地方公共団体—地方公共団体の意義・種類・区域（市町村合併、大都市制度）、都道府県と市町村の関係 6. 特別地方公共団体 7. 地方公共団体の事務、その分類等 8. 地方公共団体の機関（議会と長） 9. 地方公務員（補助職員）の地位 10. 国と地方公共団体の関係（1）一国の関与の種類と手続、国と地方の係争処理の仕組み 11. 国と地方公共団体の関係（2）一国の役割、中央省庁のスリム化等 12. 予備 	
テキスト、参考文献		評価方法	
原田尚彦『地方自治の法としくみ〔新版〕』（学陽書房）、大きめの六法、『地方自治判例百選〔第三版〕』（有斐閣）		学期末の試験による。なお、旧カリ「地方自治法」（4単位）の履修者は、春と秋二回とも試験を受けること。	

03～05 律/国	地方自治法 b / *****	担当者	磯部 哲
99～02 律/国	地方自治法 / *****		
98以前 律	地方自治法		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、地方公共団体の行政活動を規律する法律＝「地方自治法」にまつわる話しが中心ですが、けっしてそういう名前の法律を第1条から読んでいくという類のものではありません。「地方行政」という、私たちの日常生活と密接に関係する魅力的な素材を対象に、その組織や運営がどのように定められているかを知り、地方行政と市民生活との法的かかわりについて勉強し、地方自治の今後の課題などにも思いをめぐらしてみたい、ということになります。</p> <p>地方「行政」を「法」的に検討するわけですから、地方自治法の講義とあわせ、「行政法（Ⅰ・Ⅱ）」も並行して履修するか、あるいは履修済みであることが望ましいです。また、できるだけ春学期の「地方自治法 a」から続けて履修するようにしてください。</p> <p>その他、講義の概要等については、授業計画（予定）を参照してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 春学期のおさらい 2. 地方公共団体の活動とその法形式（1）—自主立法権（条例、規則等） 3. 条例制定権の範囲と限界 4. 地方公共団体の活動とその法形式（2）—要綱行政 5. 自主財政権—課税権、地方交付税、補助金等 6. 住民の権利義務（1）—選挙権、直接請求 7. 住民の権利義務（2）—住民監査請求・住民訴訟（意義、性質、訴訟要件等） 8. 住民訴訟をめぐる近年のうごき 9. 住民の権利義務（3）—公の施設の利用権 10. 地方自治をめぐる最近の動向と課題（1）（参加、協働、まちづくり） 11. 地方自治をめぐる最近の動向と課題（2）（情報公開、環境など） 12. 予備 	
テキスト、参考文献		評価方法	
原田尚彦『地方自治の法としくみ〔新版〕』（学陽書房）、大きめの六法、『地方自治判例百選〔第三版〕』（有斐閣）		学期末の試験による。なお、旧カリ「地方自治法」（4単位）の履修者は、春と秋二回とも試験を受けること。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	教育法 a / ***** 教育法 / ***** 教育法	担当者	市川 須美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教育法は、教育の場で生じる様々な問題を法的視点から整理して、教育問題の解決を提起してゆく法分野です。現在学校でも家庭でも様々な子どもの人権侵害が生じています。体罰で子どもが心身に重大な被害を受ける事例もあとを絶たないし、いじめも文部省調査などでは数的に減少しているとされていますが、いじめ被害による裁判はむしろ増加しています。この講義では、学校での子どもの人権侵害を具体的な裁判事例を通して法的に分析し、教育法の考え方と現時点での到達点を入門的に解説してゆきたいと思っています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 学校における子どもの人権侵害——学校における人権侵害の問題化の経緯と分類 2 体罰裁判とその特徴——水戸五中事件とその後の展開 3 障害児体罰とその問題性 4 体罰自殺裁判——龍野市小学生体罰自殺事件 5 いじめと裁判——中野富士見中事件といわき小川中事件 6 いじめ自殺と予見可能性——津久井町立中野中事件 7 学校のいじめ調査・報告義務——町田いじめ調査報告義務訴訟 8 校則裁判——丸刈り校則と裁判 9 私立学校校則と裁判——修徳高校パーマ校則裁判 10 学校教育措置訴訟——都立高校原級留置き訴訟 11 信教の自由と学校教育措置——エホバの証人退学事件 12 教育情報訴訟——内申書・指導要録開示訴訟 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは指定しませんが、教育法の小六法が講義時に必要です。学陽書房・教育小六法を推薦します。参考文献は講義時に適宜紹介します。</p>		<p>事前に問題を開示して試験を行います</p>	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	教育法 b / ***** 教育法 / ***** 教育法	担当者	市川 須美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教育法の問題状況の把握（教育法 a）を前提に、教育法のみより理論的な理解のために、教育法の基礎概念である教育人権と国家との関係を、歴史的な経緯を含めて教育裁判を素材に法的に分析します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 教育と国家（1）——教科書裁判 2 教育と国家（2）——学テ裁判 3 教育基本法改正問題——国家は子どもの心を支配できるのか 4 子どもの学習権と政治活動の自由——内申書裁判 5 障害児の学習権——特殊学級入級処分取消訴訟 6 親の教育権——日曜日訴訟 7 親の教育情報請求権——町田いじめ作文開示訴訟 8 教師の教育の自由——伝習館高校事件 9 教師の教育の自由と日の丸・君が代——福岡高校事件 10 教師の良心の自由——都立高校教師日の丸・君が代訴訟 11 子どもの権利条約と報告審査システム 12 教育基本法と子どもの人権 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは指定しませんが、教育法の小六法が講義時に必要です。学陽書房・教育小六法を推薦します。参考文献は講義時に適宜紹介します。</p>		<p>事前に問題を開示して試験を行います</p>	

03～05 律/国	民法 I / 民法 I	担当者	遠藤 研一郎
99～02 律/国	民法 I / 民法 I		
98 以前 律	民法 I		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【春学期週 2 回開講】</p> <p>本講義は、(1)「民法総則」および「物権(担保物権を除く)」に関する諸制度、各条文の理解を深めるとともに、(2)民法の導入科目として、民法の全体像をも理解させることを目的とする。</p> <p>授業は、以下のとおり、およそ 3 段階に分けて段階的に進める予定である(ただし、②および③は、組み合わせて実施する)。</p> <p>①第 1 段階(導入)・・・民法の全体構造・基本原理の理解</p> <p>②第 2 段階(基礎)・・・民法「総則」・「物権(担保物権を除く)」の諸制度・各条文の趣旨・要件・効果の基礎的理解</p> <p>③第 3 段階(展開)・・・「民法総則」「物権(担保物権を除く)」に関する基本的論点の検討</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス, 民法導入(1) 契約 2. 民法導入(2) 所有権, 人 3. 民法導入(3) 債務不履行, 強制執行, 担保 4. 民法導入(4) 相続 5. 総則基礎(1) 自然人① 6. 総則基礎(2) 自然人②, 物 7. 総則基礎(3) 法律行為総説, 無効・取消 8. 総則基礎(4) 意思表示① 9. 総則基礎(5) 意思表示② 10. 総則展開(1) 総則における諸問題 11. 総則基礎(6) 代理① 12. 総則基礎(7) 代理② 13. 総則展開(2) 総則における諸問題 14. 総則基礎(8) 法人 15. 総則基礎(9) 時効① 16. 総則基礎(10) 時効② 17. 物権基礎(1) 物権の基礎概念 18. 物権基礎(2) 物権変動① 19. 物権基礎(3) 物権変動② 20. 物権展開(1) 物権法上の諸問題 21. 物権基礎(4) 占有権 22. 物権展開(2) 物権法上の諸問題 23. 物権基礎(5) 所有権 24. 物権基礎(6) 用益物権 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは、大村敦『基本民法 I 総則・物権総論』(有斐閣)とする。その他、毎回、レジュメを配布する。</p>		<p>期末試験を原則とするが、加点対象・任意提出のレポートを受付ける(詳細は、講義の際に説明)。</p>	

03～05 律/国	*** / ***	担当者	*****
99～02 律/国	*** / ***		
98 以前 律	***		
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03~05 律/国	民法 I / 民法 I	担当者	藤田 貴宏
99~02 律/国	民法 I / 民法 I		
98 以前 律	民法 I		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>法律行為論及び物権変動論を中心に、民法（財産法）の基本的論点について講義します。</p>		<p>【春学期週 2 回開講】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 民法の全体像と基本概念（1） 2. 民法の全体像と基本概念（2） 3. 意思表示の瑕疵と法律行為の有効性（1） 4. 意思表示の瑕疵と法律行為の有効性（2） 5. 法律行為の無効・取消と第三者保護（1） 6. 法律行為の無効・取消と第三者保護（2） 7. 代理（1） 8. 代理（2） 9. 行為能力と法定代理（1） 10. 行為能力と法定代理（2） 11. 時効（1） 12. 時効（2） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
大村敦志『基本民法 I』（有斐閣）		学期末試験	

03~05 律/国	*** / ***	担当者	藤田 貴宏
99~02 律/国	*** / ***		
98 以前 律	***		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>法律行為論及び物権変動論を中心に、民法（財産法）の基本的論点について講義します。</p>		<p>【春学期週 2 回開講】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 民法における人と物 2. 物権と債権 3. 物権変動（1） 4. 物権変動（2） 5. 物権変動（3） 6. 物権変動（4） 7. 所有権の効力（1） 8. 所有権の効力（2） 9. 共同所有 10. 法人 11. 法律行為論のまとめと補充 12. 物権変動論のまとめと補充 	
テキスト、参考文献		評価方法	
大村敦志『基本民法 I』（有斐閣）		学期末試験	

03～05 律/国	*** / ***	担当者	遠藤 研一郎
99～02 律/国	民法Ⅱ / ***		
98 以前 律	民法Ⅱ		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、物権総論・占有権，所有権，用益物権に関する諸制度，各条文の理解を深めることを目的とする。授業は，以下のとおり，およそ2段階に分けて実施する予定である（ただし，基礎→応用と進むのではなく，適宜，組み合わせて実施する）。</p> <p>①第1段階(基礎)・・・物権法の諸制度・各条文の趣旨・要件・効果の基礎的理解 ②第2段階(展開)・・・基礎的知識を前提とした，物権法上の諸問題に関する検討</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス，基礎(1) 物権法概観 2. 基礎(2) 物権とは 3. 基礎(3) 物権変動① 不動産物権変動 4. 基礎(4) 物権変動② 動産物権変動 5. 展開(1) 取消・解除・無効・相続と登記 6. 基礎(5) 占有権① 7. 基礎(6) 占有権② 8. 展開(2) 占有権の存在意義 9. 基礎(7) 所有権① 10. 展開(3) 所有権② 11. 基礎(8) 用益物権 12. 展開(3) 物権法上の諸問題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは，大村敦『基本民法Ⅰ総則・物権総論』（有斐閣）とする。その他，毎回，レジュメを配布する。		期末試験を原則とするが，加点対象・任意提出のレポートを受け付ける（詳細は，講義の際に説明）。	

03～05 律/国	民法Ⅱ / 民法Ⅱ	担当者	遠藤 研一郎
99～02 律/国	民法Ⅱ / ***		
98 以前 律	民法Ⅱ		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は，担保物権法に関する諸制度，各条文の理解を深めることを目的とする。授業は，以下のとおり，およそ2段階に分けて実施する予定である（ただし，基礎→応用と進むのではなく，適宜，組み合わせて実施する）。</p> <p>①第1段階(基礎)・・・担保法の諸制度・各条文の趣旨・要件・効果の基礎的理解 ②第2段階(展開)・・・基礎的知識を前提とした，担保法上の諸問題に関する検討</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス，基礎(1) 担保法とは 2. 基礎(2) 留置権 3. 展開(1) 留置権の牽連性 4. 基礎(3) 先取特権 5. 基礎(4) 質権 6. 基礎(5) 抵当権① 7. 基礎(6) 抵当権② 8. 展開(2) 抵当権の目的物の範囲，抵当権侵害 9. 基礎(7) 抵当権③ 10. 展開(3) 物上代位，法定地上権 11. 基礎(8) 譲渡担保，所有権留保 12. 展開(3) 物的担保権者間の競合問題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは，大村敦『基本民法Ⅱ債権総論・担保物権』（有斐閣）とする。その他，毎回，レジュメを配布する。		期末試験を原則とするが，加点対象・任意提出のレポートを受け付ける（詳細は，講義の際に説明）。	

03～05 律/国	民法Ⅲ / 民法Ⅲ	担当者	亀岡 倫史
99～02 律/国	*** / ***		
98以前 律	***		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的・講義概要></p> <p>本講義では、契約法に関する諸問題について、『授業計画』に掲げたような順序で学んでいきます。</p> <p>講義に際しては、具体的な説例や重要な裁判例を素材にしながら具体的に話をすすめていきたいと考えています。</p> <p><履修者への要望></p> <p>法学の出発点は、法律の条文です。ですから、毎回必ず六法を持参し、条文を参照しながら講義を聴いてください。また、法律の学習には積み重ねが必要です。授業には毎回出席するようにしてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 契約法序説 ーその全体像・基本思想など 2. 売買（1）契約の成立 3. 売買（2）契約の効力一般 4. 売買（3）担保責任 5. 売買（4）契約の解除 6. 特殊な売買・贈与・交換 7. 消費貸借・使用貸借 8. 賃貸借（1） 9. 賃貸借（2） 10. 雇用・請負・委任 11. その他の諸契約 12. まとめー契約法の基本原理と今後の課題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定。第一回目の講義の際にテキストを指定し、参考文献の紹介をします。		試験により評価します。試験の実施方法・評価基準などについては、第一回目の講義の際に説明します。	

03～05 律/国	*** / ***	担当者	*****
99～02 律/国	*** / ***		
98以前 律	***		
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03～05 律/国	*** / ***	担当者	*****
99～02 律/国	*** / ***		
98以前 律	***		
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03～05 律/国	民法Ⅳ / ***	担当者	亀岡 倫史
99～02 律/国	*** / ***		
98以前 律	***		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的・講義内容> 本講義では、民法典第三編債権第三章以下で定められている法定債権関係たる事務管理（697条以下）、不当利得（703条以下）、不法行為（709条以下）を取り扱います。このうち、事務管理、不当利得については、簡単に扱うにとどめ、不法行為を中心に学んでいくことにします。すなわち、不法行為法についての基本知識（各条文は何を定めているか、不法行為の基本概念、損害賠償制度の基本的な仕組みなど）を習得し、そのうえで判例、学説でこれまでに蓄積されてきた法的ルール、法理論を学んでいくことが中心的課題となります。</p> <p><講義の進め方> 現代の不法行為法の法的ルール、損害賠償制度の構造と機能を理解するためには、条文だけでなく、判例・学説により蓄積されてきた法的ルール、法理論を交通事故、医療過誤、公害・薬害事件その他の具体的な諸事例に即して検討する必要があります。そこで講義では、できるだけそのような具体例を豊富に提示しながら講義を進めたいと考えています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 不法行為法の意義・目的・社会的機能 2. 不法行為法の基本構造 3. 一般の不法行為の成立要件（1） 4. 一般の不法行為の成立要件（2） 5. 特殊の不法行為（1） —他人の行為についての責任 6. 特殊の不法行為（2） —物についての責任 7. 特殊の不法行為（3） —共同不法行為 8. 不法行為の効果（1） —損害賠償論 9. 不法行為の効果（2） —損害賠償請求権の諸問題 10. 事務管理 —意義、基本思想、要件・効果 11. 不当利得法の基礎 —意義、給付利得と侵害利得、不法原因給付 12. 不当利得法の特殊問題 —騙取金の不当利得、転用物訴権 	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定。第一回目の講義の際にテキストを指定し、参考文献の紹介をします。		試験により評価します。試験の実施方法・評価基準などについては、第一回目の講義の際に説明します。	

03～05 律/国	民法V / *****	担当者	常岡 史子
99～02 律/国	民法V / *****		
98以前 律	民法V		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>婚姻、離婚、親子に関する法を中心に扱う。民法第四編「親族」の箇所が対象となる。具体的には、法律上の夫婦を形成するための制度である婚姻、その解消としての離婚、家族の拡大のなかでの親子に関する問題等を取り上げ、民法の条文の背景にある法原理と判例に現れたその解釈を交差させながら、家族法の基本的論点について講義する。また、家族のなかの高齢者にかかわる問題としての成年後見制度や、家事事件処理に重要な役割を果たす家庭裁判所の実務等についても必要に応じて言及する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 家族法とは何か 2 民法の基本原則と家族法 3 婚姻の成立と婚約 4 婚姻の要件(1) 5 婚姻の要件(2) 6 婚姻の効果 7 離婚原因と離婚の方式 8 離婚の効果 9 親子：実子 10 親子：養子 11 親権と子の監護 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
高橋朋子・床谷文雄・棚村政行『民法7 親族・相続』有斐閣アルマ		学期末に行う定期試験の成績によって評価する。	

03～05 律/国	法律学特講（相続法） / *****	担当者	常岡 史子
99～02 律/国	民法V / *****		
98以前 律	民法V		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>相続に関する諸問題を扱う。民法第五編「相続」の箇所が対象となる。わが国の民法は、法定相続と遺言相続の2つを柱として構成されており、講義では、まず法定相続制度について説明する。その後、被相続人の私的自治の実現方法としての遺言制度、さらに、両者のはざまにあって私的生活保障と意思の尊重という一見相容れがたい要請に対応する遺留分制度について学習する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 相続とは何か 2 相続人と相続分 3 相続欠格と廃除 4 相続財産 5 遺産分割 6 特別受益と寄与分 7 相続の承認と放棄 8 相続人の不存在 9 遺言の方式 10 遺言の執行 11 遺留分 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
高橋朋子・床谷文雄・棚村政行『民法7 親族・相続』有斐閣アルマ		学期末に行う定期試験の成績によって評価する	

03~05 律/国	***** / *****	担当者	*****
99~02 律/国	***** / *****		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03~05 律/国	会社法 / 会社法	担当者	明田川 昌幸
99~02 律/国	商法Ⅱ / 商法Ⅱ		
98以前 律	商法Ⅱ		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【秋学期週2回開講】</p> <p>講義目的 会社、特に株式会社に対する法規制および裁判例の理解。</p> <p>講義概要 株式会社の設立、株式、株主総会、取締役会、代表取締役、監査役等、株式会社を中心に、会社に対する商法の法規制と裁判例の説明を行う。</p>		<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 会社法総論 2 株式会社総説 3 株式会社の設立1 発起人、定款 4 株式会社の設立2 出資、機関 5 株式会社の設立3 調査、設立無効 6 株式1 意義、株主の権利・義務 7 株式2 株式の種類、株式の分割・併合・消却 8 株式3 株券、株式の譲渡、株主名簿 9 株式4 自己株式と株式の相互保有 10 株主総会1 意義・権限 11 株主総会2 決議の瑕疵 12 取締役会と代表取締役1 取締役・取締役会 13 取締役会と代表取締役2 代表取締役、 14 取締役会と代表取締役3 取締役の責任 15 監査役 16 委員会等設置会社 17 会社の計算1 貸借対照表と損益計算書 18 会社の計算2 資本、準備金、利益の分配 19 会社の計算3 決算手続 20 新株の発行1 21 新株の発行2 22 社債 23 企業再編・企業結合1 24 企業再編・企業結合2 <p>(概ね上記の順番に従って講義を進めていく予定であるが、採用するテキストや講義の進行状況等により、各項目の内容や順番に若干のずれが生じることがある)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
追って指示する。		期末試験の成績、小テスト、出席などから評価を行う。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98 以前 律	*** / *** *** / *** ***	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03～05 律/国 99～02 律/国 98 以前 律	会社法 / 会社法 商法Ⅱ / 商法Ⅱ 商法Ⅱ	担当者	潘 阿憲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【秋学期週 2 回開講】</p> <p>本講義は、会社法のうち、主として株式会社に関する法的規制を取りあげる。本講義の目標としては、初学者が会社法について基本的、体系的な理解を得られることを主眼とする。したがって、まずは会社法上の諸制度について、その基本的な内容と果たすべき機能を理解し、個々の制度をめぐるこれまでの解釈論を把握しておくことが必要となる。それと同時に、会社法上の諸制度は、実際にどのように運用されているのか、当該法制度は果たして企業社会の実態に合致しているのか、問題点があるとすれば、これを如何に克服すべきであるのかといった視点から、会社法上の諸制度を動的にとらえることも必要だと考えられる。そこで、講義時には、関連する資料や重要な裁判例を適宜に取りあげ、会社上の諸制度をめぐる具体的な議論や紛争の事例を検討し、「生きた会社法」の修得を目指したいと考えている。</p>		第 1 回 企業形態と会社 第 2 回 会社の設立(1) 第 3 回 会社の設立(2) 第 4 回 株式(1) 第 5 回 株式(2) 第 6 回 株式(3) 第 7 回 株主総会(1) 第 8 回 株主総会(2) 第 9 回 株主総会(3) 第 10 回 取締役と取締役会(1) 第 11 回 取締役と取締役会(2) 第 12 回 取締役と取締役会(3) 第 13 回 監査役と監査役会(1) 第 14 回 監査役と監査役会(2) 第 15 回 大会社に関する特例 第 16 回 株式会社の計算(1) 第 17 回 株式会社の計算(2) 第 18 回 株式会社の計算(3) 第 19 回 新株発行(1) 第 20 回 新株発行(2) 第 21 回 定款の変更 第 22 回 資本の減少 第 23 回 社債 第 24 回 営業譲渡・営業全部の譲受け 第 25 回 会社の合併 第 26 回 会社の分割 第 27 回 株式交換・株式移転 第 28 回 会社の解散 第 29 回 会社の清算 第 30 回 合名会社・合資会社・有限会社	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：青竹正一 『会社法』 信山社 参考書：鴻常夫ほか 『会社判例百選第 6 版』 有斐閣		筆記試験の成績による	

03～05 律/国	手形・小切手法 / *****	担当者	明田川 昌幸
99～02 律/国	***** / *****		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 手形法・小切手法を中心とする法規制と裁判例の理解。</p> <p>講義概要 支払、信用の授受、送金や取立など、さまざまな目的で利用されている手形や小切手について、約束手形を中心に、裁判例をまじえながら解説を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 約束手形の振出 1 2 約束手形の振出 2 3 白地手形 1 4 白地手形 2 5 譲渡裏書の意義・方式 6 譲渡裏書の効力 7 善意取得、抗弁の制限 8 特殊な裏書 9 手形の支払 10 遡求 11 手形の権利の消滅 12 他人による手形行為、手形の偽造・変造 (概ね上記の順番に従って講義を進めていく予定であるが、採用するテキストや講義の進行状況等により、各項目の内容や順番に若干のずれが生じることがある) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
追って指示する。		期末試験の成績、小テスト、出席などから評価を行う。	

03～05 律/国	***** / *****	担当者	*****
99～02 律/国	***** / *****		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	商法総則・商行為 / 商法総則・商行為 商法Ⅰ / **** 商法Ⅰ	担当者	明田川 昌幸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 商法第一編「総則」および第三編「商行為」を中心とする法規制と裁判例の理解。</p> <p>講義概要 商法とは何かについての商法総論、商人一般に適用される法規制を定めている商法第一編「総則」、商取引についての法規制をおいている商法第三編「商行為」について、裁判例をまじえながら解説を行う。</p> <p>春学期では、商法第一編「総則」のすべてと第三編「商行為」の「総則」「売買」までを中心に解説を行う予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 企業について 2 商人および商行為の概念 3 商号 4 商業登記 5 商業使用人 6 代理商 7 営業譲渡 8 企業会計 9 商業帳簿 10 企業取引 11 商事売買 12 国際売買、まとめ <p>(概ね上記の順番に従って講義を進めていく予定であるが、採用するテキストや講義の進行状況等により、各項目の内容や順番に若干のずれが生じることがある)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
追って指示する。		期末試験の成績、小テスト、出席などから評価を行う。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	法律学特講 (商行為) / **** 商法Ⅰ / **** 商法Ⅰ	担当者	明田川 昌幸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 商法第三編「商行為」による法規制と裁判例の理解。</p> <p>講義概要 商取引についての法規制をおいている商法第三編「商行為」について、裁判例をまじえながら解説を行う。</p> <p>秋学期では、商法第三編「商行為」の「仲立営業」「問屋営業」「運送営業」「寄託」を中心に解説を行う予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 消費者と企業との取引 2 特定商取引の規制 3 契約の仲介者1 4 契約の仲介者2 5 有価証券1 6 有価証券2 7 運送・寄託業務1 8 運送・寄託業務2 9 金融取引1 10 金融取引2 11 金融取引3 12 まとめ <p>(概ね上記の順番に従って講義を進めていく予定であるが、採用するテキストや講義の進行状況等により、各項目の内容や順番に若干のずれが生じることがある)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
追って指示する。		期末試験の成績、小テスト、出席などから評価を行う。	

03～05 律/国	保険法 / ***	担当者	明田川 昌幸
99～02 律/国	*** / ***		
98以前 律	***		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 損害保険・生命保険についての法規制と裁判例の理解。</p> <p>講義概要 商法第三編「商行為」第十章「保険」第一節「損害保険」と第二節「生命保険」について、裁判例をまじえながら解説を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 損害保険契約の一般的内容 2 損害保険契約の特色 3 損害保険契約の成立 4 損害保険関係の変動 5 損害のてん補 6 保険担保 7 生命保険契約の内容 8 生命保険契約の成立 9 保険料の支払 10 生命保険関係の変動 11 生命保険契約から生ずる権利の処分 12 保険金の支払 <p>(概ね上記の順番に従って講義を進めていく予定であるが、採用するテキストや講義の進行状況等により、各項目の内容や順番に若干のずれが生じることがある)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
追って指示する。		期末試験の成績、小テスト、出席などから評価を行う。	

03～05 律/国	*** / ***	担当者	*****
99～02 律/国	*** / ***		
98以前 律	***		
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03～05 律/国 99～02 律/国 98 以前 律	国際私法 a / 国際私法 a 国際私法 / 国際私法 国際私法	担当者	山田 恒久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的</p> <p>国際私法とは、涉外的な私法関係(外国的な要素を何らかの形で含んでいる民商法に関連する事実関係)に、適用すべき法を指定する規則のことです。</p> <p>例えば、「婚姻の身分的な効力」、「不法行為債権の成立」、「物権変動」など予め典型的に分類された法律関係(単位法律関係)ごとに、もっとも密接に関連する事項(連結点)を定めておき、この事項が存在する国の法が指定されます。</p> <p>本講義では、この国際私法の基本的な考え方について講義します。</p>		<p>1. 序 国際私法概説</p> <p>(1) 国際私法の方法</p> <p>2. (2) 国際私法の法源</p> <p>3. (3) 国際私法の関連領域</p> <p>4. 第一編 財産編</p> <p>第一章 能力</p> <p>(1) 自然人</p> <p>5. (2) 法人</p> <p>6. 第二章 債権法</p> <p>(1) 契約の実質的成立要件の準拠法</p> <p>7. (2) 契約の形式的成立要件の準拠法</p> <p>8. (3) 法定債権の成立</p> <p>9. (4) 債権債務関係</p> <p>10. 第三章 物権法</p> <p>(1) 物権の静態</p> <p>11. (2) 物権の動態(その1; 法律行為による物権変動)</p> <p>12. (3) 物権の動態(その2; 法律行為によらない物権変動)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しませんが、条文の解釈をしていくため、携帯用の六法は、必ず所持してください。		定期試験の成績と、出席の状況、受講の様子を総合的に判断します	

03～05 律/国 99～02 律/国 98 以前 律	国際私法 b / 国際私法 b 国際私法 / 国際私法 国際私法	担当者	山田 恒久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要</p> <p>例えば、A国航空会社の飛行機が、B国内で墜落し乗客が死亡した場合には、「不法行為の成立」が単位法律関係とされますが、この連結点は「不法行為地」と定められていますから、B国民法が指定されることとなります。このB国民法を、準拠法(準拠実質法)といいます。</p> <p>講義では、予め分類されている単位法律関係ごとに、その連結点と準拠法を確認してゆきます。加えて、その分類の妥当性、連結点の設定の仕方の妥当性(制定法の正当性)をも、検討してみたいと思います。主として、民法・商法にかかわる分野ですが、可能な限り、手続きについても扱う予定です。</p>		<p>1. 第二編 身分編</p> <p>第一章 婚姻</p> <p>(1) 婚姻関係の成立(その1; 実質的成立要件)</p> <p>2. (2) 婚姻関係の成立(その2; 形式的成立要件)</p> <p>3. (3) 婚姻の効力(その1; 身分的効力)</p> <p>4. (4) 婚姻の効力(その2; 財産的効力)</p> <p>5. (5) 離婚</p> <p>6. 第二章 親子</p> <p>(1) 親子関係の成立(その1; 実親子関係の成立)</p> <p>(2) 親子関係の成立(その2; 養親子関係の成立)</p> <p>7. (3) 親子関係の効力</p> <p>8. 第三章 相続</p> <p>(1) 相続の形態</p> <p>9. (2) 相続の準拠法</p> <p>10. (3) 遺言</p> <p>11. 第三編 国際私法総論</p> <p>(1) 反致</p> <p>12. (2) 公序</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しませんが、条文の解釈をしていくため、携帯用の六法は、必ず所持してください。		定期試験の成績と、出席の状況、受講の様子を総合的に判断します	

03～05 律/国	国際取引法 / 国際取引法	担当者	土屋 弘三
99～02 律/国	国際取引法 / 国際取引法		
98以前 律	国際取引法		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義の目的〕 世界経済の一層の緊密化・相互依存度の高まりを反映して、貿易取引、国際運送、国際金融取引、技術取引、海外投資等の国際取引は増大してきている。この講義では、</p> <p>① 取引主体を企業に限定し、かつその取引を貿易取引を主眼して、国際取引の規律する法を学ぶ。</p> <p>② すべての国際取引は最終的には契約となるので、国際取引の規定する契約の主要条項の内容と各条項を法的リスクの観点から検討する。</p> <p>〔講義の概要〕</p> <p>〔1〕 国際取引の現状と世界における日本に位置づけを理解する。</p> <p>〔2〕 国際取引法の法源とその適用について検討する。</p> <p>〔3〕 国際取引契約の取引の開始から契約締結までのプロセスと契約の方式、契約準拠法を検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際取引の現況と取引の概要 2. 国際取引法の法源とその適用 (1) 3. 国際取引法の法源とその適用 (2) 4. 国際取引の国際的枠組み (WTO, FTA) 5. 国際通貨制度と国際収支 6. 契約の当事者 7. 取引の開始 8. 入札と契約、契約約款 9. 契約の成立 10. 契約準拠法 11. 契約の方式 12. 国際取引契約と国際租税 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは用いない。講義メモを配布する。</p> <p>参考文献：『国際取引法』（新版） 山田鎌一・佐野 寛著 （有斐閣）</p>		出席とテストによる	

03～05 律/国	国際取引法 / 国際取引法	担当者	土屋 弘三
99～02 律/国	国際取引法 / 国際取引法		
98以前 律	国際取引法		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義の目的〕 世界経済の一層の緊密化・相互依存度の高まりを反映して、貿易取引、国際運送、国際金融取引、技術取引、海外投資等の国際取引は増大してきている。この講義では、</p> <p>① 取引主体を企業に限定し、かつその取引を貿易取引を主眼して、国際取引の規律する法を学ぶ。</p> <p>② すべての国際取引は最終的には契約となるので、国際取引の規定する契約の主要条項の内容と各条項を法的リスクの観点から検討する。</p> <p>〔講義の概要〕</p> <p>〔1〕 国際取引の主要な一つである物品売買契約を取り上げ、その貿易取引の基本的仕組みを理解する。</p> <p>〔2〕 契約の主要事項について、契約締結と履行面でのリスクを検討する。</p> <p>〔3〕 クレームへの対応と紛争解決手段を検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 貿易取引の形態と流れ 2. 契約自由の原則とそれへの制限 3. 契約価格・外国為替リスク 4. 代金の決済と貿易保険 5. 引き渡し条件と Incoterms 6. 危険負担と所有権の移転 7. 品質保証と瑕疵担保責任 8. リスクと損害保険 9. クレームへの対応 10. 損害賠償責任とその限定 11. 国際的紛争解決手段 (1) 12. 国際的紛争解決手段 (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは用いない。講義メモを配布する。</p> <p>参考文献：『国際取引法』（新版） 絹巻康史著 （同文館出版）</p>		出席とテストによる	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	刑法総論Ⅰ / 刑法総論Ⅰ 刑法Ⅰ / 刑法－1 刑法Ⅰ	担当者	内山 良雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人は、犯罪を行うと刑罰を科せられます。刑法は、犯罪と刑罰の内容と相互関係を規定する法律です。本講義と「刑法総論Ⅱ」は、犯罪の成立要件を解明する「犯罪論」と、刑罰の目的や機能を解明する「刑罰論」を対象とします。犯罪論の課題は、殺人罪や窃盗罪といった個別の犯罪に特徴的な要素を解明する「刑法各論」と異なり、「すべての犯罪に共通する最大公約数的な要素は何か、犯罪というからには最低限備えていなければならない要素は何か」を明らかにすることにあります。犯罪とは、①構成要件に該当し②違法で③有責な行為と定義されますが、本講義では①と②の前半を扱います。</p> <p>刑罰は、法的制裁の中で一番厳しいものですから、刑罰を科す前提として犯罪が成立しているか否かという問題は、きわめて重要な意義をもっています。犯罪の成否に関する問題は、刑罰権の発動と直結していますから、場当たりの感情的な議論をするのではダメで、論理的な一貫性が強く求められるのです。本講義では、刑法の議論に必要な論理的思考能力を身につけることを目標とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 刑法および刑法学の意義・目的 2. 刑法の機能 3. 罪刑法定主義 4. 刑法の理論（犯罪論・刑罰論と学派の争い） 5. 犯罪概念と犯罪論体系 6. 行為論と行為の概念・態様 7. 条件関係 8. 構成要件の意義と機能 9. 構成要件の要素 10. 因果関係 11. 違法性の実質（1） 12. 違法性の実質（2） <p>* 受講生の理解度に応じて進度を調整するので、このとおりに進まないことがあります。進度が遅れた場合、補講を行うことがあります。あらかじめご了承ください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
曾根威彦『刑法総論 [第3版]』弘文堂 参考書は、第1回の講義で紹介します。		定期試験の答案に自分の考えを論理的で説得力ある論旨で主張できているか、を重視して評価します。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	刑法総論Ⅱ / 刑法総論Ⅱ 刑法Ⅰ / 刑法－1 刑法Ⅰ	担当者	内山 良雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、「刑法総論Ⅰ」の講義を受けた学生（単位の取得は必要ない）が履修することを前提に、犯罪成立要件の②の残り③のほか、不作為犯、未遂犯といった犯罪論の残された問題を対象とします。刑罰は最も厳しい法的制裁ですから、犯罪が成立しさえすれば科してよいというものではなく、刑罰の意味・目的からはずれた処罰は慎まなければなりません。そこで、刑罰の目的や機能を解明する「刑罰論」での議論が犯罪論の議論に及ぼす影響についても言及する予定です。本講義においても、刑法の議論に求められる論理的思考能力の修得を目標とすること等、基本的なスタンスは、「刑法総論Ⅰ」と変わりません。「刑法総論Ⅰ」の講義を受けていないと、本講義の内容を理解することは到底できません。必ず「刑法総論Ⅰ」の講義を受けてから、本講義に臨んでください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 正当防衛 2. 緊急避難 3. その他の正当化事由 4. 責任の概念 5. 責任能力と原因において自由な行為 6. 故意論 7. 過失論 8. 具体的事実の錯誤 9. 抽象的事実の錯誤 10. 違法性の錯誤 11. 不作為犯 12. 未遂犯 <p>* 受講生の理解度に応じて進度を調整するので、このとおりに進まないことがあります。進度が遅れた場合、補講を行うことがあります。あらかじめご了承ください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
曾根威彦『刑法総論 [第3版]』弘文堂 参考書は、第1回の講義で紹介します。		定期試験の答案に自分の考えを論理的で説得力ある論旨で主張できているか、を重視して評価します。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	刑法総論Ⅰ / 刑法総論Ⅰ 刑法Ⅰ / 刑法-1 刑法Ⅰ	担当者	中空 壽雅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では刑法学の中の特に刑法総論の分野を扱います。刑法総論は、殺人、傷害といった個々の犯罪が共通してもっている性格を明らかにすることで、犯罪と犯罪でない行為を明確に区別しようとするものです。また、一体なぜ刑法はあるのか、刑罰は何のために存在するのかも、何が犯罪かを考えるには重要な問題となります。</p> <p>刑法総論Ⅰは、刑法の全体像をつかむことと、犯罪論のうちの構成要件論から違法性の部分までを学習します。犯罪論のアウトラインをつかむことを目的とします。犯罪論の学習は、刑法総論ⅠとⅡで完成しますので、学習効果を考えると両方を受講することが望ましい。</p> <p>刑法総論は、すべての犯罪に共通する成立要件を素材とするため抽象的な議論になりやすいが、講義では常に事例を想定しながら説明をすすめていくので、六法を持参して必ず出席してください。</p> <p>第1回目の講義で、学習方法や受講上の注意点を説明するので必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 刑事システム全体図・刑法及び刑罰の目的 2. 罪刑法定主義 3. 犯罪の基本的概念 4. 構成要件該当性—実行行為の客観面 5. 構成要件該当性—実行行為の客観面 6. 構成要件該当性—実行行為の主観面 7. 構成要件該当性—実行行為の主観面 8. 因果関係 9. 違法性の概念 10. 正当防衛 11. 緊急避難 12. その他の違法阻却事由 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：大谷実『刑法総論 第2版』成文堂 参考文献：『刑法判例百選Ⅰ 第5版』有斐閣</p>		基本的には定期試験で評価する。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	刑法総論Ⅱ / 刑法総論Ⅱ 刑法Ⅰ / 刑法-1 刑法Ⅰ	担当者	中空 壽雅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では刑法学の中の特に刑法総論の分野を扱います。刑法総論は、殺人、傷害といった個々の犯罪が共通してもっている性格を明らかにすることで、犯罪と犯罪でない行為を明確に区別しようとするものです。また、一体なぜ刑法はあるのか、刑罰は何のために存在するのかも、何が犯罪かを考えるには重要な問題となります。</p> <p>刑法総論Ⅱでは、犯罪論のうち責任から未遂犯・共犯までを中心に学習します。犯罪論の学習は、刑法総論ⅠとⅡで完成しますので、学習効果を考えると両方を受講することが望ましい。</p> <p>刑法総論は、すべての犯罪に共通する成立要件を素材とするため抽象的な議論になりやすいが、講義では常に事例を想定しながら説明をすすめていくので、六法を持参して必ず出席してください。</p> <p>第1回目の講義で、学習方法や受講上の注意点を説明するので必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 責任論の意義・責任の本質 2. 責任能力の意義 3. 違法性の錯誤・期待可能性 4. 未遂犯の処罰根拠・実行の着手 5. 中止犯 6. 不能犯 7. 共犯と正犯 8. 共同正犯をめぐる諸問題 9. 教唆・幫助をめぐる諸問題 10. 共犯と身分 11. 共犯の関連問題 12. 罪数 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：大谷実『刑法総論 第2版』成文堂 参考文献：『刑法判例百選Ⅰ 第5版』有斐閣</p>		基本的には定期試験で評価する。	

03~05 律/国 99~02 律/国 98 以前 律	刑法各論 / 刑法各論 **** / **** ****	担当者	野村 稔
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>刑法総論で得た知見を基礎として、個別的な犯罪類型の分析を行い、社会における犯罪現象に対する刑法の適用能力を身につけることを目標にする。その際、単に法律的知識を記憶するのではなく、縦糸に体系的思考を、横糸に分析的思考をそれぞれ置き、法律的思考ができること、さらに法治国家の市民として国家刑罰権の在り方につき法の適正手続きの精神を理解したうえで常に自律的・批判的に考えることが重要である。</p> <p>本講義においては個人的法益に対する罪から国家的法益に対する罪、社会的法益に対する罪の順序でそれぞれ主要な罪につき解説する。</p> <p>なお、授業中の質問を歓迎する。→</p>		<p>1 刑法各論序論 殺人罪・自殺関与罪・同意殺人罪</p> <p>2 暴行罪・傷害罪・遺棄罪</p> <p>3 名誉毀損罪・公共の利害に関する場合の特例</p> <p>4 窃盗罪</p> <p>5 強盗罪</p> <p>6 詐欺罪（・恐喝罪）</p> <p>7 横領罪・背任罪</p> <p>8 公務執行妨害罪</p> <p>9 収賄罪</p> <p>10 放火罪</p> <p>11 文書偽造罪</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各自が所持する刑法各論の教科書 なお、レヂュメを配布する。		定期試験の成績による。	

03~05 律/国 99~02 律/国 98 以前 律	刑法各論 / 刑法各論 **** / **** ****	担当者	野村 稔
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<p>1 刑法各論序論 殺人罪・自殺関与罪・同意殺人罪</p> <p>2 暴行罪・傷害罪・遺棄罪</p> <p>3 名誉毀損罪・公共の利害に関する場合の特例</p> <p>4 窃盗罪</p> <p>5 強盗罪</p> <p>6 詐欺罪（・恐喝罪）</p> <p>7 横領罪・背任罪</p> <p>8 公務執行妨害罪</p> <p>9 収賄罪</p> <p>10 放火罪</p> <p>11 文書偽造罪</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

03～05 律/国 99～02 律/国 98 以前 律	刑事政策 a / 刑事政策 a 刑事政策 / ***** 刑事政策	担当者	安部 哲夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、犯罪予防や犯罪対策さらには刑事制裁のシステムについて検討を進めるものである。犯罪者の処遇や被害者の保護政策などのように、近年、刑事立法や刑事司法をめぐる新たな重要課題が示されてきている。講義では、こうした動きを題材としつつ、刑事政策のあるべき理念と立案を論じることとする。</p> <p>犯罪に対する認識と問題意識は、私たちの身近なものになったが、それだけに安易な判断ではなく、幅広い情報を駆使してより深い洞察が必要であろう。法律学としての刑事政策学は、めまぐるしく動く現実に目を向けるとともに普遍的な政策理念との調和をどう講じるかにかかっている。「刑事政策なき刑法学は盲目であり、刑法学なき刑事政策は危険である」との言葉をかみしめて講義に臨みたい。</p> <p>授業では、諸外国の新たな動きをVTRや資料などを用いて批判的に紹介しながら、あるべき刑事政策を論じたい。</p> <p>「刑事政策 a」では、①犯罪現象の捉え方、②犯罪原因論、③近時の犯罪対策立法、④死刑制度の現在と将来を中心に授業展開する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 犯罪と刑事政策の基礎（刑事政策の理念） 2. 犯罪現象の捉え方（犯罪統計の読み方） 3. 犯罪原因の研究①（素因論から環境論へ） 4. 犯罪原因の研究②（相互作用論から新たな研究） 5. 犯罪被害者の研究（被害者学の発展とその成果） 6. 犯罪被害者の保護と修復的司法の展開 7. 刑罰制度の意義と種類（刑罰はなぜ必要なのか） 8. 犯罪の司法的処理（警察・検察・裁判の流れ） 9. 死刑制度を考える①（死刑存廃と米国の実情） 10. 死刑制度を考える②（日本の問題と死刑代替刑） 11. 近年の犯罪対策諸立法の意義と課題 12. 新たな刑罰と新たな刑事制裁 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書はとくに指定しないが、参考書として、加藤久雄ほか編『刑事政策』青林書院、および『平成16年版犯罪白書』をあげておく。		主に学期末試験によるが、授業中の小レポートも補足的に考慮する。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98 以前 律	刑事政策 b / 刑事政策 b 刑事政策 / ***** 刑事政策	担当者	安部 哲夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、犯罪予防や犯罪対策さらには刑事制裁のシステムについて検討を進めるものである。犯罪者の処遇や被害者の保護政策などのように、近年、刑事立法や刑事司法をめぐる新たな重要課題が示されてきている。講義では、こうした動きを題材としつつ、刑事政策のあるべき理念と立案を論じることとする。</p> <p>犯罪に対する認識と問題意識は、私たちの身近なものになったが、それだけに安易な判断ではなく、幅広い情報を駆使してより深い洞察が必要であろう。法律学としての刑事政策学は、めまぐるしく動く現実に目を向けるとともに普遍的な政策理念との調和をどう講じるかにかかっている。「刑事政策なき刑法学は盲目であり、刑法学なき刑事政策は危険である」との言葉をかみしめて講義に臨みたい。</p> <p>授業では、諸外国の新たな動きをVTRや資料などを用いて批判的に紹介しながら、あるべき刑事政策を論じたい。</p> <p>「刑事政策 b」では、①刑罰制度としての自由刑、財産刑、②保護観察・更生保護、③各種犯罪対策を中心に授業を進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 財産刑の現状と課題（日数罰金、労役場留置） 2. 自由刑の現状と課題(欧米の行刑との比較) 3. 施設内処遇の諸問題①（監獄法の改正） 4. 施設内処遇の諸問題②（刑務作業、民営化） 5. 施設内処遇の諸問題③（高齢一、外国人受刑者） 6. 社会内処遇の諸問題（仮釈放、保護観察） 7. 保護処分と保安処分 8. 凶悪犯罪・組織犯罪の現状と対策 9. 薬物犯罪・外国人犯罪の現状と対策 10. 触法精神障害の現状と対策 11. 少年犯罪の現状と対策 12. 現代刑事政策論の総括（予防と処遇の再評価） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書はとくに指定しないが、参考書として、加藤久雄ほか編『刑事政策』青林書院、および『平成16年版犯罪白書』をあげておく。		主に学期末試験によるが、授業中の小レポートも補足的に考慮する。	

03～05 律/国	労働法 a / ***		
99～02 律/国	労働法 / ***	担当者	石井 保雄
98 以前 律	労働法		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人の社会生活を送るなかで、「労働者」としての生活関係をめぐって、どのような法的問題が提起されるのか、またトラブルや紛争の解決のあり方を示したい。なお講義課目名として「労働法」となっていますが、実際は労基法などに関する「労働法保護法」「個別的労使関係法」を中心に進める。最近の労働法に関連する立法動向や裁判例の多くは、これに関するものであり、それらを反映して議論も主に保護法についてのものが多い。春学期は、労働関係の成立・展開・終了について、労基法を始めとする関連立法がいかなる規制を行なっているか、また人が「労働者」として働くにあたって、その労働条件や待遇内容はどのような法的仕組みのなかで決定されるのかその基本的枠組みを示したいと思う。講義に際しては、レジュメや資料を配布するので、詳細は、それらを参照。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 「労働法」とは何か？ 2 雇用関係成立と法による規制＝「契約の自由」とその制限 3 労働の倍における男女平等と母性保護 4 職場におけるハラスメント（いじめ・いやがらせ） 5 労働関係の成立－募集・採用内定と試用期間 6 就業規則－使用者による労働条件・職場規律＝ルールの設定・変更－ 7 労働条件の集団的規制と労使自治－労働条件等をめぐる集団的取引＝団体交渉と労働協約 8 同（続き） 9 労働「契約」関係における権利と義務 10 人事異動－配置転換と出向 11 雇用＝労働契約関係の終了（1）解雇 12 雇用＝労働契約関係の終了（2）辞職・定年退職 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>角田邦重他〔編〕『新現代労働法入門〔第3版〕』（法律文化社）（2005. 3刊行予定） ジュリスト別冊『労働判例百選〔第7版〕』</p>		<p>定期試験の「結果」如何が基本である。ただしレポートも重視する。</p>	

03～05 律/国	労働法 b / ***		
99～02 律/国	労働法 / ***	担当者	石井 保雄
98 以前 律	労働法		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の内容として、秋学期は、人が「労働者」として使用者の指揮命令のもとに働くとき、その労働条件・待遇の内容について取り上げる。具体的には、まず、労働条件の典型的である、賃金と労働時間をあつかう。次に勤務が継続するなかで、労働者がときには職務規律違反等を理由に懲戒処分の対象となることもありかもしれない。さらに働くなかで「仕事」に関連して負傷したり、病気になることもありえる。そこで職場の安全衛生体制について触れ、さらには不幸にして労働災害が発生したときの事後的救済のありかた、通勤途上の災害、さらには最近関心を呼んでいる過労死・自殺問題なども検討したいと考えている。そして最後に、秋学期のみならず、春学期も含め、労働法講義の締めくくりとして、紛争解決システムのあり様について言及したいと考えている。 講義に際しては、レジュメや資料を配布するので、詳細は、それらを参照。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 労働条件・待遇の決定に関する法的仕組みとその相互関係 2 賃金－最低賃金・支払い方法・賞与・退職金 3 昇格・昇進・降格・降職と人事考課 4 労働時間（1）規制緩和と柔軟化－その法的枠組み 5 労働時間（2）変形労働時間制 6 労働時間（3）時間外・休日労働～休憩～休日 6 労働時間（4）年次有給休暇 7 企業秩序と懲戒－服務規律と職場秩序の維持 8 職場の安全衛生－労働災害発生の防止 9 労働災害補償制度－労災の事後的処理 10 労働災害における業務上外認定と通勤途上災害 11 過労死と過労自殺 12 労使紛争の解決システム－労働審判制度を中心に－ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>角田邦重他〔編〕『新現代労働法入門〔第3版〕』（法律文化社）（2005. 3刊行予定） ジュリスト別冊『労働判例百選〔第7版〕』</p>		<p>定期試験の「結果」如何が基本である。ただしレポートも重視する。</p>	

03～05 律/国	社会保障法 a / *****	担当者	新田 秀樹
99～02 律/国	社会保障法 / *****		
98 以前 律	社会保障法		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>医療保険、年金保険、介護保険、労働保険、社会福祉、生活保護などをその内容とする社会保障は、個々の国民の生活に広くかつ深く関わっているだけでなく、我が国の経済社会全体の在り方にも大きな影響を及ぼしている。また、その改革の動向も毎日のようにニュースとなっている。</p> <p>本講義においては、主として法的観点から社会保障を構成する各制度の概要を述べることにより、巨大で複雑な社会保障制度の全体的イメージを学生諸君に把握してもらうことを目的としている。</p>		<p>(総論)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会保障の概念・範囲 2 社会保障の保障方法 3 社会保障の目的・機能・水準 4 社会保障の組織・財政 5 社会保障の歴史 6 社会保障法の意義・根拠・体系 7 社会保障法と憲法 8 社会保障法の法律関係① 9 社会保障法の法律関係② <p>(各論)</p> <ol style="list-style-type: none"> 10 年金保険① 11 年金保険② 12 年金保険③ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>適宜プリントを配布する。 (参考文献) 加藤智章他『社会保障法〔第2版〕』、有斐閣、2003年</p>		<p>期末試験による。</p>	

03～05 律/国	社会保障法 b / *****	担当者	新田 秀樹
99～02 律/国	社会保障法 / *****		
98 以前 律	社会保障法		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>医療保険、年金保険、介護保険、労働保険、社会福祉、生活保護などをその内容とする社会保障は、個々の国民の生活に広くかつ深く関わっているだけでなく、我が国の経済社会全体の在り方にも大きな影響を及ぼしている。また、その改革の動向も毎日のようにニュースとなっている。</p> <p>本講義においては、主として法的観点から社会保障を構成する各制度の概要を述べることにより、巨大で複雑な社会保障制度の全体的イメージを学生諸君に把握してもらうことを目的としている。</p>		<p>(各論)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医療保険① 2 医療保険② 3 医療保険③ 4 公的扶助と社会福祉① 5 公的扶助と社会福祉② 6 介護保険① 7 介護保険② 8 介護保険③ 9 労働保険① 10 労働保険② 11 労働保険③ 12 社会保障の課題と展望 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>適宜プリントを配布する。 (参考文献) 加藤智章他『社会保障法〔第2版〕』、有斐閣、2003年</p>		<p>期末試験による。</p>	

03～05 律/国	環境法 a / *****	担当者	一之瀬 高博
99～02 律/国	環境法 / *****		
98 以前 律	環境法		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔注意〕 この講義は、2003 年度以降の入学生には春学期のみで完結するが(2 単位)、2002 年度までの入学生には通年科目である(4 単位)。</p> <p>〔講義目的〕 環境紛争や立法・政策を素材に、発展途上にある環境法の現段階を明らかにしてゆくとともに、法学が環境保全にどのような機能を果たし得る課を考察する。</p> <p>〔講義概要〕 公害・環境問題の性質・歴史およびそれに対する環境法の発展を概観した上で、主に環境法の救済法としての側面を検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 公害・環境問題の性質と法律学の関わり 2 公害・環境法制度の発展過程① 3 公害・環境法制度の発展過程② 4 公害民事賠償の理論と裁判例① 5 公害民事賠償の理論と裁判例② 6 環境問題と国家賠償 7 民事差止めの理論と裁判例① 8 民事差止めの理論と裁判例② 9 環境行政訴訟をめぐる諸問題① 10 環境行政訴訟をめぐる諸問題② 11 被害者救済及び紛争処理制度 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは開講時に指示する。参考文献： 阿部・淡路編『環境法』第 3 版有斐閣 2004 年</p>		<p>期末試験の成績を重視し、出席・小テスト・レポートも評価の対象にする。</p>	

03～05 律/国	環境法 b / *****	担当者	一之瀬 高博
99～02 律/国	環境法 / *****		
98 以前 律	環境法		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔注意〕 この講義は、2003 年度以降の入学生には秋学期のみで完結するが(2 単位)、2002 年度までの入学生には通年科目である(4 単位)。</p> <p>〔講義目標〕 環境紛争や立法・政策を素材に、発展途上にある環境法の現段階を明らかにしてゆくとともに、法学が環境保全にどのような機能を果たし得る課を考察する。</p> <p>〔講義概要〕 環境法の基本的な機能を検討するとともに、最近急増している個別的な環境保全の法制度を分析する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1(13) 環境基本法・環境基本計画 2(14) 環境保全の法的手法 3(15) 環境権、自然の権利 4(16) 環境影響評価 5(17) 公害・環境規制法① 6(18) 公害・環境規制法② 7(19) 廃棄物・リサイクル法制① 8(20) 廃棄物・リサイクル法制② 9(21) 自然環境保全① 10(22) 自然環境保全② 11(23) 国際環境法の国内実施 12(24) まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは開講時に指示する。参考文献： 阿部・淡路編『環境法』第 3 版有斐閣 2004 年</p>		<p>期末試験の成績を重視し、出席・小テスト・レポートも評価の対象にする。</p>	

03～05 律/国	経済法 / ****	担当者	山部 俊文
99～02 律/国	経済法 / ****		
98以前 律	経済法		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>①はじめに経済法概念等の経済法総論を説明した後、独占禁止法の解釈論・立法論について講義します。</p> <p>②適宜、諸外国の法制についても言及します。</p> <p>③この講義の目的は、市場経済を規律する基本的法制度である独占禁止法の発想・考え方、および解釈論・立法論の現状を理解し、修得することにあります。</p>		<p>1 導入(1) 経済法総論</p> <p>2 導入(2) 独占禁止法総論</p> <p>3 独占禁止法の目的</p> <p>4 独占禁止法の手続(1) 行政的規制</p> <p>5 独占禁止法の手続(2) 行政的規制</p> <p>6 独占禁止法の手続(3) 民事的規制</p> <p>7 独占禁止法の手続(4) 刑事的規制</p> <p>8 独占禁止法の基本概念(1) 事業者・競争等</p> <p>9 独占禁止法の基本概念(2) 競争の実質的制限等</p> <p>10 私的独占の規制(1) 行為要件</p> <p>11 私的独占の規制(2) 市場効果の要件</p> <p>12 企業結合規制(1) 総論・一般集中規制</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考書として、さしあたり、</p> <p>①根岸哲＝舟田正之『独占禁止法概説(第2版)』(有斐閣)、より詳しい最新の体系書として、</p> <p>②金井貴嗣ほか編『独占禁止法』(弘文堂)、も掲げておきます。これらのうちいずれか1冊を各自で用意して下さい。</p> <p>その他に、</p> <p>③『独占禁止法審決判例百選(第6版)』(有斐閣)、を副読本として用います。</p>		学年末の試験によります。	

03～05 律/国	経済法 / ****	担当者	山部 俊文
99～02 律/国	経済法 / ****		
98以前 律	経済法		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>①春学期に引き続き、独占禁止法の解釈論・立法論について講義します。</p> <p>②この講義の目的は、春学期のそれと同様、市場経済を規律する基本的法制度である独占禁止法の発想・考え方、および解釈論・立法論の現状を理解し、修得することにあります。</p>		<p>1 企業結合規制(2) 市場集中規制</p> <p>2 企業結合規制(3) 市場集中規制の続き</p> <p>3 カルテル規制(1) 総論・行為要件</p> <p>4 カルテル規制(2) 市場効果の要件</p> <p>5 カルテル規制(3) 事業者団体規制</p> <p>6 不公正な取引方法の規制(1) 総論・差別的取扱等</p> <p>7 不公正な取引方法の規制(2) 不当廉売等</p> <p>8 不公正な取引方法の規制(3) 欺瞞的顧客誘引等</p> <p>9 不公正な取引方法の規制(4) 抱き合わせ販売等</p> <p>10 不公正な取引方法の規制(5) 拘束条件付取引</p> <p>11 不公正な取引方法の規制(6) 優越的地位の濫用等</p> <p>12 独占禁止法の適用除外等</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考書として、さしあたり、</p> <p>①根岸哲＝舟田正之『独占禁止法概説(第2版)』(有斐閣)、より詳しい最新の体系書として、</p> <p>②金井貴嗣ほか編『独占禁止法』(弘文堂)、も掲げておきます。これらのうちいずれか1冊を各自で用意して下さい。</p> <p>その他に、</p> <p>③『独占禁止法審決判例百選(第6版)』(有斐閣)、を副読本として用います。</p>		学年末の試験によります。	

03～05 律/国	消費者法 / *****	担当者	岩重 佳治
99～02 律/国	消費者法 / *****		
98以前 律	消費者法		
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1 消費者被害と救済の実態を知る 2 消費者事件の解決に特有の視点、法理を身につける 3 消費者被害の法的解決方法を自分で考え、その法的見解を第三者に主張・展開し、第三者の法的見解を正当に評価する力を身につける 4 生の事実を素材に、生きた法的思考を身につける 5 消費者法の学習を通じて、自分の長所を発見する 講義概要 1 毎回レジュメを用いて講義する。 2 事例の検討を中心とし、法的見解を述べ合う実践的内容の講義にしたい。 3 知識の多寡にかかわらず、受講者には積極的な発言を求めたい。受動的に講義を聞くという姿勢は、本講義に適さない。 4 春学期は、消費者法の基礎的な知識の習得にも重点を置き、秋学期への足がかりにしたい。 5 受講には基礎的な法的知識があればよい。消費者問題に関心があればなおさら良いが、関心を持てるかどうか見てみようという人も大いに歓迎する。 6 <u>通年での受講が望ましい。</u>		1 ガイダンス 2 消費者被害救済の法理（1） 3 消費者被害救済の法理（2） 4 消費者契約法（1） 5 消費者契約法（2） 6 英会話教室をめぐるトラブル 7 クレジット契約をめぐるトラブル（1） 8 クレジット契約をめぐるトラブル（2） 9 会員権サービスをめぐるトラブル 10 エステティックサービスをめぐるトラブル 11 カードの不正使用 12 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に使用しない。 参考文献は、随時紹介する。		日常講義における提出物や発言、出席率、筆記試験またはレポートにより総合的に評価する。	

03～05 律/国	法律学特講（消費者法） / *****	担当者	岩重 佳治
99～02 律/国	消費者法 / *****		
98以前 律	消費者法		
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1 消費者被害と救済の実態を知る 2 消費者事件の解決に特有の視点、法理を身につける 3 消費者被害の法的解決方法を自分で考え、その法的見解を第三者に主張・展開し、第三者の法的見解を正当に評価する力を身につける 4 生の事実を素材に、生きた法的思考を身につける 5 消費者法の学習を通じて、自分の長所を発見する 講義概要 1 毎回レジュメを用いて講義する。 2 事例の検討を中心とし、法的見解を述べ合う実践的内容の講義にしたい。 3 受講者には積極的な発言を求めたい。受動的に講義を聞くという姿勢は、本講義に適さない。 4 春学期で身につけた基礎的な知識を土台に、より実践的内容の講義にしたい。講師が実際に扱った事件も素材にし、内容証明郵便の作成・送付、答弁書の作成等も行う予定である。 5 深刻化する多重債務問題についての講義も行う。 6 <u>春学期の講義で身につけた知識が前提になるので、通年での受講が望ましい。</u>		1 リース契約をめぐるトラブル 2 キャッチセールスをめぐるトラブル 3 内容証明郵便の利用の仕方 4 集団的消費者被害事件（預託商法被害） 5 訴状を受け取ったときの対処法（総論） 6 訴状を受け取ったときの対処法（答弁書作成） 7 保証人被害 8 クレジット・サラ金被害に関する基礎知識 9 借金整理法（1） 10 借金整理法（2） 11 ヤミ金融等の被害の実態と救済方法 12 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に使用しない。 参考文献は、随時紹介する。		日常講義における提出物や発言、出席率、筆記試験またはレポートにより総合的に評価する。	

03～05 律/国	知的財産権法 a / *****	担当者	長塚 真琴
99～02 律/国	知的財産権法 / *****		
98 以前 律	知的財産権法		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>いわゆる「知的財産法」のうち主要な分野は、著作権法・工業所有権法・不正競争防止法である。</p> <p>この講義ではそのうち、工業所有権法の一部（商標法と意匠法）と不正競争防止法を扱う。これらは、特定の者が用いているマーク、ブランド、デザインなどを、他人による模倣から守るための法律である。</p> <p>下記の教科書とレジュメを用い、裁判例に関する画像やウェブサイトなど、視覚情報も重視しつつ講義を進める。レジュメは講義の始めにまとめて販売ないし配布する予定。</p> <p>講義には、その回の講義対象となっている法律の条文を持って臨むこと。入手方法はガイダンスの際に説明する。</p> <p>講義のサイトはこちら。 http://www2.dokkyo.ac.jp/~less0080/</p> <p>○履修上の注意：知的財産権法 b の内容も参照するため、併せて履修することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 知的財産法の概要 3 不正競争防止法 1—様々な不正競争行為の規制 4 不正競争防止法 2 5 不正競争防止法 3 6 商標法 1—登録を受けたマークの保護 7 商標法 2 8 商標法 3 9 商標法 4 10 意匠法 1—登録を受けた工業デザインの保護 11 意匠法 2 12 意匠法 3 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：土肥一史『知的財産法入門〔第8版〕』（中央経済社、2005年）		定期試験と、講義中の小テストまたはレポートによる。出席は合否がきわどい場合のみ考慮する。	

03～05 律/国	知的財産権法 b / *****	担当者	長塚 真琴
99～02 律/国	知的財産権法 / *****		
98 以前 律	知的財産権法		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>いわゆる「知的財産法」のうち主要な分野は、著作権法・工業所有権法・不正競争防止法である。</p> <p>この講義ではそのうち、工業所有権法の中心をなす特許法を主に扱う。これは、特定の者が他人の模倣を排除して、特定の技術を独占的に実施することを認める法律である。</p> <p>下記の教科書とレジュメを用い、裁判例に関する画像やウェブサイトなど、視覚情報も重視しつつ講義を進める。レジュメは講義の始め（夏休み明け）に、まとめて販売ないし配布する予定。</p> <p>講義には、その回の講義対象となっている法律の条文を持って臨むこと。入手方法はガイダンスの際に説明する。</p> <p>講義のサイトはこちら。 http://www2.dokkyo.ac.jp/~less0080/</p> <p>○履修上の注意：知的財産権法 a の内容も参照するため、併せて履修することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 特許法 1—審査・登録を受けた技術の保護 3 特許法 2 4 特許法 3 5 特許法 4 6 特許法 5 7 特許法 6 8 特許法 7 9 特許法 8 10 特許法 9 11 特許法 10 12 実用新案法—無審査で登録された技術の保護 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：土肥一史『知的財産法入門〔第8版〕』（中央経済社、2005年） 参考書：『特許判例百選〔第8版〕』（別冊ジュリスト 170）		定期試験と、講義中の小テストまたはレポートによる。出席は合否がきわどい場合のみ考慮する。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98 以前 律	民事訴訟法 a / **** 民事訴訟法 / **** 民事訴訟法	担当者	山田 恒久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義の目的・概要></p> <p>「民事訴訟法」は、私人間の法律関係（民法・商法など）に関わる法律関係）についての法的紛争を解決する手続をいいます。特に、中心的な紛争解決方法は、裁判所によって下される「判決」によるものです。このため、狭義の「民事訴訟法」は、この判決を得るための手続のみを示す、「判決手続」を意味します。</p> <p>本講義では、この狭義の「民事訴訟法」、すなわち「判決手続」について、概観します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 法的紛争解決制度の概観 2. 民事訴訟手続のながれ 3. 訴訟の主体①<裁判所> 4. 訴訟の主体②<当事者能力> 5. 訴訟の主体③<訴訟能力> 6. 判決の効力①<既判力制度> 7. 判決の効力②<既判力の主観的限界> 8. 判決の効力③<既判力の客観的限界> 9. 判決の効力④<既判力の時間的限界> 10. 判決の効力⑤<既判力以外の効力> 11. 訴えの提起<訴訟要件・訴訟の種類> 12. まとめと展望 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：テキストは指定しませんが、条文の解釈をしていくため、携帯用の六法は、必ず所持してください。		定期試験の成績と、出席の状況、受講の様子を総合的に判断します。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98 以前 律	民事訴訟法 b / **** 民事訴訟法 / **** 民事訴訟法	担当者	山田 恒久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義の目的・概要></p> <p>「民事訴訟法」とりわけ「判決手続」は、民商法に定められている権利を実現するための、公権的な判断である「判決」を下すための手続です。</p> <p>本講義では、この判決手続を支える基本的な概念を中心にお話します。</p>		<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 民事訴訟の目的 2. 民事訴訟法における諸原則の概観 3. 処分権主義① 4. 処分権主義② 5. 弁論主義① 6. 弁論主義② 7. 弁論主義③ 8. 主張責任 9. 挙証責任 10. 訴訟承継 11. 上訴・再審手続 12. まとめと展望 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：テキストは指定しませんが、条文の解釈をしていくため、携帯用の六法は、必ず所持してください。		定期試験の成績と、出席の状況、受講の様子を総合的に判断します。	

03～05 律/国	民事執行・保全法 / ****	担当者	小川 健
99～02 律/国	民事執行・保全法 / ****		
98以前 律	民事執行・保全法		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>民事執行は法律関係の最終的な実現手段として用意されている制度である。</p> <p>判決手続等で権利その他の法律関係が確定されたというだけでは、義務を負うものが自らこれを履行しないかぎり、判決（書）はただの紙切れでしかない。</p> <p>執行手続は、このように債務者による任意の履行が行われない場合に備えて、国家が実力をもってこの観念的な存在に過ぎない「権利」を現実の世界で実現するための手続を定めたものである。</p> <p>もっとも、権利を実現しようとした時に目的物や相手方の財産がなくなってその実現そのものが不可能となってしまうと、いかに権利の強制的な実現手段を用意しようとも役には立たない。したがって、その実現の事前確保の方法が考えられなければならない。また、実際に執行が必要な場合には相手方が支払能力を失っていることから、債権者全体の執行を一括して行おうとする倒産法制との関係も考えておく必要がある。</p> <p>さらに日本の裁判所だけではなく、外国の裁判所その他の「法律関係の確定機構」により「確定」された内容を我が国の裁判所としてどのように評価するのかという問題も関連してくる。</p> <p>（下段に続く）</p>		<p>講義</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 法とは何か（国家法と法の実現） 2 民事執行手続の役割（財産開示、保全手続、担保） 3・4 債務名義（債務名義の種類） 5 執行手続の流れ（概略） 6 執行文と差押 7 配当要求、調査、換価 8 売却と関連する権利関係、引渡命令 9 配当と配当異議 10 強制管理、船舶執行、動産執行（差押禁止動産） 11 債権執行（差押禁止債権、供託、取立訴訟、転付命令、譲渡命令） 12 その他の財産権に対する執行、非金銭執行（明渡、引渡、代替執行、間接強制）、担保権の実行 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書：深沢利一・民事執行の実務（上、中、下）最新版（2005）		下段（講義目的、講義内容の末尾）を参照。	

03～05 律/国	法律学特講（民事執行・保全法） / ****	担当者	小川 健
99～02 律/国	民事執行・保全法 / ****		
98以前 律	民事執行・保全法		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、以上に述べたような民事執行手続の基本的な構造と、それに関連する制度との関係についての理解を目標とする。</p> <p>春学期には、民事執行手続の構造とその他の制度との関係における位置づけを中心に講義形式で概観する。</p> <p>秋学期には、民事執行や保全に関連する判例を素材にして、春学期で概観した観念的な道具立てが、実際の社会の中でどのように運用され、また運用上どのような問題を抱えたものとなっているかを具体的に理解することにしたい。</p> <p>春学期末には講義内容の理解度を見るために、筆記試験を行う。</p> <p>秋学期には、判例についてのレポートを提出してもらう予定である。また、状況により筆記試験を行うこともある。</p> <p>原則として、春学期と秋学期両方とも履修することを前提に授業を進める予定なので、変則的な履修の仕方を望む学生は担当者に個別に相談していただきたい。</p> <p>受講者の講義への積極的な参加を期待する。</p> <p>試験やレポートによる得点の他に、有意義な質問をしてくれた受講者には、一回の質問あたり、最大5点の加算をする。</p>		<p>判例研究</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 債務名義 2 債務名義の瑕疵と強制競売、執行証書 3 外国判決の執行、仲裁判断の執行 4 執行文付与の訴え、請求異議の訴え 5 第三者異議の訴え、差押の効力 6 売却のための保全処分、買受人のための保全処分 7 法定地上権、引渡命令 8 配当異議 9 債権差押命令 10 差押と相殺、差押禁止財産、差押の競合 11 取立訴訟、転付命令 12 保全訴訟における被保全権利の審理、保全命令に対する不服 	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		上記（講義目的、講義内容の末尾）を参照。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98 以前 律	倒産法 / * * * * * 倒産法 / * * * * * 倒産法	担当者	小川 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>個人や会社が倒産するというと、これらの当事者は社会から全く抹殺されてしまうように思われがちである。</p> <p>確かに、倒産する当事者は多くの場合、無計画な借り入れや支出を繰り返したり、無計画な投資を行った結果として倒産に至ることが多い。このような行動は感心したものではないかもしれないが、そのような無計画な借り入れや投資の資金を提供した側にも責任の一端は認められる場合も少なくない。必ずしも倒産当事者だけが一方的に非難されるべきでない場合もあるわけである。他方、一般社会の外にはじき出される倒産者が増えてくれば、社会を不安定にすることになるし、また、倒産者に対して債権を有する人々から見ても、倒産者が倒産によって社会から抹殺されてしまえば、取引の機会の減少につながるようになる。</p> <p>このようなことから、現代の倒産処理は、債権者の債権の本来的な満足を多少は犠牲にしても、倒産者の社会活動の継続あるいは再開をなるべく可能にするようなやり方で行うようになってきている。すなわち、倒産者の債務等を清算するにあたって、倒産者の財産をある程度残した状態で処理を行い、残りの債務の負担から倒産者を解放するという方法を採用し、企業の倒産にあたっては、収益を上げている部門があればこれを売却することによって、その部門が社会的な活動を続けることを可能にするとともに、債権者に対する弁済財源を増加させようとするわけである。</p> <p>(下段に続く)</p>		<p>講義</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 倒産手続とは（倒産手続の目的、倒産手続に用いられる手法、倒産手続の種類） 2 個別執行との関係、国際倒産の問題点、現在の倒産処理の状況 3 倒産手続の開始原因（債務超過、支払不能）倒産手続の流れ、疎明、費用の予納 4 他の手続との調整、手続開始決定、公告、債権調査、不服申立 5 手続開始の効果（倒産者の管理处分権限、会社等の機関の権限、倒産者に対する通信） 6 共有関係、双務契約、継続的給付 7 取戻権、別除権 8 否認、保全 9 手続に係る機関（監督、調査、管財、管理） 10 債権届出、倒産債権・財団債権・共益債権、届出の効果、債権調査、債権者表の作成と認否 11 債権者集会、財産調査、否認、担保権 12 更生・再生計画、免責、廃止、特則（住宅資金貸付債権、外国倒産処理、簡易再生、小規模個人再生、給与所得者再生） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
倒産関係法登載の携帯六法としては、有斐閣ポケット六法と、三省堂デイリー六法がある。但、いずれも会社更生法は抄録。		下段（講義目的、講義内容の末尾）を参照。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98 以前 律	法律学特講（倒産法） / * * * * * 倒産法 / * * * * * 倒産法	担当者	小川 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>倒産手続は、以上のように決して「倒産者の残務整理」などではなく、経済活動がうまく行かなくなった「倒産」という病理状態を円滑な状態に戻すという経済のいわば医療制度の一端を担うものとなっている。</p> <p>本講義では、倒産手続の全体像を把握するとともに、現在の我が国の経済状況の中で大きな改正が行われたこの制度の今後の行方についても考えることにしたい。</p> <p>春学期は、倒産制度を講義形式により概観し、秋学期には、倒産関連の判例を検討することによって、現在の倒産手続の抱えている問題点を探ることにしたい。</p> <p>春学期末には講義内容の理解度を見るために、筆記試験を行う。秋学期には、判例についてのレポートを提出してもらう予定である。また、状況により筆記試験を行うこともある。</p> <p>原則として、春学期と秋学期両方も履修することを前提に授業を進める予定なので、変則的な履修の仕方を望む学生は担当者に個別に相談していただきたい。</p> <p>受講者の講義への積極的な参加を期待する。</p> <p>試験やレポートによる得点の他に、有意義な質問をしてくれた受講者には、質問あたり、最大5点の加算をする。</p>		<p>判例研究</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 倒産制度の目的 2 倒産原因 3 倒産申立 4 保全 5 手続開始、債権届出 6 債権者の権利行使、取戻権 7 担保権、相殺、税 8 否認 9 未履行契約 10 再建計画 11 経営者の責任 12 国際倒産 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストを強いて挙げれば、谷口安平ほか編「新現代倒産法入門」（法律文化社現代法双書）2002年3,000。また、判例の紹介として、竹内・加藤「倒産判例ガイド」2版（有斐閣）1999年3,675。		上記（講義目的、講義内容の末尾）を参照。	

03～05 律/国	刑事訴訟法 a / *****	担当者	滝沢 誠
99～02 律/国	刑事訴訟法 / *****		
98 以前 律	刑事訴訟法		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わが国の法制度においては、刑法に規定されている犯罪行為を行った行為者には、刑罰が科せられることが予定されています。しかし、当事者の同意があれば、裁判手続を経ることなく、法律関係が規律される民事法とは異なり、犯罪を行った行為者に刑罰を科すには、必ず、刑事裁判において、その当該被告人の犯罪行為が、証拠により、合理的疑いを超える程度に証明されなければなりません。しかも、この手続では、犯罪を行った被疑者・被告人には、憲法により種々の権利が保障されています。この一連の手続を規律するのが、刑事訴訟法です。</p> <p>犯罪が発生した後、事件の真相を明らかにして、刑罰を科す必要があると思われる場合に、公判手続における証拠を収集する必要があります。しかし、国家機関に不必要に大きな権限を与え、犯人及び証拠収集のための一般探索的な捜査行為を許容してしまうと、国民の自由な活動に萎縮を与えてしまうので、捜査の必要性和国家機関による捜査行為のバランスをとる必要があります。</p> <p>そこで、本講義では、犯罪発生以前から、犯罪の発生の予防、犯罪を行ったとされる被疑者の身柄及び証拠を保全し、事案を解明することを目的とする捜査手続を取り扱います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 刑事訴訟法とは？ 2. 刑事訴訟法の目的、刑事訴訟の構造 3. 刑事訴訟の担い手 4. 任意捜査・強制捜査 5. 職務質問、所持品検査 6. 通常逮捕・現行犯逮捕・準現行犯逮捕・緊急逮捕 7. 被疑者取調べ、弁護権・接見交通 8. 別件逮捕・勾留、余罪の取調べ 9. 捜索・押収 10. 令状によらない捜索・押収 11. 体液の採取、写真（ビデオ）撮影 12. 通信傍受、捜査の終了 	
テキスト、参考文献		評価方法	
椎橋隆幸編『はじめて学ぶ刑事訴訟法』（2005年、信山社） 井上正仁編「別冊ジュリスト刑事訴訟法判例百選」第8版（2005年、有斐閣）		学期末に実施する筆記試験のみとします。	

03～05 律/国	刑事訴訟法 b / *****	担当者	滝沢 誠
99～02 律/国	刑事訴訟法 / *****		
98 以前 律	刑事訴訟法		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わが国の法制度においては、刑法に規定されている犯罪行為を行った行為者には、刑罰が科せられることが予定されています。しかし、当事者の同意があれば、裁判手続を経ることなく、法律関係が規律される民事法とは異なり、犯罪を行った行為者に刑罰を科すには、必ず、刑事裁判において、その当該被告人の犯罪行為が、証拠により、合理的疑いを超える程度に証明されなければなりません。しかも、この手続では、犯罪を行った被疑者・被告人には、憲法により種々の権利が保障されています。この一連の手続を規律するのが、刑事訴訟法です。</p> <p>捜査が終了した後、検察官が公訴を提起し、公判手続が開始されると、検察官は、起訴状に記載された被告人の犯罪行為を、証拠により、合理的な疑いを超える程度に証明すると、被告人には有罪判決が言渡されます。この手続においては、被告人には、弁護人の助力を受けながら、検察官の主張を、批判的に吟味することのできる機会が保障される必要があります。</p> <p>そこで、本講義では、検察官が公訴を提起してから始まる公判手続、上訴手続及び再審手続を取り扱います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 国家訴追主義・検察官起訴独占主義 2. 起訴状一本主義 3. 公判手続の概要 4. 訴因変更 5. 証拠開示 6. 証拠法則 7. 挙証責任の転換 8. 自白法則・補強法則 9. 違法収集証拠の排除法則 10. 裁判の種類 11. 一時不再理効 12. 上訴制度、再審制度 	
テキスト、参考文献		評価方法	
椎橋隆幸編『はじめて学ぶ刑事訴訟法』（2005年、信山社） 井上正仁編「別冊ジュリスト刑事訴訟法判例百選」第8版（2005年、有斐閣）		学期末に実施する筆記試験のみとします。	

03～05 律/国	国際法Ⅰ / 国際法Ⅰ	担当者	松田 幹夫
99～02 律/国	国際法Ⅰ / 国際法Ⅰ		
98 以前 律	国際法Ⅰ		
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：国際法の基礎理論の修得 講義概要：テキストの目次を読むこと		1 §Ⅰ 国際法はどんな形式で存在するか 1-3 2 §Ⅰ 国際法はどんな形式で存在するか 4-6 3 §Ⅱ 国家とは 1-3 4 §Ⅱ 国家とは 4-5 5 §Ⅱ 国家とは 6-7 6 §Ⅱ 国家とは 8 7 §Ⅲ 国際機構とは 1-2(1) 8 §Ⅲ 国際機構とは 2(2)-(4) 9 §Ⅲ 国際機構とは 3-4 10 §Ⅲ 国際機構とは 5-7 11 §Ⅳ 個人とは 1-2 12 §Ⅳ 個人とは 3-5	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：松田幹夫編『みぢかな国際法入門』 参考文献：松田幹夫編『演習ノート国際公法』		定期試験（論述式・もちこみ一切不可）	

03～05 律/国	国際法Ⅱ / 国際法Ⅱ	担当者	松田 幹夫
99～02 律/国	国際法Ⅰ / 国際法Ⅰ		
98 以前 律	国際法Ⅰ		
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ		1 §Ⅳ 個人とは 6-7 2 §Ⅴ 裁判権から免除されるとは 1-2 3 §Ⅴ 裁判権から免除されるとは 3-4 4 §Ⅵ 陸とは 1-2 5 §Ⅵ 陸とは 3-5 6 §Ⅶ 海洋法とは 1-3 7 §Ⅶ 海洋法とは 4-7 8 §Ⅶ 海洋法とは 8-11 9 §Ⅷ 空・宇宙とは 10 §Ⅸ 人権は国際的にどう保障されるか 1-3 11 §Ⅸ 人権は国際的にどう保障されるか 4-8 12 §Ⅹ 環境は国際的にどう保護されるか 1-2	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	国際法Ⅲ / 国際法Ⅲ 国際法Ⅱ / 国際法Ⅱ 国際法Ⅱ	担当者	鈴木 淳一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>国際法Ⅰ・Ⅱを継承しつつ、国際問題に対する法的思考力を養成する。</p> <p>講義概要</p> <p>主としてテキストの後半部分が対象である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 国家責任とは (§ X I) 2 紛争を平和的に解決するには (§ X II) 3 武力行使が許されるのは (§ X III) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
松田幹夫編『みぢかな国際法入門』 (不磨書房、2004年)		主として学期末の試験により評価する。 なお、毎回出席をとる	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	国際人道法 / 国際人道法 国際法Ⅱ / 国際法Ⅱ 国際法Ⅱ	担当者	鈴木 淳一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>本講義は、国際法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを継承しつつ、国際法の一分野である国際人道法に関する法的思考力を養成することを目的とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 国際人道法の概念 2 国際武力紛争の範囲 3 害敵手段・方法の規制 (ハーグ法) 4 武力紛争の犠牲者および財産の保護 (ジュネーブ法) 5 人道法の適用確保と違反者の処罰 6 国際刑事裁判所 (ICC) 7 非国際武力紛争と人道法 8 補論：テロと国際人道法 9 日本と国際人道法 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：『国際条約集 2005年版』(有斐閣)</p> <p>参考文献：藤田久一『新版 国際人道法 再増補』(有信堂、2003年)</p>		主として出席と学期末の記述式テストによる。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98 以前 律	国際政治学 a / 国際政治学 a 国際政治学 / 国際政治学 国際政治学	担当者	星野 昭吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際政治の現在は著しく日常化し、我々の生存は国際政治の在り方に大きく依存している。我々は、安全保障や核拡散問題をはじめ、民族・宗教紛争の激化、南北問題の深化、環境破壊の拡大、人口・食糧・エネルギー問題、人権抑圧問題、エイズ・麻薬問題、などの地球的規模の問題群に直面している。この巨大で、複雑で、流動的で、日常化した国際政治の危機構造の本質、その特徴、変容過程などをグローバルな安全保障、経済問題、文化、環境問題などと関係づけて検討する。また、そのために必要な国際政治学の主要な概念や理論についても見ていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 国際政治学の基本的課題ーグローバル政治の構造ー 2 国際政治の構造的変動ー冷戦構造崩壊の意味ー 3 現代国際政治の新しい枠組みー湾岸危機・戦争ー (1) 4 現代国際政治の新しい枠組みー湾岸危機・戦争ー (2) 5 現代国際政治の新しい枠組みーソ連邦の崩壊ー (1) 6 現代国際政治の新しい枠組みーソ連邦の崩壊ー (2) 7 グローバル政治の形成と意義 8 世界政治と安全保障 9 世界政治と経済 10 世界政治と文化 11 世界政治とナショナリズム 12 世界政治と環境問題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
星野昭吉『世界政治の原理と変動ー世界的規模の問題群とその解決ー』同文館 (テキスト)		試験、レポート (書評)、出欠状況による総合評価。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98 以前 律	国際政治学 b / 国際政治学 b 国際政治学 / 国際政治学 国際政治学	担当者	星野 昭吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>我々の日常生活は地球的規模の問題群におおわれているため、巨大で、複雑で、流動的な国際関係の危機構造の本質、特徴、また変革の可能性などの検討が要求されている。そこで、一方の国際 (世界) 政治を構成する主体 (主権国家や脱国家主体など) と、他方のそれら主体間で構成される国際システムと脱国家間関係システムとから成るグローバル・システムと、の二つの視点から国際 (世界) 政治の本質と基本的構造に体系的なアプローチを試みていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 戦後国際政治の基本的枠組み 2 事例ー戦後の日米関係の展開過程ー (1) 3 事例ー戦後の日米関係の展開過程ー (2) 4 事例ー戦後の日米関係の展開過程ー (3) 5 国際政治の主体としての主権国家 6 国家と民族・文化 7 国家と経済社会 8 国家と国民 (市民) 9 国際システムにおける脱国家主体の地位と機能 10 地域主義と行動主体 11 国家間関係の構造と変容 12 脱国家間関係の構造と変容 	
テキスト、参考文献		評価方法	
星野昭吉『世界政治における構造主体と構造』(アジア大学購部ブックセンター)		試験、レポート、出欠状況による総合評価。	

03～05 律/国	日本政治外交史 a / 日本政治外交史 a	担当者	福永 文夫
99～02 律/国	日本政治外交史 / 日本政治外交史		
98 以前 律	日本外交史		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>21 世紀に入っても、日本政治は混迷の淵から抜け出せないでいる。私たちは、出口を求めてさまよっていると見えよう。いずれにせよ、未来の選択は、過去の経験と現在の選択においてしか開かれない。</p> <p>日本政治外交史は隔年で戦前と戦後の政治史を講義している。本年は、戦前日本の政治と外交を論ずることで、この国の越し方を考えてみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 近代日本の基本問題 3. 明治維新 4. 明治6年の政変—内治優先主義 5. 明治憲法体制の成立（1） 6. 明治憲法体制の成立（2） 7. 明治憲法体制の構造 8. 明治初期の外交 9. 東アジアの国際環境 10. 大陸国家への道（1）—日清戦争— 11. 大陸国家への道（2）—日露戦争— 12. 日露戦後の日本の政治と外交 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に定めませんが、講義中に必要に応じて参考文献を指示する。ノートを確実にとり、復習することが望ましい。		定期試験と平常試験によって判定する。詳細については講義中に指示する。	

03～05 律/国	日本政治外交史 b / 日本政治外交史 b	担当者	福永 文夫
99～02 律/国	日本政治外交史 / 日本政治外交史		
98 以前 律	日本外交史		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>21 世紀に入っても、日本政治は混迷の淵から抜け出せないでいる。私たちは、出口を求めてさまよっていると見えよう。いずれにせよ、未来の選択は、過去の経験と現在の選択においてしか開かれない。</p> <p>日本政治外交史は隔年で戦前と戦後の政治史を講義している。本年は、戦前日本の政治と外交を論ずることで、この国の越し方を考えてみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 「藩閥支配」から政党政治へ（1） 3. 「藩閥支配」から政党政治へ（2） 4. 第1次世界大戦と日本外交（1） 5. 第1次世界大戦と日本外交（2） 6. ワシントン体制と日本（1） 7. ワシントン体制と日本（2） 8. 政党政治の展開（1） 9. 政党政治の展開（2） 10. ワシントン体制の崩壊—満州事変— 11. 軍部の時代 12. 「帝国」の破局 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に定めませんが、講義中に必要に応じて参考文献を指示する。ノートを確実にとり、復習することが望ましい。		定期試験と平常試験によって判定する。詳細については講義中に指示する。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98 以前 律	政治学原論 a / 政治学原論 a 政治学原論 / 政治学 政治学原論	担当者	福永 文夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>政治学には二つの顔がある。「政治学は難しい」という声がある一方、政治については誰でも何かを語るができるというのも事実である。そして現在、日本においては、マス・メディアから政治に関するニュースが大量に垂れ流されている。それらは、人々に政治に対する関心を引き起こす一方、逆に政治についてのイメージの混乱を招き、それへの不信・無関心さえ引き起こしている。</p> <p>もちろん「政治とは何か」という問いかけに対し、即座に答えることは難しい。本講義では、素人談義ではない、科学としての「政治学」を紹介し、政治に対する見方を養いたい。講義ではできるだけ、日本を題材に説明し、かつ政治学の基礎知識および考え方を紹介したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに—政治と人間— 2. 政策の対立軸—右か左か、保守か進歩か— 3. 自由と自由主義 4. 国家と権力 5. 市民社会と国家 6. 福祉国家 7. 国際社会と国際関係 8. 国際関係—安全保障 9. 国際関係—経済的相互依存 10. 国際制度 11. 民主主義とは何か 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝『政治学』有斐閣		定期試験を基本に評価する。その間、レポートを課す場合もありうる。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98 以前 律	政治学原論 b / 政治学原論 b 政治学原論 / 政治学 政治学原論	担当者	福永 文夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>政治学には、「難しい」という印象がある一方、政治については誰でも何かを語るができるというもう一つの印象がある。そして現在、日本においては、マス・メディアから政治に関するニュースが大量に垂れ流されている。それらは、人々に政治に対する関心を引き起こす一方、逆に政治についてのイメージの混乱を招き、それへの不信・無関心さえ引き起こしている。</p> <p>もちろん「政治とは何か」という問いかけに対し、即座に答えることは難しい。本講義では、床屋談義ではない、科学としての「政治学」を紹介し、政治に対する見方を養いたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに—デモクラシー— 2. 選挙と政治 (1) 3. 選挙と政治 (2) 4. 利益団体と政治 (1) 5. 利益団体と政治 (2) 6. 政党と政治 (1) 7. 政党と政治 (2) 8. 議会と立法過程 (1) 9. 議会と立法過程 (2) 10. 対外政策の形成過程 11. 制度と政策 12. おわりに 	
テキスト、参考文献		評価方法	
久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝『政治学』有斐閣		定期試験を基本に評価する。その間、レポートを課す場合もありうる。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	日本政治論 a / 日本政治論 a **** / 日本政治論 日本の政治	担当者	光田 剛
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちは、日々、ニュース番組や新聞その他で日本の政治について見聞きしている。一人ひとりがそれをどう受けとめるかが日本の民主主義のあり方を決める。どこかで耳にしたことの受け売りではない（もちろんこの授業の受け売りでもない!）「自分の日本政治論」を身につけることが、この授業の目的である。</p> <p>「日本政治論 a」では、前半で現在の日本の政党政治の成り立ちを学び、後半では現在の日本政治の構造をさまざまな角度から学んでいく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.序論——日本政治を見る視点 2.日本政党政治の起源：大正デモクラシーと政党政治 3.日本政党政治の起源：戦後政治の起源 4.55年体制とは何か 5.利益誘導と政治：田中角栄について 6.利益誘導と政治：ケーススタディー 7.官僚と政治家 8.派閥とは何か 9.選挙と政治 10.連立政権の理論 11.野党 12.政党政治の現在 	
テキスト、参考文献		評価方法	
石川真澄『新版 戦後政治史』岩波新書		学期途中と学期末にレポートを課する。このレポートと出席による。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	日本政治論 b / 日本政治論 b **** / 日本政治論 日本の政治	担当者	光田 剛
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちは、日々、ニュース番組や新聞その他で日本の政治について見聞きしている。一人ひとりがそれをどう受けとめるかが日本の民主主義のあり方を決める。どこかで耳にしたことの受け売りではない（もちろんこの授業の受け売りでもない!）「自分の日本政治論」を身につけることが、この授業の目的である。</p> <p>「日本政治論 b」では、前半で1970年代後半からの日本政治の展開を学び(1970年代前半の田中角栄首相時代まではごく概略的に「日本政治論 a」で扱う)、後半では現在の日本の経済・財政政策、外交、安全保障などの論点をとり上げる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.序論——1970年代後半の日本政治 2.中曽根改革とは何だったか? 3.バブル崩壊期の政治 4.九三年政変：細川政権の成立 5.九三年政変：羽田政権の崩壊まで 6.村山・橋本政権の時代 7.平成不況 8.変わる派閥政治? 9.日本の外交：日本の対アジア外交 10.日本の外交：九・一一と日本外交 11.日本の安全保障 12.構造改革の中間評価 	
テキスト、参考文献		評価方法	
石川真澄『新版 戦後政治史』岩波新書		学期途中と学期末にレポートを課する。このレポートと出席による。	

03～05 律/国	地方自治論 a / 地方自治論 a	担当者	雨宮 昭一
99～02 律/国	地方自治 / 地方自治論		
98 以前 律	地方自治		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地方自治とは、地方自治体と住民双方にかかわり、多様な側面をもっている。それぞれがどのようなモデルで議論されているかを最初に学んだほうが、かえって多様で豊かな地方自治の実態がより鮮明に認識されると考えるので、地方自治論 a では理論モデルを中心に学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 「BS は、ぜんぶやる」は公共的か 2. 国家と社会の関係の中での地方自治 3. 現代統治構造における「地方」 4. 専門職能化・ネットワーク・地方政府 5. 地方自治をめぐる理論 6. 地方自治は目的か道具か 7. 中央政府、地方政府 8. 福祉と地方自治 9. 自治体は福祉をどの位するべきか 10. 地方分権「ブーム」 11. 分権の分析モデル 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>秋月謙吾『行政・地方自治』東大出版会 2001年 佐藤竺監修・今川晃編著『市民のための地方自治入門』実務教育出版 2002年</p>		平常のテストないしレポート 50 点、定期試験 50 点。	

03～05 律/国	地方自治論 b / 地方自治論 b	担当者	雨宮 昭一
99～02 律/国	地方自治 / 地方自治論		
98 以前 律	地方自治		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、地方自治論 a での理論研究を前提にして、地方自治の極めて具体的な実態を行政の側より、住民の側から見てみたい。それが、行政サイドにとっても有意義だと考えられるからである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域づくりの諸主体と変化 2. 地方自治の歩み 3. 地方自治の仕組み 4. 地方財政 5. 地方自治と住民の役割 6. 自治体の内部組織 7. 自治体職員 8. 開かれた自治体—情報 9. 政策の立案、実施、是正と住民 10. 自治体の再編成—合併と広域行政 11. 自治体運営の新しい動き—NPM・PIF 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>佐藤竺監修・今川晃編著『市民のための地方自治入門』実務教育出版 2002年 秋月謙吾『行政・地方自治』東大出版会 2001年</p>		平常のテストないしレポート 50 点、定期試験 50 点。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98 以前 律	政治思想史 a / 西洋政治思想史 a 政治思想史 / 西洋政治思想史 政治思想史	担当者	柴田 平三郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目標] 思想や哲学が疎んじられている。現在の世界の知的状況を印象論的にいえば、そういえるかもしれない。いつ頃から、そしてどうして、そうなってしまったのか。本講義では、こういう問題意識を内に秘めながら、西洋政治思想の流れを概観する。過去を知ることは現在と未来を考えることの不可欠な前提である。</p> <p>[講義概要] 一口に政治思想といっても、そこには様々なタイプやニュアンスの相違がある。そうした政治思想の歴史的展開を時代や社会の変化のなかで捉えながら、私たち自身の想像力と感性を養っていききたい。講義では、古代—中世—近代—現代という時系列で進むことになるが、実はこうした時代区分自体がゆらいでいる。そのことも講義のなかで明らかにするつもりである。</p> <p>[受講者への要望] 講義の一層の理解とテキストを補足する資料（プリント）を毎回配布するので、必ず受け取ること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 政治思想史をはじめるにあたって：全体ガイダンス 2 政治思想史の課題と方法 3 思想の基礎としての古典古代あるいは地中海世界の題性 4 ギリシアの政治思想Ⅰ（ソクラテスをめぐる知の状況） 5 ギリシアの政治思想Ⅱ（プラトン） 6 ギリシアの政治思想Ⅲ（アリストテレス） 7 ヘレニズム時代の政治思想 8 古代ローマの政治思想—キケロとセネカ 9 キリスト教と西洋政治思想の伝統 10 アウグスティヌスの政治思想（1） 11 アウグスティヌスの政治思想（2） 12 前期のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
柴田平三郎『政治思想史講義ノート』而立書房、1995年 J・B・モラル『中世の政治思想』平凡社、2002年		定期試験で評価する	

03～05 律/国 99～02 律/国 98 以前 律	政治思想史 b / 西洋政治思想史 b 政治思想史 / 西洋政治思想史 政治思想史	担当者	柴田 平三郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目標] 思想や哲学が疎んじられている。現在の世界の知的状況を印象論的にいえば、そういえるかもしれない。いつ頃から、そしてどうして、そうなってしまったのか。本講義では、こういう問題意識を内に秘めながら、西洋政治思想の流れを概観する。過去を知ることは現在と未来を考えることの不可欠な前提である。</p> <p>[講義概要] 一口に政治思想といっても、そこには様々なタイプやニュアンスの相違がある。そうした政治思想の歴史的展開を時代や社会の変化のなかで捉えながら、私たち自身の想像力と感性を養っていききたい。講義では、古代—中世—近代—現代という時系列で進むことになるが、実はこうした時代区分自体がゆらいでいる。そのことも講義のなかで明らかにするつもりである。</p> <p>[受講者への要望] 講義の一層の理解とテキストを補足する資料（プリント）を毎回配布するので、必ず受け取ること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 中世と中世政治思想の今日的意味 2 中世政治思想Ⅰ（ソールズベリーのジョン） 3 中世政治思想Ⅱ（トマス・アクィナス） 4 ルネサンスの政治思想（マキアヴェリ） 5 宗教改革の政治思想（ルターとカルヴァン） 6 近代の政治思想Ⅰ（ホッブズ） 7 近代の政治思想Ⅱ（ロック） 8 近代の政治思想Ⅲ（ルソー） 9 保守主義の政治思想（パークを中心に） 10 自由主義の政治思想（ベンサム・ミル・トックヴィル） 11 社会主義の政治思想（マルクス） 12 後期のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
柴田平三郎『政治思想史講義ノート』而立書房、1995年 J・B・モラル『中世の政治思想』平凡社、2002年		定期試験で評価する	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	行政学 a / 行政学 a 行政学 / 行政学 行政学	担当者	雨宮 昭一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代行政の諸側面を、歴史的・構造的な条件の中で考え、自らが行政を認識できる能力を高め、深めたい。 春学期は、行政の制度や組織を中心に論じ、その改革の意味と位置も考えたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代と行政サービスの範囲 2. 官僚制と大衆民主制 3. 官僚制から公務員制へ 4. アメリカ行政学の展開 5. 日本における行政学 6. 政府体系－中央集権と地方分権 7. 戦後日本の中央－地方関係 8. 分権改革の到達点と残された課題 9. 議院内閣制と省庁制 10. 公務員制度 11. 官僚制論 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
西尾勝『行政学』（新版）有斐閣 2001年		平常のテストないしレポート 50点、定期試験 50点。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	行政学 b / 行政学 b 行政学 / 行政学 行政学	担当者	雨宮 昭一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代行政の諸側面を、歴史的・構造的な条件の中で考え、自らが行政を認識できる能力を高め、深めたい。 秋学期は、行政の職員、政策、予算、責任などについて考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 官僚制組織の行動の仕方 2. 職員の行動様式 3. ストリート・レベルの行政職員 4. 第一線職員と対象集団 5. 官僚制批判の系譜 6. キャリアとノンキャリア 7. 政策形式と政策立案 8. 環境の変化と政策立案 9. 日本の中央省庁の意思決定方式 10. 予算と会計 11. 行政活動の能率と行政改革 12. 行政責任と説明責任 	
テキスト、参考文献		評価方法	
西尾勝『行政学』（新版）有斐閣 2001年		平常のテストないしレポート 50点、定期試験 50点。	

03～05 律	法律学特講（青少年保護法総論—少年犯罪と少年法）		
99～02 律	法律学特講 B（青少年保護法総論—少年犯罪と少年法）	担当者	安部 哲夫
98 以前 律	法律学特講 B（青少年保護法総論—少年犯罪と少年法）		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「児童の権利条約」は、わが国の青少年の権利についての再認識を生み出したが、同時に青少年の健全育成と保護の思想を具体化する取組みを焦点の課題とした。2003年12月に示された「青少年育成施策大綱」においても、すべての国民と、あらゆるレベルでの青少年育成への取組みが示されたところである。</p> <p>本授業では、青少年保護に関する法令（少年法、児童福祉法、学校教育法、青少年健全育成条例など）や、青少年および青少年相互の諸問題について考察を深めることを目的とするが、春学期では、非行問題を中心に、少年非行の現状、背景、非行原因、法的対応、立法上の課題などを中心に講義を進める。具体的には、青少年保護にかかわる問題を「家庭」「学校」「地域」「社会」といった枠組みの中で検討してゆくが、一貫して「青少年の自立と大人社会の責任」を強調する。</p> <p>秋学期の授業と併せて履修することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 青少年保護法への導入（児童虐待への法的対応から考える） 2. 青少年保護法の概要①（児童憲章・児童の権利条約） 3. 青少年保護法の概要②（少年福祉阻害犯罪） 4. 青少年保護の法原理（自己決定と保護主義） 5. 青少年保護の歴史（救貧政策・感化教育・自立支援） 6. 少年非行の現状（諸外国とわが国の動向） 7. 少年非行の原因と非行理論 8. 少年非行と補導（警察、非行発見） 9. 少年非行と審判（家庭裁判所・少年鑑別所の役割） 10. 少年非行と矯正（少年院、少年刑務所） 11. 少年非行と保護（保護観察） 12. 少年司法の改革（少年法の改正とその後） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>指定教材：安部哲夫『青少年保護法』尚学社，2002年 参考教材：内閣府『青少年白書』財務省印刷局，2004年</p>		出席および授業内テスト・レポートを総合的に評価する。出席を重視する。	

03～05 律	法律学特講（青少年保護法各論—被害者としての青少年）		
99～02 律	法律学特講 B（青少年保護法各論—被害者としての青少年）	担当者	安部 哲夫
98 以前 律	法律学特講 B（青少年保護法各論—被害者としての青少年）		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「児童の権利条約」は、わが国の青少年の権利についての再認識を生み出したが、同時に青少年の健全育成と保護の思想を具体化する取組みを焦点の課題とした。2003年12月に示された「青少年育成施策大綱」においても、すべての国民と、あらゆるレベルでの青少年育成への取組みが示されたところである。</p> <p>本授業では、青少年保護に関する法令（少年法、児童福祉法、学校教育法、青少年健全育成条例など）や、青少年および青少年相互の諸問題について考察を深めることを目的とするが、秋学期では、少年の福祉を害する犯罪を中止に講義を進めるが、「家庭」における児童虐待や、「学校」における体罰やいじめ問題、「地域」における青少年育成活動、「社会」における青少年社会環境問題を取り上げる。この場合も、春学期に続いて「青少年の自立と大人社会の責任」を強調する。</p> <p>春学期の授業と併せて履修してほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 青少年問題と法概論（少年法と青少年保護法制） 2. 児童虐待とその対策（児童虐待防止法の意義と再編） 3. 児童の権利擁護をめぐる 4. 体罰事件とその対策（裁判例を読む） 5. いじめ問題と不登校 6. 青少年の喫煙・飲酒と保護法制 7. 青少年の薬物乱用の実態と対策 8. 青少年の性行動と法的対応（自立と保護の狭間で） 9. 有害表現・有害情報と青少年 10. 青少年の保護・育成・支援の担い手たち 11. 青少年健全育成条例の展開 12. 青少年育成基本法の成立へ向けて 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>指定教材：安部哲夫『青少年保護法』尚学社，2002年 参考教材：内閣府『青少年白書』財務省印刷局，2004年</p>		出席および授業内テスト・レポートを総合的に評価する。出席を重視する。	

03~05 律/国	法律学特講 (初めての著作権法) /	*****	担当者	長塚 真琴
99~02 律/国	法律学特講 B (初めての著作権法) /	*****		
98 以前 律	法律学特講 B (初めての著作権法)			
講義目的、講義概要		授業計画		
<p>本やCDやパッケージソフトなどの「中身」は、文章や音楽やコンピュータ・プログラムである。これらの「中身」を他人が勝手にコピーしたり、真似したりしたら、著作権法の出番である。</p> <p>この講義は、著作権法に関する基礎知識を身につけることを目的とする。民法など他の法律の予備知識がなくても、努力すれば単位取得は可能である。</p> <p>教科書(開講時に指定する)とレジュメを用い、裁判例に関する画像やウェブサイトなど、視覚情報も重視しつつ講義を進める。レジュメは講義の始めにまとめて販売ないし配布する予定。</p> <p>講義には、著作権法の条文を持参すること。入手のしかたはガイダンスの際に解説する。</p> <p>講義のサイトはこちら。 http://www2.dokkyo.ac.jp/~less0080/</p> <p>○履修上の注意：情報教員の免許取得を取得するためには、著作権法aと著作権法bの、両方の単位を取得する必要がある。</p>		1 ガイダンスと導入 2 著作物1 3 著作物2 4 著作者と著作権者 5 著作者人格権 6 著作権1 7 著作権2 8 著作権の制限1 9 著作権の制限2 10 著作権の譲渡とライセンス 11 著作隣接権 12 著作権の侵害		
テキスト、参考文献		評価方法		
教科書：開講時に指定する 参考書：『著作権判例百選〔第3版〕』(別冊ジュリスト156)		定期試験と、講義中の小テストまたはレポートによる。出席は合否がきわどい場合のみ考慮する。		

03~05 律/国	法律学特講 (著作権法の諸問題) /	*****	担当者	長塚 真琴
99~02 律/国	法律学特講 B (著作権法の諸問題) /	*****		
98 以前 律	法律学特講 B (著作権法の諸問題)			
講義目的、講義概要		授業計画		
<p>この講義では、著作権法に関する基礎知識を踏まえて、著作物の主要な分野について、実際に起こった紛争を詳しく解説する。その際、著作権処理の実務についてもできるだけ触れる。情報教員免許科目であることを考慮して、高校の教育活動において生じがちな著作権問題もとりあげる。</p> <p>下記の2冊の教科書とレジュメを用い、裁判例に関する画像やウェブサイトなど、視覚情報も重視しつつ講義を進める。レジュメは講義の始め(夏休み明け)に、まとめて販売ないし配布する予定。</p> <p>講義には、著作権法の条文を持参すること。入手のしかたはガイダンスの際に解説する。</p> <p>講義のサイトはこちら。 http://www2.dokkyo.ac.jp/~less0080/</p> <p>○履修上の注意：この講義は応用編である。前期の著作権法aを履修するなどして、著作権法に関する基礎知識があることを前提とする。基礎知識なしでこの講義をいきなり履修しても、単位を取得できない可能性が高い。</p>		1 ガイダンスと導入 2 言語著作物の紛争1 3 言語著作物の紛争2 4 音楽著作物の紛争1 5 音楽著作物の紛争2 6 美術著作物の紛争1 7 美術著作物の紛争2 8 映画著作物の紛争 9 プログラムとゲームをめぐる紛争1 10 プログラムとゲームをめぐる紛争2 11 高校教育と著作権 12 インターネットと著作権		
テキスト、参考文献		評価方法		
教科書：①著作権法aで用いたもの、②『著作権判例百選〔第3版〕』(別冊ジュリスト156)		定期試験と、講義中の小テストまたはレポートによる。出席は合否がきわどい場合のみ考慮する。		

03~05 律/国	法律学特講（経済刑法1） / ****		
99~02 律/国	法律学特講B（経済刑法1） / ****	担当者	野村 稔
98以前 律	法律学特講B（経済刑法1）		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済刑法は、経済活動に関する犯罪と刑罰を研究対象とする。それは、大まかに分類すれば、第1には経済活動の基本的秩序に違反する行為、第2には個々の経済活動の秩序に違反する行為、第3におよそ経済活動ないし経済取引に伴って生じる犯罪行為に区別される。したがって、これに関する法は刑法のみならず、第1の分野に係わる独占禁止法や第2の分野に係わる、例えば、証券取引法などの各種のいわゆる業法の問題となる。</p> <p>この講義では主たる経済犯罪の領域を検討し、刑法の基本的諸原則を念頭に置きつつ経済犯罪に特有の原理を追求する。その際刑法の謙抑性を考慮しつつ、刑罰と他の制裁手段との経済犯罪防止の機能的関連性を考え、併せて経済犯罪の仕組み・実態を社会・経済構造との関係で分析する。</p> <p>なお、授業中の質問を歓迎する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 経済刑法序論 2 両罰規定・法人の犯罪能力 3 独禁法の仕組み・罰則の適用手続き等 4 私的独占罪・不当取引制限罪等 5 独禁法改正問題 6 相場操縦罪 7 インサイダー取引罪 8 損失保証・損失補填罪 9 特別背任罪 10 会社荒らし・利益供与罪 11 預合いの罪 12 まとめ <p>なお、必要に応じて時事的に話題となった事件（資料事前配布）を取り上げて検討する。例えば、政治資金規正法および独禁法の改正問題。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
野村 稔著『経済刑法の論点』現代法律出版（2002年） なお、必要に応じて資料を配布する。		定期試験の成績による。	

03~05 律/国	法律学特講（経済刑法2） / ****		
99~02 律/国	法律学特講B（経済刑法2） / ****	担当者	野村 稔
98以前 律	法律学特講B（経済刑法2）		
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<ol style="list-style-type: none"> 1 消費者金融・多重債務者を巡る犯罪 2 出資法違反（1） 3 出資法違反（2） 4 悪徳商法・ネズミ講 5 カード犯罪 6 租税逋脱犯（1） 7 租税逋脱犯（2） 8 会社の計算規定・決算の仕組み 9 粉飾決算を巡る犯罪 10 組織的犯罪処罰法 11 弁護士懲戒制度・非弁提携の規制 12 まとめ <p>なお、必要に応じて時事的に話題となった事件（資料事前配布）を取り上げて検討する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

03～05 律/国	***** / *****	担当者	*****
99～02 律/国	***** / *****		
98 以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03～05 律/国	法律学特講（借地借家法） / *****	担当者	小柳 春一郎
99～02 律/国	法律学特講B（借地借家法） / *****		
98 以前 律	法律学特講B（借地借家法）		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>借地借家法は身近で重要な法律である。東京都では50%近い世帯が借家世帯であり、持家の約10%が借地の上にある。最近でも、定期借地権（平成3年）、定期借家権（平成11年）、終身借家権（平成13年）の創設など議論が多い。平成17年には定期借地についての改正法案が提出される予定である。本講義の目的は、他の法律との関連にも注意しつつ、借地借家法の規定の意義を明らかにすることである。</p> <p>借家編と借地編に分け、それぞれの講義を行う。借地では、土地についての借地と土地の上の建物所有という二つの点を理解しなければならず、また、借地のための法制度として地上権と賃借権があり、やや複雑であるのに対し、借家は建物の賃貸借という面に絞って検討すれば足りるため、借地借家法の条文の順番とは逆に、借家法から論ずる。</p> <p>講義に際しては、民法の一般的な法理との関係のみならず権利の実現という面から訴訟・執行との関係についても言及する。</p>		<p>1 借地及び借家の意義 借地とは何か。借家とは何か。関連する法律にはどのようなものがあるか。</p> <p>2 借家の期間 借家契約は期間満了でどうなるか。正当事由制度とは何か。</p> <p>3 借家権の対抗力 借家人は、借家が売却されたら退去するのか。妨害排除はできるのか。</p> <p>4 借家人の契約上の権利・義務 借家人の一度の賃料不払で、賃貸人は契約を解除しうるか。</p> <p>5 借家権の譲渡・転貸 借家が賃貸人の承諾を得て転貸されたときいかなる法律関係が生まれるか。</p> <p>6 近年の諸問題 定期借家・終身借家は、何を目的にしているか。破産は借家契約にどう影響するか。</p> <p>7 借地権の意義 借地権にはどのような種類があるか。土地の賃貸借一般とどう異なるか。</p> <p>8 借地権の期間 借地期間が満了したときには、どのような法律関係になるか。</p> <p>9 定期借地権 3種類の定期借地権の特徴は何か。</p> <p>10 借地権の対抗力 土地が売却されたとき、借地権はどうなるか。建物はどうなるか。</p> <p>11 借地権者の権利・義務 借地権者は、建物増改築できるか。地主の承諾がないとどうなるか。</p> <p>12 借地権の譲渡・転貸 借地上の建物売却、抵当権設定にはどのような法的問題があるか。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
民法現代語化等に対応した本が今年前半に出版されるのを待って、9月頃に指定・発表する。		学期末試験を主とする。 数回出席を取り評価に加算する。	

03~05 律/国	***** / *****	担当者	*****
99~02 律/国	***** / *****		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03~05 律/国	法律学特講 (ヨーロッパ法史) / *****	担当者	藤田 貴宏
99~02 律/国	法律学特講B (ヨーロッパ法史) / *****		
98以前 律	法律学特講B (ヨーロッパ法史)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>古代ローマから19世紀のヨーロッパに至る法制度及び学説の史的変遷を概観します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 古代ローマの法 3. ローマ法の再生と大学 4. 封建社会と法 5. ローマ法と教会法 6. ローマ法と固有法 7. 宗教改革と法 8. 人文主義と法 9. ローマ法の実用化 10. 自然法と法典編纂 11. 市民社会の成立と法 12. まとめと補充 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で適宜指示します。		学期末試験	

03～05 律/国	法曹特講（民事法1） / ****	担当者	遠藤 研一郎
99～02 律/国	**** / ****		
98以前 律	****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、民法（財産法）の基礎を一応理解している学生諸君を対象に、さらなるステップアップとして、民法の諸制度・概念を、より立体的・多角的に捉えられるような視点を持つことを目標とする。</p> <p>そもそも、民法の制度・概念には、1つの問題に複数の異なった角度からの分析が必要なものや、いくつかの制度を多角的に結合して論じる必要があるものが少なからず存在する。しかし、ただ単に教科書を読み進めているだけでは、このような視点はなかなか醸成されない。そこで、本講義では、学生向雑誌である『法学教室』に掲載された論稿が単行本化した下記テキストを素材にして、右に列挙したテーマについてやや深く検討を加えることとしたい。特に、法曹や資格試験等を目指して学習している諸君にとって、立体的・多角的視点を得ることは必要不可欠であると思われる。そのような者の積極的な履修を期待する。</p> <p><注> 本講義を履修する前提として、（本学の財産法の講義を全て履修している必要はないが、課外授業や自習などにより）民法の全体像と基礎的知識を一応修得している必要がある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 詐欺・錯誤と契約締結における情報提供義務 2. 準法律行為、消滅時効と除斥期間 3. 団体法理・共有法理・契約法理 対抗要件と権利保護要件・権利行使要件 4. 占有の意義と機能、建築物の所有権の帰属 5. 代償請求権と物上代位 動産売買先取特権と所有権留保・譲渡担保 6. 転抵当と被担保債権の譲渡・質入の競合 対抗要件の規定と他の規定との衝突 7. 保証と物上保証、債権の移転と債務の移転 8. 契約当事者の地位の移転 錯誤・担保責任・債務不履行 9. サービス契約の法理と課題、継続的契約の維持と解消 10. 「現存利益」について、契約責任と不法行為責任 11. 企業の賠償責任、原因競合 12. 複数賠償義務者とその内部関係 損害の重複填補とその調整 	
テキスト、参考文献		評価方法	
池田真朗＝吉村良一＝松本恒雄＝高橋眞『マルチラテラル民法』（有斐閣、2002年）。第1回目の授業から使うので、事前に購入して必ず持参すること。		レポート、他者のレポートに対するコメント、授業への積極的な参加態度によって総合評価する。	

03～05 律/国	**** / ****	担当者	*****
99～02 律/国	**** / ****		
98以前 律	****		
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03～05 律/国	**** / ****	担当者	*****
99～02 律/国	**** / ****		
98以前 律	****		
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03～05 律/国	法曹特講（刑事法1） / ****	担当者	中空 壽雅
99～02 律/国	**** / ****		
98以前 律	****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、事例問題を素材にして刑法総論の重要問題についての学説状況の徹底的な理解を図るとともに、事例問題答案作成のために利用できるだけのスキルを身につけることを目的とする。そのために、通常の講義形態でなく、演習形態で授業を運営する。受講生は、テキストの指定部分を授業前に予習して授業に参加することが必要である。また、答案作成練習も数回行うので、レポートの形で提出すること。</p> <p>かなりハードな授業になるので、強い意思をもって参加してほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 刑法総論の基礎知識の確認 2. 相当因果関係 3. 被害者の承諾、危険運転致死傷罪と危険引受 4. 自殺関与と殺人罪、瑕疵ある同意 5. 挑発行為と正当防衛 6. 緊急避難・過剰避難 7. 具体的事実の錯誤・抽象的事実の錯誤 8. 誤想過剰防衛 9. 故意・作為義務の錯誤 / 遺棄罪 10. 原因において自由な行為 11. 間接正犯と教唆 12. 過剰防衛と共同正犯 	
テキスト、参考文献		評価方法	
木村光江『演習刑法』（東大出版会）		講義中の小テストとレポートで評価する。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	経済原論 a / ***** 経済原論 / ***** 経済原論	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのようにに経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動① 3. 家計の行動② 4. 家計の行動③ 5. 企業の行動① 6. 企業の行動② 7. 企業の行動③ 8. 不完全競争の理論 9. 市場の理論① 10. 市場の理論② 11. 厚生経済学の基本定理 12. 市場の失敗 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として試験の成績で評価する。出席を考慮する場合もある。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	経済原論 b / ***** 経済原論 / ***** 経済原論	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのようにに経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. IS-LM 分析 9. 物価とインフレーション 10. 失業の問題 11. 経済成長論 12. 開放マクロ経済 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として試験の成績で評価する。出席を考慮する場合もある。	

03~05 律/国	会計学 a / *****	担当者	内倉 滋
99~02 律/国	会計学 / *****		
98 以前 律	会計学		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>企業会計もまた1つの言語であるとしばしば評されるが、言語を対象とした科学の分野には、その文法を純粹形式的に明らかにしていく「構文論」と、言葉の持つ意味の解明を試みる「意味論」と、社会的制度の中での言葉の用いられ方を研究する「語用論」とがある。本講義は、「簿記原理」という構文論の知識を前提に（それゆえ、少なくとも「簿記原理 a」を修得していることが望ましい）、それに内容的な意味付けを試みていくところの、会計学における「意味論」に相当するものである。その後展開される会計学における「語用論」（＝「経営分析論」等の応用・専門学科目）への1つの橋渡しとなるものだ、とも言える。</p> <p>なお授業計画は右に掲げるとおりであるが、おおむね「会計学 a」では、会社の決算書の作成にかかわる諸ルールの概要説明をしていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 本講義の目的等 2 テキスト第1章: 決算書から見える世界[≒会計学の2つの領域] 3 テキスト第2章: 会計と決算[≒複式簿記の原理]…その1 4 テキスト第2章: 会計と決算[≒複式簿記の原理]…その2 5 テキスト第2章: 会計と決算[≒複式簿記の原理]…その3 6 テキスト第2章: 会計と決算[≒複式簿記の原理]…その4 7 テキスト第3章: 決算書のルール…その1 8 テキスト第3章: 決算書のルール…その2 9 テキスト第3章: 決算書のルール…その3 10 テキスト第3章: 決算書のルール…その4 11 テキスト第4章: 製造会社の決算書[≒原価計算論]…その1 12 テキスト第4章: 製造会社の決算書[≒原価計算論]…その2 	
テキスト、参考文献		評価方法	
山浦久司・廣本敏郎 編著、『ガイダンス企業会計入門[第2版]』（白桃書房）		評価の中心は期末試験の結果である。その際には、相対評価を基本とし、絶対評価を加味したい。	

03~05 律/国	会計学 b / *****	担当者	内倉 滋
99~02 律/国	会計学 / *****		
98 以前 律	会計学		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「会計学 a」の知識を前提として「会計学 b」では、「会計監査論」、「管理会計論」、「経営分析論」、「税務会計論」といった領域の諸問題を、テキストブックに沿った形で講義していきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 テキスト第5章: 決算書の信頼性を確かめる[≒会計監査論]…その1 2 テキスト第5章: 決算書の信頼性を確かめる[≒会計監査論]…その2 3 テキスト第6章: 決算書の内部利用[≒会計監査論]…その1 4 テキスト第6章: 決算書の内部利用[≒会計監査論]…その2 5 テキスト第7章: 決算書を読んでみよう[≒経営分析論]…その1 6 テキスト第7章: 決算書を読んでみよう[≒経営分析論]…その2 7 テキスト第7章: 決算書を読んでみよう[≒経営分析論]…その3 8 テキスト第7章 補論書: キャッシュフロー計算書の作成 9 テキスト第8章: 決算書と税金[≒財務会計論]…その1 10 テキスト第8章: 決算書と税金[≒財務会計論]…その2 11 テキスト第8章: 決算書と税金[≒財務会計論]…その3 12 特論 (03年度は「1株当たり利益」の問題を取り上げた) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
「会計学 a」と同様。		「会計学 a」と同様。	

03～05 律/国	法政総合講座——犯罪被害者と司法の課題	担当者	安部 哲夫
99～02 律/国	法政総合講座——犯罪被害者と司法の課題		
98以前 律	総合講座——犯罪被害者と司法の課題		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近年、犯罪被害者をめぐる司法実務や立法の現状の場面で、顕著な動きが見られた。犯罪被害者への金銭的補償制度や被害者の刑事司法上の地位の改善のみならず、被害者支援の法的基盤づくりや、「犯罪被害者等基本法」の確立など、急速な展開を見せている。また、地道で、継続的な被害者支援への市民的取組みも広がりを見せ、確かなものになってきている。「修復的司法」の考え方も、わが国に根付き始めている。犯罪を予防するにしても、刑事事件として処理するにしても、また犯罪者を矯正し、社会復帰させるにしても、今日では「被害者の視点」を抜きに語ることはできない。</p> <p>今年度春学期の法政総合講座では、被害者の司法的課題に詳しい専門家をお呼びして、内外の状況と、わが国の今後の課題について、それぞれの専門的立場から情報提供と問題提起をしていただくことにした。</p> <p>導入と総括は、安部が担当するほかは、授業計画に予定されている課題で、ゲストスピーカーをお呼びする。予定表については、導入（第1回目）の際に配布する。</p>		<p>以下は当面の予定です。 外部講師との関係でテーマが変更される場合もあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入・開講にあたって (犯罪被害者をめぐる刑事司法の現在と課題) 2. 犯罪被害者等基本法の成立と被害者支援 3. 犯罪被害者と捜査機関 4. 犯罪被害者給付金支給法の運用実務から 5. 犯罪被害者と刑事裁判（わが国の現状と課題） 6. 罪被害者の刑事裁判への参加（ドイツの状況） 7. ドイツにおける損害回復の現状と課題 8. わが国における修復的司法の実践（弁護士の取組み） 9. 犯罪者の社会復帰と被害者の保護（矯正と保護） 10. イギリスにおける修復的司法の現在 11. わが国における被害者支援の実践 12. 総括（改めて被害者の権利を考える） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書はとくに指定しない。		出席およびレポートによる。	

03～05 律/国	法政総合講座「21世紀の地球規模問題」	担当者	一之瀬 高博
99～02 律/国	法政総合講座「21世紀の地球規模問題」		
98以前 律	総合講座「21世紀の地球規模問題」		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 本講座の目的は、国際協力の第一線で活躍されている方々を講師として招き、国際社会が抱える地球規模の問題（例えば、平和構築、ジェンダー、貧困、教育等）とそれへの取組みについて理解することです。具体的には、独立行政法人国際協力機構（JICA）、青年海外協力隊、非政府機関（NGO）など、国内外で活躍されている方々から、直接皆さんに講義をしていただきます。</p> <p>〔講義概要〕 授業中に関連する文献等の紹介を、コーディネーターがしますので、予習をしてください。また、講義の内容を受けて、中間レポートを作成してもらうこともあります。学期末には、一連の講義を踏まえて、特定の地球規模問題に関して現状・対策・課題を論じるレポートを作成・提出してもらいます。</p>		<p>第1回（初回）と第12回（最終回）のみ、コーディネーターが担当します。それ以外は、JICAやNGOなどから講師を派遣してもらう予定です（具体的な内容については、後日掲示します）。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義時に指示があります。		出席と講義メモ提出（毎回）、学期末レポート、中間レポートなどにより評価します。	

03～05 律/国	***** / 比較法概論 a	担当者	田島 裕
99～02 律/国	***** / 比較法原論		
98 以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わが国の判例データベースで調査すると、外国法に関する判例は数十万件の及ぶことが分かる。今日では、外国法についてある程度の知識をもっていることが必要となっている。また、国際法の発展にともない、比較法の重要性が高まっている。しかし、現在、191カ国すべての国の法律を短期間のあいだに学ぶことは不可能であり、工夫をして全体像をつかまなければならない。この工夫が比較法であり、研究の方法論である。比較法の目的は区々であり、それぞれの目的に従って方法論も異なる。</p> <p>まず第一に、世界の諸国の法律は、英米法系と大陸法系に大分類することができる。これを説明した後、立法を目的とする比較法、法律解釈を目的とする比較法、諸外国の法文化（法意識など）を理解するための比較法、新しい国際社会を形成するための比較法について講義する。また、比較法の古典的な研究として、国際比較法文化論の観点から、モンテスキュー『法の精神』（1748年）、歴史法学の比較法の観点から、メーン『古代法』（1861年）を紹介する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 比較法とは何か 2 英米法と大陸法 3 立法議会と裁判所・法律家 4 立法のための比較法 5 法律解釈のための比較法 6 諸外国の法文化（法意識など）を理解するための比較法 7 文化国家が承認する法の一般原則 8 縦の比較と横の比較（モンテスキューとメーン） 9 国際法と比較法の融合 10 比較法原論のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
田島裕著『比較法の方法』（信山社、1998年）		予め承認された研究テーマについてレポートを作成してもらい、このレポートに基づいて評価する。	

03～05 律/国	***** / 比較法概論 b	担当者	田島 裕
99～02 律/国	***** / 比較法原論		
98 以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前半（春期）で講義したさまざまな比較法の方法をいくつかの法領域に応用することによって、比較法の理解を深める。どの法領域を取り上げるかは、受講生と相談しながら決めることにしたい。少なくとも、契約法、過失責任（医療過誤を含む）、土地所有権の観念、裁判所の社会的機能、司法審査の役割、アクセスの問題は取り上げる予定である。また、最近、アメリカの UCC は実務上実定法と同じ程度に重要になっているので、その第2編および第9編には注目したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 比較法各論——前半の講義のまとめ 2 契約理論の比較検討 3 過失責任の比較研究 4 医療過誤と生命 5 土地所有権の比較法 6 裁判官による法創造機能 7 違憲立法審査の積極主義と消極主義 8 司法アクセスと司法改革 9 国際法・比較法の現代的意義 10 結語 	
テキスト、参考文献		評価方法	
田島裕著『比較法の方法』（信山社、1998年） その他、随時、参考書を紹介する。		予め承認された研究テーマについてレポートを作成してもらい、このレポートに基づいて評価する。	

03～05 律/国	***** / 比較政治 a	担当者	浦部 浩之
99～02 律/国	***** / 比較政治		
98以前 律	比較政治		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「開発の政治学」をテーマに講義を進めていきたい。 近代化や開発・発展の問題は「比較政治学」の恰好の題材といえる。比較政治とは本来、さまざまな国の政治制度や政治過程など（例えば連邦制や投票行動など）を共通の分析枠組みによって比較研究することであるが（各国間比較のみならず一国の通時的比較も含まれる）、とりわけ「政治の発展」を考察しようとするとき、その射程には必然的に、すべての国の通時的・共時的状況が収まってくることになる。それゆえ、この問題を比較政治の立場から照射することは、世界全体の政治の歩み、現状、そして将来の課題への理解を深めることにもつながってこよう。</p> <p>本講義は、具体的には右欄のとおりの流れで進めていく。まず開発政治学の課題として国際政治の主要論点とそれに対する取り組みについて学び、続いて途上国における紛争と平和の構築の課題について考える。〔以上、春学期〕</p> <p>（秋学期の欄に続く）</p>		<p>I. 開発政治の論点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球環境問題と南北対立 2. 貧困と環境破壊の悪循環 3. 開発戦略の変遷 a : 援助と貿易 4. 開発戦略の変遷 b : 構造調整と人間開発 <p>II. 開発政治と平和構築</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 国連憲章と平和維持活動 (PKO) 6. 地域紛争の事例研究 a : モザンビーク 7. 地域紛争の事例研究 b : エルサルバドル 8. 日本による国際平和協力活動 <p>III. 開発政治の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 紛争終結後の平和構築・開発の課題 10. 貧困と「人間の安全保障」 11. 経済開発とグッドガバナンス 12. 紛争予防と復興支援の模索 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験（これに出席状況を加味する）。	

03～05 律/国	***** / 比較政治 b	担当者	浦部 浩之
99～02 律/国	***** / 比較政治		
98以前 律	比較政治		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（春学期の欄からの続き）</p> <p>そして、先進国と途上国を視野に入れて政治発展が画一的に実現するものなのか否かを考え、最後に比較政治学の主要な理論枠組みについて検討する。なお、事例としては「ラテンアメリカの政治発展」を中心にとりあげてみたい。〔以上、秋学期〕</p> <p>本講義は比較政治学的な分析視角を養うことを一つの目標としているが、同時に、教養として、21世紀に生きる我われの政治的課題を広く知り、考えてみる機会にしていきたいと思う。</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>本講義は全体で一つの流れを構成している。したがって、03年度以降の入学者は、できれば1年間を通じて履修してほしい。それができない場合は春学期のみの履修とすることを望む（秋学期のみの履修はできれば避けてほしい）。</p>		<p>IV. 近代化の比較政治</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 欧米の政治発展 a : 議会制と政治参加 2. 欧米の政治発展 b : 大統領制と議院内閣制 3. 途上国の政治発展 a : 近代化と政治秩序 4. 途上国の政治発展 b : 発展の地域的固有性 <p>V. ラテンアメリカの政治発展</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. ポピュリズム論（近代化とナショナリズム） 6. 官僚主義的権威主義論（クーデタと開発主義） 7. 民軍関係論（軍と政治） 8. 民主化論・民主主義論（民主化の波） <p>VI. 比較政治の分析枠組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 普遍理論と地域理論の交錯 10. 経済発展と民主化との相関性の検討 11. 民主化とグローバリズム 12. 民主主義の維持と国際協調 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験（これに出席状況を加味する）。	

03~05 律/国	***** / 国際組織法	担当者	松田 幹夫
99~02 律/国	***** / 国際組織法		
98 以前 律	国際組織		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的は、国際組織への法的アプローチ。 講義概要は、おもな国際組織のみを重点的にとりあげる。可能な限り日本との関係について言及するのが特色。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 序論 2 国際組織の歴史 3 国際連盟の成立と解散 4 国際連盟の構造と機能 5 委任統治 6 P C I J 7 国連の成立 8 国連加盟国 9 国連の構造と機能 (1) 10 国連の構造と機能 (2) 11 国連の集団安保体制 12 PKO 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはなし。 参考文献は、毎回配布するレジюме末尾に掲げる。</p>		<p>定期試験 (論述式) 参照一切不可</p>	

03~05 律/国	***** / 国際組織法	担当者	松田 幹夫
99~02 律/国	***** / 国際組織法		
98 以前 律	国際組織		
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ		<ol style="list-style-type: none"> 1 信託統治と非自治地域 2 ICJ(1) 3 ICJ(2) 4 世界人権宣言の成立まで 5 国際人権規約の成立以後 6 冷戦期からポスト冷戦期にかけての国連 7 NATO 8 欧州統合への動き 9 欧州統合の始まり 10 EC 11 EU(1) 12 EU(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	***** / 国際人権法 a ***** / 国際人権法 *****	担当者	高佐 智美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(1) 講義目的</p> <p>① 国際人権保障の意義及びあり方を学習する</p> <p>② 日本における人権問題を認識する</p> <p>③ 日本における人権問題へ国際的な人権基準をどう適用していくかを考察する</p> <p>(2) 講義概要</p> <p>① 国際的な人権保障の仕組み並びに組織（国際的＋地域的）について</p> <p>② 人権条約から見た日本における人権問題 e.g. 女性、子ども、受刑者、外国人など</p>		<p>1 国際人権法の意義と歴史</p> <p>2 国際人権法の国内的実施－1</p> <p>3 国際人権法の国内的実施－2</p> <p>4 国際人権法の国際的实施－1</p> <p>5 国際人権法の国際的实施－2</p> <p>6 地域的人権保障－1</p> <p>7 地域的人権保障－2</p> <p>8 B 規約と日本－1</p> <p>9 B 規約と日本－2</p> <p>10 刑事手続上の人権（ビデオ）</p> <p>11 刑事手続上の人権－1</p> <p>12 刑事手続上の人権－2</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
http://www2.dokkyo.ac.jp/~less0060/ ←このサイトの syllabus から講義で使うプリントを DL して各自印刷して持ってくるように		定期試験＋2～3 回の小テストの合計点	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	***** / 国際人権法 b ***** / 国際人権法 *****	担当者	高佐 智美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(1) 講義目的</p> <p>① 国際人権保障の意義及びあり方を学習する</p> <p>② 日本における人権問題を認識する</p> <p>③ 日本における人権問題へ国際的な人権基準をどう適用していくかを考察する</p> <p>(2) 講義概要</p> <p>① 国際的な人権保障の仕組み並びに組織（国際的＋地域的）について</p> <p>② 人権条約から見た日本における人権問題 e.g. 女性、子ども、受刑者、外国人など</p>		<p>1 マイノリティの人権－1</p> <p>2 マイノリティの人権－2</p> <p>3 女性の人権－1</p> <p>4 女性の人権－2</p> <p>5 子どもの人権－1</p> <p>6 子どもの人権－2</p> <p>7 外国人の人権－1</p> <p>8 外国人の人権－2</p> <p>9 外国人の人権－3</p> <p>10 難民の人権</p> <p>11 戦後補償－1</p> <p>12 戦後補償－2</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
http://www2.dokkyo.ac.jp/~less0060/ ←このサイトの syllabus から講義で使うプリントを DL して各自印刷して持ってくるように		定期試験＋2～3 回の小テストの合計点	

03~05 律/国	***** / 国際環境法 a	担当者	一之瀬 高博
99~02 律/国	***** / 国際環境法		
98 以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔注意〕 この講義は、2003 年度以降の入学生には秋学期のみで完結するが(2 単位)、2002 年度までの入学生には通年科目である(4 単位)。</p> <p>〔講義目的〕 国際環境問題および地球環境問題に対処するための国際的な法のしくみを概観する。</p> <p>〔講義概要〕 主に総論にあたる部分として、国際環境問題の性質・歴史、紛争の種類、国家や個人等の紛争当事者の地位、問題解決の基本的手法、国際環境法の基本原則などを検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 国際環境問題とその法的規律の必要性 2 越境汚染と領域使用の管理責任 3 環境損害に関する国家責任 4 環境損害に関する民事責任条約 5 国際環境法の諸原則の発展 6 国際環境保全規範の構造 7 事前防止の実体的規則 8 事前防止の手続的規則①通報・協議 9 事前防止の手続的規則②影響評価 10 環境損害と私法的な救済 11 国際環境紛争と国内法 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは開講時に指示する。参考文献： 水上・西井・臼杵編『国際環境法』有信堂 2001 年</p>		<p>期末試験の成績を重視し、出席・小テスト・レポートも評価の対象にする。</p>	

03~05 律/国	***** / 国際環境法 b	担当者	一之瀬 高博
99~02 律/国	***** / 国際環境法		
98 以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔注意〕 この講義は、2003 年度以降の入学生には秋学期のみで完結するが(2 単位)、2002 年度までの入学生には通年科目である(4 単位)。</p> <p>〔講義目的〕 国際環境問題および地球環境問題に対処するための国際的な法のしくみを概観する。</p> <p>〔講義概要〕 環境条約の内容、国家実行、国際会議や国際機関の対応、具体的紛争等を素材に、個々の環境問題の種類ごとに国際環境法の構造を分析する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1(13) 長距離越境大気汚染、酸性雨 2(14) 地球大気圏・気候変動問題① 3(15) 地球大気圏・気候変動問題② 4(16) 海洋環境の保全① 5(17) 海洋環境の保全② 6(18) 南極の環境保護 7(19) 廃棄物の越境移動 8(20) 原子力と環境 9(21) 生物多様性の保全 10(22) 環境と武力紛争 11(23) 環境と貿易 12(24) まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは開講時に指示する。参考文献： 水上・西井・臼杵編『国際環境法』有信堂 2001 年</p>		<p>期末試験の成績を重視し、出席・小テスト・レポートも評価の対象にする。</p>	

03～05 律/国	***** /	国際経済法	担当者	櫻井 雅夫
99～02 律/国	***** /	国際経済法		
98 以前 律	*****			
講義目的、講義概要			授業計画	
<p>[講義の目的] 卒業後に会社の海外事業部門・法務部門や「開発協力」に関わる機関(J B I C, J I C A, ジェトロなど)で働くことを考えている学生に対して、国際投資と貿易に関わる最低限かつ必須の法律知識を提供することを目的としています。</p> <p>[講義の概要] 単に実務に役立つ知識を詰め込もうとするものではありません。あくまでも、①国際経済特に国際投資とそれに直接関係のある国際貿易の法律現象を正確に把握すること、②その生じる紛争などの問題を多角的に解決するうえでのリーガル・マインドを多少とも会得させます。 「法とは何か」ということよりも「何が問題か、どう解決するか」ということを勉強するわけです。 授業を進めるに当たっては、①数十年間に政府や政府関係機関の調査団に参加して収集してきた国際投資プロジェクトの事例ないし紛争事例を豊富に入れ、②ビデオとパワーポイントを多用するので、理解は進むと思います。</p>			<ol style="list-style-type: none"> 1 国際経済法とは 2 国際投資・貿易の法的仕組み(1) — 投資資金の流れの基本的な法の仕組み 3 国際投資・貿易の法的仕組み(2) — 投資に絡むヒト, モノ, 技術, 情報の移動の法的枠組み 4 国際投資・貿易の法的仕組み(3) — 開発途上国向け協力と国際投資・貿易との関係 5 国際合弁会社設立の法手続と会社運営の概要 6 合弁契約書 7 合弁契約書 8 貸付契約書 9 原材料・機械設備輸出契約書 10 技術援助契約書 11 投資受入れ国の国内法(1) — 契約法、国際私法 12 投資受入れ国の国内法(2) — 契約法、国際私法 	
テキスト、参考文献			評価方法	
櫻井雅夫『新国際投資法』東京：有信堂。			期末試験なし。レポート提出のみ。	

03～05 律/国	***** /	国際関係法特講 (国際経済法)	担当者	櫻井 雅夫
99～02 律/国	***** /	国際経済法		
98 以前 律	*****			
講義目的、講義概要			授業計画	
<p>[[講義の目的] 卒業後に会社の海外事業部門・法務部門や「開発協力」に関わる機関(J B I C, J I C A, ジェトロなど)で働くことを考えている学生に対して、国際投資と貿易に関わる最低限かつ必須の法律知識を提供することを目的としています。</p> <p>[講義の概要] 単に実務に役立つ知識を詰め込もうとするものではありません。あくまでも、①国際経済特に国際投資とそれに直接関係のある国際貿易の法律現象を正確に把握すること、②その生じる紛争などの問題を多角的に解決するうえでのリーガル・マインドを多少とも会得させます。 「法とは何か」ということよりも「何が問題か、どう解決するか」ということを勉強するわけです。 授業を進めるに当たっては、①数十年間に政府や政府関係機関の調査団に参加して収集してきた国際投資プロジェクトの事例ないし紛争事例を豊富に入れ、②ビデオとパワーポイントを多用するので、理解は進むと思います。</p>			<p>秋学期だけを履修する学生も想定し、最初の2回を春学期の授業の要約に充てます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 春学期の復習 2 春学期の復習 3 投資受入れ国の国内法(3) — 会社法 4 投資受入れ国の国内法(4) — 会社法 5 投資受入れ国の国内法(5) — 外為法、外資法 6 投資母国の国内法(1) — 契約法、外為法、国際私法 7 投資母国の国内法(2) — 貿易保険法、租税特別措置法 8 第三国の国内法 — 会社法、税法 9 投資・貿易に関する国際法(1) — 二国間投資・貿易自由化協定 10 投資・貿易に関する国際法(2) — 二国間投資・貿易自由化協定 11 投資・貿易に関する国際法(3) — 地域レベル投資・貿易自由化協定 12 投資・貿易に関する国際法(4) — 多数国間貿易投資・自由化協定 	
テキスト、参考文献			評価方法	
櫻井雅夫『新国際投資法』東京：有信堂。			期末試験なし。レポート提出のみ。	

03～05 律/国	***** / 国際開発協力法	担当者	櫻井 雅夫
99～02 律/国	***** / 国際開発協力法		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目的] 卒業後に会社の海外事業部門・法務部門や開発協力関係機関(JBIC, JICA, ジェトロなど)で働くことを考えている学生に対して、国際投資と貿易に関わる最低限かつ必須の法律知識を提供することを目的としています。</p> <p>[講義の概要] ここでいう「開発協力」は、先進国による対開発途上国の開発のための資金フローのことであり、日本政府がいう「経済協力」とほぼ同じです。いわゆる「ODA」は、その代表例です。 この講義は、単に実務に役立つ知識を詰め込もうとしたり、空虚な開発論を披瀝したりするものでもありません。 あくまでも①開発協力の仕組み全般、②その定義、③その法制度を会得させ、開発協力政策に対する判断力を醸成するものです。 授業を進めるに当たっては、①数十年間に政府や政府関係機関の調査団に参加して収集してきた国際投資プロジェクトの事例ないし紛争事例を豊富に入れ、②ビデオとパワーポイントを多用するので、理解はすすむと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 開発協力の枠組み 1 — 開発協力の仕組みの概要 2 開発協力の枠組み 2 — OECD, DACメンバーの定義、「移行国・より進んだ開発途上国」の定義と「公的援助」 3 開発協力の枠組み 3 — 開発協力法と国際経済法・国際取引法・外国法との関係 4 開発協力の枠組み 4 — 国の予算など、開発協力資金の出所 5 開発協力の枠組み 5 — 開発協力の実施機関(JBIC, JICAなど) 6 開発協力の枠組み 6 — 開発協力の法制度 7 ODA1 — ODA(政府開発援助)の定義 8 ODA2 — DAC(開発援助委員会)のODA政策 9 ODA3 — 日本のODA政策 10 ODA4 — 贈与-資本協力1:一般無償などの仕組み 11 ODA5 — 贈与-資本協力2:災害無償などの仕組み 12 ODA6 — 贈与-技術協力:研修員受入れ、青年海外協力隊派遣などの仕組み 	
テキスト、参考文献		評価方法	
櫻井雅夫『開発協力—その仕組みと法』東京:国際経済法センター		期末試験なし。レポート提出のみ。	

03～05 律/国	***** / 国際関係法特講(国際開発協力法)	担当者	櫻井 雅夫
99～02 律/国	***** / 国際開発協力法		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目的] 卒業後に会社の海外事業部門・法務部門や開発協力関係機関(JBIC, JICA, ジェトロなど)で働くことを考えている学生に対して、国際投資と貿易に関わる最低限かつ必須の法律知識を提供することを目的としています。</p> <p>[講義の概要] ここでいう「開発協力」は、先進国による対開発途上国の開発のための資金フローのことであり、日本政府がいう「経済協力」とほぼ同じです。いわゆる「ODA」は、その代表例です。 この講義は、単に実務に役立つ知識を詰め込もうとしたり、空虚な開発論を披瀝したりするものでもありません。 あくまでも①開発協力の仕組み全般、②その定義、③その法制度を会得させ、開発協力政策に対する判断力を醸成するものです。 授業を進めるに当たっては、①数十年間に政府や政府関係機関の調査団に参加して収集してきた国際投資プロジェクトの事例ないし紛争事例を豊富に入れ、②ビデオとパワーポイントを多用するので、理解はすすむと思います。</p>		<p>秋学期だけを履修する学生も想定し、最初の2回を春学期の授業の要約に充てます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 春学期の復習 2 春学期の復習 3 ODA7 — 開発借款の仕組みと実施手続 4 ODA8 — その他: JBICなどの借款案件の仕組み 5 OOF1 — その他政府資金協力(OOF)の定義、公的輸出信用供与の仕組み 6 OOF2 — 直接投資金融などの仕組み 7 PF1 — 民間資本協力(PF)、民間輸出信用供与の仕組み 8 PF2 — 直接投資の仕組みと外為法 9 PF3 — 直接投資に関わる法制度(1): 契約法、会社法、国際私法など 10 PF4 — 直接投資に関わる法制度(2): 投資紛争解決条約、多数国間投資保証機関条約など 11 民間任意団体に依る贈与の仕組み 12 国際機関を通じる協力の仕組み: 世銀などによる借款 	
テキスト、参考文献		評価方法	
櫻井雅夫『開発協力—その仕組みと法』東京:国際経済法センター		期末試験なし。レポート提出のみ。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	**** / 国際租税法-1 **** / 国際租税法 ****	担当者	石村 耕治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人事交流やビジネス活動の国際化が急速に進むなか、自国のみならず、相手国の税法さらには租税条約などを見ないで、税金問題を考えるのは難しくなってきました。例えば、学生諸君は、将来、自分が勤めた会社がアメリカの会社を買収されることになるかも知れません。あるいは、自分で会社を起こし、その後、中国に子会社を置くことにしたとします。この場合、双方の会社間の課税関係はどうなるのでしょうか。国際租税法は、まさに、こうしたグローバルな課税問題について学ぶ科目です。</p> <p>国際租税法を学ぶには日本税法(国内税法)の基礎知識が必要不可欠です。例年、国内税法の知識のほとんどない学生諸君がこの科目を履修しています。こうした現実を踏まえて、当初は国内税法を素材にして、税法の基礎知識が深められるように配慮しながら、できるだけやさしく授業を進めます。</p> <p>なお、1(春学期)と2(秋学期)とを継続して履修するようにしてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 国際租税法で何を学ぶのか～人や企業活動のグローバル化と税金問題の国際化 2 国内税法と国際税法の接点～国際租税法とは何か 3 国内実体税法の仕組み～①所得課税、②資産課税、③消費課税 4 所得税の仕組み(1) 5 所得税の仕組み(2) 6 国内租税手続法の仕組み：税金の賦課徴収～①申告納税②源泉徴収③税務調査 7 企業の海外進出と課税問題～②子会社形態での進出と課税、③支店形態での進出と課税 8 国際課税の基本(1)～①納税主体と課税主体、②居住者と非居住者、③納税義務の範囲 9 国際課税の基本(2)～①居住地国と源泉地国、②源泉課税、総合課税、分離課税 10 国際課税の基本(3)～恒久的施設(PE)とは何か、 11 租税条約とは何か～①多数国間租税条約、②双務的対応：二国間租税条約、③片務的対応 12 レビュー 	
テキスト、参考文献		評価方法	
石村耕治編『現代税法入門塾〔改訂版〕』清文社		①期末試験～80%(論文式の筆記試験)、②小レポート(1回)5%、③出席15%	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	**** / 国際租税法-2 **** / 国際租税法 ****	担当者	石村 耕治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人事交流やビジネス活動の国際化が急速に進むなか、自国のみならず、相手国の税法さらには租税条約などを見ないで税金問題を考えるのは難しくなってきました。例えば、学生諸君が、将来、勤め先の日本企業からアメリカの支店に派遣されたとします。この場合、日本とアメリカ双方で給料をもらったときには、どこで、どのような税金を払ったらいのかという問題に遭遇するかもしれません。国際租税法はこうしたグローバルな課税問題について学ぶ科目です。</p> <p>春学期の授業を継続する形で、事例などをあげながら、できるだけやさしく講義します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 租税条約と国内税法との関係、わが国の非居住者課税の基礎 2 国際租税法の具体的展開～①現実空間取引への課税、②電脳空間取引への課税問題 3 国際的二重課税(1)～①その発生原因、②国内法による対応方式 4 国際的二重課税(2)～③OECDモデル租税条約③二国間租税条約による対応 5 タックス・スペアリング(みなし外国税額控除)とは何か 6 わが国の外国税額控除(1)～①外国税額の直接控除、②外国税額の間接控除 7 わが国の外国税額控除(2)～①みなし外国税額控除、②控除限度額 8 タックス・ヘイブン対策税制とは何か 9 移転価格税制とは何か 10 過少資本税制とは何か 11 海外勤務者の課税問題 12 レビュー 	
テキスト、参考文献		評価方法	
石村耕治編『現代税法入門塾〔改訂版〕』清文社		①期末試験～80%(論文式の筆記試験)、②小レポート(1回)5%、③出席15%	

03～05 律/国	*** / 国際知的財産権法	担当者	長塚 真琴
99～02 律/国	*** / 国際知的財産権法		
98以前 律	***		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>知的財産法分野の国際条約のうちWIPO（世界知的所有権機関）が所管するものについて、基礎的な知識を身につけ、この分野の伝統的な国際秩序を理解することを目的とする。</p> <p>最初の数週は、条約を理解するのに必要な程度で日本法の概要を説明する。</p> <p>その後、特許をはじめとする工業所有権に関するパリ条約、著作権に関するベルヌ条約の2大条約を中心に、近年締結された条約にも触れながら、個別の条約とその基本的な考え方を解説する。</p> <p>下記の教科書とレジュメを用い、裁判例に関する画像やウェブサイトなど、視覚情報も重視しつつ講義を進める。レジュメは講義の始めにまとめて販売しないし配布する予定。</p> <p>講義には、講義対象の法律や条約の条文を持って臨むこと。入手方法はガイダンスの際に説明する。</p> <p>講義のサイトはこちら。 http://www2.dokkyo.ac.jp/~less0080/</p> <p>○履修上の注意：後期からの国際関係法特講の内容も参照するため、併せて履修することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 日本法の概要 1) 特許法・実用新案法 3 日本法の概要 2) 意匠法・商標法・不正競争防止法 4 日本法の概要 3) 著作権法 5 パリ条約 1) 成立史と特許関係規定 6 パリ条約 2) 特許関係規定 7 特許協力条約 8 ブダペスト条約とUPOV条約 9 特許をめぐる南北問題とパリ条約改正 10 商標・意匠・原産地表示の国際条約 11 ベルヌ条約 12 ベルヌ条約(続き)とその他の著作権関係条約 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：高倉成男『知的財産権と国際政策』（有斐閣、2001年）		定期試験と、講義中の小テストまたはレポートによる。出席は合否がきわどい場合のみ考慮する。	

03～05 律/国	*** / 国際関係法特講（グローバル化と知的財産権）	担当者	長塚 真琴
99～02 律/国	*** / 国際知的財産権法		
98以前 律	***		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>TRIPs協定を批判的に検討する。1995年に発効した同協定は、WTO協定の付属書の1つであり、知的財産法分野の伝統的な国際条約と比べると、いくつかの点で異質であるといえる。この講義では、同協定を従来の国際条約と比較しつつ、その成立過程、その内容、その問題点等について、解説を加えていく。</p> <p>その後、同協定を新自由主義的グローバル化の文脈の中に位置付け、同協定下の世界で生じた新たな諸問題について検討する。</p> <p>下記の教科書とレジュメを用い、ビデオやウェブサイトなど、視覚情報も重視しつつ講義を進める。レジュメは講義の始め（夏休み明け）に、まとめて販売しないし配布する予定。</p> <p>講義には、講義対象の協定の条文を持って臨むこと。入手方法はガイダンスの際に説明する。</p> <p>講義のサイトはこちら。 http://www2.dokkyo.ac.jp/~less0080/</p> <p>○履修上の注意：前期の国際知的財産権法の内容も参照するため、併せて履修することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 GATTからWTOへ 3 WTOと知的財産権—TRIPs協定制定の経緯— 4 WTOの諸原則と紛争処理機構 5 TRIPs協定 1) 特許・実用新案 6 TRIPs協定 2) 商標・意匠・地理的表示等 7 TRIPs協定 3) 著作権 8 TRIPs協定のインパクト 1) 必須医薬品問題 1) 9 TRIPs協定のインパクト 2) 必須医薬品問題 2) 10 TRIPs協定のインパクト 3) 遺伝子特許 1) 11 TRIPs協定のインパクト 4) 遺伝子特許 2) 12 TRIPs協定のインパクト 5) バイオパイヤシー 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：高倉成男『知的財産権と国際政策』（有斐閣、2001年）		定期試験と、講義中の小テストまたはレポートによる。出席は合否がきわどい場合のみ考慮する。	

03～05 律/国	***** / 国際家族法	担当者	常岡 史子
99～02 律/国	***** / 国際家族法		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>家族関係の形成・変動について国際化の影響が確実に広まりつつある現在、家族の法律関係について、日本法のみで対応することのできない問題が加速度的に増えている。また、これまで伝統や歴史を色濃く反映し、国ごとの独自性が強く現れる分野と考えられてきた家族法においても、国際的な潮流や世論がその動向に大きな影響を与えつつある。そこでは、国際法・国際私法も視野に入れつつ、このような事態に対応しうる新たな法規範の確立が求められている。</p> <p>本講義では、国際社会が家族法に与える影響と涉外身分関係の基本的理解を目的として、婚姻、親子、相続に関する民法、戸籍法、国籍法、法例の内容を概観する。そこでは、法律概念の説明とともに、代表的な裁判例を取り上げ、紛争の実態の把握に努める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 国籍と戸籍 2 婚姻の成立 3 婚姻の法的効果 4 離婚原因と離婚の方式(1) 5 離婚原因と離婚の方式(2) 6 親権と子どもの監護 7 親子：実子 8 親子：養子 9 法定相続制度(1) 10 法定相続制度(2) 11 遺言の機能 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
松川正毅『民法 親族・相続』有斐閣アルマ		学期末に行う定期試験の成績によって評価する。	

03～05 律/国	***** / *****	担当者	常岡 史子
99～02 律/国	***** / 国際家族法		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>家族の法的規律に関する基本的制度についての理解をもとに、子どもの権利条約をはじめとする家族に関わる諸条約や規約の目的と意義、それらが国内の家族法に与える影響等を検討する。基本的人権や法の下での平等といった観点からも、各国共通の理念となりうる家族法のあり方について考えてみたい。さらに、人工生殖や同性婚という現代社会において新たに生じてきた課題についても、比較法の視点を交えながら考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 家族に関わる条約と国内法 2 子どもの権利条約 3 子の奪い合い紛争と子どもの意見表明権 4 婚外子の権利保障 5 国際養子縁組 6 児童虐待とドメスティックバイオレンス 7 生殖補助医療と家族法 8 同性のパートナーシップ 9 相続における配偶者の地位 10 高齢化社会と家族 11 家族の保護と国家機関の役割 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
松川正毅『民法 親族・相続』有斐閣アルマ		学期末に行う定期試験の成績によって評価する。	

03～05 律/国	***** / 国際民事訴訟法	担当者	山田 恒久
99～02 律/国	***** / 国際民事訴訟法		
98 以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectives</p> <p>This course is designed to provide undergraduates with a general education in basic and current issues on international civil procedure.</p> <p>Curriculum</p> <p>This program consists of two components, which are not divisible. Each student is required to attend at all of two courses in the following subjects:</p> <p>Course 1 (Spring) Rules as to Jurisdiction to Adjudicate</p> <p>(1) Jurisdiction in Personam</p> <p>(2) Jurisdiction in Rem</p> <p>(3) Jurisdiction Declined</p> <p>(4) Quasi-Jurisdictional Dismissal</p> <p>Course 2 (Fall) Rules as to Recognition and Enforcement of Foreign Judgments</p> <p>(1) Jurisdiction</p> <p>(2) Natural Justice</p> <p>(3) Public Policy</p> <p>(4) Reciprocity</p>		<p>Course 1 : Rules as to Jurisdiction to Adjudicate</p> <p>[Introduction]</p> <p>1. Theory</p> <p>2. Practice</p> <p>[Jurisdiction in Personam]</p> <p>3. Consent</p> <p>4. Forum benefits and activities</p> <p>5. General formulas</p> <p>6. "Doing-business" statutes</p> <p>[Jurisdiction in Rem]</p> <p>7. Types of in rem jurisdiction</p> <p>[Jurisdiction Declined]</p> <p>8. Forum non convenience</p> <p>9. Foreign actions</p> <p>[Quasi-Jurisdictional Dismissal]</p> <p>10. Procedural incapacity</p> <p>11. Foreign sovereigns</p> <p>12. Res judicata</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Xeroxed materials will be distributed in class appropriately.		Evaluation will be graded according to the results of the final examination and attendance at the lecture.	

03～05 律/国	***** / 国際関係法特講 (国際民事訴訟法)	担当者	山田 恒久
99～02 律/国	***** / 国際民事訴訟法		
98 以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>渉外的な性質を有する私法関係の事例に特化して、訴訟手続上の問題点に関して検討する。また、英米の制度を原点で参照することをも目的とする。</p> <p>個々の問題点に関する受講者の毎回のレポートを中心に、ソクラテスメソッド(討論形式)で問題点を明らかにする方法を採る予定である。</p> <p><学生への注意></p> <p>内容が、事例研究を中心とするため、関連する法分野の単位の修得が前提となる。したがって、原則として、民法・商法の主たる分野と、国際私法、民事訴訟法の単位を修得していることを、受講の条件とする。これらの単位の未修得者が受講を希望する場合には、個別に対応するので、初回の講義日に必ず出席して担当者と面接すること。</p>		<p>[The effect of a foreign judgment]</p> <p>1. Conclusiveness</p> <p>2. Enforcement</p> <p>3. Recognition</p> <p>4. Basis of recognition and enforcement</p> <p>[Requirements for recognition and enforcement]</p> <p>5. International jurisdiction</p> <p>6. Judgments in personam</p> <p>Residence (presence) / Submission/ Other suggested bases</p> <p>7. Judgments in rem</p> <p>8. Finality</p> <p>[Defenses]</p> <p>9. Fraud</p> <p>10. Natural Justice</p> <p>11. Public Policy</p> <p>[Conclusion]</p> <p>12. Conclusion</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		講義の内容の性質上、出席の状況とレポート・討論といった受講の様子、及び最終試験の結果を重視する。	

03～05 律/国	***** / *****	担当者	*****
99～02 律/国	***** / *****		
98 以前 律	***** / *****		
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03～05 律/国	***** / 模擬国際裁判	担当者	鈴木 淳一
99～02 律/国	***** / 模擬国際裁判		
98 以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>模擬国際裁判とは、ある架空の国際事件を想定して、学生が原告・被告・裁判官の三グループに分かれて、自主的に調査・研究を行い、現実の国際裁判さながらに法的主張を競い合う法学教育です。本講義では、外国語で書かれた外交文書を調査したり、大使館等で実務家にインタビューをしたりしながら、書面手続と口頭手続とを行います。これを経ることで、国際法の基礎的問題点を体得することができます。また、グループでの作業が中心となるので、共同で勉強することが苦痛でない人に適した講義です。</p> <p>受講希望者が30名を超える場合、第1回目の講義で、国際法のテストにより選抜します（法学部生を優先します）。法学部以外の学生の場合、全学共通授業科目の国際法 a, 同 b, 法学部の国際法 I、同 II、同 III、国際人道法のいずれかを既に履修していることを受講の前提とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 コースガイダンス——模擬国際裁判とは何か？ 2 課題文と訴状の発表 3 準備段階 4 申述書提出（原告側） 5 答弁書提出（被告側） 6 国際法上の論点を学ぶ 7 口頭弁論 8 判決 9 自己評価と反省 <p>本講義で過去に扱った事例としては、核兵器使用の合法性に関する事件、ミロシェビッチ事件（旧ユーゴスラビア国際刑事裁判所）、拡散安全保障イニシアチブ（PSI）構想、イスラエルの分離壁などがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『国際条約集 2005年版』有斐閣 その他、適宜、参考文献を紹介します。		書面及び発表や模擬裁判への参加態度に基づいて評価します（試験は行いません）。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98 以前 律	**** / 国際関係法特講 (国際労働法1) **** / 国際労働法 ****	担当者	石井 保雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際社会でも国内と同じく、労使が遵守すべきルールの存在が求められるが、これについては、戦前に設立されたILOの存在は重要である。また最近では、EUという地域共同体においても、加盟国に対する共通の労働基準の設定・適用が大きな関心を呼んでいる。「国際労働法」という学問分野は今だ内容が確定していない。その具体的方法としては、日本法を他国の法制度と関連させて、「くらべてみる」ということが重要な基礎作業としてあるかと思う。まずは、この「比較労働法」から入り、ILO87号および98号両条約を規準として、従来多く議論されてきた公共部門労働者の労働基本権問題について検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 「国際労働法」とは、何か? 2 “ILO”とは、何か?—国際労働基準の設定と確保— 3 日本にとってのILO問題—歴史的経緯(戦前の場合)— 4 日本にとってのILO問題—歴史的経緯(戦後の場合)— 5 「結社の自由」と団結権の保護: 87号条約 6 日本法の「労働組合の結成と運営」に対する旧法と現行法の態度 7 労働組合の結成と運営に関するアメリカ法の態度 8 労働組合の結成と運営に関するフランス法の態度 9 団結権・団交権に関するILO98号条約 10 アメリカの“unfair labor practice”と日本の「不当労働行為」制度 11 ILOにおける国際労働基準の設定以外の活動—技術協力と調査・研究— 12 ILOの組織と財政 	
テキスト、参考文献		評価方法	
小西國友『国際労働法〔第二版〕』(綯文社・2001)		定期試験の「結果」如何が基本である。ただしレポートも重視する。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98 以前 律	**** / 国際関係法特講 (国際労働法2) **** / 国際労働法 ****	担当者	石井 保雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「国際労働法」を国際・比較労働法と理解して考察を進めるという基本的立場は春学期と同じである。</p> <p>まず最近ILOが提唱する「ディーセント・ワーク decent work」ということの意味を明らかにし、その後、この言葉に込められた「すべての者に進歩の精華の公正な分配」ということに関係するところのILO条約について示す。次に、それを踏まえ、同ILO条約を規準として日本法の位置を確認する。そのあと、現在日本でも議論されている法的課題について、外国でどのような対応がなされているのかを探ってみたいと思う。日本法を他国の法制度と、「くらべてみる」ということが重要な基礎作業であると重ねて言いたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 「ディーセント・ワーク」とは何か? 2 強制労働の禁止—ILO29号条約(1930)と105号条約(1957)、そして日本政府の態度— 3 ILOにおける児童 or 年少者労働に対する取り組み—最低年齢に関する138号条約(1973)と最悪の形態の児童労働に関する182条約(1999)— 4 差別から自由—差別待遇(雇用及び職業)に関する111号条約(1958)— 5 日本の場合—男女雇用機会均等法の素材として— 6 フランスにおける男女職業平等法の展開 7 家族的責任を有する労働者に関する156号条約(1995)と日本の育児(介護)休業法 8 フランス法における育児休業制度 9 EU法制の枠組みとその発展 10 女性の深夜労働をめぐるILOとEUとの相克 11 セクシュアル・ハラスメントの法理 12 職場いじめ・いやがらせに関する国際動向 	
テキスト、参考文献		評価方法	
小西國友『国際労働法〔第二版〕』(綯文社・2001)		定期試験の「結果」如何が基本である。ただしレポートも重視する。	

03～05 律/国	***** / 国際関係法特講（東南アジア）	担当者	今泉 慎也
99～02 律/国	***** / 地域の法特講（東南アジア）		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>東南アジアは、中国とインドの二大文明の間にあつて、両文明の影響を受けつつ、交易拠点として発展してきた多様性を特徴とする地域である。この地域には、現在 11 の主権国家が含まれるが、各国の法制度もきわめて多様である。本講義では、東南アジア諸国の法制度の歴史や基本構造を理解することを第一の目的とする。</p> <p>また、1990 年代、特に 1997 年のアジア経済危機以降、多くのアジア諸国で政治・経済面での制度改革が進行しつつある。本講義では、近年の制度改革の特徴とその問題点についても考えてみたい。</p> <p>講義では、東南アジア諸国のうち資本主義諸国、特にタイを取り上げる。ベトナムなどの体制移行諸国についても法整備支援などの関係において若干ふれる予定である。</p>		<p>I. 序論・東南アジア諸国の法制度を学ぶ意義 アジア法学について 開発援助・経済協力と法 法の三類型：伝統法・固有法，植民地法，開発法</p> <p>II. 東南アジアの政治経済と法 東南アジアの人，地理，社会 植民地化・近代化と西洋法の受容 開発体制から改革の時代へ</p> <p>III. 主要国の法制度の概観（法制史，統治構造） （各国 2 回程度） 1. マレーシア 2. シンガポール 3. フィリピン 4. インドネシア 5. タイ</p> <p>IV. 経済法制改革の特徴と課題——タイを中心に</p> <p>V. 東南アジアの地域協力と法</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書指定なし。①安田信之『東南アジア法』（日本評論社），②『インターネット法情報ガイド』（日本評論社），③『アクセスガイド外国法』（東京大学出版会）		試験	

03～05 律/国	***** / *****	担当者	*****
99～02 律/国	***** / *****		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03～05 律/国	**** / 比較私法	担当者	藤田 貴宏
99～02 律/国	**** / 比較契約法		
98以前 律	****		
講義目的、講義概要		授業計画	
ヨーロッパ私法史に関する外国語文献を訳読し、日本の法制度の歴史的由来について検討します。		訳読の範囲等は受講者の興味関心に応じて決めます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で配布あるいは指示します。		授業への参加態度	

03～05 律/国	***** / *****	担当者	遠藤 研一郎
99～02 律/国	***** / 比較契約法		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、ドイツの契約法を素材として異（法）文化に触れ、併せて、わが国の契約法と比較検討することにより、法的素養の幅を広げることを目的とする。</p> <p><注> 最低限、第二外国語としてドイツ語を履修していることが望ましい。ただし、履修していなくても、学外の諸講座や自習によりドイツ語をマスターしている場合（または、本講義と平行して修得する意思が明確である場合）は、問題ない。</p>		<p>2002年に施行されたドイツの「債務法現代化法 (Schuldrechtsmodernisierungsgesetz)」に関するテキスト（独語）の一部を選定したうえで、それを読み進め、一定のテーマが終了した時点で同一テーマに関するわが国の契約法を調査し、日独の相違を検討する（時間があれば、次のテーマに移行して、上記のことを繰り返す）。</p> <p>独文テキストは基本的に輪読形式をとり、わが国の契約法の調査については、担当者に発表してもらう。</p> <p>テキストは、履修者の希望や興味を踏まえて決定するので、ここで示さない。第1回目の授業の際に指示する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「債務法現代化法」に関するテキストのコピーを開講時に配布する。		レポート、出席状況等を勘案し、総合評価する。	

03~05 律/国	***** / 比較会社法 a	担当者	周 劍龍
99~02 律/国	***** / 比較会社法		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的： 本講義では、日本、アメリカおよび中国の会社（とくに株式会社）に関する法規制を素材として、3国における株式会社の法規制、とりわけ株式会社の機関に関する法規制の異同を解明する。</p> <p>講義概要： 序論では、市場経済における会社の位置付け、会社の法的性質、会社の形態、有限責任制度、法人格否認の法理などを明らかにする。 本論では、日本、アメリカにおける株式会社の機関の法構造の異同を比較して、解明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、市場経済における会社の位置付け、会社の法的性質 2、会社の形態、有限責任制度、 3、法人格否認の法理、会社の権利能力、日本会社法の沿革 4、日本の株式会社の機関：株主総会（その1） 5、日本の株式会社の機関：株主総会（その2） 6、日本の株式会社の機関：取締役会、代表取締役 7、日本の株式会社の機関：取締役の義務と責任 8、日本の株式会社の機関：監査役（会）、委員会等設置会社 9、アメリカにおける会社の基礎理論、アメリカ会社法の沿革 10、 アメリカの株式会社の機関：株主総会 11、 アメリカの株式会社の機関：取締役会、取締役、執行役 12、 アメリカの株式会社の機関：取締役、執行役の義務と責任 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはとくに指定しない。講義用レジュメや参考資料のコピーなどを配布する。		基本は期末テストによるが、出席状況なども加味する。	

03~05 律/国	***** / 比較会社法 b	担当者	周 劍龍
99~02 律/国	***** / 比較会社法		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 同上</p> <p>講義概要： 序論では、中国会社法を理解するための基礎知識として、中国の国家の性質、政治制度、司法制度を説明する。 本論では、中国会社法の沿革、中国における株式制度と証券市場の導入の意義、中国会社法の枠組み（とりわけ、株式会社の機関）、中国におけるコーポレート・ガバナンスの動向などについてを説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、中国の国家の性質 2、中国の政治制度 3、中国の司法制度 4、中国の会社法の沿革 5、国有企業改革と株式制度の導入 6、株式会社の設立と消滅 7、株式会社の資金調達 8、株式会社の機関：株主総会 9、株式会社の機関：取締役会、取締役、執行役 10、 株式会社の機関：取締役、執行役の義務と責任 11、 株式会社の機関：監査役会 12、 中国におけるコーポレート・ガバナンスの動向 	
テキスト、参考文献		評価方法	
周劍龍「中国ビジネスと法秩序——会社法制・証券法制を中心に——」中央経済社、2005年9月刊行予定。 そのほか、関連資料のコピーを随時配布する。		基本は期末テストによるが、出席状況なども加味する。	

03～05 律/国	***** / 国際関係論 a	担当者	賀川 真理
99～02 律/国	***** / 国際関係論		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今年度の国際関係論は、日米関係に焦点を当てる。日米間の外交関係は、ペリー来航によってはじまったが、日米和親条約締結後150年余り経った今、改めて当時から今日までの日米関係を分析し、それらについての現在における意義を考えてみたい。</p> <p>黒船来航以来、日米関係は変化したのであるか。なぜそう思うのだろうか。国際関係論では、ペリー来航から、太平洋戦争、貿易摩擦、沖縄「返還」、米軍基地問題、イラク戦争、ブッシュ大統領再選に至るまでの日米関係を考察したい。</p> <p>この講義を通じて、日米関係の特殊性に気付いていただければ幸である。なお、春学期には、主として戦前の日米関係をテーマにする予定であるが、両国関係に鑑み、適宜テーマの変更もありうることを了承いただきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要説明 2. ペリー来航と日米和親条約 3. ハリス公使の就任と日米修好通商条約 4. 災害時の国際貢献を考える—サンフランシスコ大震災(1906年)からの教訓 5. 元年者—ハワイ移民の原型 6. サンフランシスコにおける日本人学童隔離問題(1) 7. サンフランシスコにおける日本人学童隔離問題(2) 8. パナマ太平洋万国博覧会と排日土地法 9. 真珠湾攻撃と日本による開戦通告遅延問題 10. 第二次世界大戦下の日系人強制収容と戦後補償(1) 11. 第二次世界大戦下の日系人強制収容と戦後補償(2) 12. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示する。		春学期末の試験を重視する。そのほか、授業中に意見を求めたり、小テストをしたりする可能性がある。	

03～05 律/国	***** / 国際関係論 b	担当者	賀川 真理
99～02 律/国	***** / 国際関係論		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今年度の国際関係論は、日米関係に焦点を当てる。日米間の外交関係は、ペリー来航によってはじまったが、日米和親条約締結後150年余り経った今、改めて当時から今日までの日米関係を分析し、それらについての現在における意義を考えてみたい。</p> <p>黒船来航以来、日米関係は変化したのであるか。なぜそう思うのだろうか。「国際関係論」では、ペリー来航から、太平洋戦争、貿易摩擦、沖縄「返還」、米軍基地問題、イラク戦争、ブッシュ大統領再選に至るまでの日米関係を考察したい。</p> <p>この講義を通じて、日米関係の特殊性に気付いていただければ幸である。なお、秋学期には、主として戦後の日米関係をテーマにする予定であるが、両国関係に鑑み、適宜テーマの変更もありうることを了承いただきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 原爆投下と日米世論(1) 2. 原爆投下と日米世論(2) 3. 原爆投下と日米世論(3) 4. 日米繊維紛争—貿易摩擦の原点 5. 沖縄返還と米軍基地問題(1) 沖縄の歴史 6. 沖縄返還と米軍基地問題(2) 沖縄返還交渉 7. 沖縄返還と米軍基地問題(3) 在日米軍基地 8. 貿易摩擦の進展—ガットのウルグアイ・ラウンドにおけるコメ問題 9. 加速化する地域統合—APEC、NAFTA、EU 10. 先進国首脳会議と日本の役割 11. 日米関係展望 12. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示する。		秋学期末の試験を重視する。そのほか、授業中に意見を求めたり、小テストをしたりする可能性がある。	

03～05 律/国	***** / 平和学 a	担当者	星野 昭吉
99～02 律/国	***** / 平和学		
98 以前 律	平和学		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際紛争（戦争）と平和の問題は著しく日常化し、我々の生存・生活はその在り方によって大きく左右されている。人類に直面している「紛争（戦争）と平和」をめぐるさまざまな問題を解明していく。まず、平和学とは何か。すなわち、平和学の目的・対象・方法・課題などを明らかにする。とりわけ、国際紛争構造の形成・展開・変容過程を分析していくなかで、平和の在り方を位置づけていく。その上で、平和をどう理解することができるか。また、どう理解すべきかを明らかにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 グローバル社会における平和と平和学の現在 2 平和学の形成・発展過程 - (1) 3 平和学の形成・発展過程 - (2) 4 平和学の基本的枠組み - 平和価値と科学性 - 5 平和学の基本的枠組み - 全体志向性と学際性 - 6 現代世界における「紛争と平和の枠組み」 7 国際紛争構造の概念 8 国際紛争構造の意味と特性 9 国際紛争構造の形成・展開過程 - (1) 10 国際紛争構造の形成・展開過程 - (2) 11 国際紛争構造の形成・展開過程 - (3) 12 グローバル紛争構造と平和構造の枠組み 	
テキスト、参考文献		評価方法	
星野昭吉『グローバル社会における「紛争と平和の枠組み」』同文館（テキスト）		試験、レポート（書評）、出欠状況による総合評価。	

03～05 律/国	***** / 平和学 b	担当者	星野 昭吉
99～02 律/国	***** / 平和学		
98 以前 律	平和学		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバル紛争構造の四つの下位的紛争構造、すなわち、暴力紛争（戦争）・南北非対称的紛争構造・アイデンティティ紛争構造・地球環境紛争構造を分析・説明していく。その上で、グローバル・ガバナンスの視点から、それら紛争構造の解決・変革の必要条件と可能条件とを抽出していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 グローバル暴力紛争の構造的な原因 2 暴力紛争と軍事体制 3 暴力紛争と権力配分構造 4 暴力紛争と核抑止戦略 5 暴力紛争と民主的平和 6 南北不平等紛争構造 - (1) 7 南北不平等紛争構造 - (2) 8 アイデンティティ紛争構造 9 地球環境紛争構造 10 「上からのガバナンス」の構造と特性 11 「下からのガバナンス」の構造と特性 12 平和の構築と平和教育 	
テキスト、参考文献		評価方法	
星野昭吉『グローバル社会における「紛争と平和の枠組み」』同文館		試験、レポート（書評）、出欠状況による総合評価。	

03～05 律/国	***** / 国際協力論 a	担当者	片岡 貞治
99～02 律/国	***** / 国際協力論		
98 以前 律	国際開発論		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>論理的思考に基づく理論的枠組の構築のみならず、現実の国際社会の政治現象の実証的研究とが有機的に組み合わせられた形で研究が行われることが不可欠である。本講義では、「国際協力」とは何であるのかを理解するために、国際社会とは何か、国際社会における様々なアクターとは何かを理解した上で、「国際協力」を理論的に定義し、考察していく。法学部の学生に対しては、授業を通して、国際社会とは何かを理解し、国際協力に関する基本的な知識と意識を会得し、現代国際社会の様々な政治経済現象を自分なりに理解し、政治、経済の両面における現在の国際協力のあり方について自分なりの意見を持って貰うことを目的としていく。前半部分において、経済面における国際協力、即ち、経済協力及び開発援助政策についての重点的な分析を行う予定である</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 発展途上国問題と国際開発 3 日本の経済協力政策の史的展開 4 日本の経済協力政策決定形成過程 5 日本の経済協力政策の今後の課題 6-7 主要国の経済協力政策（米国、カナダ、英、仏、独、北欧等） 8-9 多国間開発援助の仕組み 10 国際社会における援助協調のあり方 11 グローバリゼーションと開発 12 ガバナンスと開発 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>原彬久『国際関係学講義』有斐閣 高坂正堯『国際政治』中公新書</p>		<p>試験、レポート、授業態度。</p>	

03～05 律/国	***** / 国際協力論 b	担当者	片岡 貞治
99～02 律/国	***** / 国際協力論		
98 以前 律	国際開発論		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>論理的思考に基づく理論的枠組の構築のみならず、現実の国際社会の政治現象の実証的研究とが有機的に組み合わせられた形で研究が行われることが不可欠である。本講義では、「国際協力」とは何であるのかを理解するために、国際社会とは何か、国際社会における様々なアクターとは何かを理解した上で、「国際協力」を理論的に定義し、考察していく。法学部の学生に対しては、授業を通して、国際社会とは何かを理解し、国際協力に関する基本的な知識と意識を会得し、現代国際社会の様々な政治経済現象を自分なりに理解し、政治、経済の両面における現在の国際協力のあり方について自分なりの意見を持って貰うことを目的としていく。後半部分においては、政治面の国際協力、即ち、国連の集団的安全保障の問題、国連PKO、イラク戦争、多発する紛争や内戦の予防・解決の試み等について重点的な分析を行う予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 9・11テロ攻撃 2 国連の集団的安全保障システム 3 集団的自衛権 4 朝鮮戦争 5 湾岸戦争 6 対タリバーン戦争 7 集団的安全保障の変形としての国連平和維持活動 8 「平和への課題」及びブラヒミ報告 9 湾岸戦争と日本 10 日本とPKO 11 国際平和協力法、イラク特措法、 12 総括（日本と国際協力） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>原彬久『国際関係学講義』有斐閣 高坂正堯『国際政治』中公新書</p>		<p>試験、レポート、授業態度。</p>	

03～05 律/国	***** / 国際関係史 a	担当者	永野 隆行
99～02 律/国	***** / 国際関係史		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、20世紀国際政治の歴史の全体像を把握し、それを21世紀国際関係の「いま（現在）」の理解に役立てることである。国際政治の現象の理解に必要なのは、理論（的枠組み）と歴史（的背景）である。「国際社会論」が前者を提供し、本講義「国際関係史」が後者を学生諸君に提供することになる。</p> <p>本講義では、第二次世界大戦後の歴史を時系列的に辿っていくのではなく、特定のテーマー米ソ対立、ナショナリズムの勃興、核兵器、経済的繁栄と政治、冷戦期と日本一から冷戦という一つの時代を振り返ってみる。</p> <p>なお本講義では、受講者に戦後国際政治史に関する基礎知識があることを前提としていないが、毎回の授業の理解度を深めるためには、予習や復習を怠らないようにしてほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション～第二次世界大戦後の国際関係の歴史を振り返る（第1週） 2. （テーマ別国際関係①）冷戦（第2・3週） 3. （テーマ別国際関係②）脱植民地化（第4・5週） 4. 中間試験実施（第6週） 5. （テーマ別国際関係③）冷戦と核兵器（第7・8週） 6. （テーマ別国際関係④）冷戦と経済繁栄（第9・10週） 7. （テーマ別国際関係⑤）冷戦期の日本とアジア（第11・12週） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
第一回目の授業時に紹介する。		中間試験（選択式）と学期末の最終試験（論述式）による評価。	

03～05 律/国	***** / 国際関係史 b	担当者	永野 隆行
99～02 律/国	***** / 国際関係史		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、第二次世界大戦後のアジア・太平洋地域の国際関係の歴史を、オーストラリアの視点から学んでいきます。</p> <p>ただし、オーストラリアが戦後国際関係の変動に単に受動的に関わってきた歴史を描くのではなく、オーストラリアが主体的に戦後国際関係にどうやって関わろうとしてきたのかを考えながら、講義を進めたいと思っています。</p> <p>確かにオーストラリアは大きな国力を持っておらず、同国が国際関係に能動的・積極的に関わったとしても、それが国際関係の全体的構造や秩序の転換に繋がることはありませんでした。しかし、オーストラリアは限られた国力のもとで、国際関係における自らの立場や役割を常に意識しながら、国益の保持を目指してきたといえるでしょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション～20世紀初頭の戦争とオーストラリアの国家意識の醸成（ビデオ鑑賞：『誓い』）（第1・2・3週） 2. 第二次世界大戦後の世界とオーストラリア～対日講和、アンザス条約、英帝国防衛と東南アジア（第4・5週） 3. アジアにおける冷戦の進展とオーストラリア～マラヤ防衛、第一次インドシナ紛争、東南アジア条約機構の誕生、英連邦戦略予備軍の形成（第6・7週） 4. 中間試験実施（第8週） 5. アジア国際関係の変動とオーストラリア～アジアにおける「イギリスの戦争」と「アメリカの戦争」へのオーストラリアの関与（第9・10週） 6. アジアからの英米の軍事的撤退とオーストラリア～大国間政治に翻弄されるオーストラリア（第11・12週） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
森健編『オーストラリア入門』東京大学出版会、1998年。		中間試験（選択式）と学期末の最終試験（論述式）による評価。	

03～05 律/国	***** / アメリカ政治外交史 a	担当者	賀川 真理
99～02 律/国	***** / アメリカ政治外交史		
98以前 律	アメリカ外交史		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アメリカ合衆国における政治の仕組みを、できる限り身近な問題から理解できるようになることを目的としている。</p> <p>授業を通じて、過去から現在に至るまでにアメリカが選択してきた、政治・外交上の政策を分析することによって、現代のアメリカ政治がより身近に感じられるようになるのではないと思う。</p> <p>春学期の講義では、主としてカリフォルニア政治に焦点を当てたいと考えている。カリフォルニアというと、のどかで親しみ易いイメージを持っている人も多いと思うが、そうした側面がある一方で、現実にはさまざまな問題点を抱えている。同時に、ある意味で全米をリードする動きを見せることもあり、カリフォルニアの動向を見逃すことはできないのではないだろうか。</p> <p>基本的には右の授業計画に沿った講義を行なう予定であるが、カリフォルニアにおいて注目すべき動きがあった場合には、適宜テーマの変更もありうることを了承いただきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要説明 2. アメリカの連邦政治と地方政治 3. カリフォルニアの歴史的背景 4. カリフォルニアにおける住民提案制度 5. 住民提案187号と不法移民対策 6. 住民提案209号とアフーマティヴ・アクションの廃止 7. アメリカの高等教育におけるアフーマティヴ・アクション論争—カリフォルニア州とミシガン州の比較 8. 住民提案227号と二言語教育の廃止 9. 住民提案54号と人種情報の提供廃止 10. カリフォルニアにおけるホームレスと行政 11. カリフォルニアにおける家族問題 12. 国立公園をめぐる政治・経済学 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示する。		春学期末の試験を重視する。そのほか、授業中に意見を求めたり、小テストをしたりする可能性がある。	

03～05 律/国	***** / アメリカ政治外交史 b	担当者	賀川 真理
99～02 律/国	***** / アメリカ政治外交史		
98以前 律	アメリカ外交史		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アメリカ合衆国における政治の仕組みを、できる限り身近な問題から理解できるようになることを目的としている。</p> <p>授業を通じて、過去から現在に至るまでにアメリカが選択してきた、政治・外交上の政策を分析することによって、現代のアメリカ政治がより身近に感じられるようになるのではないと思う。</p> <p>昨年は大統領選挙があり、ブッシュ大統領が再選されたが、皆さんはこれをどのように評価されるであろうか。これからも日本は、アメリカに追随し続けるのであろうか。</p> <p>秋学期の講義では、主としてアメリカの連邦政治と外交に焦点を当てたいと考えている。連邦政治は、どのような仕組みになっているのであろうか。アメリカ大統領の権限は、なぜ強大であるとされているのか。イラク問題に終止符は打たれるのであろうか。</p> <p>基本的には右の授業計画に沿った講義を行なう予定であるが、アメリカにおいて注目すべき動きがあった場合には、適宜テーマの変更もありうることを了承いただきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカ大統領とは 2. アメリカ大統領と選出過程 3. 連邦議会とその特徴 4. 最高裁判所のしくみとその特徴 5. 最高裁判所における事例研究 6. アメリカ外交とは—孤立主義と膨張主義 7. アメリカ外交の歴史（1） 8. アメリカ外交の歴史（2） 9. アメリカ外交とイラク問題 10. アメリカにおけるファースト・レディ 11. アメリカにおける社会福祉 12. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示する。		秋学期末の試験を重視する。そのほか、授業中に意見を求めたり、小テストをしたりする可能性がある。	

03～05 律/国	***** / 現代経済論 a	担当者	黒木 亮
99～02 律/国	***** / 現代経済理論		
98 以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的 本講義の目的は、「経済」の成り立ちや仕組みに関心を持ち、自ら学んでいけるようになるための手がかりを提供することにある。</p> <p>講義の概要 現実の経済社会に関する基礎知識をはじめ、「経済学」の成り立ちや仕組みなどについても触れながら、「経済を学び、経済学を習得する」ための入り口を提供する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 価格設定をめぐる経済学的考察 3 合理的な経営戦略と「需要の価格弾力性」 4・5 安売り戦略の多様性とその背景 6 業界の構造と価格決定の仕組み 7 商品流通の基本構造 8 日本の流通業の変化とその制度的背景 9 ハブ・アンド・スポークの理論と問屋の機能 10 企業の流通戦略と経営戦略 11 企業の経営戦略と独禁法 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
伊藤元重『ビジネス・エコノミクス』 日本経済新聞社、2004年。		レポート、期末試験。	

03～05 律/国	***** / 現代経済論 b	担当者	黒木 亮
99～02 律/国	***** / 現代経済理論		
98 以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的 本講義の目的は、「経済」の成り立ちや仕組みに関心を持ち、自ら学んでいけるようになるための手がかりを提供することにある。</p> <p>講義の概要 現実の経済社会に関する基礎知識をはじめ、「経済学」の成り立ちや仕組みなどについても触れながら、「経済を学び、経済学を習得する」ための入り口を提供する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 資本主義 VS 社会主義：計画経済の問題点 3 市場の論理：裁定取引と「一物一価の法則」 4 市場における組織の論理：企業の存在意義 5 市場と組織の境界線：Voice と Exit 6 「情報の非対称性」と「逆選択」 7 「モラル・ハザード」とペイ・オフ 8 契約の不完全性とホールドアップ問題 9 多様な契約形態とエイジェンシー関係 10 ゲーム理論の考え方 11 ゲーム理論で読み解く競争社会と企業戦略 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
伊藤元重『ビジネス・エコノミクス』 日本経済新聞社、2004年。		レポート、期末試験。	

03～05 律/国	***** / 日本経済論 a	担当者	波形 昭一
99～02 律/国	***** / 日本経済論		
98 以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現在の日本経済を理解するには、その生い立ちを知っておくことが重要である。とりわけ高度成長期についての知識が不可欠である。そのため「日本経済論 a」では、高度成長期における日本経済の問題を中心に講義する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 戦後民主化政策と経済改革 3. 戦後経済復興対策 4. ドッジ・ラインとシャープ勧告 5. 朝鮮戦争と日本経済 6. 高度成長時代の到来 7. 高度成長の構造 8. 高度成長の精神的土台 9. 高度成長の時代背景 10. 高度成長の終焉 (1) ドル・ショック 11. 高度成長の終焉 (2) オイル・ショック 12. 日本経済の構造転換 	
テキスト、参考文献		評価方法	
主に統計表などのプリントを配布。		学期末試験の結果（通年講義は春期・秋期の合計）で評価する。相対評価方法を採用。	

03～05 律/国	***** / 日本経済論 b	担当者	波形 昭一
99～02 律/国	***** / 日本経済論		
98 以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1970 年代後半から日本経済をめぐる内外の諸環境は大きく構造転換し、その結果として現在の日本経済がある。したがって「日本経済論 b」では、春学期の講義をふまえて、70 年代後半からの日本経済の構造変化、その結果としてのバブル経済と「失われた 10 年」について論述し、そのうえで最近における日本経済の再建論議の可否を議論してみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. スタグフレーションとトリレンマ 2. レーガノミクス 3. グローバル化の波 4. 日本経済のバブル化 5. バブル経済の発生原因 6. バブル崩壊と複合不況 7. 「失われた 10 年」(1) 8. 「失われた 10 年」(2) 9. 景気対策か構造改革か (1) 10. 景気対策か構造改革か (2) 11. 「第三の道」論 12. まとめ 日本経済の現状 	
テキスト、参考文献		評価方法	
主に統計表などのプリントを配布。		学期末試験の結果（通年講義は春期・秋期の合計）で評価する。相対評価方法を採用。	

03～05 律/国	***** / 国際経済論 a	担当者	益山 光央
99～02 律/国	***** / 国際経済論		
98 以前 律	国際経済論		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際経済を理解するのに最低限必要と思われる基本的事項を講義します。講義の中心は貿易理論、国際貿易の一般均衡、貿易政策となります。講義で扱う内容は、よりすすんだ諸理論を学ぶのに必須の事項なので厳密な展開を心がけたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 入門 2 リカード的比較優位説 3 ヘクシャー・オリーン定理 4 ヘクシャー・オリーン定理 5 国際貿易の一般均衡 6 国際貿易の一般均衡 7 経済成長と貿易 8 国際生産要素移動 9 国際生産要素移動 10 関税・輸入数量制限 11 関税・輸入数量制限 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>大山道広・伊藤元重『国際貿易』 岩波書店</p>		<p>定期試験 80%、出席 20%</p>	

03～05 律/国	***** / 国際経済論 b	担当者	益山 光央
99～02 律/国	***** / 国際経済論		
98 以前 律	国際経済論		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に扱った貿易理論とともに国際経済学の柱である国際収支調整メカニズムに関連する事柄を学びます。</p> <p>国際収支の赤字、黒字からはじまり、だんだんと高度な内容へと移行します。すべて基本的内容なので、きちんと理解する必要があります。</p> <p>前期の国際経済論 a を履修しているほうがより理解が深まります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 国際収支と国民所得勘定 2 国際収支と国民所得勘定 3 外国為替市場 4 外国為替市場 5 外国為替市場 6 固定相場制下の所得決定 7 固定相場制下の所得決定 8 変動相場制下の所得決定 9 変動相場制下の所得決定 10 国際収支と財政・金融政策 11 国際資本移動と財政・金融政策 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>未定</p>		<p>定期試験 80%、出席 20%</p>	

03~05 律/国	***** / 国際金融論 a	担当者	山本 美樹子
99~02 律/国	***** / 国際金融論		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
国際金融論をまなぶうえで基本となる事柄についての説明をしていく。		1、イントロダクション 2、国際収支構造 1 国際収支表 3、 2 経常収支が黒字であることの意味 4、 3 経常収支の金融的側面 5、 4、 Jカーブ効果 6、外国為替市場と為替レート 1 外国為替相場 7、 2 リスクヘッジ 8、 3、 投機(i) 9、 投機(ii) 10、 4、 介入 11、外国為替相場決定の理論 1 アセットアプローチ 12、 2、 フローアプローチ 購買力平価説	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定 講義初回に提示		講義時の小テストと 学期末試験	

03~05 律/国	***** / 国際金融論 b	担当者	山本 美樹子
99~02 律/国	***** / 国際金融論		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に学んだことを基礎として、国際金融論にとって応用的なことを中心に抗議する。		1、固定相場制と通貨統合 1 2、固定相場制と通貨統合 2 3、開放マクロ経済学 1 外国貿易乗数 4、 2 固定相場制の開放マクロ経済政策 5、 3 マンデルフレミングモデル 6、 4、変動相場制の開放マクロ経済政策 7、 5 国際政策協調 8、国際資本移動 1 国際資本取引の拡大 9、 2 金融デリバティブ取引 1 10 3 禁輸デリバティブ取引 2 11、 4、 累積債務問題と通貨危機 12、まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定 講義時に提示		講義時の小テストと 学期末試験	

03～05 律/国	***** / 多国籍企業論 a	担当者	小林 哲也
99～02 律/国	***** / 多国籍企業論		
98 以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバリゼーションの原動力の一つは、多国籍企業である。現代企業は、財の生産や販売のみならず、情報や金融の世界でもグローバル化を進めている。生産・流通・広告・金融など各分野での技術革新により、国際分業が新たな形で再編成されつつある。</p> <p>本講義では、企業の国際化に伴う諸問題を包括的に議論し、グローバリゼーションを理解するための理論的枠組みを提供することを目的とする。</p> <p>通年受講が望ましい。前半では、グローバリゼーションと情報化の流れの中で、新しい競争の時代を迎えている現代企業像の概要を解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに グローバリゼーションの時代 2. 現代経済における多国籍企業 国民経済の枠組みと多国籍企業 2. 現代企業の理論 巨大企業と「豊かな」社会 3. 現代企業の理論 コーポレートガバナンスの変貌 4. 現代企業の理論 フォード主義から日本的生産システムへ 5. 現代企業の理論 情報技術革命と企業組織 6. 現代企業の理論 多国籍企業と直接投資 7. 多国籍企業と新しい国際分業 技術革新と国際分業の再編成 8. 情報技術革命と日米企業 IT革命のインパクト 9. 情報技術革命と日米企業 企業組織と経営戦略の変貌 10. 情報技術革命と日米企業 生産性と競争優位をめぐって 11. 情報技術革命と日米企業 ITと新しい「ビジネス・モデル」 12. 情報技術革命と日米企業 情報化社会と日本的経営論の再審 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に、適宜指示する。		定期試験による。	

03～05 律/国	***** / 多国籍企業論 b	担当者	小林 哲也
99～02 律/国	***** / 多国籍企業論		
98 以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>後半では、多国籍企業の活動にかかわるケーススタディを中心として、グローバリゼーションの現状を分析していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本企業の国際化 システムとしての日本企業 2. 日本企業の海外進出 戦後復興から 1990 年代まで 3. 日本企業の海外進出 アメリカの日系企業 4. 日本企業の海外進出 ヨーロッパの日系企業 5. 日本企業の海外進出 アジアへの進出と撤退 6. 日本企業の海外進出 「チャイナ・ショック」以降の国際分業 7. 日本企業の海外進出 「摩擦」の政治経済学 8. 情報技術革命と世界的な産業の再編成 ハイテク産業の覇権をめぐって 9. 情報技術革命と世界的な産業の再編成 自動車 10. 情報技術革命と世界的な産業の再編成 知的財産権をめぐって 11. 情報技術革命と世界的な産業の再編成 日本企業の課題 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に、適宜指示する。		定期試験による。	

03～05 律/国	**** / 西洋政治史 a	担当者	井上 スズ
99～02 律/国	**** / 西洋政治史		
98以前 律	政治史		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>第一次世界大戦前に、ヨーロッパ諸国がどのようにして国民国家としての諸要件を達成したかを見ることを目的とする。</p> <p>まず国民国家成立の諸要件とは何かについて論じ、英独仏三大国の他にいわゆる中小国についても順次国民国家成立への過程を述べる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 国民国家の諸要件、政治体制のパターン 2. イギリス 3. 同上 4. フランス 5. 同上 6. ドイツ 7. 同上 8. オーストリア 9. イタリア 10. スイス 11. ロシア 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書 篠原一『ヨーロッパの政治』東大出版会		出席状況と試験	

03～05 律/国	**** / 西洋政治史 b	担当者	井上 スズ
99～02 律/国	**** / 西洋政治史		
98以前 律	政治史		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>第一次大戦後のヨーロッパが直面した主要課題とその解決の仕方の多様性についての理解を深める。</p> <p>まず初めに、大戦後のヨーロッパの政治状況全体を概観し、戦後の各国の共通課題であるナチズム、ファシズムの問題と世界恐慌への対応策について述べる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第一次世界大戦と革命 ロシア革命とドイツ革命、その結末の相違 2. 同上 3. 同上 4. イタリアにおけるファシズム 5. ワイマルル憲法体制とナチズムの出現 6. 同上 7. イギリス議会政治の変容 8. イギリスの世界恐慌への対応策 9. ドイツにおける世界恐慌への対応策とナチス政権への道 10. 同上 11. スウェーデンにおける世界恐慌への対応策 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書 篠原一『ヨーロッパの政治』東大出版会		出席状況と試験	

03～05 律/国	***** / アジア政治論 a	担当者	光田 剛
99～02 律/国	***** / アジア政治論		
98 以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アジアをどう理解し、認識するかは、けっこう難しい問題である。私たちのところに届くアジアの情報は、じつは多くが欧米の（とくにアメリカ合衆国の）メディアの手を経ていたり、欧米的なものを見かたを身につけた人びとの解説や取捨選択によって加工されていたりするからだ。もちろん、日本の大学（それも法学部）で学ぶ内容は、やはり圧倒的に欧米的なものを見かたの影響を受けているから、その枠内でアジアを理解しようとする、まず自分の「アジア観」を見直すところから始めなければならない。この授業では、ともにその問題に取り組み、「自分のアジア政治論」を身につけられるようにしていきたいと思う。</p> <p>前期は西アジア・中央アジア・南アジア・東南アジアの政治を扱う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本人はアジアをどう見てきたか？ 2. 国民国家の出現 3. 第一次世界大戦とアジア 4. 世俗国家の選択：アタチュルクとトルコ共和国 5. だれがこの国を望んだのか？：イラク建国 6. ワッハーブ派宗教国家：サウジアラビア 7. 石油、近代化、イスラーム：イラン 8. インド独立とマハトマ・ガンディー 9. インドとアジアの平和の行方 10. インドシナ半島の伝統と国家：ベトナムとタイ 11. イラク戦争とは何だったか？ 12. 日本人のアジア観再論：大川周明をめぐる 	
テキスト、参考文献		評価方法	
立山良司『揺れるユダヤ人国家』文春新書 広河隆一『新版パレスチナ』岩波新書		学期途中のレポート、学期末のレポートと出席による。	

03～05 律/国	***** / アジア政治論 b	担当者	光田 剛
99～02 律/国	***** / アジア政治論		
98 以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アジアをどう理解し、認識するかは、けっこう難しい問題である。私たちのところに届くアジアの情報は、じつは多くが欧米の（とくにアメリカ合衆国の）メディアの手を経ていたり、欧米的なものを見かたを身につけた人びとの解説や取捨選択によって加工されていたりするからだ。もちろん、日本の大学（それも法学部）で学ぶ内容は、やはり圧倒的に欧米的なものを見かたの影響を受けているから、その枠内でアジアを理解しようとする、まず自分の「アジア観」を見直すところから始めなければならない。この授業では、ともにその問題に取り組み、「自分のアジア政治論」を身につけられるようにしていきたいと思う。</p> <p>後期は、中国・朝鮮半島・台湾を扱う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 戦後東アジアの出発 2. 「中国」という難題 3. 中国と抗日戦争 4. 朝鮮半島：統一独立への苦闘 5. 朝鮮戦争の悲劇 6. 社会主義中国の起源：新民主主義から社会主義へ 7. 台湾：国民党政権の確立 8. 1960年前後の東アジアの政治と外交 9. 革命と独裁の時代へ 10. 民主化と経済発展の時代 11. 現代東アジアのナショナリズム 12. 日本と東アジア諸国 	
テキスト、参考文献		評価方法	
天児慧『中華人民共和国史』岩波新書 若林正丈『台湾』ちくま新書		学期途中のレポート、学期末のレポートと出席による。	

03～05 律/国	*** / 地域研究特講(ラテンアメリカ政治経済論)		
99～02 律/国	*** / 地域研究特講 B(ラテンアメリカ政治経済論)	担当者	今井 圭子
98以前 律	国際関係特講 B(ラテンアメリカ政治経済論)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. まず授業の導入として、ラテンアメリカ政治経済社会構造の特質を、アジア、アフリカとの比較において理解し、次いでラテンアメリカ地域の自然・住民・宗教・文化について概観する。</p> <p>2. ついでラテンアメリカ地域の政治経済社会の歴史的変遷過程を辿り、植民地前の先住民社会、植民地期の政策に関してその基本構造を把握する。そして独立後の国家建設および経済開発の思想と政策を学び、政治経済構造の変容について理解する。</p> <p>3. こうした考察を踏まえてラテンアメリカ経済の現状を分析し、グローバル化が進む中でラテンアメリカ諸国が直面している主要な政策課題を明らかにする。そしてこれらの政策課題に対する各国政府や国際機関の取り組みについて紹介する。</p> <p>4. ラテンアメリカにおける開発に関する代表的な思想、理論、政策について、中心-周辺理論、構造学派、従属論、持続可能な開発論を中心に解説する。</p> <p>5. さいごに日本とラテンアメリカの関係を移民、外交、貿易、投資、経済協力について考察し、グローバル化時代の下での日本とラテンアメリカの協力関係のあり方について受講生全員で考え、討論する。主として講義形式が進め、テーマに応じてディスカッションをとり入れる。</p>		<p>1. ラテンアメリカ概観—ラテンアメリカとアジア、アフリカの比較</p> <p>2. 第1章 ラテンアメリカ経済の歴史的変遷過程 第1節 時期区分 ラテンアメリカ経済史時期区分</p> <p>3. 第2節 植民地期以前の先コロンブス期（-15世紀末）コロンブス一行到来以前の先住民社会の概観</p> <p>4. 第3節 植民地期（15世紀末-19世紀初め）</p> <p>5. 第4節 独立期（19世紀初め-19世紀半ば）</p> <p>6. 第5節 第一次産品輸出経済確立期（19世紀半ば-1929年恐慌）</p> <p>7. 第6節 工業化から地域統合に至る時期（1929年恐慌-現在）</p> <p>8. 第2章 ラテンアメリカ政治経済の現状と課題</p> <p>9. 第2章 ラテンアメリカ政治経済の現状と課題</p> <p>10. 第3章 ラテンアメリカにおける開発の思想・理論</p> <p>11. 第3章 ラテンアメリカにおける開発の思想・理論</p> <p>12. 第4章 日本とラテンアメリカの関係 移民・経済関係を中心に</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 今井圭子編著 『ラテンアメリカ 開発の思想』 日本経済評論社 2004年。</p>		<p>授業中にリアクション・ペーパーなどを課し提出してもらう。 学期末にレポート提出。以上を合わせて評価する。</p>	

03～05 律/国	*** / ***		
99～02 律/国	*** / ***	担当者	*****
98以前 律	***		
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03～05 律/国	**** / 地域研究特講(中・東欧とロシア 1)	担当者	志摩 園子
99～02 律/国	**** / 地域研究特講 B(中・東欧とロシア 1)		
98以前 律	国際関係特講 B(中・東欧とロシア 1)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>東欧とか中欧とはなんだろうか?と考えるときに、これはロシアとの係わり合いを抜きにして語ることはできない。この地域をどのように捉えることができるのだろうか。ヨーロッパ連合が東方に拡大し、更なる拡大の交渉が進んでいる現在、そこはなぜ東欧、あるいは中欧と呼ばれるのかといったことを検討する。</p> <p>冷戦終結後、この地域で多くの問題が表面化してきていることも事実である。このような地域の現実から、国際社会を考えてみることを目的としたい。</p> <p>今年度は、特に、バルト地域に焦点をあてて、ここで進んでいる地域統合についても検討したい。</p> <p>前期は、その背景としての歴史的、文化的な側面を中心に、後期は、現代世界の問題を考える上での重要な地域としてバルト地域の現状を示したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> ① バルトとは ② 歴史遺産の町 ③ バルト海東南岸地域の自然 ④ 20世紀までの歴史 ⑤ 20世紀までの歴史 ⑥ 20世紀までの歴史 ⑦ 20世紀までの歴史 ⑧ バルト地域の文化 ⑨ バルト地域の文化 ⑩ 大学と地域文化 ⑪ バルト地域とユダヤ人 ⑫ まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜紹介、プリント等を配布		出席点、平常点、レポートで総合評価	

03～05 律/国	**** / 地域研究特講(中・東欧とロシア 2)	担当者	志摩 園子
99～02 律/国	**** / 地域研究特講 B(中・東欧とロシア 2)		
98以前 律	国際関係特講 B(中・東欧とロシア 2)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>東欧、あるいは中欧という概念はなんだろうか?と考えるときに、これはロシアやソ連との係わり合いを抜きにして語ることはできない。この地域をどのように捉えることができるのだろうか。ヨーロッパ連合が東方に拡大し、更なる拡大の交渉が進んでいる現在、そこはなぜ東欧、あるいは中欧と呼ばれるのかといったことを検討する。</p> <p>冷戦終結後、この地域で多くの問題が表面化してきていることも事実である。このような地域の現実から、国際社会を考えてみることを目的としたい。</p> <p>今年度は、特に、バルト地域に焦点をあてて、ここで進んでいる地域統合についても検討したい。</p> <p>前期は、その背景としての歴史的、文化的な側面を中心に、後期は、現代世界の問題を考える上での重要な地域としてバルト地域の現状を示したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> ① バルト地域と日本 ② バルト地域と日本 ③ バルト地域と世界 ④ バルト三国の成立 ⑤ バルト三国のソ連への編入 ⑥ バルト三国のソ連時代 ⑦ 冷戦終結とバルト三国 ⑧ バルト三国と独立回復 ⑨ バルト三国の EU,NATO 加盟 ⑩ バルト三国と北欧 ⑪ バルト三国とロシア ⑫ バルト三国と環バルト海地域、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜紹介、プリント等を配布		出席点、平常点、レポートで総合評価	

03～05 律/国	***** / 国際関係法講読 I	担当者	一之瀬 高博
99～02 律/国	***** / 国際関係法文献研究		
98 以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際環境法に関する下記の文献を講読する。 Fitzmaurice, M. A., "International Protection of the Environment", <i>Recueil des cours</i>, vol. 293 (2001) テキストは授業時に配布する。</p>		<p>出席者の関心等を考慮に入れ、授業でとりあげる部分を決定する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		<p>出席、発表、予習と授業への参加度を中心に評価する。 試験またはレポートを課すこともありうる。</p>	

03～05 律/国	***** / 国際関係法講読 II	担当者	高佐 智美
99～02 律/国	***** / 国際関係法文献研究		
98 以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(1) 講義目的 国内の人権問題を考察する際に重要な指針の一つとなる国際条約の存在及びその具体的な解釈・運用を理解するために、判例や関連文書などの原文を講読する。</p> <p>(2) 講義概要 ① 国際人権法に関する論文 ② B 規約委員会の「見解 (View)」、ヨーロッパ人権裁判所の「判決 (Judgment)」 のいずれかを輪読 (扱う資料 or テーマについては受講生と相談、受講生の希望にそって決めます)</p>		<p>① 毎回割り当ては決めずにランダムにこちらから指名 or 自発的に 1 パラグラフずつ訳してもらう。 ② 訳せなかった者は予習していないものとして欠席扱いとする。これが 3 回続いた場合は、やる気のないものとして授業放棄したと見なす。 ③ したがって毎回きちんと予習してくるよう。 ④ 単なる和訳だけではなく、その内容について議論したり、報告したりしてもらう。 ⑤ 毎回予習してくる自信のない者、または講義内容に関心のない者は絶対に受講しないように。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>特になし 講義中別途指示</p>		<p>報告、出席、受講態度を総合的に評価します。</p>	

03～05 律/国	***** / 国際関係法講読 I	担当者	土屋 弘三
99～02 律/国	***** / 国際関係法文献研究		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義の目的〕 世界経済のグローバル化が進展するなかで、企業の国際取引契約文書は、多くの場合英文で作成される。 この講義は、</p> <p>① 英文契約書をどのように読むか ② そのために契約書に使用される英語を理解する ③ 準拠法との関係から英米法の法理を理解することを目的とする。</p> <p>〔講義の概要〕</p> <p>〔1〕 配布する資料により、日米の契約概念差異、英文契約の様式・構成・文体、英文契約書に多用される独特の表現や語彙、契約の成立を学ぶ。</p> <p>〔2〕 英米法の法理が実際の契約書にどのように展開されているか検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 英文契約書の特徴と機能、契約書作成での諸問題 2. 英文契約書の構造と文体 3. 契約の英語の注意点 (1) 4. 契約の英語の注意点 (2) 5. 契約準拠法 6. 契約の成立要件 7. 契約の方式 8. 予備的合意 9. 秘密保持契約 10. 一般契約条項 11. 捺印契約と単純契約、契約の書面性 12. 契約締結権限 (日本と米国)、委任状 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは用いない。講義メモを配布する。 参考文献：岩崎一生著 『英文契約書—作成実務と法理—』〔全訂新版〕 (同文館出版)</p>		出席、テストによる	

03～05 律/国	***** / 国際関係法講読 II	担当者	土屋 弘三
99～02 律/国	***** / 国際関係法文献研究		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義の目的〕 技術は、企業にとり、重要な経営資源である。企業は、技術革新のスピードの速さと保有技術の陳腐化、開発コストの低減、業際的技術の必要性等への対応から、ライセンス契約による技術導入や共同開発により技術の優位性を保持しようと努める。その一方で、生産拠点の海外への移転にともない海外の合弁会社を含めた他社に技術供与をおこない、保有する特許等知的財産の積極的活用を計っていく。 このような技術の導入と供与の契約である国際 (英文) ライセンス契約を検討する。</p> <p>〔講義の概要〕 特許・know-how に関わる国際ライセンス契約を対象にして、</p> <p>① 企業の経営・技術戦略においてライセンス契約の位置付けを検討し、 ② 国際ライセンス契約の重要項目を英文により学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 知的財産基本法、ライセンス契約の概要 2. 企業におけるライセンス契約の位置付け 3. 国家の産業政策とライセンス契約 — 中国のWTO加盟と技術導入の取り扱い — 4. ライセンス契約の定義条項と実施権の許諾 5. 実施権の内容、再実施権と下請製作 6. プロセスプラントにおけるライセンス許諾 7. 商標ライセンス契約 8. ロイヤルティの計算と支払、源泉税 9. 技術情報の交換と改良技術の帰属・実施権 10. 技術情報の保証と損害賠償責任 11. 競合品の販売制限・並行輸入と独禁法 12. 契約期間と期間終了後の技術情報の取り扱い 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは用いない。講義メモを配布する。 参考文献：片山善行著『国際ライセンス契約の実務』 (中央経済社)</p>		出席とテストによる	

03～05 律/国	***** / *****	担当者	*****
99～02 律/国	***** / *****		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03～05 律/国	***** / 国際政治講読Ⅱ	担当者	星野 昭吉
99～02 律/国	***** / *****		
98以前 律	*****		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代のグローバル化した国際関係（世界政治）は、これまでの国家中心の国際関係の枠組みを大きく変容させている。新しい枠組みを構成しているグローバリゼーションはじめ、国際関係を動かしている多様な原理および国際関係の変容を、英語のテキストを使用しして説明していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Globalizing Framework of International Relations — (1) 2 Globalizing Framework of International Relations — (2) 3 Globalization and Global Economy — (1) 4 Globalization and Global Economy — (2) 5 Globalization and Regionalism — (1) 6 Globalization and Regionalism — (2) 7 Globalization and Nationalism — (1) 8 Globalization and Nationalism — (2) 9 Globalization and Transnationalism — (1) 10 Globalization and Transnationalism — (2) 11 Globalization and Governance — (1) 12 Globalization and Governance — (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Akiyoshi Hoshino, <i>Deconstruction of International Politics and Reconstruction of Global Politics</i> (Tokyo : Teihan, 2003)</p>		テスト、発表、出席率で総合評価	

03～05 律/国 99～02 律/国 98 以前	***** / ***** 法学入門 (再履修) / 国際関係法入門 (再履修) 法学入門 (再履修)	担当者	内山 良雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>法は、共同社会の中に生成し、社会とともに存在し、社会内で生起する紛争の未然防止・解決に指針を与え、その平穏・円滑な営みを支えています。我々も、共同社会の一員として、周囲の人々と関わりをもちながら生活している以上、法と無縁でいることはありません。したがって、関わり合いをもつ可能性のある他者とは、人権感覚に裏打ちされた良好な信頼関係を築き、紛争が発生しないよう配慮し、不幸にして紛争が発生した場合にも、冷静かつ的確に対応することが必要となりますが、そのためには、法的素養を備えていることが強く求められるのです。</p> <p>そこで本講義では、まず最初に法の基本概念を解説したうえで、憲法に規定された基本原理や人権についての議論および社会のさまざまな場面と法との関わり合いについての議論を概観します。法のあり方を理解するとともに、法的なものの考え方を修得できるように配慮しながら、講義を進めていく予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 法とは何か 3. 法学とは何か 4. 法の学び方 5. 法体系の枠組みと法の分類 6. 憲法の基本原理 (1) - 国民主権 - 7. 憲法の基本原理 (2) - 平和主義、基本的人権尊重主義 - 8. 国の統治機構 9. 平等権 10. 自由権 (1) - 精神的自由・経済的自由 - 11. 自由権 (2) - 人身の自由 - 12. 社会権 <p>* 受講生の理解度に応じて進度を調整するので、このとおりに進まないことがあります。その場合、補講を行うことがあるので、あらかじめ、ご了承ください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
大谷實編著『エッセンシャル法学』成文堂		定期試験の答案に基づいて評価します。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98 以前	***** / ***** 法学入門 (再履修) / 国際関係法入門 (再履修) 法学入門 (再履修)	担当者	内山 良雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>通年科目なので、春学期の記載を参照してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 裁判の仕組み 2. 財産関係と法 3. 経済取引と法 4. 家族と法 5. 犯罪と法 6. 刑罰と法 7. 労働と法 8. 事故と法 9. 社会保障・社会福祉 10. 医療と法 (1) - 医療提供の理念 - 11. 医療と法 (2) - 医療過誤 - 12. 情報化社会と法 <p>* 受講生の理解度に応じて進度を調整するので、このとおりに進まないことがあります。その場合、補講を行うことがあるので、あらかじめ、ご了承ください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
大谷實編著『エッセンシャル法学』成文堂		定期試験の答案に基づいて評価します。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	*** / *** 憲法Ⅱ / 憲法Ⅱ 憲法Ⅱ	担当者	加藤 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>憲法の統治構造（機構）について講義する。 人権論の復習をかねながら、権力分立論の意義を探っていく。とりわけ、国会、内閣、裁判所の諸権能を確実に勉強していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の説明 2. 国会（国民代表） 3. 国会（選挙制度） 4. 国会（選挙制度） 5. 国会の法的地位 6. 国会の権能と議院の権能 7. 政党 8. 政党法制 9. 政党法制 10. 内閣の権能 11. 予備日 12. 予備日 	
テキスト、参考文献		評価方法	
加藤／植村編『新版・現代憲法入門講義』（北樹出版）、 芦部ほか編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣）		定期試験による	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	*** / *** 憲法Ⅱ / 憲法Ⅱ 憲法Ⅱ	担当者	加藤 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
		<ol style="list-style-type: none"> 1. 議院内閣制の意義（1） 2. 議院内閣制の意義（2）衆議院の解散権 3. 司法権：司法権の観念 4. 司法権：司法制度 5. 司法権：違憲審査制と憲法訴訟論（1） 6. 司法権：違憲審査制と憲法訴訟論（2） 7. 司法権：違憲審査制と憲法訴訟論（3） 8. 平和主義（1） 9. 平和主義（2） 10. 憲法改正論（1） 11. 憲法改正論（2） 12. 予備日 	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		定期試験による	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	**** / **** 行政法Ⅱ / 行政法-2 行政法Ⅱ	担当者	市川 須美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>行政法Ⅱでは、Ⅰでの総論講義を土台に行政救済法を解説します。行政救済法は、行政活動の違法性そのものを争う行政争訟法と金銭的補償を目的とする国家補償法とに大別される。前者は、再び行政内部での救済である行政不服申立てと独立した裁判所による適法性審査である行政訴訟に2分され、後者は国家賠償と損失補償とに2分される。行政訴訟の一般法である行政訴訟法は、昨年1962年制定以来の大改正が行われ、構造を一新した。したがって、講義の重点は新行政訴訟法となる。ただし、国家賠償訴訟は様々な点で国民の権利保障の最後のよりどころとなっており、様々な論点を含んでいるので、できる限り詳しく取り扱いたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 行政救済法の概要 2 行政訴訟法改正——どこが新しくなったのか 3 行政訴訟と行政不服申立 4 行政訴訟の種類 5 抗告訴訟総論 6 取消訴訟の流れ 7 訴訟要件——原告適格を中心に 8 違法性と審理手続 9 執行停止制度 10 無効確認訴訟 11 不作為の違法確認訴訟 12 義務付け訴訟 	
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時に適宜指示します		春学期終了時にレポートを課し、年度末に試験をします	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	**** / **** 行政法Ⅱ / 行政法-2 行政法Ⅱ	担当者	市川 須美子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		<ol style="list-style-type: none"> 13 差止訴訟 14 行政不服申立制度の概要 15 行政不服申立制度の論点 16 国家補償法の概要 17 損失補償制度の論点 18 国家賠償法の概要 19 権力的活動と国家賠償(1) 20 権力的活動と国家賠償(2) 21 不作為と国家賠償 22 営造物責任と国家賠償 23 水害訴訟の動向 24 補償の谷間 	
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時に適宜指示します		春学期終了時にレポートを課し、年度末に試験をします	

03～05 律/国 99～02 律/国 98 以前 律	**** / **** 民法Ⅲ / 民法Ⅱ-1 民法Ⅲ	担当者	亀岡 倫史
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義概要、講義目的></p> <p>本講義では、債権の目的、債権の効力、多数当事者の債権債務関係、債権譲渡、債権の消滅など、民法典第三編債権第一章総則（債権総論といわれる部分）に規定されている各種法制度について、その基礎的知識（条文、基本概念、各種法制度の仕組みなど）を習得しつつ、債権関係にかかわる諸問題が判例・学説でどのように解決されているかを学びます。</p> <p><講義の進め方></p> <p>講義に際しては、具体的な説例や重要な裁判例を素材にしながらできるだけ具体的に話を進めていきたいと考えています。また、講義への皆さんの主体的参加を促すため、講義中に、適宜、質疑応答の時間を設けます。是非、積極的に質問したり、発言したりしてください。</p> <p><履修者への要望></p> <p>法律学の議論の出発点は、法律の条文です。ですから、毎回、必ず六法を持参し、条文を参照しながら講義を聴いてください。</p> <p>また、法律の学習には積み重ねが必要です。授業には毎回必ず出席するようにしてください。</p>		<p>春学期授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 債権法序説 －債権法の全体像とその構成 2. 債権の意義 －債権とはなにか、債権と物権、債権と請求権 3. 債権の目的 －債権の種類とその法的処理枠組みの相違 4. 債権の効力 －債権の効力一般、自然債務、債務と責任 5. 債権の実現 －任意履行、強制履行、損害賠償、契約解除など 6. 債務不履行（契約責任）論（1） －債務不履行責任の諸態様及び担保責任 7. 債務不履行（契約責任）論（2） －債務不履行責任の諸態様及び担保責任 8. 債務不履行（契約責任）論（3） －債務不履行責任の諸態様及び担保責任 9. 債務不履行に基づく損害賠償（1） 10. 債務不履行に基づく損害賠償（2） 11. 受領遅滞 12. 予備日 	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定。第一回目の講義の際にテキストを指定し、参考文献の紹介をします。		試験により評価します。試験の実施方法・評価基準などについては、第一回目の講義の際に説明します。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98 以前 律	**** / **** 民法Ⅲ / 民法Ⅱ-1 民法Ⅲ	担当者	亀岡 倫史
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義概要、講義目的></p> <p>本講義では、債権の目的、債権の効力、多数当事者の債権債務関係、債権譲渡、債権の消滅など、民法典第三編債権第一章総則（債権総論といわれる部分）に規定されている各種法制度について、その基礎的知識（条文、基本概念、各種法制度の仕組みなど）を習得しつつ、債権関係にかかわる諸問題が判例・学説でどのように解決されているかを学びます。</p> <p><講義の進め方></p> <p>講義に際しては、具体的な説例や重要な裁判例を素材にしながらできるだけ具体的に話を進めていきたいと考えています。また、講義への皆さんの主体的参加を促すため、講義中に、適宜、質疑応答の時間を設けます。是非、積極的に質問したり、発言したりしてください。</p> <p><履修者への要望></p> <p>法律学の議論の出発点は、法律の条文です。ですから、毎回、必ず六法を持参し、条文を参照しながら講義を聴いてください。</p> <p>また、法律の学習には積み重ねが必要です。授業には毎回必ず出席するようにしてください。</p>		<p>秋学期授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 債権者代位権 2. 債権者取消権 3. 多数当事者の債権債務関係総説 4. 連帯債務 5. 保証 6. 債権譲渡 7. 債務引受、契約上の地位の譲渡 8. 債権の消滅（1） －第三者弁済、弁済による代位 9. 債権の消滅（2） －相殺の要件と効果 10. 債権の消滅（3） －相殺の担保的機能 11. 債権の消滅（4） －その他の債権の消滅原因 12. 予備日 	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定。第一回目の講義の際にテキストを指定し、参考文献の紹介をします。		試験により評価します。試験の実施方法・評価基準などについては、第一回目の講義の際に説明します。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98 以前 律	*** / *** 民法IV / 民法II-2 民法IV	担当者	藤田 貴宏
講義目的、講義概要		授業計画	
契約法の基本的論点について講義します。		1. 契約法の全体像 2. 売買 (1) 3. 売買 (2) 4. 売買 (3) 5. 特殊な売買 6. 消費貸借 7. 貸貸借 (1) 8. 貸貸借 (2) 9. 貸貸借 (3) 10. 雇用・委任・請負 11. 組合 12. 贈与・使用貸借等	
テキスト、参考文献		評価方法	
大村敦志『基本民法II』(有斐閣)		年度末試験	

03～05 律/国 99～02 律/国 98 以前 律	*** / *** 民法IV / 民法II-2 民法IV	担当者	藤田 貴宏
講義目的、講義概要		授業計画	
不法行為法の基本的論点について講義します。		1. 不法行為法の全体像 2. 過失 (1) 3. 過失 (2) 4. 因果関係 (1) 5. 因果関係 (2) 6. 損害賠償 (1) 7. 損害賠償 (2) 8. 損害賠償 (3) 9. 共同不法行為 10. 使用者責任 11. 工作物責任・製造物責任等 12. まとめと補充	
テキスト、参考文献		評価方法	
大村敦志『基本民法II』(有斐閣)		年度末試験	

03～05 律/国	*** / ***	担当者	潘 阿憲
99～02 律/国	商法Ⅲ / 商法Ⅰ		
98 以前 律	商法Ⅲ		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【春学期週 2 回開講】</p> <p>手形・小切手の法律関係は非常に複雑である。その原因としては、手形・小切手が転々流通するものであるため、多数の関係者が存在すること、また、手形・小切手自体の法律関係と、手形・小切手の振出ないし裏書の原因となる法律関係が重なっていることなどが考えられる。</p> <p>本講義では、このような手形・小切手をめぐる法律関係をなるべく平易・明快で解明してくように心がける。ただ、手形・小切手は非常に技術制の強い制度であることから、その法律関係を完全に理解するためには、かなりの努力が必要である。したがって、授業前のある程度予習しておくことが望ましい。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 1 手形・小切手の属性 2 約束手形・総論 3 約束手形・手形行為① 4 約束手形・手形行為② 5 約束手形・他人による手形行為 6 約束手形・手形の変造・偽造 7 約束手形・譲渡裏書① 8 約束手形・譲渡裏書② 9 約束手形・取立委任裏書等 10 約束手形・手形抗弁 11 約束手形・支払呈示 12 約束手形・支払 13 約束手形・遡求① 14 約束手形・遡求② 15 約束手形・手形保証 16 約束手形・公示催告・除権判決 17 約束手形・白地手形① 18 約束手形・白地手形② 19 為替手形・振出と裏書 20 為替手形・引受と支払 21 為替手形・手形保証 22 小切手・振出と流通 23 小切手・支払 24 小切手・線引小切手等 	
テキスト、参考文献		評価方法	
上柳克郎＝北沢正啓＝鴻常夫編 手形法・小切手法（新版） 有斐閣双書		筆記試験の成績による	

03～05 律/国	*** / ***	担当者	*****
99～02 律/国	*** / ***		
98 以前 律	***		
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	***** / ***** 刑法Ⅱ / 刑法-2 刑法Ⅱ	担当者	内山 良雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人は、犯罪を行うと刑罰を科せられます。刑法は、犯罪と刑罰の内容と相互関係を規定する法律ですが、本講義は、「刑法各論」を取り扱います。すべての犯罪に共通する要素や原理・原則を解明する「刑法総論」と異なり、刑法各論は、殺人罪や傷害罪といった個別犯罪に特有の成立要件や、類似する他の犯罪との異同・限界を明らかにすることを課題としています。本講義では、講義回数に関係上、個人的法益に対する罪を中心に扱います。春学期では、財産犯以外の個人的法益に対する罪を、秋学期では、財産犯を、それぞれ対象とすることとします。</p> <p>それぞれの犯罪の成立要件を正しく理解し、法益を侵害する行為について、その具体的態様に着目し、刑法上、何罪が成立するかを、刑法各本条の解釈を通じて論理的に結論づけられるようになることが、本講義の目的です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 刑法各論の意義と任務 2. 人の始期・終期 3. 殺人罪 4. 自殺関与罪 5. 傷害罪 6. 暴行罪 7. 危険運転致死傷罪 8. 過失致死傷罪 9. 堕胎罪・遺棄罪 10. 逮捕・監禁罪 11. 脅迫罪・強要罪 12. 略取・誘拐罪 <p>* 受講生の理解度に応じて進度を調整するので、このとおりに進まないことがあります。その場合、補講を行うことがあります。あらかじめ、ご了承ください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
曾根威彦『刑法各論 [第3版補正版]』弘文堂 参考書は、第1回の講義で紹介します。		定期試験の答案に自分の考えを論理的で説得力ある論旨で主張できているか、を重視して評価します。	

03～05 律/国 99～02 律/国 98以前 律	***** / ***** 刑法Ⅱ / 刑法-2 刑法Ⅱ	担当者	内山 良雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>通年科目なので、春学期の記載を参照してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 財産罪総論 (1) 2. 財産罪総論 (2) 3. 窃盗罪 (1) 4. 窃盗罪 (2)・不動産侵奪罪 5. 親族相盗例 6. 強盗罪 7. 準強盗罪・強盗致死傷罪 8. 詐欺罪 (1) 9. 詐欺罪 (2) 10. 恐喝罪 11. 横領罪 12. 背任罪 <p>* 受講生の理解度に応じて進度を調整するので、このとおりに進まないことがあります。その場合、補講を行うことがあります。あらかじめ、ご了承ください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
曾根威彦『刑法各論 [第3版補正版]』弘文堂		定期試験の答案に自分の考えを論理的で説得力ある論旨で主張できているか、を重視して評価します。	

99～02 律/国 98以前 律	経済学 / 経済学 経済学	担当者	片岡 晴雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近代経済学の一方の柱であるミクロ経済学について講義する。ミクロ経済学は市場経済下における個々人の合理的な経済行動を体系化した学問である。このような個々人の合理的経済行動を通じて形成される経済秩序は優れた経済効率を達成している。その経済効率とは如何なるものかについて述べる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 経済学の目的と役割 2 近代経済学誕生までの経済学の流れ 3 市場と価格 4 需要と供給の基礎理論 5 家計の行動 6 企業行動の理論 7 完全競争市場と経済効率 8 所得分配 9 市場機構の限界 10 不完全競争の理論 I 11 不完全競争の理論 II 12 ミクロ経済学の応用 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 小野俊夫編『現代経済学の基礎』(学文社)</p>		<p>出席とテストの結果を見て総合的に判断する。</p>	

99～02 律/国 98以前 律	経済学 / 経済学 経済学	担当者	片岡 晴雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>マクロ経済学について講義する。 マクロ経済学は、集計量と呼ばれる操作可能な戦略的に重要な少数の変数を用いて一国全体の経済の動きを明らかにすることを目的としている。そのような重要な集計量とは、GNP、国民所得、消費、投資、貯蓄、貨幣量、物価、利子率、国際収支、雇用量等々である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 マクロ経済循環 2 経済学の危機とケインズ革命 3 国民所得の決定 4 投資乗数の理論 5 投資の決定 6 政府活動と国民所得 7 貨幣市場 8 生産物市場と貨幣市場の同時均衡 9 経済のマクロ的一般均衡体系 10 インフレーション 11 経済の変動と成長 12 開放体系のマクロ経済学 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 小野俊夫編『現代経済学の基礎』(学文社)</p>		<p>出席とテストの結果を見て総合的に判断する。</p>	

99～02 律/国 98 以前 律	経済学 / 経済学 経済学	担当者	浜本 光紹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、現実の経済の仕組みを理解し、理論的に考察するうえで必要な分析道具であるマクロ経済学およびミクロ経済学の基礎を習得し、経済理論を用いながら現実の経済問題の本質的要因を探り処方箋を考える力を養うことを目標とする。</p> <p>経済学 a では、国民所得の決定メカニズムおよびマクロ経済における家計・企業・政府の各部門の関係について解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 経済学という学問について 2 マクロ経済学の課題について 3 家計の消費・貯蓄行動 4 企業の投資行動 5 企業の資金調達と株価市場 6 貨幣と経済活動 7 マクロ経済モデル 	
テキスト、参考文献		評価方法	
福田・照山『マクロ経済学・入門』有斐閣		定期試験の結果に出席状況を加味して評価する。	

99～02 律/国 98 以前 律	経済学 / 経済学 経済学	担当者	浜本 光紹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済学 b では、経済学 a の講義内容を踏まえて、マクロ経済政策の効果や失業問題、および為替レート決定メカニズムなどについて解説する。続いて、ミクロ経済学を取り上げ、需要と供給および経済厚生について解説し、規制緩和や環境税などの経済政策・公共政策の基礎理論について講義を行なう。</p> <p>受講を希望する学生は、経済学 a を既習であることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 マクロ経済政策 2 労働市場と失業 3 開放マクロ経済 4 ミクロ経済学の課題について 5 需要曲線と供給曲線 6 社会的余剰の考え方 7 競争市場と独占 8 市場の失敗と公共政策 9 環境政策の理論と実際 	
テキスト、参考文献		評価方法	
経済学 a で用いたものを引き続き使用するほか、ミクロ経済学についてはプリントを配布する予定である。		定期試験の結果に出席状況を加味して評価する。	

99～02 律/国 98 以前 律	社会学 / 社会学 社会学	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も他者であり、家族や親しい友人も、ある意味では他者である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、多少なりともそういった他者と社会的関係を持たなくては、私たちは生活できない。</p> <p>社会は、他者とともに生きる世界である。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では、「他者 other(s)」が重要なキー概念のひとつとなっている。さらに言えば、他者について考えることは、「自己(わたし)」について考えることでもある。</p> <p>本講義では、社会学の基礎的な概念のなかからとくに重要なものを取りあげ、それを現代的な文脈で考える。そのなかから、他者と自己との関係について、また社会的な視点とはどういったものなのかを学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション——社会学的な視座とは 2. 社会学の歴史(1)——A.コント、H.スペンサー 3. 社会学の歴史(2)——E.デュルケム 4. 社会学の歴史(3)——M.ウェーバー 5. 社会の種類(1) ——コミュニティとアソシエーション 6. 社会の種類(2) ——ゲマインシャフトとゲゼルシャフト 7. 社会の種類(3)——第一次集団 8. アイデンティティ形成と社会(1) ——鏡に映った自己 9. アイデンティティ形成と社会(2) ——重要な他者 10. アイデンティティ形成と社会(3) ——役割取得 11. アイデンティティ形成と社会(4) ——マージナル・マン 12. 補完的アイデンティティについて 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業のなかでその都度指示する		出席とレポート	

99～02 律/国 98 以前 律	社会学 / 社会学 社会学	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わたしたちは、つねに安穏とした平和な社会だけに生きているわけではない。他者と共に生きる社会は、大小問わずさまざまな問題を抱えている。そういった問題を社会学では、どのように研究してきたのだろうか。</p> <p>まず本講義の前半では、何人かの社会学者の研究業績を紹介しながら、近代社会が抱える問題について講義する。つづく後半では、できるだけ身近な例を挙げて、ある事象が「社会問題化する」とはどういうことか、そして社会学が射程におく現代的課題にはどういったものがあるかを考えてみたい。</p> <p>本講義は「社会学 a」の応用編でもあるため、受講にあたっては、春学期の「社会学 a」も合わせて受講することを強く推奨する。(なお、履修登録が抽選になった場合、「社会学 a」を習得した学生が優先される。)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 社会的性格と「自由からの逃走」——E.フロム 3. 同調様式の3類型——D.リースマン 4. 都市化と移民——W.I.トマスと F.W.ズナニエツキ 5. 同心円地帯説——E.バージェス 6. シカゴ学派と都市問題——R.パーク 7. 社会問題と社会学(1) 8. 社会問題化するということ(2) 9. 現代社会の諸問題(1)——移民と日本社会 10. 現代社会の諸問題(2)——未定 11. 社会学の現在(1) 12. 社会学の現在(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業のなかでその都度指示する		出席とレポート	

99～02 律/国 98 以前 律	社会思想史 / 社会思想史 社会思想史	担当者	市川 達人
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちの政治や経済に関する見方・考え方を支配している近代的社會観の形成を西欧を舞台に歴史的にたどる。講義は通年で完結する形をとる。前期（a）では、最近リアリティを失ってきたかに見える「社会」という觀念を改めて分析してみることから始め、その「社会」を学問的に対象化する動きがはじまったルネッサンスから宗教改革の時期を取り上げる。キリスト教的な世界観との対抗、またその変革のなかで社会認識の新しい軸が形成される時期である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1)社会という觀念と概念。 2)近代市民社会とは。西欧的社會観の原型にさかのぼって 3)ルネッサンスと都市 4)マキャベリと『君主論』 5)ユートピア思想とは 6)トマス・モアと『ユートピア』 7)中世の教会改革運動、千年王国説、後期スコラ学派 8)ルターの改革運動と神学 9)ルターの經濟思想。 10)カルヴィニズムの宗教思想 11)カルヴィニズムと近代的エートス 12)まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 「社会思想の歴史」 渋谷一郎編 八千代出版 参考文献 講義中に指示</p>		<p>学期末の試験によって評価</p>	

99～02 律/国 98 以前 律	社会思想史 / 社会思想史 社会思想史	担当者	市川 達人
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>西欧では17世紀から近代市民社会の見取り図を描く作業が思想家達によってはじまる。伝統的な自然法思想を手がかりにして社会契約という考え方が生まれ、社会は個人の自然権を守るための装置として認識されることとなる。同時に、その自然な人間の活動が經濟のレベルでとらえられ、国家とは区別される市民社会という觀念が生まれてくる。このあたりの展開をホッブズから初めて19世紀のマルクスまでたどってみる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1) 西欧自然法思想の流れ 2) ホッブズの人間観と自然権思想 3) ホッブズの国家観 4) ロックの市民社会論 5) ロックの所有権理論と自由主義 6) フランス啓蒙思想（ヴォルテール、ディドロ） 7) ルソーの啓蒙批判とデモクラシー 8) スミスと經濟的自由主義 9) 社会主義思想の諸潮流 10) マルクスの思想（1） 11) マルクスの思想（2） 12) まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 「社会思想の歴史」 渋谷一郎編 八千代出版 参考文献 講義中に指示</p>		<p>学期末の試験によって評価</p>	

99～02 律/国 98 以前 律	歴史学概論(日本史) / 歴史学概論(日本史) 歴史学概論(日本史)	担当者	新井 孝重
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>◎ 「悪党の世紀」ともいわれた十三・四世紀内乱時代の社会のありさまを、人間の行動と意識を通して観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中世民間社会の武装慣行 ・ 異形としての甲冑の姿 ・ 悪党の武装 ・ 武勇にたいする価値の変化 		<ol style="list-style-type: none"> 1 ある相論 2 「悪」のすがた 3 見せるための武装 4 祭りと武装と闘争 5 元弘二年の祇園御霊会 6 武器を持つ芸能 7 「武」の禁忌を破る 8 ならずものので立ち 9 甲冑を脱ぎ捨てる 10 誇り高き「悪」から 11 公権力による武力の独占 12 「武勇」の増殖 	
テキスト		評価方法	
新井孝重『悪党の世紀』(吉川弘文館、1997年)		出席状態 試験成績	

99～02 律/国 98 以前 律	歴史学概論(日本史) / 歴史学概論(日本史) 歴史学概論(日本史)	担当者	新井 孝重
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>◎ 鎌倉幕府崩壊から始まる日本社会未曾有の内戦を、戦闘に参加する武士たちの意識を通して観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楠木の勢力 ・ 金剛山の攻防 ・ 移動する大軍 ・ 戦いの日々 		<ol style="list-style-type: none"> 1 土豪の住宅と城郭 2 河内と伊賀の関係 3 平場の戦い・山の戦い 4 「尋常(よのつね)ならぬ」合戦 5 金剛山の周囲 6 西へ向かう大軍 美濃国でのいくさ 7 奥州軍は快進撃したのか 8 たえざる掠奪 崩壊する大軍 9 ある武士の思い 10 雇われる凡下の輩 11 戦争に疲れて 12 領主制の再構築 	
テキスト		評価方法	
新井孝重『悪党の世紀』(吉川弘文館、1997年)		出席状態 試験成績	

99～02 律/国 98 以前 律	歴史学概論（日本史） / 歴史学概論（日本史） 歴史学概論（日本史）	担当者	丸浜 昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1945.8.15 に終わった戦争で、日本はどこに敗けたと認識しているか。この戦争のことを、普通、何と呼ぶか。そもそもこの戦争は、いつ、どこで始まったのか。これらの問い返ってくる答えをみると、日本人がこの戦争をどうとらえているか、さまざまな問題が浮かび上がってくる。戦後60年になろうとしているが、日本人のこの戦争への認識は多くの課題をかかえており、政治的な争点にもなっている。</p> <p>この戦争をとらえるために、被害や加害の事実をしっかりみたい。見るのがつらいところもあるが、ビデオをいくつか使う。その上で、教育や社会の状況も含めて、この戦争の全体像を考えてみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 8.15 に終わった戦争の呼称・相手をめぐって 2 真珠湾からか、コタバルからか 3 被害の問題①—空襲は何を示すか 4 被害の問題②—原爆投下をどうとらえるか 5 加害の問題①—731部隊とは何か 6 加害の問題②—南京事件をどうとらえるか 7 加害の問題③—強制連行と従軍慰安婦 8 兵士と民衆①—日本軍隊の特徴をみる 10 兵士と民衆②—教育でどう兵士が育てられたか 11 兵士と民衆③—荷担と抵抗をめぐって 12 まとめとして—戦争の全体像を考える 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の中で紹介する		定期試験の時間の中で、基本的に論述の形式で試験を実施する	

99～02 律/国 98 以前 律	歴史学概論（日本史） / 歴史学概論（日本史） 歴史学概論（日本史）	担当者	丸浜 昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「15年戦争」は、戦後60年になろうとする今日でも、日中間で問題になっているように、日本の社会に大きな影響を与えている。そこには、この戦争そのものの問題だけでなく、戦後史のさまざまな局面の中でこの戦争がどうとらえられ、どう処理されてきたか、という問題がからんでいる。たとえば、戦後の日米関係が、この戦争の処理や日本人の戦争認識に大きな影響を与えてきた事実がある。中国や韓国の人々から戦後補償が、今、求められる背景には、この戦後の歴史がある。日本の政府が、また民衆が、戦後史の中でこの戦争をどうとらえどう対処し、どのような課題を残してきたのか考えてみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 沖縄戦・本土決戦と戦争の終わり方の特徴 2 一億総ざんげ論から日本国憲法まで 3 東京裁判をめぐって 4 サンフランシスコ講和のもった問題 5 内外での補償・賠償をめぐって 6 日本とドイツの戦後補償 7 日韓条約はなぜ1965年に結ばれたか 8 日中国交回復への道のり 9 ベトナム戦争と国民の戦争認識の変化 10 アジアの民衆からの戦後補償要求 11 戦後50年の国会決議をめぐって 12 過去の戦争と現代の戦争 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の中で紹介する		定期試験の時間の中で、基本的に論述の形式で試験を実施する	

99～02 律/国 98 以前 律	歴史学概論（東洋史） / 歴史学概論（東洋史） 歴史学概論（東洋史）	担当者	熊谷 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義の目的) 西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、彼らが何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。</p> <p>(講義概要) 7世紀における預言者ムハンマドの出現から16世紀にいたるまでの歴史を概観し、イスラーム教が拡大して広大なイスラーム世界が形成されるまでを理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 イスラームにかんする基本事項について説明する。オリエンテーションをかねる。 2 イスラーム教の誕生以前の世界について考える。 3 預言者ムハンマド（マホメット）の出現と、その時代背景について考える。 4 最初の4人のカリフ（正統カリフ）の時代について。第一次内乱、シーア派の出現を理解。 5 ウマイヤ朝の歴史。ヴェルハウゼンの古典理論における「アラブ帝国」の意味を検討する。 6 アッバース朝の歴史。「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行の意味を検討する。 7 啓示の書であるコーラン、預言者の言行録であるハディース、それらの解釈をめぐって。 8 アッバース朝時代から発達したアラビア科学と、中世におけるイスラーム神秘主義。 9 アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現した軍事政権とその展開について概観する。 10 マムルーク朝について。とくにイクター制が西欧の封建制と比較される点を検討する。 11 ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係。レコンキスタ、十字軍、大航海時代など。 12 同 その2 	
テキスト、参考文献		評価方法	
とくにさだめない。必要に応じて授業で指示する。		毎回出席をとる。期末にレポート。	

99～02 律/国 98 以前 律	歴史学概論（東洋史） / 歴史学概論（東洋史） 歴史学概論（東洋史）	担当者	熊谷 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義の目的) イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。</p> <p>(講義概要) 後期はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する。今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係についても、理解が深められるよう留意したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オスマン朝の成立と発展について。「完成されたイスラーム国家」の定義も検討する。 2 欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概述する。 3 西洋の衝撃によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容。 4 さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・スーフイズムなどの問題について考える。 5 エジプトの近代化とその過程について。考える。 6 トルコの近代化とその過程について。トルコナショナリズムとパン・イスラミズムの理解。 7 近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえについて考察する。 8 知識人階層であるウラマー、宗教的寄進であるワクフなど、イスラーム社会について検討。 9 近・現代のアラブ世界の文化について考える。 10 今世紀のイスラーム世界について考える。マイノリティーの問題もとりあげる。 11 現在のアラブ諸国のかかえる問題、東西冷戦終結後における欧米諸国との関係を考える。 12 まとめをおこなう 	
テキスト、参考文献		評価方法	
とくにさだめない。必要に応じて授業で指示する。		毎回出席をとる。期末にレポート。	

99～02 律／国 98 以前 律	歴史学概論（東洋史） / 歴史学概論（東洋史） 歴史学概論（東洋史）	担当者	張 士陽
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代の東アジア世界をより深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史について講義します。</p> <p>19世紀前半、中国は内外の諸要因から激動の時代を迎えます。2000年間、王朝交替を繰り返しながら存続してきた皇帝支配体制は最大の危機に直面します。</p> <p>清朝国家は体制存続のために様々な改革を実施します。講義ではこの時期の社会秩序や経済活動の変動に対して、当時の人々がどのように対応したかを中心に考えていきたいと思えます。</p> <p>中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点にも焦点をあてる予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 清代の国家と社会 2 18世紀中国の負の遺産 3 アヘン戦争 4 冊封・朝貢体制の動揺 5 太平天国 6 清朝体制の反撃 7 洋務運動 8 中体西用の諸相 9 開港場の社会と経済 10 農村社会の変容 11 周辺地域宗主権の喪失 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の危機』中央公論新社 1997年。		試験による。	

99～02 律／国 98 以前 律	歴史学概論（東洋史） / 歴史学概論（東洋史） 歴史学概論（東洋史）	担当者	張 士陽
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代の東アジア世界をより深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史について講義します。</p> <p>日清戦争の敗北によって清朝体制は危機的状況に陥ります。この時代に伝統の創造により中国の変革を目指した人々、さらなる変革を求めて「革命」を選んだ人々などの思想と行動を検討し、また地方自治改革と地域社会の対応の軌跡をたどります。</p> <p>中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点にも焦点をあてる予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 光緒親政 2 日清戦争 3 変法改革 4 戊戌の政変 5 義和団の蜂起 6 革命派の台頭 7 地方自治の試み 8 王朝体制の崩壊 9 民国の混迷 10 五四運動 11 未完の革命 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の危機』中央公論新社 1997年。		試験による。	

99～02 律/国 98 以前 律	歴史学概論（西洋史） / 歴史学概論（西洋史） 歴史学概論（西洋史）	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界で最も典型的な多人種・多民族社会アメリカを舞台に、そのエスニック・ヒストリーを学ぶ。</p> <p>各人種・民族集団間相互のあつれきを生み出したメカニズムを解明し、対立を回避し、相互理解と和解の道を模索する様々な努力を紹介する。</p> <p>こうしたアメリカ社会の努力は「外国人たちとの共生」の道を模索せねばならぬ我々日本人にとっても有益な示唆を与えるはずである。</p> <p>下記二冊のテキストにそってアメリカの反ユダヤ主義とそれを生み出した要因のひとつとなるユダヤ人側の経済的成功について学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカ経済のユダヤ・パワー；同族人脈ネットワークと資金力 2. ユダヤ人大富豪が集中する最新の稼ぎ場；情報・通信とメディア産業 3. 貧しいユダヤ移民の資産形成の花道；不動産、小売業 4. 業界シェアの過半を占める伝統的ユダヤ・ビジネス；玩具、化粧品、カジノ、観光業 5. ウォール街の顔役たち；金融ビジネスのユダヤ人 6. なぜ彼等は成功したのか、ユダヤ人大富豪の人使い 7. ユダヤ教とユダヤ人の歴史的体験は彼等の企業家的成功とどの様なかわりがあるのか 8. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色 9. アメリカ南部における反ユダヤ主義、レオ・フランク事件 10. 大都市移民ゲットーのエスニック・コンフリクト 11. 自動車王ヘンリーフォードの反ユダヤ・キャンペーン 12. 甦る儀式殺人告発、20 世紀アメリカで復活した中世ヨーロッパ起源の反ユダヤ主義 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000 年 集英社新書 680 円）</p> <p>『アメリカ経済のユダヤパワー』佐藤唯行（2001 年 ダイアモンド社 1700 円）</p>		<p>評価は前後期各 1 回の筆記試験によって決定する。出席はとりません。試験は自筆ノート、テキストの持ち込み可。</p>	

99～02 律/国 98 以前 律	歴史学概論（西洋史） / 歴史学概論（西洋史） 歴史学概論（西洋史）	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界で最も典型的な多人種・多民族社会アメリカを舞台に、そのエスニック・ヒストリーを学ぶ。</p> <p>各人種・民族集団間相互のあつれきを生み出したメカニズムを解明し、対立を回避し、相互理解と和解の道を模索する様々な努力を紹介する。</p> <p>こうしたアメリカ社会の努力は「外国人たちとの共生」の道を模索せねばならぬ我々日本人にとっても有益な示唆を与えるはずである。</p> <p>黒人、ヒスパニック、アジア系、ネイティブ・アメリカン（インディアン）のエスニック・ヒストリーを中心に毎回、完全に文章化されたレジメを配布する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 高等教育機関におけるユダヤ人排斥 2. 公民権闘争期の黒人・ユダヤ人関係史 3. 黒人の反ユダヤ主義 4. 差別体制下の黒人指導者、B.T.ワシントン、W.E.B.デュボイス、M.ガーベイ 5. 黒人回教徒とマルコム X 6. 公民権闘争とブラック・ナショナリズムの台頭 7. ハワイにおける多人種・多民族社会の形成史 8. 日系アメリカ人の歴史と現状 9. 先住民（インディアン）と白人の関係史 その 1 10. " " " " その 2 11. ヒスパニック・アメリカンの歴史と現状 その 1 12. " " " " その 2 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000 年 集英社新書）		前期とおなじ	

99～02 律／国 98 以前 律	歴史学概論（西洋史） / 歴史学概論（西洋史） 歴史学概論（西洋史）	担当者	増谷 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
ヨーロッパ近代以降のユダヤの歴史を見ることによってヨーロッパの歴史について学ぶ。今年度はビデオ教材を多用する。		近代以降のユダヤの歴史を概観し、以下のようなビデオを見て、それぞれの問題を考えていく。 「独裁者」 「さよなら子供たち」 「コルチャック先生」 「シンドラーのリスト」 「サウンド・オブ・ミュージック」 「聖週間」	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に配布		小レポート、レポート	

99～02 律／国 98 以前 律	歴史学概論（西洋史） / 歴史学概論（西洋史） 歴史学概論（西洋史）	担当者	増谷 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に配布		小レポート、レポート	

99～02 律/国 98 以前 律	国語表現法 / 国語表現法 国語表現法	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>言語には「話す」「聴く」「読む」「書く」という4つの側面があり、これらがバランス良く習得されていなければ言語を十分に獲得できたとは言えない。ところが日本の近代教育は学校教育における日本語習得の機会（国語という教科の授業）をゆがませてきた。現在でも日本全国の教室で、国語の授業の中で「話す」「聴く」について機能している場面はほとんどない。</p> <p>この時間は、日本語の口頭表現（「話す」「聴く」）の訓練を基本からやり直すことを主体に、実践的にコミュニケーションの原理を体得していくことを目的とする。講義は少ない。トレーニングの時間である。</p> <p>毎回の出席と膨大な量と回数の課題の提出・実践が求められるので、覚悟して受講すること。なお内容上の必要性から、受講者数の上限を50名とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 導入・オリエンテーション 「話す」「聴く」と「考える」 2 コミュニケーションの基本① 「聴く」ことの実践 3 コミュニケーションの基本② コミュニケーションサイクル 4 コミュニケーションの基本③ 向かい合うこと 5 コミュニケーションの実践① コミュニケーションがうまく行かない時Ⅰ 6 コミュニケーションの実践② コミュニケーションがうまく行かない時Ⅱ 7 コミュニケーションの実践③ コミュニケーションがうまく行かない時Ⅲ 8 コミュニケーションの実践 新たなコミュニケーションの開拓Ⅰ 9 コミュニケーションの実践 新たなコミュニケーションの開拓Ⅱ 10 コミュニケーションの実践 自分のコミュニケーションを振り返る 11 コミュニケーションの実践 再び「話す」「聴く」と「考える」 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		毎回の出席、課題の提出・実践、課題レポート	

99～02 律/国 98 以前 律	国語表現法 / 国語表現法 国語表現法	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>言語には「話す」「聴く」「読む」「書く」という4つの側面があり、これらがバランス良く習得されていなければ言語を十分に獲得できたとは言えない。ところが日本の近代教育は学校教育における日本語習得の機会（国語という教科の授業）をゆがませてきた。現在でも日本全国の教室で、国語の授業の中で「話す」「聴く」について機能している場面はほとんどない。</p> <p>この時間は、日本語の口頭表現（「話す」「聴く」）の訓練を基本からやり直すことを主体に、実践的にコミュニケーションの技術の基礎を体得していくことを目的とする。講義は少ない。日本語の発声・発話・聞き取りのトレーニングの時間である。</p> <p>しかし、単なる技術の習得ではいずれ必要性が薄れれば忘れ去られる。毎日の生活に生かす原理を身につけた上での受講が望ましい。従って、春学期を受講した上での参加が望ましい。</p> <p>毎回の出席と膨大な量と回数の課題の提出・実践が求められるので、覚悟して受講すること。なお内容上の必要性から、受講者数の上限を50名とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 導入・オリエンテーション 「伝える」こと、「伝わる」こと 2 何を「伝える」のか？① 自分の言葉、他人の言葉 3 何を「伝える」のか？② 他人の言葉を「理解」する。 4 何を「伝える」のか？③ 自分の言葉を「理解」してもらう 5 何を「伝える」のか？④ 自分の言葉を「理解」してもらう工夫 6 何を「伝える」のか？⑤ 「表現するとは何か？」を考える 7 表現の実践と評価① 8 表現の実践と評価② 9 表現の実践と評価③ 10 表現の実践と評価④ 11 何が「伝わる」のか？ 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		毎回の出席、課題の提出・実践、課題レポート	

99～02 律／国 98 以前 律	国語表現法 / 国語表現法 国語表現法	担当者	小島 幸枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>いつの世にも青年期は成長途上の不安と苦悩、感情の振幅が大きいものだ。すぐれた古典および文学作品は、多感な青年期の出会いと別れの中から自己実現していった過程、様相をよく表現し得ている。そのような作品の何に、いつ、どれだけ、出会っているかが、人生の苦難の時期には有効な支えとなり激励される。本講では、声を出してそうした作品を表現することに加え、受講者たちと感想を述べ合い、討論を通して表現の機微と技巧を知り、いつそう読みと解釈を深めていきたい。そして、自分でも、作品を生産することを目的とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 韻文の表現（短歌・俳句・詩）の表現とリズム 2 韻文の技巧（『曾根崎心中』にみる本歌取り） 3～4 映画「仮面の中のアリア」（発声の基本訓練） 5 詩のリズム 宮澤賢治の作品と鑑賞 6 草野心平の作品と鑑賞 7 日本語の発音の特徴 8 山本周五郎の世界 9 森鷗外の文体 10 漱石の文体 11 天草版「エソポのハプラス」の文体 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出欠およびレポート	

99～02 律／国 98 以前 律	国語表現法 / 国語表現法 国語表現法	担当者	小島 幸枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文部科学省の方針に基づくいわゆる「ゆとり教育」の実践による学生生徒の学力不足が数字になって現れてきた。それは国語力の貧困に起因する。国語力とは、即ち漢字力の有無と多寡にある。本講では、もっぱら漢字力の衰退・枯渇を食い止め、国語力を取り戻すために手書きに挑戦する。短編の名作を書写することに始まり、自分でも実作することを目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 なぜ書くのか。 2 文章表現の意義 3 文字の力—漢字漢文力で翻訳して、外来文明に追い付いた明治時代 4 書写の意味 5～6 映画「天平の薨」鑑賞（若き留学僧の書写への執念） 7 名作短編の書写 芥川龍之介の作品 8 三浦哲郎の文体 9 森鷗外の翻訳 10 漱石の世界（漢詩および俳句） 11 上田敏の翻訳 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし。参考資料を授業中に指示します。		出欠および毎週の提出物	

99～02 律/国 98 以前 律	国語表現法 / 国語表現法 国語表現法	担当者	小島 幸枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>過去の人間の考え方に共鳴したり、未来の人間に語りかけられるのは言葉の力である。しかし言葉はただ通じればよいというものでもない。人の心を打つ美しい言葉、的確な表現、それは確かに才能にもよるが、たゆまぬ努力と訓練によってある程度は習熟できるものである。本講は、社会人予備軍としての大学生の日本語力を養うために、社会の変化に関心を持ち、情報の収集および判断力を養うこと、敬語の使い方の習得など、日本語の運用面について講述する。若者の日本語力をつけることを目標とする。今期は、音声言語表現を中心とし、1分間スピーチの演習や、朗読、日本語の敬語法などを学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 表現者（送り手）と理解者（受け手）の言葉におけるメカニズムを概説する 2 音声言語について、文字言語との差異および特徴の認識 3 日本語の基礎知識—日本語の音韻、アクセントの特徴 4 美しい言葉の条件—正確さと品位をどのように獲得するか 5～7 スピーチ演習 8 ディベート（ビデオ鑑賞） 9 反省とまとめ 10～12 敬語について、文学作品の朗読と批評 	
テキスト、参考文献		評価方法	
岡田啓介『国語表現法』（おうふう）		平常点。（新聞社説要約。800字の自由作文、読書報告文の提出と共に、毎回、授業開始前に漢字小テストを課す）	

99～02 律/国 98 以前 律	国語表現法 / 国語表現法 国語表現法	担当者	小島 幸枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文字言語表現を中心とする。社会人になって書く実用文の実作、相互に交換、添削をし合う。手紙文の書き方を学ぶ。日本語の文法を総復習する。（とくに、助詞、助動詞の基本的使用法を知る）</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1～3 日本語の文と文章、文の構造、文章の種類 4 文章を書く手順 5 主題と題材 6 材料を集める—説明文、報告文、論説文の特徴 7 材料を並べる—アウトラインの作成 8～9 文章を書く。文献資料を用いて文章を補強する 10 交換、批評し合う 11 推敲のポイントを学ぶ 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

99～02 律/国 98 以前 律	国語表現法 / 国語表現法 国語表現法	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目標] メールはその簡便性から一般化されてきた。その簡便性ゆえに日本語の持つ叙情性や心配りが失われつつある。本講義では、暗号のようなメールのやりとりから抜けだして、心を打つ手紙、メールを目指す。</p> <p>[講義概要] 手紙文の定型、先人の書簡の分析・鑑賞。手紙を重要なアイテムとした小説の鑑賞。美しいメール作法などを考える。</p> <p>[受講生への要望] 連続する授業なので、やむを得ず休んだ場合は、必ずノートを補って置いて下さい。</p>		<p>① 手紙文の約束 拝啓 時候の挨拶 本文 敬具 実作及び添削（3回シリーズ）</p> <p>② 時候の挨拶及び季節感（2回）</p> <p>③ 手紙文の解説・鑑賞（2回）</p> <p>④ 手紙をアイテムとした小説の鑑賞（2回）</p> <p>⑤ メール作成の問題点</p> <p>⑥ 絵文字の功罪</p> <p>⑦ ほか</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度プリントを配布します。		出席・レポート・定期試験による。	

99～02 律/国 98 以前 律	国語表現法 / 国語表現法 国語表現法	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目標] 話し言葉は、ギャル語、若者言葉とかおやじ言葉などに代表されるように、それぞれの世代で区分されコミュニケーションの断絶を生んでいる。世代を越えて理解し合える話し言葉を、学びながらそこに込められた日本人の知恵と繊細さを学び、心に届くことばの本質を考える。</p> <p>[講義概要] 流行語と呼ばれる言葉の変質を考察しながら、現代の世代間ギャップを埋める話し言葉を模索する。学生生活での言葉の問題ではなく、就職試験の面接に代表されるような世代間のコミュニケーションに役立つ自己表現としての話し言葉の習得を実際に考えてみる。</p> <p>[受講生への要望] 連続する授業なので、やむを得ず休んだ場合は、必ずノートを補って置いて下さい。</p>		<p>① 流行語の変遷と世相 昭和50年代の流行語と世相 昭和から平成初年代の流行語と世相 現代の流行語と世相（3回）</p> <p>② ギャル語とおやじギャグの問題（2回）</p> <p>③ 心を開かせる挨拶の仕方（2回）</p> <p>④ 発声法開発</p> <p>⑤ 電話応対</p> <p>⑥ 共通語の理想と現実</p> <p>⑦ 3分間スピーチの実践</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度プリントを配布します。		出席・レポート・定期試験による。	

99～02 律／国 98 以前 律	国語表現法 / 国語表現法 国語表現法	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・講義概要</p> <p>現在、若者の日本語能力の低下が叫ばれ、日本語のブームと言ってよいような状況にある。この授業では、社会人となっても恥ずかしくないような、日本語の基礎的な能力を身につけることを目標とする。具体的には、漢字検定2級、日本語検定準2級程度の能力が身に付くことを目標としたトレーニングを行っていく。</p>		<p>1 はじめに</p> <p>2 語彙 熟語</p> <p>3 語彙 類義語・対義語</p> <p>4 語彙 同訓異義語・同音異義語</p> <p>5 用字法</p> <p>6 句読法</p> <p>7 文の成分</p> <p>8 係り受け</p> <p>9 文の組み立て</p> <p>10 総合問題</p> <p>11 総合問題</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし プリント配布		期末試験	

99～02 律／国 98 以前 律	国語表現法 / 国語表現法 国語表現法	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・講義概要</p> <p>現在、若者の日本語能力の低下が叫ばれ、日本語のブームと言ってよいような状況にある。この授業では、社会人となっても恥ずかしくないような、日本語の基礎的な能力を身につけることを目標とする。具体的には、漢字検定2級、日本語検定準2級程度の能力が身に付くことを目標としたトレーニングを行っていく。後期は敬語法・実用文書について扱う。</p>		<p>1 はじめに</p> <p>2 敬語法</p> <p>3 敬語法</p> <p>4 総合問題（敬語）</p> <p>5 実用文 手紙</p> <p>6 実用文 案内書</p> <p>7 実用文 社内文書・社外文書</p> <p>8 実用文 レポート</p> <p>9 実用文 報告書</p> <p>10 総合問題</p> <p>11 総合問題</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし プリント配布		期末試験	

99～02 律/国 98 以前 律	心理学 / 心理学 心理学	担当者	杉山 憲司
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、なるべく広範囲なテーマを選び、心理学の課題と研究方法、研究成果について紹介する。心理学の視点から大学生を見ていると、第11に、自己の価値と個性を認め、自分に自信を持つこと。第2に、友人関係をお互い大切にするスキル（心理学ではソーシャル・スキルと言います）を身につける必要があることを、先ず言いたいと思います。また、心理学は自己を知ることが研究目的の1つであり、且つ、自己が研究対象でもあるという、学問としての特色があります。</p> <p>この授業では、1) 自己の特徴や日常的な人との関わりについて学ぶこと、2) 自己の専攻領域（所属する学科の学問）を心理学の視点からとらえ直すこと、3) 心理学から見た将来の職業（仕事）との関わりについて学ぶこと。以上が、講義の最終的な目的です。</p> <p>前期であるaでは、認知、行動、モチベーションの人間性の3側面に焦点を当てる予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒューマン・サイエンスとしての心理学：心理学への導入。歴史、研究対象と方法、動向など。 2. 感覚と知覚・認知（感じる／考える）：人間の感覚受容器や脳、感覚と知覚の仕組みや特徴について。 3. 感覚と知覚・認知：顔や原因の認知（原因帰属）、認知や記憶の情報処理モデルなど。 4. 感覚と知覚・認知、技能知・技術知、環境心理学、工業デザインなどについて。 5. 行動と行動獲得・変容（動く／変わる）：学習の基礎、例えば、条件づけ、強化の随伴性、モデルを媒介とした観察学習。 6. 進化と人間行動。例えば、利他行動や協力、殺人と自殺等について。 7. 教わることと学ぶことの違い。自律・協同学習と大学における学習環境デザイン。熟達化とコーチングなどについて。 8. モチベーション（もえる／動かす）：動機づけの基礎概念、例えば、生理的ホメオスタシス、学習動機について。 9. 達成動機と対人社会性動機。対人行動／責任行動などについて。 10. 欲求不満、葛藤、ストレス。無気力（学習性無力感）。 11. 内発的動機づけと意欲を高める自己原因性と有能感などについて。 12. まとめと残された問題。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
杉山憲司・青柳肇（編）『ヒューマン・サイエンスー心理学アプローチ』ナカニシヤ出版		試験で評価する。出席は前提だが、授業出席は学生の権利であり、従って、出欠は取らない。	

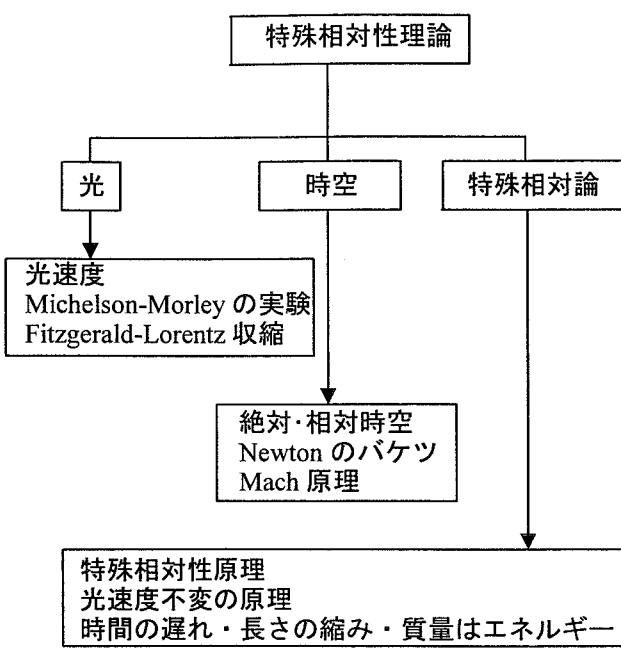
99～02 律/国 98 以前 律	心理学 / 心理学 心理学	担当者	杉山 憲司
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、なるべく広範囲なテーマを選び、心理学の課題と研究方法、研究成果について紹介する。心理学の視点から大学生を見ていると、第1に、自己の価値と個性を認め、自分に自信を持つこと。第2に、友人関係をお互い大切にするスキル（心理学ではソーシャル・スキルと言います）を身につける必要があることを、先ず言いたいと思います。また、心理学は自己を知ることが研究目的の1つであり、且つ、自己が研究対象でもあるという、学問としての特色があります。</p> <p>この授業では、1) 自己の特徴や日常的な人との関わりについて学ぶこと、2) 自己の専攻領域（所属する学科の学問）を心理学の視点からとらえ直すこと、3) 心理学から見た将来の職業（仕事）との関わりについて学ぶこと。以上が、講義の最終的な目的です。</p> <p>後期のbでは、パーソナリティ、発達、社会心理学の3領域を通して人間の多様性とその形成発達過程、形成要因に焦点を当てる予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 後半の導入：前期のまとめと、後期の視点について。多様性とは。 2. パーソナリティ（きわだつ／できる）：性格検査から何が言えるのか、何故そう言えるのか。 3. パーソナリティ理論は多様な人間性のモデルである。 4. 知能とは。知能と創造性の違い、創造性を活性化する条件。対人関係を円滑にするソーシャル・スキルなどについて。 5. 発達（育つ／育てる）：ビッグネームの多様な発達理論。 6. 生育初期の重要性：やり取りや親子・仲間関係の大切さ（アタッチメント）。 7. 青年期のアイデンティティ。発達支援、世代間伝達などについて。 8. 高齢化社会。生き甲斐と有能感。Well-being とは何か。 9. 社会（かかわる／競う）：社会的自己、自己開示／自己提示。 10. 集団と個人、例えば、変革期のリーダーシップとは何か。 11. 態度と態度変化。説得的コミュニケーションなどについて。 12. まとめ：各人の違いを認めたいうえで、1人ひとりが、精神的に健康で、幸福なサクセスライフを生きるために、心理学から何が言えるか、どんな課題が残されているか。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
杉山憲司・青柳肇（編）『ヒューマン・サイエンスー心理学アプローチ』ナカニシヤ出版		試験で評価する。出席は前提だが、授業出席は学生の権利であり、従って、出欠は取らない。	

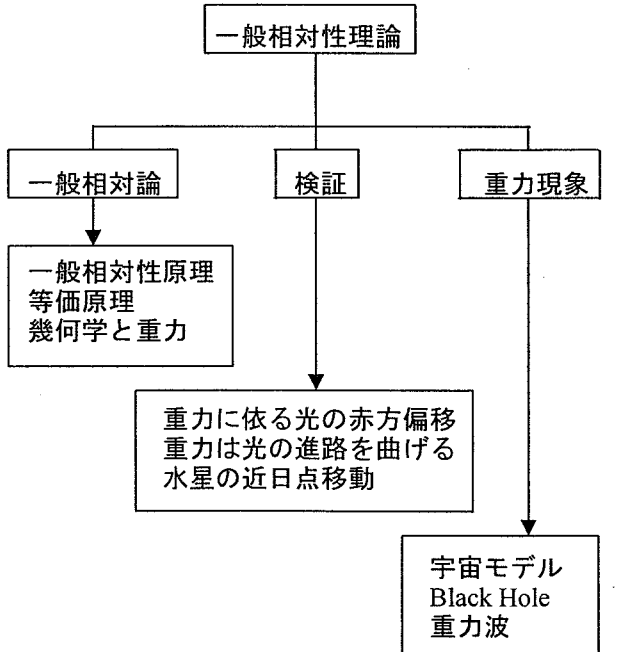
99～02 律/国 98以前 律	心理学 / 心理学 心理学	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、まず、現代心理学の成立過程を概観することで、心理学の基本的な知見について説明していく。その後、性格の形成、ストレス、生きがいと健康などのテーマについて、さまざまなデータを示しながら説明していく。</p>		<p>授業計画は以下のとおり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. こころの科学の成立過程① 3. こころの科学の成立過程② 4. 自己の性格の理解 5. 性格をとらえる枠組み 6. 性格の形成①：世界の子育て 7. 性格の形成②：遺伝と環境 8. ストレス①：ストレスと性格 9. ストレス②：ストレスへの対処 10. ストレス③：現代社会とストレス 11. 現代人とこころの健康① 12. 現代人とこころの健康② 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはとくに使用しない。必要な資料は授業中に配布する。参考文献は適宜紹介する。</p>		<p>出席と小レポート、学期末のテストにより総合的に評価をおこなう。</p>	

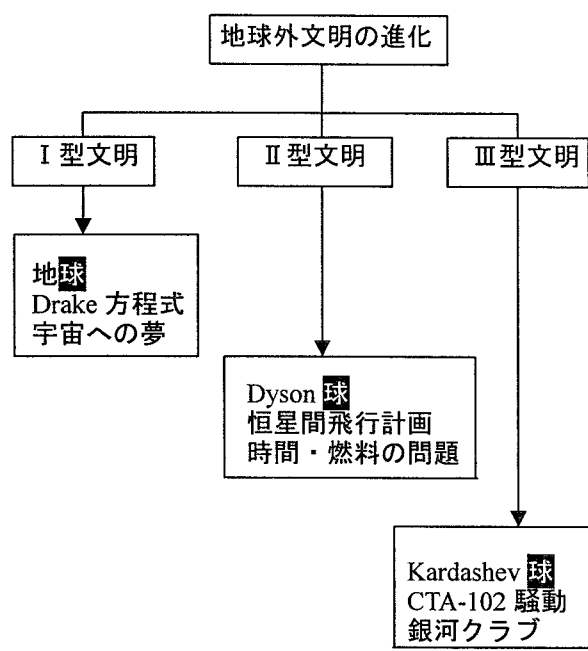
99～02 律/国 98以前 律	心理学 / 心理学 心理学	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基本的には春学期の授業内容を踏まえ、秋学期では、受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらおう。これらのことを通して自己についての理解を深めてもらうことが、本講義の目的である。心理検査やグループワークを実践した後には、結果などをレポートにまとめてもらう。また、関連するビデオなどを見てもらい、レポートを書いてもらうこともある。</p> <p>履修者は春学期の「ことばと思想(Ⅲ)(こころの科学)」を受講したものに限る。</p>		<p>授業計画は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 質問紙による性格検査① 3. 質問紙による性格検査② 4. 絵にみるこころの発達① 5. 絵にみるこころの発達② 6. こころのIQ 7. 想像力 8. 職業への興味 9. 将来の夢 10. 自我同一性確立と進路選択 11. グループワークによる自己理解 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは使用しない。参考文献は授業において紹介する</p>		<p>出席とレポートにより評価をおこなう。</p>	

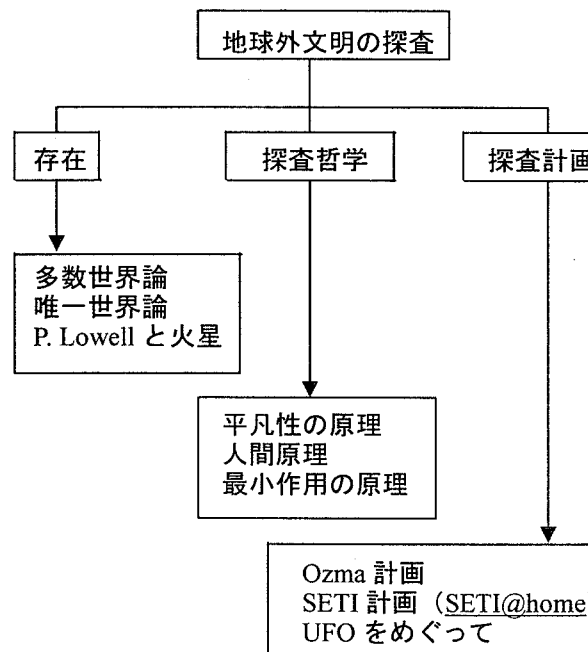
99～02 律/国 98 以前 律	文化人類学 / 文化人類学 文化人類学	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文化人類学は、現在消えつつある「未開」社会と呼ばれる社会の文化を、異文化として理解しようとする学問である。春学期においては、この学問の形成の歴史、対象、方法などを学ぶ。</p>		<p>1 どんな学問か 2 概説書の紹介 3 文化人類学前史(1) 4 同上 (2) 5 同上 (3) 6 文化人類学の誕生へ 7 対象としての「文化」の概念(1) 8 同上 (2) 9 初期の視点——歴史的視点 10 視点の転換——現在の視点へ 11 方法としての実地調査(1) 12 同上 (2)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		定期試験期間中の試験による。	

99～02 律/国 98 以前 律	文化人類学 / 文化人類学 文化人類学	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期で学んだことを基礎に、「未開」文化の事例を具体的に示し、それをどのように理解するかを学び、またそれを通してわれわれの文化について意識化し、検討を加えることを学ぶ。</p>		<p>事例としては、「経済」「婚姻・家族・親族」「宗教・儀礼」などを考えているが、話のつながり具合によって決める。ビデオを見てもらう機会もある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		定期試験期間中の試験による。	

99～02 律/国 98 以前 律	自然科学概論 / 自然科学概論 自然科学概論	担当者	福井 尚生
講義目的 ☆ 『宇宙論 a』では Einstein の「特殊相対性理論」を学びます。“特殊”に付けられた条件に留意する必要があります。 ☆ Einstein は当時、研究者の間で議論されていた光の伝播に関する問題に強い関心を持ちました。また時間・空間に対する考え方を Einstein がそれまでの絶対から相対に変えたことに依り、物理的世界観は本質的な変質を遂げました。 ☆ 従来の考え方を見直し、必要とあらば思い切った 発想の転換 、Paradigm Shift を試みることも時には大切なことだと思います。 ☆ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ☆ 主体的に勉強して得た知識をもとに、自らの頭でユニークな先を考える努力をして下さい。		講義概要  <pre> graph TD A[特殊相対性理論] --> B[光] A --> C[時空] A --> D[特殊相対論] B --> E["光速度 Michelson-Morley の実験 Fitzgerald-Lorentz 収縮"] C --> F["絶対・相対時空 Newton のバケツ Mach 原理"] E --> G["特殊相対性原理 光速不変の原理 時間の遅れ・長さの縮み・質量はエネルギー"] F --> G D --> G </pre>	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
☆ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/ 『なっとくする相対性理論』松田卓也、二間瀬敏史 著・講談社)		☆ 主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう 評価用紙(宿題・Quiz)の中身 です。	

99～02 律/国 98 以前 律	自然科学概論 / 自然科学概論 自然科学概論	担当者	福井 尚生
講義目的 ◎ 『宇宙論 b』は上記『宇宙論 a』の知識を前提として講義します。 ◎ 『宇宙論 b』では「一般相対性理論」とその理論が対象とする「重力現象」とを最新の話題を交えながら学びます。理論はその後の観測で確かめられなければなりません。折角の理論に変更を強いられることも多くあります。 ◎ 発想を転換して得られた独自の考えは、 用心深く実践 する必要があります。(相対性)理論構築への道程の話が、自分の考えを実践する際の役に立てば良いと思います。 ◎ 視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ◎ 主体的に勉強して得た知識をもとに、自らの頭でユニークな先を考える努力をして下さい。		講義概要  <pre> graph TD A[一般相対性理論] --> B[一般相対論] A --> C[検証] A --> D[重力現象] B --> E["一般相対性原理 等価原理 幾何学と重力"] C --> F["重力に依る光の赤方偏移 重力は光の進路を曲げる 水星の近日点移動"] D --> G["宇宙モデル Black Hole 重力波"] </pre>	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
◎ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/ 『なっとくする宇宙論』二間瀬敏史 著・講談社)		◎ 主な評価資料は、授業時間中に提出してもらう 課題用紙(宿題・Quiz)の中身 です。	

99～02 律/国 98 以前 律	自然科学概論 / 自然科学概論 自然科学概論	担当者	福井 尚生
<p>講義目的</p> <p>㊦『地球外文明論 a』では「地球外文明の進化」を学びます。</p> <p>㊦我々人類は、宇宙進化を司る宇宙方程式の現時間・空間に対する一つの解として存在します。この解の時間・空間発展を辿れば文明の進化を考察出来る筈です。</p> <p>㊦人類が今行う進化への営為が、この解の時間・空間発展に沿ったものかどうかをチェックし、進化への夢が持てればと思います。</p> <p>㊦視聴覚教材を出来るだけ利用します。</p> <p>㊦主体的に勉強して得た知識をもとに、自らの頭で自由に大きく先を考える努力をして下さい。</p>	<p>講義概要</p>  <pre> graph TD A[地球外文明の進化] --> B[I型文明] A --> C[II型文明] A --> D[III型文明] B --> B1[地球 Drake 方程式 宇宙への夢] C --> C1[Dyson 球 恒星間飛行計画 時間・燃料の問題] D --> D1[Kardashev 球 CTA-102 騒動 銀河クラブ] </pre>		
(テキスト)・(参考文献)	評価方法		
㊦ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/ 『地球外文明の思想史』 横尾広光 著・恒星社厚生閣)	㊦主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう 評価用紙 (宿題・Quiz) の中身 です。		

99～02 律/国 98 以前 律	自然科学概論 / 自然科学概論 自然科学概論	担当者	福井 尚生
<p>講義目的</p> <p>♫『地球外文明論 b』は、『地球外文明論 a』の知識を前提として講義します。</p> <p>♫『地球外文明論 b』では多数世界論の立場から地球外文明の「存在」を信じ、「地球外文明の探査」の「哲学」と「計画」とを学びます。</p> <p>♫地球外文明の探査・発見 (への努力) は、我々人類の存在意義・進化の方向に指針を与えてくれると思います。“Are we alone?”の問い掛けは続きます。</p> <p>♫視聴覚教材を出来るだけ利用します。</p> <p>♫主体的に勉強して得た知識をもとに、自らの頭で自由に大きく先を考える努力をして下さい。</p>	<p>講義概要</p>  <pre> graph TD A[地球外文明の探査] --> B[存在] A --> C[探査哲学] A --> D[探査計画] B --> B1[多数世界論 唯一世界論 P. Lowell と火星] C --> C1[平凡性の原理 人間原理 最小作用の原理] D --> D1[Ozma 計画 SETI 計画 (SETI@home) UFO をめぐって] </pre>		
(テキスト)・(参考文献)	評価方法		
♫ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/ 『Cosmic Company』 S. Shostak & A. Barnett, CAMBRIDGE)	♫主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう 評価用紙 (宿題・Quiz) の中身 です。		

99～02 律/国 98 以前 律	地球環境論 (生物学) / 地球環境論 (生物学) 地球環境論 (生物学)	担当者	加藤 僖重
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物学の基礎は材料となる種 (種類) の認識である。種の認識は時代、民族によって大きく異なる。その違いを知り、植物(種)の多様性を知ること为目标とする。 <p>履修資格</p> <ul style="list-style-type: none"> 植物名に関心があること。 普通の植物取りあえず 100 種を認識できること (最初の講義で試験を行なう)。 		<p>以下の内容をそれぞれ数回にわたって講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 種々の植物観察 学名と地方名の暗記 (基礎ラテン語の理解) 標本の役割と作成 Taxon(Taxa)の概念 <p>第一回目の講義で詳細な説明と基礎テストを行なうので、必ず出席すること。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		随時提出してもらおう標本、数回のレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果、その他を総合して評価する。	

99～02 律/国 98 以前 律	地球環境論 (生物学) / 地球環境論 (生物学) 地球環境論 (生物学)	担当者	加藤 僖重
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の地域によって異なる植物相を理解し、日本の自然環境の特質を知ること为目标とする。 <p>講義の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域によって生物型が定まっている。その共通点と相違点を知ること为目标とする。 <p>履修資格</p> <ul style="list-style-type: none"> 植物に興味があり、地理が好きであること。 普通の植物、取りあえず 100 種を認識できること (最初の講義で試験を行なう)。 		<p>以下の内容をそれぞれ数回にわたって講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 種々の植物観察 産業革命と資源調査 植物の分布 生態学的大国「日本」 <p>第一回目の講義で詳細な説明と基礎テストを行なうので、必ず出席すること。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		随時提出してもらおう標本、数回のレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果、その他を総合して評価する。	

99～02 律/国 98 以前 律	地球環境論 (地理学) / 地球環境論 (地理学) 地球環境論 (地理学)	担当者	犬井 正
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、環境の諸要素を概観し、熱帯地域、沙漠地域、亜寒帯針葉樹林地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションー地理学とは 2. 環境の諸要素(1) 気候環境 3. 環境の諸要素(2) 緯度帯別降水量・蒸発量・気温 4. 環境の諸要素(3) 植生 5. 熱帯地域(1) 熱帯林と伝統的生活様式 6. 熱帯地域(2) 熱帯林の開発と環境問題 7. 熱帯地域(3) 熱帯林の保全 8. 沙漠地域(1) 自然的・文化的特色と伝統的経済活動 9. 沙漠地域(2) 石油資源と近代化、沙漠の開発 10. 亜寒帯森林地域(1) タイガの中の生活 11. 亜寒帯森林地域(2) タイガの開発と保全 12. まとめ 	
テキスト		評価方法	
山本正三他著『自然環境と文化ー改訂版』原書房		定期試験等	

99～02 律/国 98 以前 律	地球環境論 (地理学) / 地球環境論 (地理学) 地球環境論 (地理学)	担当者	犬井 正
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地形環境を概観し、山地地域、地中海森林地域、温帯草原地域、温帯混合林地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明し、自然生態系と社会生態系の枠組みを理解する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境の諸要素ー地形環境 2. 山地地域(1) 山地の自然環境 3. 山地地域(2) 高度帯の利用と伝統的生業 4. 山地地域(3) 山地資源の開発と観光化 5. 地中海森林地域の特性 6. 地中海地域の生活様式ー西欧文化の原点 7. 温帯草原地域の自然特性 8. 温帯草原地域の開発と環境問題 9. 温帯混合林地域(1) 高密度都市化地域の特性 10. 温帯混合林地域(2) 産業革命と都市域の拡大 11. 世界の環境問題 自然生態系と社会生態系 12. まとめ 自然環境の保全と保護 	
テキスト		評価方法	
山本正三他著『自然環境と文化ー改訂版』原書房		定期試験等	

99～02 律/国 98 以前 律	情報処理 / 情報処理 情報処理	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、大学でのレポート作成や、ゼミでのプレゼンテーションにおいて必要となる、ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な使用法を、Microsoft Office を使用し、実習を通して身につけることを目的とします。</p> <p>また、リレーショナルデータベースとよばれる、大規模なデータ管理の際に使用されるデータの作成についても取り扱います。</p> <p>なお、各テーマが取り扱われる順序や、時間配分については、担当教員によって異なることがあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の進め方について 2. コンピュータの基礎、ID の管理について 3. ワードプロセッサの使用法 1 文章の作成、各種書式の設定 4. ワードプロセッサの使用法 2 図形描画、表の作成、数式の入力 5. 表計算ソフトの使用法 1 表の入力、グラフの作成 6. 表計算ソフトの使用法 2 関数を用いた計算 7. 表計算ソフトの使用法 3 マクロを用いた計算 8. プレゼンテーションソフトの使用法 1 スライドの作成、プレゼンテーション方法 9. プレゼンテーションソフトの使用法 2 アニメーションの設定 10. データベースの作成 1 ソフトの概要とデータの入力方法 11. データベースの作成 2 データの関連づけ、検索 12. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>情報処理教育担当者会監修 『コンピュータ入門』</p>		出席、レポート、試験などで総合評価します。	

99～02 律/国 98 以前 律	情報処理 / 情報処理 情報処理	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コンピュータを用いて作業を行う最には、市販のアプリケーションソフトを使用するだけではなく、コンピュータプログラムを作成し、既存のソフトを使うだけでは出来ないことを行うこともできます。コンピュータプログラムを作成する際には、プログラム言語の文法を覚えることにくわえて、どのような手順でコンピュータにより問題を解くのかを考え、それをプログラムとして表現することが重要です。</p> <p>この講義では、Java、C 言語、Visual Basic といったコンピュータ言語のひとつを使用して、プログラム作成の基礎を学びます。使用する言語は、担当教員ごとに異なりますが、各種言語を用いたプログラム法を学び、基礎的な問題解決の手順をプログラムで表現できるようになることを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の進め方について 2. コンピュータ言語の文法 1 使用言語の特徴とプログラムの作成方法 3. コンピュータ言語の文法 2 変数と配列、演算式 4. コンピュータ言語の文法 3 条件分岐、繰り返し 5. コンピュータ言語の文法 4 関数、ファイル処理 6. アルゴリズム 1 – ソート 数値の昇順、降順への並べ替え 7. アルゴリズム 2 – 数値計算法 – ニュートン法、二分法 8. アルゴリズム 3 – 乱数を用いた計算 – 円周率の計算 9. 基礎的な問題のプログラム作成 1 10. 基礎的な問題のプログラム作成 2 11. 基礎的な問題のプログラム作成 3 担当教員が指定した問題を、数回の講義に分けて作成します。 12. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員指定の教科書および印刷物		出席、レポート、試験などで総合評価します。	

99～02 律/国 98 以前 律	情報処理 (アドヴァンス)/情報処理 (アドヴァンス) 情報処理 (アドヴァンス)	担当者	加藤 由樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講では、4年間の学習・教育生活を通じて必要とされる情報処理の基礎と応用を、講義と実習にて習得する。 具体的には、次のような手段を使うことができるようになることを目的とする。</p> <p>① レポート作成や卒業論文の執筆に役立つワードプロセッサソフト (Word) を使っての文書作成 ② 必要な資料・データのインターネットからの検索 ③ email を使っての情報交換、データのやりとり ④ プレゼンテーション・ツール (PowerPoint) の活用 ⑤ Web ページの作成による情報発信技法</p> <p>毎回、実際にコンピュータを操作しながら、これらの習得を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータ利用の準備 2. 日本語入力とメール送信 3. WWW の参照と情報検索技法 4. ファイル操作の基本 5. Word による文書作成と印刷 6. 図表の作成とレイアウト機能、レポート作成 7. 総合的文書作成練習 8. PowerPoint によるプレゼンテーション 1 (スライドの作成方法、ウィザードの活用) 9. PowerPoint によるプレゼンテーション 2 (各種ツールの活用) 10. HTML による Web ページ作成 1 (基本) 11. HTML による Web ページ作成 2 (HTML のタグ) 12. HTML による Web ページ作成 3 (作成実習) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義中に、適宜紹介する。		出席とレポート課題を総合して評価する。	

99～02 律/国 98 以前 律	情報処理 (アドヴァンス)/情報処理 (アドヴァンス) 情報処理 (アドヴァンス)	担当者	加藤 由樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講では、4年間の学習・教育生活を通じて必要とされる情報処理の基礎と応用を、講義と実習にて習得する。 具体的には、表計算ソフト (Excel) を用いて、各種計算、データ集計、データ操作、グラフ作成、統計的分析機能、マクロ作成まで、基礎から応用を一通り行う。また、ワードプロセッサソフト (Word) との連携やテキスト処理も取り上げる。</p> <p>毎回、実際にコンピュータを操作しながら、これらの習得を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Excel の基本操作 2. 数式の利用と表の書式設定 3. 絶対参照を用いた条件式とワークシートの操作 4. グラフ作成と印刷 5. Excel によるリスト操作 6. データの単純集計とクロス集計 7. 統計的分析機能 8. Word と Excel の連携 9. テキスト処理 10. VBA によるプログラミング入門 1 11. VBA によるプログラミング入門 2 12. 表計算総合練習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義中に、適宜紹介する。		出席とレポート課題を総合して評価する。	

99～02 律/国 98 以前 律	統計学 / 統計学 統計学	担当者	富田 幸弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学や経営学を含む諸科学にも多くの貢献をしてきている。特に、近年のコンピュータの発達は、データの取り扱いと統計的方法への接近を容易にしている。こうしたことから、統計学の背景にある科学的方法としての理論の枠組みとその重要性を十分に理解し、応用力を身につけることを目標としている。</p> <p>その内容は、以下のとおりである。</p> <p>(1) データの整理 (2) 確率分布</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 統計学とは、評価・受講上の注意など 2 データの整理 (1) 位置の尺度・散布の尺度 3 データの整理 (2) 度数分布表・ヒストグラム 4 データの整理 (3) 各種のグラフ・指数 5 データの整理 (4) 簡便法 6 データの整理 (5) 相関係数・回帰直線 7 データの整理 (6) 計算演習とまとめ 8 確率・順列と組合せ・二項定理 9 確率分布 (1) 二項分布・漸化式 10 確率分布 (2) 正規分布・標準化 11 確率分布 (3) その他の確率分布 12 確率分布の計算演習とまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献などは、必要に応じて紹介する。</p> <p>毎回の講義概要については、プリントを配布する。</p>		<p>定期試験の結果により評価する。</p> <p>出席状況・レポートなども考慮する。</p>	

99～02 律/国 98 以前 律	統計学 / 統計学 統計学	担当者	富田 幸弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学や経営学を含む諸科学にも多くの貢献をしてきている。特に、近年のコンピュータの発達は、データの取り扱いと統計的方法への接近を容易にしている。こうしたことから、統計学の背景にある科学的方法としての理論の枠組みとその重要性を十分に理解し、応用力を身につけることを目標としている。</p> <p>その内容は、以下のとおりである。</p> <p>(1) 統計的推定 (2) 統計的仮説検定</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 春学期の復習、評価・受講上の注意など 2 母集団と標本・標本調査・中心極限定理 3 統計的推定 (1) 比率 4 統計的推定 (2) 平均 5 統計的仮説検定 (1) 概説 6 統計的仮説検定 (2) 比率・比率の差 7 統計的仮説検定 (3) 分割表 8 統計的仮説検定 (4) 平均・平均の差 9 統計的仮説検定 (5) 相関係数・等分散 10 統計的仮説検定 (6) その他検定 11 統計的仮説検定 (7) 推定と検定のまとめ 12 統計学のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献などは、必要に応じて紹介する。</p> <p>毎回の講義概要については、プリントを配布する。</p>		<p>定期試験の結果により評価する。</p> <p>出席状況・レポートなども考慮する。</p>	

99～02 律/国 98 以前 律	統計学 / 統計学 統計学	担当者	本田 勝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>我々の身の回りには大量のデータが存在する。それらは観測や測定あるいは実験のデータであったり、各種の調査から得られたデータであったり、その種類は様々である。これらのデータを解析し、推論していく、推測統計学を軸とする近代統計学の手法は、経済学や経営学の分野でもいろいろな形で応用されている。</p> <p>この講義では、統計学の基本的考え方とそれらを具体的に応用していく方法について述べていく。</p> <p>講義は以下のような内容についてテキストを中心に進めるが、スライドを使用することもある。</p> <p>データの整理の方法 確率の概念 確率分布の考え方 特殊な確率分布</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 統計学とは何かについて、統計学の導入を行なう。 2 標本として得られるデータの整理のしかたについて述べる。平均、中央値、最頻値など。 3 ばらつきの尺度によるデータ特性の把握の方法を述べる。 4 データ整理の方法を理解するための演習をおこなう。 5 確率導入の準備として、集合および事象について述べる。 6 確率を導入し、加法定理、条件付確率および乗法定理について述べる。 7 確率変数と確率分布の考え方を述べ、離散型および連続型の例を考えてみる。 8 平均 や分散などの特性値について述べる。 9 2項分布を例に、離散型確率分布の性質を調べる。 10 ポアソン分布の性質を調べる。問題演習。 11 連続型確率分布の性質について、一様分布、指数分布、正規分布を例に述べる。 12 正規分布の確率の求め方と確率変数の標準化について述べる。問題演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
本田 勝『基本統計学』 産業図書		定期試験および出席調査による総合評価	

99～02 律/国 98 以前 律	統計学 / 統計学 統計学	担当者	本田 勝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的は統計学 a と同じ</p> <p>講義は以下のような内容についてテキストを中心に進めるが、スライドを使用することもある。</p> <p>標本分布の考え方といくつかの例 統計学における推定の問題 統計学における仮説検定の問題 2変量間の関係のとらえ方</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 標本分布とは何かについて述べ、中心極限定理についても言及する。 2 標本比率の確率分布について述べ、2項分布の正規分布近似についても言及する。 3 カイ2乗分布およびt分布を説明したあと、標本分散の確率分布について述べる。 4 母集団パラメータの推定について、点推定、区間推定の考え方を述べる。 5 母平均の区間推定のし方を述べる。問題演習。 6 母集団比率及び母分散の区間推定のし方を述べる。 7 統計的仮説検定の考え方と母平均の検定法について述べる。 8 2変量間の相関とは何かについて述べる。 9 回帰直線について述べる。(線形回帰、最小2乗法) 10 カイ2乗検定の考え方について述べる。 11 問題演習 12 一年間の総復習を行う。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
本田 勝『基本統計学』 産業図書		定期試験および出席調査による総合評価	

99～02 律/国 98以前 律	統計学 / 統計学 統計学	担当者	松井 敬
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学、経営学を含む諸科学に大きく貢献してきた。近年は、コンピュータなどのデータ処理システムの発展もあって、人間活動のあらゆる分野で広く利用されている。本講義は、統計学の基礎的な概念と方法について正確な知識と応用能力を身につけることを目的とする。統計学は現実への応用に大きく関わった学問なので、出来るだけ具体的な問題を意識し、適宜計算演習をまじえながら進めてゆく。</p> <p>内容は記述的な統計から現代統計学の枠組み、データの得られるメカニズム(モデル)などである。</p> <p>試験問題は講義中の演習問題が中心になるので、普段からキチンと出席し、テーマ毎に理解しておくことが大切である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計学とはどんな学問か、なぜ統計学を学ぶのか。ほかに授業の進め方、方針。 2. 統計的な見方、考え方とは。データを測定する尺度。 3. データを記述するための尺度の意味と特徴、計算など。 4. 探索的なデータ解析の方法と考え方。 5. 2つの変数間の関連性を説明する尺度について。 6. 2つの変数間の"線型"な関係を調べる。回帰直線。 7. 確率—統計と確率の接点。確率の基本的な考え方。 8. データの得られるしくみ。データとそのモデル(分布)。 9. 現代統計学の枠組み—母集団と標本。 10. 離散型の分布—二項分布、ポアソン分布など。 11. 連続型の分布—正規分布の意味と特徴など。 12. 正規分布とその周辺の事柄について。前期のまとめ。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
池田、松井、富田、馬場著『統計学』—データから現実をさぐる、内田老鶴圃。		期末の試験と出席による。	

99～02 律/国 98以前 律	統計学 / 統計学 統計学	担当者	松井 敬
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、統計的応用のための様々な手法の意味や考え方を説明する。データは実験、観察、調査など社会の様々な場から得られるが、データの処理にはその背景にある諸条件を勘案しつつ、適切な統計的方法を選択する必要がある。その際に留意すべき点や問題となる点を明確にしながら説明してゆきたい。</p> <p>取り扱うのは推定、検定、ノンパラメトリック法などで、それぞれの方法が、どのような考え方で組み立てられているかを詳説したい。また、統計的概念の理解は、実際にデータに対峙し、計算を行うことで(データ処理によって)深まってゆくの、随時演習を行い、各手法がより十分に理解されるようにしたい。例題や演習問題には積極的に取り組んでいただきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. データ解析の考え方—母集団と標本の枠組み、統計的推測について。 2. 統計的推定—点推定、最尤推定、標本分布など。 3. 比率と母平均の推定、推定量の意味、性質、比較。 4. 区間推定。サンプルの大きさを決める方法。 5. 統計的仮説検定の考え方。 6. 比率の検定—考え方と定式化。 1標本と2標本。 7. 正規分布の母平均の検定など。 8. 2×2分割表の考え方と方法。r×c表。 9. 適合度検定。 10. ノンパラメトリックな方法。符号検定など。 11. 順位にもとづく検定など。 12. 統計的推測：統計的方法の枠組みと様々な手法の関連を再考する。後期のまとめ。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
池田、松井、富田、馬場著『統計学』—データから現実をさぐる、内田老鶴圃。		期末の試験と出席による。	

99～02 律/国 98以前 律	健康学 / 健康学 健康学	担当者	中野 隆史
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代の社会では心の健康に関連するできごとが大きな問題となっている。とくに長引く経済不況下で中高年の自殺が増加し、自殺者は年間2万人から3万人へと激増した。精神衛生 (=精神保健=メンタルヘルス) の知識は現代を生きる上で不可欠である。本講義では精神保健と精神医学の基本的な知識を身につけることによって、自己を理解し自身の学生生活とその後の人生を豊かにし、友人・家族など身近な人、職場の同僚や部下に対する援助のできる社会人を育成することを目標とする。</p> <p>精神保健の概念とその実践の対象から講義を始める。次いで精神保健の理解に必要な精神医学の基本的知識を学ぶ。これらを踏まえて、ライフサイクルから見た精神保健すなわち各ライフステージにおける発達課題とその障害について考えていく。講義全体を通して、自分の身の回りの事例やマスメディアの報道などを精神保健の視点からとらえ、これらの事例に関する討論を通じて精神保健の知識と理解を深めてゆく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 精神衛生 (=精神保健) を学ぶ意味 2 精神保健の実践の対象—健全者の精神の健康管理、精神保健不全者への対応、精神障害に対する社会的偏見 3 精神医学の基本的知識 (1) 精神障害の概念・成因・分類 4 精神医学の基本的知識 (2) 心因性精神障害 神経症 (不安障害など)、心因反応 (PTSD など) 5 精神医学の基本的知識 (3) 内因性精神障害 うつ病 (気分障害)、統合失調症 6 精神医学の基本的知識 (4) 精神科の治療 薬物療法、精神療法、精神科リハビリテーション 7 ライフサイクルから見た精神保健 (1) 乳幼児期 基本的信頼感、分離個体化、精神遅滞、広範性発達障害 8 ライフサイクルから見た精神保健 (2) 児童期 社会化、注意欠陥/多動障害(ADHD) 9 ライフサイクルから見た精神保健 (3) 思春期・青年期 自我同一性、モラトリアム、不登校、統合失調症 10 ライフサイクルから見た精神保健 (4) 成人期 職場不適応、ストレス反応、うつ病、自殺 11 ライフサイクルから見た精神保健 (5) 老年期 老化、喪失体験、うつ病、痴呆 (アルツハイマー病など) 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはとくに指定しない。必要に応じてレジュメを配布する。参考文献は講義の際に紹介する。</p>		<p>試験の成績による。</p>	

99～02 律/国 98以前 律	健康学 / 健康学 健康学	担当者	中野 隆史
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>精神保健 (メンタルヘルス) や精神障害の問題は一部の特別な人だけのものではない。現代のストレスフルな社会 (虐待、いじめ、リストラ……) では誰もが必ず関わることがある問題である。「明日はわが身」である。本講義では健全者の精神的健康の維持増進のためのストレス対処法やメンタルヘルス不全者への対応などの基本的な知識を身につけることによって、自己を理解し自身の学生生活とその後の人生を豊かにし、友人・家族など身近な人、職場の同僚や部下に対する援助のできる社会人を育成することを目標とする。</p> <p>精神衛生論 (健康学) a を踏まえて、生活の場から見た精神保健を考えていく。さらに、精神障害の予防と精神の健康管理 (精神的健康の維持増進)、わが国の精神科医療の現状について学ぶ。講義全体を通して、自分の身の回りの事例やマスメディアの報道などを精神保健の視点からとらえ、これらの事例に関する討論を通じて精神保健の知識と理解を深めてゆく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 生活の場から見た精神保健 (1) 家族の精神保健 (1) 家族の形態と機能、社会の変化と家族機能の変化 2 生活の場から見た精神保健 (2) 家族の精神保健 (2) 夫婦関係、親子関係、育児不安、育児支援 3 生活の場から見た精神保健 (3) 学校の精神保健 (1) 小中高校—学校精神保健、スクールカウンセラー 4 生活の場から見た精神保健 (4) 学校の精神保健 (2) 大学—保健センター、摂食障害、統合失調症、うつ病 5 生活の場から見た精神保健 (5) 職場の精神保健 (1) 労働安全衛生法、メンタルヘルスケア、うつ病 6 生活の場から見た精神保健 (6) 職場の精神保健 (2) 産業保健サービスシステム、復職システム 7 生活の場から見た精神保健 (7) 地域の精神保健 地域リハビリテーション、社会復帰のための社会資源 8 わが国の精神科医療の現状 入院治療中心から通院治療中心へ 9 精神障害の予防と健康管理 (1) 心の健康づくり、ストレスとその対処法 10 精神障害の予防と健康管理 (2) 専門機関、専門家 11 精神障害の予防と健康管理 (3) 医療システム、保健システム、福祉システム 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはとくに指定しない。必要に応じてレジュメを配布する。参考文献は講義の際に紹介する。</p>		<p>試験の成績による。</p>	

99～02 律/国 98以前 律	***** / ***** 文学概論 (日本)	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目標】 現代日本におけるベストセラーの特色を分析することにより、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるのかを考察する。</p> <p>【講義概要】 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。春学期は「恐怖の現代文学」と題して、恐怖や苦痛を扱ったベストセラーの数々をブックレビュー的に紹介しながら、その本質に迫る。</p> <p>【受講生への要望】 講義で紹介した作品は、できるだけ読破して欲しい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを伝えて行くことが目的なので、楽しんでもらいたい。</p>		<p>恐怖の現代文学</p> <p>① 日本文学における代表的恐怖 『古事記』『今昔物語集』『平家物語』『牡丹灯籠』『雨月物語』『東海道四谷怪談』</p> <p>② 現代文学における恐怖の端緒 江戸川乱歩、横溝正史の登場</p> <p>③ 現代恐怖文学のベストセラー分析 (1) 古典的な題材を含んだ作品 荒俣宏の『帝都物語』 坂東眞砂子の『死国』『狗神』ほか 京極夏彦の世界 (2) 超自然的現象の題材を含んだ作品 梅原克文の『ソリトンの悪魔』ほか 瀬名秀明の『パラサイト・イヴ』ほか 鈴木光司の『リング』ほか (3) 心理学的な題材を含んだ作品 貴志祐介の『黒い家』ほか 桐野夏生の『「OUT」』ほか (4) 社会派ミステリー 宮部みゆきの『理由』ほか (5) スプラッター的ホラー 綾辻行人の『殺人鬼』における実験 (6) その他</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度紹介する。		出席・レポート・定期試験による。	

99～02 律/国 98以前 律	***** / ***** 文学概論 (日本)	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目標】 現代日本におけるベストセラーの特色を分析することにより、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるのかを考察する。</p> <p>【講義概要】 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。秋学期は「癒しの現代文学」と題して、癒しややさしさを扱ったベストセラーの数々をブックレビュー的に紹介しながら、その本質に迫る。</p> <p>【受講生への要望】 講義で紹介した作品は、できるだけ読破して欲しい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを伝えて行くことが目的なので、楽しんでもらいたい。</p>		<p>癒しの現代文学</p> <p>① 近代文学に見るやさしさの文学 芥川龍之介の『蜜柑』ほか 川端康成の『伊豆の踊子』ほか 太宰治の『お伽草紙』ほか</p> <p>② 現代文学に見るやさしさの文学 宮本輝の世界 浅田次郎の世界 重松清の世界 村上春樹の世界 北村薫の世界 現代児童文学の現状 宮崎駿の目指す世界 ほか</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度紹介する。		出席・レポート・定期試験による。	

99～02 律/国 98 以前 律	**** / **** 文学概論 (日本)	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・講義内容</p> <p>日本の古典文学を取り上げ、その魅力に触れることを目標とする。この講義では上代から中古前期を取り扱うことを目標としているが、場合によっては、上代(奈良時代以前)のみを取り扱うこともある。</p> <p>プリントを配布して、そのプリントに基づくかたちで講義を進める。試験はそのプリントをまとめるものとなるので、授業を通して全体の流れをよく把握してほしい。</p>		<p>1 はじめに</p> <p>2 八岐大蛇退治神話の紹介 (古事記)</p> <p>3 八岐大蛇神話と海外の神話 (古事記)</p> <p>4 神としての天皇 (万葉集)</p> <p>5 古代都市の文学 (万葉集)</p> <p>4 浦島太郎と蓬莱山 (丹後国風土記)</p> <p>5 浦島太郎と風流 (丹後国風土記)</p> <p>6 異境訪問譚について</p> <p>7 春の孤独 (万葉集)</p> <p>8 平和の帝国 (文華秀麗集)</p> <p>9 いちはやきみやび (伊勢物語)</p> <p>10 怨霊と秩序 (古今和歌集)</p> <p>11 一人子の死 (土佐日記)</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし (プリント配布)		期末試験	
参考図書は授業時に随時紹介する。			

99～02 律/国 98 以前 律	**** / **** 文学概論 (日本)	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・講義内容</p> <p>日本の古典文学を取り上げ、その魅力に触れることを目標とする。この講義では中古後期以降のテキストを取り扱う。</p> <p>授業は、プリントを配布して、そのプリントに基づくかたちで講義を進める。試験はそのプリントをまとめるものとなるので、授業を通して全体の流れをよく把握してほしい。</p>		<p>1 はじめに</p> <p>2 真実の物語 (蜻蛉日記)</p> <p>3 作られた笑い (枕草子)</p> <p>4 源氏物語のストーリー</p> <p>5 源氏物語のストーリー</p> <p>6 天女の末裔 (源氏物語)</p> <p>7 方便としての物語 (源氏物語)</p> <p>8 菩提講の鎮魂 (大鏡)</p> <p>9 衰弱する天皇 (讃岐典侍日記)</p> <p>10 華麗なる滅亡 (平家物語)</p> <p>11 この世の終わり (方丈記・徒然草)</p> <p>12 現代と古典文学</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし (プリント配布)		期末試験	
参考図書は授業時に随時紹介する。			

99～02 律/国 98以前 律	**** / **** 文学概論 (外国)	担当者	野々山 ミチコ
講義目的、講義概要		授業計画	
近代スペイン文学の名作を解説する。 最後にドン・キホーテも解説する。		1 短篇集 「イワシの埋葬から」 ベッケル 2 アソリン 3 アソリン 4 アソリン 5 クラリン 6 クラリン 7 ロルカ 8 ロルカ 9 ドン・キホーテ 10 ドン・キホーテ 11 " " 12 " "	
テキスト、参考文献		評価方法	
野々山 真輝帆編「イワシの埋葬」 ロルカはプリントを用いる。 セルバンテス「ドン・キホーテ」前篇 (岩波文庫)		出席とレポートによる。	

99～02 律/国 98以前 律	**** / **** 文学概論 (外国)	担当者	野々山 ミチコ
講義目的、講義概要		授業計画	
ラテンアメリカ文学の二つの大きな流れ、モデルニズモと魔術的リアリズムの生んだ名作を解説する。		1 短篇集から ルベン・ダリオ 2 アマード・ネルボ 3 クレメンテ・パルマ 4 バレット 5 キローガ 6 キローガ 7 キローガ 8 オネッティ 9 アレオラ 10 カルペンティエール・コルタサル (プリント) 11 ボルヘス (岩波文庫) 12 ボルヘス (")	
テキスト、参考文献		評価方法	
野々山 真輝帆編「ラテンアメリカ短篇集」 ボルヘス「伝奇集」		出席とレポートによる。	

99～02 律/国 98 以前 律	***** / ***** 文学概論 (外国)	担当者	宮谷 尚実
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>『聖書』は、欧米の文化のみならず、近代以降の日本文学にも大きな影響を及ぼした書物であり、現代に生きる私たちもさまざまな形でこの聖書に接しているはずである。</p> <p>この講義の目的は、キリスト教など特定の宗教の信仰を前提とせず、あくまでも文学として聖書を扱い、1) 大学の勉強のなかで聖書を背景とした文化圏に関わる際に必要とされる基本情報を学ぶこと、2) 聖書を題材とした文学作品や図像の読み方の基礎を学ぶこと、である。</p> <p>旧約聖書と新約聖書の有名な話を中心に、それらの解釈である文学作品や絵画、できればさらには音楽や映画を紹介したい。</p> <p>受講者は、第1回で配布する詳しいリストを参考に、指定された箇所を毎回あらかじめ読んでから出席すること。そのため、初回の授業には必ず出席すること。</p> <p>さらに、授業で指定されていない文献や作品を自ら「発掘」して授業と関連づける知的好奇心と行動力を受講者に求める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 旧約聖書の世界 (1) 3 旧約聖書の世界 (2) 4 旧約聖書の世界 (3) 5 旧約聖書の世界 (4) 6 旧約聖書の世界 (5) 7 新約聖書の世界 (1) 8 新約聖書の世界 (2) 9 新約聖書の世界 (3) 10 新約聖書の世界 (4) 11 新約聖書の世界 (5) 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：『聖書 新共同訳』（日本聖書協会） 文語または口語訳でもかまわない。</p> <p>参考文献：『アートバイブル』（日本聖書協会）2003年</p>		<p>毎回の小レポート・期末試験</p> <p>授業中に迷惑行為（私語等）を行った場合は欠席とみなし、程度によっては単位を認めないこともある。</p>	

99～02 律/国 98 以前 律	***** / ***** 文学概論 (外国)	担当者	宮谷 尚実
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代において、文学は活字メディアにとどまらず、映画化によって「読まれ」ることが多い。出版からわずかの間に映画化される『ハリー・ポッター』を例に出すまでもなく、映画というメディアの発展とともにさまざまな文学作品が映画化されてきた。</p> <p>この講義では、20世紀ドイツの児童文学作家ケストナーの作品を3つ読み、その映画化された作品と比較する。たとえば、2003年冬に日本でも公開された『飛ぶ教室』はライプチヒの聖トーマス教会付属学校を舞台としているが、これはケストナーによる原作にはない設定である。映画を原作と比較し、社会的背景もふまえつつ、そうした改変の原因と効果を考えたい。</p> <p>講義の目的は、活字メディアの原作をきちんと読み、映画と比較する目を養うことである。そのため、受講希望者は、扱われる作品を必ず自分で読んで講義に臨むこと。また、映画化された作品もあらかじめ観ておくことが望ましい。</p> <p>期末試験では授業で扱わない作品を課題とするため、主体的な授業参加が普段から不可欠である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 ケストナーとその時代 3 『ふたりのロッテ』(1) 4 『ふたりのロッテ』(2) 5 『ふたりのロッテ』(3) 6 『点子ちゃんとアントン』(1) 7 『点子ちゃんとアントン』(2) 8 『点子ちゃんとアントン』(3) 9 『飛ぶ教室』(1) 10 『飛ぶ教室』(2) 11 『飛ぶ教室』(3) 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>講義第1回目に指示するため、欠席しないこと。</p>		<p>毎回の小レポート・期末試験</p> <p>授業中に迷惑行為（私語等）を行った場合は欠席とみなし、程度によっては単位を認めないこともある。</p>	

全カリ 99～02 律/国 98 以前 律	English 111a・112a (再履修) 英語 I (講読) / 英語 I (講読) 英語 I (講読)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>141/142 とともに、全学共通カリキュラムのコア科目である。現代社会、文化などに関するリーディングを行う。統一教材による TOEIC 語彙指導。統一語彙テスト毎回実施。教室外でのコンピュータによる英語学習が義務づけられる。</p> <p>教科書：担当教員の指示に従うこと。</p>		<p>授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
注：独仏の 111 と 112 は統一教科書 (Reading On-Line) を使用する。			

全カリ 99～02 律/国 98 以前 律	English 111b・112b (再履修) 英語 I (講読) / 英語 I (講読) 英語 I (講読)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>141/142 とともに、全学共通カリキュラムのコア科目である。現代社会、文化などに関するリーディングを行う。統一教材による TOEIC 語彙指導。統一語彙テスト毎回実施。教室外でのコンピュータによる英語学習が義務づけられる。</p> <p>教科書：担当教員の指示に従うこと。</p>		<p>授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
注：独仏の 111 と 112 は統一教科書 (Reading On-Line) を使用する。			

全カリ 99～02 律/国 98以前 律	English 141a・142a (再履修) 英語 I (会話) / 英語 I (会話) 英語 I (会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
111/112 とともに、全学共通カリキュラム 1 年生のコア科目である。LL で授業を行う。リスニング(統一教科書: VIVA! San Francisco)、統一クイズ、統一期末テスト実施。		授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：統一教科書を使用。			

全カリ 99～02 律/国 98以前 律	English 141b・142b (再履修) 英語 I (会話) / 英語 I (会話) 英語 I (会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
111/112 とともに、全学共通カリキュラム 1 年生のコア科目である。LL で授業を行う。リスニング(統一教科書: VIVA! San Francisco)、統一クイズ、統一期末テスト実施。		授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：統一教科書を使用。			

全カリ 99～02 律/国 98以前 律	English 211a・212a (再履修) 英語Ⅱ (講読) / 英語Ⅱ (講読) 英語Ⅱ (講読)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
現代社会におけるさまざまなトピックを盛り込んだ、より上級の教材を使用する講読。		授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：担当教員の指示に従うこと。			

全カリ 99～02 律/国 98以前 律	English 211b・212b (再履修) 英語Ⅱ (講読) / 英語Ⅱ (講読) 英語Ⅱ (講読)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
現代社会におけるさまざまなトピックを盛り込んだ、より上級の教材を使用する講読。		授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：担当教員の指示に従うこと。			

全カリ 99～02 律/国 98以前 律	English 241a・242a (再履修) 英語Ⅱ(会話) / 英語Ⅱ(会話) 英語Ⅱ(会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
TOEIC 対策につながるリスニング演習。		授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：担当教員の指示に従うこと。			

全カリ 99～02 律/国 98以前 律	English 241b・242b (再履修) 英語Ⅱ(会話) / 英語Ⅱ(会話) 英語Ⅱ(会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
TOEIC 対策につながるリスニング演習。		授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：担当教員の指示に従うこと。			

99～02 律/国 98以前 律	***** / 英語Ⅱ (総合) *****	担当者	田平 幸代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済、法学部三年以上の再履修の学生を対象とするクラスである。英語に苦手意識はあっても、何とかもう一度勉強してみようと思っている学生の受講を期待している。</p> <p>講義の目的は、できるだけ正確にかつ効率的に英文を読む力を伸ばすことである。そのために、前期はまずリーディング スキルズを系統的に学び、英文を読み解く練習をする。</p> <p>読んできた内容をプレゼンテーション形式で発表してもらうほかに、毎回音声教材 (DVD、CD) を使った学習もするので、クラスへの積極的な参加が必要である。</p>		<p>1 パラグラフの構成要素①</p> <p>2 ②</p> <p>3 パラグラフの構造①</p> <p>4 ②</p> <p>5 キーセンテンスと主題①</p> <p>6 ②</p> <p>7 ③</p> <p>8 パラグラフリーディングの練習①</p> <p>9 ②</p> <p>10 ③</p> <p>11 パラグラフとタイトル ①</p> <p>12 ②</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業の際に前期分のプリントを渡す予定である。		プレゼンテーション、レポート、前期試験の結果を総合して評価する。出席を重視する。	

99～02 律/国 98以前 律	***** / 英語Ⅱ (総合) *****	担当者	田平 幸代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に引き続いてリーディング スキルズを学ぶので、前期からの継続受講が望ましい。</p> <p>後期は、ネット上の情報や新聞記事などを読む練習をするほか、音声教材を使ってニュース英語やインタビューなども取り上げる予定である。授業中にDVD、CDなどを使って学習するので、前期同様、授業への積極的な参加が必須となる。</p>		<p>1 パラグラフとアウトライン①</p> <p>2 ②</p> <p>3 速読の技術 (スキミング) ①</p> <p>4 <スキミング> ②</p> <p>5 リーディングスキルズのまとめ</p> <p>6 情報を読む練習①</p> <p>7 ②</p> <p>8 ③</p> <p>9 ④</p> <p>10 ニュース英語を聞く、読む、理解する①</p> <p>11 ②</p> <p>12 ③</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業の際に後期分のプリントを渡す予定である。読解練習用の教材については新聞、ネットなどから取り上げたものを適宜配布する。		プレゼンテーション、レポート、定期試験の結果を総合して評価する。出席を重視する。	

99～02 律/国 98 以前 律	***** / 英語Ⅱ (総合) *****	担当者	沼 隆三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>① 英語の総合的能力の向上を目的とし、読解、作文、文法を同時に学習できる教科書を使用。</p> <p>② 内容把握に必要な風俗、習慣、歴史、文化などについて解説、教養教育的な面を重視。</p> <p>③ 文法や修辞に関しては、基本的な英文の構造から省略、倒置、隠喩などに及ぶ。</p>		<p>① 第一回目は、授業の進め方、辞書の使用方法など。</p> <p>② 第2回目以降は1回平均3～4頁程度、12回で約40頁進む。</p> <p>③ 読解については、学生諸君の音読と和訳後、解説と訂正訳をする。</p> <p>④ 文法・作文については、教科書の Exercise をやっていただいた後、説明と訂正をする。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
今のところ未定、授業開始に間に合うようにする。 春秋学期同一の教科書の前半		<p>① 定期試験 ②平素の学習状況</p> <p>② 出席状況などから、総合的に評価する。 レポート評価は絶対に行わない。</p>	

99～02 律/国 98 以前 律	***** / 英語Ⅱ (総合) *****	担当者	沼 隆三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>① 英語の総合的能力の向上を目的とし、読解、作文、文法を同時に学習できる教科書を使用。</p> <p>② 内容把握に必要な風俗、習慣、歴史、文化などについて解説、教養教育的な面を重視。</p> <p>③ 文法や修辞に関しては、基本的な英文の構造から省略、倒置、隠喩などに及ぶ。</p>		<p>① 第一回目は、授業の進め方、辞書の使用方法など。</p> <p>② 第2回目以降は1回平均3～4頁程度、12回で約40頁進む。</p> <p>③ 読解については、学生諸君の音読と和訳後、解説と訂正訳をする。</p> <p>④ 文法・作文については、教科書の Exercise をやっていただいた後、説明と訂正をする。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春・秋学期同一教科書を使用 その後半。		<p>① 定期試験 ②平素の学習状況</p> <p>② 出席状況などから、総合的に評価する。 レポート評価は絶対に行わない。</p>	

99～02 律/国 98以前 律	ドイツ語 I B (読解練習) / ドイツ語 I B (読解練習) ドイツ語 I B (読解練習)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) ドイツ語の基礎的能力の習得。具体的には、春学期+秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験(独検)」4級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する(できるだけアクチュアルな)情報獲得を図ります。 講義概要 ドイツ語の基礎的な能力を、実際の練習を通して身につけていきます。使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。 授業は、日本人教員のもので行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、楽しく、かつ体系的に学ぶことができます。		『ドイツ語一年生- ケイコのミュンヘン (Keikos Praktikum in Muenchen)・CD 付き』(朝日出版社) 2003 年 Step 1 ~ Step 5	
テキスト、参考文献		評価方法	
矢羽々 崇:『ドイツ語一年生- ケイコのミュンヘン (Keikos Praktikum in Muenchen)・CD 付き』(朝日出版社) 2003 年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

99～02 律/国 98以前 律	ドイツ語 I B (読解練習) / ドイツ語 I B (読解練習) ドイツ語 I B (読解練習)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) ドイツ語の基礎的能力の習得。具体的には、春学期+秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験(独検)」4級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する(できるだけアクチュアルな)情報獲得を図ります。 講義概要 ドイツ語の基礎的な能力を、実際の練習を通して身につけていきます。使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。 授業は、日本人教員のもので行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、楽しく、かつ体系的に学ぶことができます。		『ドイツ語一年生- ケイコのミュンヘン (Keikos Praktikum in Muenchen)・CD 付き』(朝日出版社) 2003 年 Step 6 ~ Step 9	
テキスト、参考文献		評価方法	
矢羽々 崇:『ドイツ語一年生- ケイコのミュンヘン (Keikos Praktikum in Muenchen)・CD 付き』(朝日出版社) 2003 年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

99～02 律/国 98 以前 律	ドイツ語 I C (口頭練習) / ドイツ語 I C (口頭練習) ドイツ語 I C (口頭練習)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ネイティブ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがら、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。		『CD 付き・スツェーネ 1 場面で学ぶドイツ語』(三修社) 2003 年 Lektion 1 ~ Lektion 6	
講義概要 ネイティブ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際の練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。			
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤修子+伊藤祐紀子:『CD 付き・スツェーネ 1 場面で学ぶドイツ語』(三修社) 2003 年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

99～02 律/国 98 以前 律	ドイツ語 I C (口頭練習) / ドイツ語 I C (口頭練習) ドイツ語 I C (口頭練習)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ネイティブ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがら、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。		『CD 付き・スツェーネ 1 場面で学ぶドイツ語』(三修社) 2003 年 Lektion 7 ~ Lektion 12	
講義概要 ネイティブ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際の練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。			
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤修子+伊藤祐紀子:『CD 付き・スツェーネ 1 場面で学ぶドイツ語』(三修社) 2003 年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

99～02 律/国 98 以前 律	ドイツ語ⅡB (読解練習) / ドイツ語ⅡB (読解練習) ドイツ語ⅡB (読解練習)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) 1年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2年次春学期+秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験(独検)」3級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する(できるだけアクチュアルな)情報の獲得を図ります。 講義概要 1年次に学習したことを土台に、実際的な練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。 使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらに語彙力を充実させていきましょう。		『Dialog - ステップアップ版』(郁文堂) 2003年 Lektion 1～5	
テキスト、参考文献		評価方法	
近藤+小林+新倉+松尾:『Dialog - ステップアップ版』(郁文堂) 2003年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

99～02 律/国 98 以前 律	ドイツ語ⅡB (読解練習) / ドイツ語ⅡB (読解練習) ドイツ語ⅡB (読解練習)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) 1年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2年次春学期+秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験(独検)」3級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する(できるだけアクチュアルな)情報の獲得を図ります。 講義概要 1年次に学習したことを土台に、実際的な練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。 使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらに語彙力を充実させていきましょう。		『Dialog - ステップアップ版』(郁文堂) 2003年 Lektion 6～10	
テキスト、参考文献		評価方法	
近藤+小林+新倉+松尾:『Dialog - ステップアップ版』(郁文堂) 2003年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

99～02 律/国 98以前 律	ドイツ語ⅡC (口頭練習) / ドイツ語ⅡC (口頭練習) ドイツ語ⅡC (口頭練習)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ネイティブ教員のもと、1年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。		『CD付き・スツェーネ2 場面で学ぶドイツ語 ニューヴァージョン』(三修社) 2004年 Lekiton 1～Lektion 6	
講義概要 ネイティブ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という4技能の一層の向上を図ります。 対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行います。これによって実際の言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。			
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤+下田+Papenthin+Oldehaver: 『CD付き・スツェーネ2 場面で学ぶドイツ語 ニューヴァージョン』(三修社) 2004年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

99～02 律/国 98以前 律	ドイツ語ⅡC (口頭練習) / ドイツ語ⅡC (口頭練習) ドイツ語ⅡC (口頭練習)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ネイティブ教員のもと、1年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。		『CD付き・スツェーネ2 場面で学ぶドイツ語 ニューヴァージョン』(三修社) 2004年 Lekiton 7～Lektion 12	
講義概要 ネイティブ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という4技能の一層の向上を図ります。 対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行います。これによって実際の言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。			
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤+下田+Papenthin+Oldehaver: 『CD付き・スツェーネ2 場面で学ぶドイツ語 ニューヴァージョン』(三修社) 2004年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

99~02 律/国 98 以前 律	フランス語 I B / フランス語 I B フランス語 I B	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座は週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。教科書は INITIAL vol.1 で、フランス人講師とのペアで授業を行います。I B は日本人、I C はフランス人講師が担当します (再履修クラスを除く)。</p> <p>I B ではとくに文法と語彙の習得が中心になります。文法や語彙に関する練習を数多く行います。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ取っていただきたい授業です。</p> <p>右の表は目安です。実際の進行は担当の先生方より指示があります。</p> <p>なおこの講座はフランス語 I C とのペアでしか取れません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 発音 (1) 2. 発音 (2) 3. unité 1 leçon 1 4. unité 1 leçon 2 5. unité 1 leçon 3 6. unité 1 leçon 4 7. unité 2 leçon 5 8. unité 2 leçon 6 9. unité 2 leçon 7 10. unité 2 leçon 8 11. unité 3 leçon 9 12. unité 3 leçon 10 	
テキスト、参考文献		評価方法	
INITIAL vol.1		担当の各先生が指示します。	

99~02 律/国 98 以前 律	フランス語 I B / フランス語 I B フランス語 I B	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座は週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。教科書は INITIAL vol.1 で、フランス人講師とのペアで授業を行います。I B は日本人、I C はフランス人講師が担当します (再履修クラスを除く)。</p> <p>I B では特に文法と語彙の習得が中心になります。文法や語彙に関する練習を数多く行います。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ取っていただきたい授業です。</p> <p>右の表は目安です。実際の進行は担当の先生方より指示があります。</p> <p>なおこの講座はフランス語 I C とのペアでしか取れません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. unité 3 leçon 11 2. unité 3 leçon 12 3. unité 4 leçon 13 4. unité 4 leçon 14 5. unité 4 leçon 15 6. unité 4 leçon 16 7. unité 5 leçon 17 8. unité 5 leçon 18 9. unité 5 leçon 19 10. unité 5 leçon 20 11. bilan (1) 12. bilan (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
INITIAL vol.1		担当の各先生が指示します。	

99～02 律/国 98 以前 律	フランス語 I C / フランス語 I C フランス語 I C	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座は週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身につけることを目指します。</p> <p>フランス語 I B とペアになる授業ですが、この I C はフランス人講師が担当いたします（再履修クラスを除く）。会話と決まった言い回し (expressions) を中心に学びます。使えるフランス語を身につけたい学生諸君には I B とともにぜひとってもらいたい授業です。</p> <p>右に進行を示しますが、これは目安であって、実際の進行は先生によって異なります。</p> <p>なおこの講座はフランス語 I B とのペアでしか取れません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 発音 (1) 2. 発音 (2) 3. unité 1 leçon 1 4. unité 1 leçon 2 5. unité 1 leçon 3 6. unité 1 leçon 4 7. unité 2 leçon 5 8. unité 2 leçon 6 9. unité 2 leçon 7 10. unité 2 leçon 8 11. unité 3 leçon 9 12. unité 3 leçon 10 	
テキスト、参考文献		評価方法	
INITIAL vol.1		担当の各先生が指示します。	

99～02 律/国 98 以前 律	フランス語 I C / フランス語 I C フランス語 I C	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座は週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身につけることを目指します。</p> <p>フランス語 I B とペアになる授業ですが、この I C はフランス人講師が担当いたします（再履修クラスを除く）。会話と決まった言い回し (expressions) を中心に学びます。使えるフランス語を身につけたい学生諸君には I B とともにぜひとってもらいたい授業です。</p> <p>右に進行を示しますが、これは目安であって、実際の進行は先生によって異なります。</p> <p>なおこの講座はフランス語 I B とのペアでしか取れません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. unité 3 leçon 11 2. unité 3 leçon 12 3. unité 4 leçon 13 4. unité 4 leçon 14 5. unité 4 leçon 15 6. unité 4 leçon 16 7. unité 5 leçon 17 8. unité 5 leçon 18 9. unité 5 leçon 19 10. unité 5 leçon 20 11. bilan (1) 12. bilan (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
INITIAL vol.1		担当の各先生が指示します。	

99～02 律/国 98 以前 律	フランス語ⅡB / フランス語ⅡB フランス語ⅡB	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
<p>これは1年次のフランス語ⅠBに引き続き、週2回の授業でフランス語の初歩を学ぶ講座です。基本文法事項を習得し、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。</p> <p>教科書はINITIALで、フランス人講師とのペアで授業を行います。ⅡBは日本人、ⅡCはフランス人が担当します。</p> <p>ⅡBでは文法と語彙の学習が中心になります。</p> <p>右におおよその授業の進め方を示しますが、これは目安であって、実際の進行は担当の先生によって異なります。</p>		<table border="1"> <tr><td>1.</td><td>INITIAL vol.1</td><td>unité 6</td><td>leçon 21</td></tr> <tr><td>2.</td><td></td><td>unité 6</td><td>leçon 22</td></tr> <tr><td>3.</td><td></td><td>unité 6</td><td>leçon 23</td></tr> <tr><td>4.</td><td></td><td>unité 6</td><td>leçon 24</td></tr> <tr><td>5.</td><td>INITIAL vol.2</td><td>unité 1</td><td>leçon 1</td></tr> <tr><td>6.</td><td></td><td>unité 1</td><td>leçon 2</td></tr> <tr><td>7.</td><td></td><td>unité 1</td><td>leçon 3</td></tr> <tr><td>8.</td><td></td><td>unité 1</td><td>leçon 4</td></tr> <tr><td>9.</td><td></td><td>unité 2</td><td>leçon 5</td></tr> <tr><td>10.</td><td></td><td>unité 2</td><td>leçon 6</td></tr> <tr><td>11.</td><td></td><td>unité 2</td><td>leçon 7</td></tr> <tr><td>12.</td><td></td><td>unité 2</td><td>leçon 8</td></tr> </table>		1.	INITIAL vol.1	unité 6	leçon 21	2.		unité 6	leçon 22	3.		unité 6	leçon 23	4.		unité 6	leçon 24	5.	INITIAL vol.2	unité 1	leçon 1	6.		unité 1	leçon 2	7.		unité 1	leçon 3	8.		unité 1	leçon 4	9.		unité 2	leçon 5	10.		unité 2	leçon 6	11.		unité 2	leçon 7	12.		unité 2	leçon 8
1.	INITIAL vol.1	unité 6	leçon 21																																																
2.		unité 6	leçon 22																																																
3.		unité 6	leçon 23																																																
4.		unité 6	leçon 24																																																
5.	INITIAL vol.2	unité 1	leçon 1																																																
6.		unité 1	leçon 2																																																
7.		unité 1	leçon 3																																																
8.		unité 1	leçon 4																																																
9.		unité 2	leçon 5																																																
10.		unité 2	leçon 6																																																
11.		unité 2	leçon 7																																																
12.		unité 2	leçon 8																																																
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
INITIAL vol.1 INITIAL vol.2		担当の先生より指示があります。																																																	

99～02 律/国 98 以前 律	フランス語ⅡB / フランス語ⅡB フランス語ⅡB	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
<p>これは1年次のフランス語ⅠBに引き続き、週2回の授業でフランス語の初歩を学ぶ講座です。基本文法事項を習得し、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。</p> <p>教科書はINITIALで、フランス人講師とのペアで授業を行います。ⅡBは日本人、ⅡCはフランス人が担当します。</p> <p>ⅡBでは文法と語彙の学習が中心になります。</p> <p>右におおよその授業の進め方を示しますが、これは目安であって、実際の進行は担当の先生によって異なります。</p>		<table border="1"> <tr><td>1.</td><td></td><td>unité 3</td><td>leçon 9</td></tr> <tr><td>2.</td><td></td><td>unité 3</td><td>leçon 10</td></tr> <tr><td>3.</td><td></td><td>unité 3</td><td>leçon 11</td></tr> <tr><td>4.</td><td></td><td>unité 3</td><td>leçon 12</td></tr> <tr><td>5.</td><td></td><td>unité 4</td><td>leçon 13</td></tr> <tr><td>6.</td><td></td><td>unité 4</td><td>leçon 14</td></tr> <tr><td>7.</td><td></td><td>unité 4</td><td>leçon 15</td></tr> <tr><td>8.</td><td></td><td>unité 4</td><td>leçon 16</td></tr> <tr><td>9.</td><td></td><td>unité 5</td><td>leçon 17</td></tr> <tr><td>10.</td><td></td><td>unité 5</td><td>leçon 18</td></tr> <tr><td>11.</td><td></td><td>unité 5</td><td>leçon 19</td></tr> <tr><td>12.</td><td></td><td>unité 5</td><td>leçon 20</td></tr> </table>		1.		unité 3	leçon 9	2.		unité 3	leçon 10	3.		unité 3	leçon 11	4.		unité 3	leçon 12	5.		unité 4	leçon 13	6.		unité 4	leçon 14	7.		unité 4	leçon 15	8.		unité 4	leçon 16	9.		unité 5	leçon 17	10.		unité 5	leçon 18	11.		unité 5	leçon 19	12.		unité 5	leçon 20
1.		unité 3	leçon 9																																																
2.		unité 3	leçon 10																																																
3.		unité 3	leçon 11																																																
4.		unité 3	leçon 12																																																
5.		unité 4	leçon 13																																																
6.		unité 4	leçon 14																																																
7.		unité 4	leçon 15																																																
8.		unité 4	leçon 16																																																
9.		unité 5	leçon 17																																																
10.		unité 5	leçon 18																																																
11.		unité 5	leçon 19																																																
12.		unité 5	leçon 20																																																
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
INITIAL vol.1 INITIAL vol.2		担当の先生より指示があります。																																																	

99～02 律/国 98 以前 律	フランス語ⅡC / フランス語ⅡC フランス語ⅡC	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
<p>これは1年次のフランス語ⅠCに引き続き、週2回の授業でフランス語の初歩を学ぶ講座です。基本文法事項を習得し、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。</p> <p>教科書は INITIAL で、フランス人講師とのペアで授業を行います。ⅡBは日本人、ⅡCはフランス人が担当します。</p> <p>ⅡCでは決まった言い回しと会話が中心になります。</p> <p>右におおよその授業の進め方を示しますが、これは目安であって、実際の進行は担当の先生によって異なります。</p>		<table border="1"> <tr><td>1.</td><td>INITIAL vol.1</td><td>unité 6</td><td>leçon 21</td></tr> <tr><td>2.</td><td></td><td>unité 6</td><td>leçon 22</td></tr> <tr><td>3.</td><td></td><td>unité 6</td><td>leçon 23</td></tr> <tr><td>4.</td><td></td><td>unité 6</td><td>leçon 24</td></tr> <tr><td>5.</td><td>INITIAL vol.2</td><td>unité 1</td><td>leçon 1</td></tr> <tr><td>6.</td><td></td><td>unité 1</td><td>leçon 2</td></tr> <tr><td>7.</td><td></td><td>unité 1</td><td>leçon 3</td></tr> <tr><td>8.</td><td></td><td>unité 1</td><td>leçon 4</td></tr> <tr><td>9.</td><td></td><td>unité 2</td><td>leçon 5</td></tr> <tr><td>10.</td><td></td><td>unité 2</td><td>leçon 6</td></tr> <tr><td>11.</td><td></td><td>unité 2</td><td>leçon 7</td></tr> <tr><td>12.</td><td></td><td>unité 2</td><td>leçon 8</td></tr> </table>		1.	INITIAL vol.1	unité 6	leçon 21	2.		unité 6	leçon 22	3.		unité 6	leçon 23	4.		unité 6	leçon 24	5.	INITIAL vol.2	unité 1	leçon 1	6.		unité 1	leçon 2	7.		unité 1	leçon 3	8.		unité 1	leçon 4	9.		unité 2	leçon 5	10.		unité 2	leçon 6	11.		unité 2	leçon 7	12.		unité 2	leçon 8
1.	INITIAL vol.1	unité 6	leçon 21																																																
2.		unité 6	leçon 22																																																
3.		unité 6	leçon 23																																																
4.		unité 6	leçon 24																																																
5.	INITIAL vol.2	unité 1	leçon 1																																																
6.		unité 1	leçon 2																																																
7.		unité 1	leçon 3																																																
8.		unité 1	leçon 4																																																
9.		unité 2	leçon 5																																																
10.		unité 2	leçon 6																																																
11.		unité 2	leçon 7																																																
12.		unité 2	leçon 8																																																
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
INITIAL vol.1 INITIAL vol.2		担当の先生より指示されます。																																																	

99～02 律/国 98 以前 律	フランス語ⅡC / フランス語ⅡC フランス語ⅡC	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
<p>これは1年次のフランス語ⅠCに引き続き、週2回の授業でフランス語の初歩を学ぶ講座です。基本文法事項を習得し、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。</p> <p>教科書は INITIAL で、フランス人講師とのペアで授業を行います。ⅡBは日本人、ⅡCはフランス人が担当します。</p> <p>ⅡCでは決まった言い回しと会話が中心になります。</p> <p>右におおよその授業の進め方を示しますが、これは目安であって、実際の進行は担当の先生によって異なります。</p>		<table border="1"> <tr><td>1.</td><td>INITIAL vol.2</td><td>unité 3</td><td>leçon 9</td></tr> <tr><td>2.</td><td></td><td>unité 3</td><td>leçon 10</td></tr> <tr><td>3.</td><td></td><td>unité 3</td><td>leçon 11</td></tr> <tr><td>4.</td><td></td><td>unité 3</td><td>leçon 12</td></tr> <tr><td>5.</td><td></td><td>unité 4</td><td>leçon 13</td></tr> <tr><td>6.</td><td></td><td>unité 4</td><td>leçon 14</td></tr> <tr><td>7.</td><td></td><td>unité 4</td><td>leçon 15</td></tr> <tr><td>8.</td><td></td><td>unité 4</td><td>leçon 16</td></tr> <tr><td>9.</td><td></td><td>unité 5</td><td>leçon 17</td></tr> <tr><td>10.</td><td></td><td>unité 5</td><td>leçon 18</td></tr> <tr><td>11.</td><td></td><td>unité 5</td><td>leçon 19</td></tr> <tr><td>12.</td><td></td><td>unité 5</td><td>leçon 20</td></tr> </table>		1.	INITIAL vol.2	unité 3	leçon 9	2.		unité 3	leçon 10	3.		unité 3	leçon 11	4.		unité 3	leçon 12	5.		unité 4	leçon 13	6.		unité 4	leçon 14	7.		unité 4	leçon 15	8.		unité 4	leçon 16	9.		unité 5	leçon 17	10.		unité 5	leçon 18	11.		unité 5	leçon 19	12.		unité 5	leçon 20
1.	INITIAL vol.2	unité 3	leçon 9																																																
2.		unité 3	leçon 10																																																
3.		unité 3	leçon 11																																																
4.		unité 3	leçon 12																																																
5.		unité 4	leçon 13																																																
6.		unité 4	leçon 14																																																
7.		unité 4	leçon 15																																																
8.		unité 4	leçon 16																																																
9.		unité 5	leçon 17																																																
10.		unité 5	leçon 18																																																
11.		unité 5	leçon 19																																																
12.		unité 5	leçon 20																																																
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
INITIAL vol.1 INITIAL vol.2		担当の先生より指示されます。																																																	

99～02 律/国 98 以前 律	スペイン語 I (会話) / スペイン語 I (会話) *****	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。</u></p> <p>スペイン語 I (会話), C の担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p> <p><u>基本的には、文法コースであるスペイン語 Ia (文法), I Ba とのペア履修を要望する。</u></p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 Ia (文法), I Ba の項目と同じであるが、スペイン語 Ia (会話), I Ca ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語 Ia (文法), I Ba の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは最初の授業で指示する。</p> <p>および、担当者が随時プリントを配布。</p> <p>また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらおう。</p> <p>辞書については、最初の授業で説明するので、その後購入していただきたい。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

99～02 律/国 98 以前 律	スペイン語 I (会話) / スペイン語 I (会話) *****	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>スペイン語 Ia (会話), I Ca に引き続き、基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。</u></p> <p>スペイン語 I (会話), C の担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p> <p><u>基本的には、文法コースであるスペイン語 Ib (文法), I Bb とのペア履修を要望する。</u></p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 Ib (文法), I Bb の項目と同じであるが、スペイン語 Ib (会話), I Cb ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語 Ib (文法), I Bb の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは最初の授業で指示する。</p> <p>また、担当者が随時プリントを配布。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

99～02 律/国 98 以前 律	スペイン語 I (総合) / スペイン語 I (総合) *****	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象</u>とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p><u>基本的には、スペイン語 Ia(会話), ICa とのペア履修を要望する。</u></p>		<p>① 発音・アクセント ② 名詞の性・数、冠詞 ③ 形容詞 ④ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑥ ser, estar 動詞の使い方 ⑦ 代名詞の使い方</p> <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは最初の授業で指示する。 および、担当者が随時プリントを配布。 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。 辞書については、最初の授業で説明するので、その後購入していただきたい。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

99～02 律/国 98 以前 律	スペイン語 I (総合) / スペイン語 I (総合) *****	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 Ia(文法), IBa に引き続き、<u>基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象</u>とし、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法点過去形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p><u>基本的には、会話コースのスペイン語 Ib(会話), ICb とのペア履修を要望する。</u></p>		<p>① 動詞の活用 --- 直説法現在形の復習とまとめ ② 動詞の活用 --- 直説法現在形不規則の復習とまとめ ③ 代名詞の使い方 ④ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用</p> <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは最初の授業で指示する。 また、担当者が随時プリントを配布。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

99～02 律/国 98 以前 律	スペイン語Ⅱ (会話) / スペイン語Ⅱ (会話) *****	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする会話中心のクラスである。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</u></p> <p><u>基本的には、文法コースであるスペイン語 IIBa とのペア履修を要望する。</u></p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 IIBa の項目と同じであるが、スペイン語 IICa ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語 IIBa の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは最初の授業で指示する。</p> <p>および、担当者が随時プリントを配布。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

99～02 律/国 98 以前 律	スペイン語Ⅱ (会話) / スペイン語Ⅱ (会話) *****	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>スペイン語 I Ca に引き続き、基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とする。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする会話中心のクラスである。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</u></p> <p><u>基本的には、文法コースであるスペイン語 IIBb とのペア履修を要望する。</u></p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 IIBb の項目と同じであるが、スペイン語 IICb ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語 IIBb の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは最初の授業で指示する。</p> <p>および、担当者が随時プリントを配布。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

99～02 律/国 98 以前 律	スペイン語Ⅱ（総合） / スペイン語Ⅱ（総合） *****	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要 <u>基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象</u> とした、スペイン語 IBab の継続の授業である。過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。 <u>基本的には、スペイン語 IICa とのペア履修を</u> 要望する。		授業計画 ① 動詞の活用 --- 直説法点過去の復習 ② 動詞の活用 --- 直説法線過去 ③ 点過去と線過去の違い ④ 比較表現 ⑤ 過去分詞と現在分詞 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を最低限学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	
テキスト、参考文献 テキストは最初の授業で指示する。 および、担当者が随時プリントを配布。		評価方法 出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

99～02 律/国 98 以前 律	スペイン語Ⅱ（総合） / スペイン語Ⅱ（総合） *****	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要 スペイン語 IIBa に引き続き、 <u>基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象</u> とする。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 <u>基本的には、会話コースのスペイン語 IICb との</u> ペア履修を要望する。		授業計画 ① 動詞の活用 --- 直説法現在完了形 ② 動詞の活用 --- 現在進行形 ③ 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ④ 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑤ 命令表現 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	
テキスト、参考文献 テキストは最初の授業で指示する。 および、担当者が随時プリントを配布。		評価方法 出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

99～02 律/国 98 以前 律	ロシア語 I (文法) / ロシア語 I (文法) *****	担当者	斉藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ユーラシア大陸のちょうど中間に位置するロシアは、今日の国際社会の中で重要な地位を占めているだけでなく、千年以上の歴史にわたり、ヨーロッパともアジアとも異なる独特の文化を育んできました。その言語であるロシア語も、文字はもちろんのこと、音の響きや文法の面でも、英語等とはかなり違った特徴を持っています。</p> <p>この授業はまったくの初心者を対象とし、文字の読み方・書き方から始め、後期を含め一年間でロシア語文法の最初歩をマスターすることを目指します。</p> <p>会話を中心とした「ロシア語 I Ba」と併せて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。</p>		<p>全体で教科書の第 9 課まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。</p> <p>1・6. アルファベット(キリル文字)の発音・書き方 基本的な文型 (平叙文、疑問文、否定文)</p> <p>7. 名詞の性と、形容詞類の変化</p> <p>8. 動詞の現在変化(1)</p> <p>9. 場所の表現 (1) (前置詞、名詞の格変化の導入)</p> <p>ロシアの地理・歴史・文化についての基礎知識も、随時とりあげてゆきます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』(大学書林) 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。		①期末試験、②出席などの平常点。とくに出席を重視します。	

99～02 律/国 98 以前 律	ロシア語 I (文法) / ロシア語 I (文法) *****	担当者	斉藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ロシア語 I Aa」の続編の授業です。「Aa」と同じ教科書もちいて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。</p>		<p>全体で教科書の第 18 課まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。</p> <p>10. 場所の表現 (2) (前置詞)</p> <p>11. 動詞の現在変化 (2)</p> <p>12. 不規則動詞の現在変化</p> <p>13. 形容詞の変化</p> <p>14. 名詞の複数形</p> <p>15. 名詞の格変化 (1) 生格</p> <p>16. 名詞の格変化 (2) 対格</p> <p>17. 動詞の過去変化</p> <p>18. 運動の動詞、方向の表現</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』(大学書林) 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。		①期末試験、②出席などの平常点。とくに出席を重視します。	

99～02 律/国 98 以前 律	ロシア語 I (会話) / ロシア語 I (会話) *****	担当者	佐藤 千登勢
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>はじめてロシア語を学ぶ人を対象とします。</p> <p>資本主義への移行を果たし、改めて世界における主要な位置を占めるようになったロシア。政治、経済、文化において日本との交流もますます拡大していきます。今後、ロシア語が重要な言語になることは間違いありません。</p> <p>ロシア語は、日本語の50音と同様、アルファベット(キリル文字)の音を一度覚えてしまえば、どんな単語でも正しく読むことができ、短期間での到達度が高い言語です。音の響きの美しさでも世界一と定評がありますから、一度は触れてほしい、それがロシア語です。</p> <p>この授業では、発音、イントネーションを正しく身につけ、ロシア語で挨拶や自己紹介をしたり、買い物をしたりできるようにします。発話のみならず、リスニングを通して聴取の力もつけます。また、ロシアの文化や生活習慣について、毎回、映像資料を通して紹介していきます。</p> <p>「ロシア語 I A」と併せての受講が望ましいのですが、単独での履修も可能です。</p> <p>Г о в о р и м п о - р у с с к и !</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス (ロシア語、およびロシアについて)。 2 アルファベット、発音練習。「チェブラーシカ」鑑賞。 3 アルファベット、発音練習。「チェブラーシカ」鑑賞。 4 単語、文章の発音練習。「チェブラーシカ」鑑賞。 5 動詞の変化、名詞の性、発音練習。リスニング。「チェブラーシカ」鑑賞。 6 動詞の変化、代名詞、発音練習。リスニング。「チェブラーシカ」鑑賞。 7 動詞の変化、所有代名詞、発音練習。ディクテーション。「戦艦ポチョムキン」(一部) 鑑賞。 8 自己紹介の表現、リスニング。「イワン雷帝」(一部) 鑑賞。 9 自己紹介の表現。買い物に必要な表現。「惑星ソラリス」(一部) 鑑賞。 10 まとめと補足。アニメ映画「霧の中のハリネズミ」鑑賞。 11 映画鑑賞。 12 試験 (会話とディクテーション)。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、プリントを配付します。		学期末に試験 (会話とディクテーション) を行いますが、何よりも出席率を重要視します。	

99～02 律/国 98 以前 律	ロシア語 I (会話) / ロシア語 I (会話) *****	担当者	佐藤 千登勢
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ロシア語 I Ba」の続きとなります。ロシア語の響きの美しさを共に味わいながら、会話の練習をさらに重ね、聴取力を向上させていきましょう。</p> <p>道を訪ねる表現、外食する時の表現を身につけ、ロシア旅行を楽しめるぐらいのレベルを目指します。同時に、ロシアの交通事情や食文化についても知識を深めます。</p> <p>Ж е л а ю в а м у с п е х о в в у ч ё б е !</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 春学期の復習。アニメ映画「きつねとウサギ」鑑賞。 2 疑問詞、感嘆文、形容詞。リスニング。パペットアニメ「ミトン」鑑賞。 3 感嘆文。道の尋ね方。リスニング。バレリーナ、プリセツカヤのインタビューと演技を見る。 4 道の尋ね方。ロシアの子供達のインタビューを見る。 5 道の尋ね方。リスニング。ロシアの子供達のインタビューを見る。 6 外食に必要な表現。メニューの見方。ロシアの子供達のインタビューを見る。 7 外食に必要な表現。数詞。リスニング。ロシアの子供達のインタビューを見る。 8 外食に必要な表現。数詞と名詞の組み合わせ。ロシアの子供達のインタビューを見る。 9 外食に必要な表現。数詞と名詞の組み合わせ。リスニング。ロシアの子供達のインタビューを見る。 10 まとめと補足。ロシアの子供達のインタビューを見る。 11 映画鑑賞。 12 試験 (会話とディクテーション)。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、プリントを配付します。		学期末に試験 (会話とディクテーション) を行いますが、何よりも出席率を重要視します。	

99～02 律/国 98以前 律	ロシア語Ⅱ（総合） / ロシア語Ⅱ（総合） *****	担当者	佐藤 千登勢
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>昨年度に「ロシア語Ⅰ」を履修した人を対象としますが、ロシア語の初歩を学んだことのある人なら誰でも履修可能です。</p> <p>この授業では、昨年度使用した文法のテキストをさらに進めていながら、新たな文法事項や表現を身につけていきます。また、総合的な力をつけるために、リスニング、音読にも力を入れます。なお、ロシア語にも長い歴史をもつ検定試験があります。この授業を受けた先輩には、検定に挑戦し合格した人もいます。検定試験の受験はむろん義務ではありませんが、10月に行われるロシア語検定試験4級もしくは3級に合格する力をつけるべく、ロシア語の基礎を固めていくのがレベル上での目標です。せっかく学ぶロシア語。文法事項をひとつひとつ着実に消化しながら、結実させたいですね。</p> <p>ロシアは、深く美しい芸術を誇る国です。映像資料を通して、言葉を支える背景としての文化、芸術を共に味わう時間もちます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス（ロシア語、ロシアの文化について）。 2 テキスト18課：練習問題。「エルミタージュ幻想」（一部）鑑賞。 3 作文、音読。テキスト19課。「エルミタージュ幻想」（一部）鑑賞。 4 テキスト19課：作文、音読。「チャイコフスキー」（一部）鑑賞。 5 テキスト20課：練習問題。ロシア映画「ハムレット」（一部）鑑賞。 6 テキスト20課：作文、リスニング。「ハムレット」（一部）鑑賞。 7 テキスト21課：練習問題。「両棲人間」（一部）鑑賞。 8 テキスト21課：作文。リスニング。筆記体の練習。「両棲人間」（一部）鑑賞。 9 テキスト22課：練習問題、作文。筆記体の練習。「罪と罰」（一部）鑑賞。 10 テキスト23課：練習問題。筆記体の練習。リスニング。「アレクセイと泉」（一部）鑑賞。 11 テキスト23課：作文。「アレクセイと泉」鑑賞。 12 映画鑑賞。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
黒田龍之助著『ロシア語文法への旅』大学書林 その他、プリントを適宜配付します。		レポートにより決定しますが、出席率を最重要視します。	

99～02 律/国 98以前 律	ロシア語Ⅱ（総合） / ロシア語Ⅱ（総合） *****	担当者	佐藤 千登勢
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じテキストを用いて、引き続き、文法の習得と復習を確実に進めていきます。音読とリスニングもさらに充実させていきましょう。</p> <p>ロシアの文化や芸術に触れるため、映像資料もできるだけ楽しむようにします。映画の台詞も、聴き取れる表現が徐々に増えてきて、面白くなるはずです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ロシア語検定試験の過去問題。映画「テルミン」鑑賞。 2 ロシア語検定試験の過去問題。「テルミン」鑑賞。 3 テキスト25課：練習問題。「テルミン」鑑賞。 4 テキスト25課：作文。リスニング。「テルミン」鑑賞。 5 テキスト24課：練習問題。「テルミン」鑑賞。 6 テキスト24課：作文。リスニング。「テルミン」鑑賞。 7 「動詞の完了体と不完了体」。「テルミン」鑑賞。 8 「動詞の完了体と不完了体」。リスニング。「ローラーとバイオリン」鑑賞。 9 「関係代名詞」。「ローラーとバイオリン」鑑賞。 10 「関係代名詞」。「ローラーとバイオリン」鑑賞。 11 まとめと補足。「ローラーとバイオリン」鑑賞。 12 映画鑑賞。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
黒田龍之助著『ロシア語文法への旅』大学書林 その他、プリントを適宜配付します。		レポートにより決定しますが、出席率を最重要視します。	

99～02 律/国 98 以前 律	ロシア語Ⅱ (講読) / ロシア語Ⅱ (講読) *****	担当者	斉藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>昨年度に全カリの「ロシア語Ⅰ」、外国語学部の「基礎ロシア語Ⅰ」を履修した人を対象としますが、ロシア語の初歩を学んだことのある人なら誰でも受講できます。</p> <p>この授業では、ロシア語会話の教科書、音声教材を用いた易しい日常会話の練習を通して、これまで学んだ文法事項の復習と、新たな文法事項の習得を行いません。とくにロシア語は発音に慣れるのがやや難しい言語なので、受講者の皆さん一人一人の発話練習に重点を置きます。発音がある程度楽にできるようになれば、ロシア語が生きた言葉として感じられてくるようになると思います。</p> <p>文法を中心とした「ロシア語ⅡA」と併せて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。</p>		<p>全体で教科書の第8課まで進むことを目標とします。大まかな学習事項は以下の通りです。</p> <p>1-2. 人・物の名前の訊ね方 / 家族の単語 3. 場所の訊ね方 4. 自己紹介の表現 5. 可能・不可能の表現 6. 数の訊ね方 / 曜日 / 数詞 7. 副詞を使った表現 / 言語の表現 8. 目的の表現 / 身体の部位</p> <p>その他、時おりロシアの映画・音楽を鑑賞します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
米重文樹、P. トマルキン『話すロシア語入門』(白水社)、および授業時に配布するプリント。		①期末試験(筆記および口頭)、②出席などの平常点。とくに出席を重視します。	

99～02 律/国 98 以前 律	ロシア語Ⅱ (講読) / ロシア語Ⅱ (講読) *****	担当者	斉藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ロシア語ⅡBa」の続編の授業です。「Ba」と同じ教材を用い、引き続きロシア語の発音・会話表現を練習してゆきます。</p> <p>さらにプリント教材をもちいて、新たな文法事項の習得および、読解練習を行いません。文法に関しては、1年間で名詞の格変化をすべて習得することを目標とします</p>		<p>全体で教科書の最後(第17課)まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。</p> <p>9. 所有の表現 10. 居住に関する表現 11. 好みの表現 / 食べ物の単語 12. 電話の表現 / 一日の時間 13. 値段の訊ね方 / 数詞+名詞の表現 14. 道順の表現 15. 未来の表現 16. 時刻の表現</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
米重文樹、P. トマルキン『話すロシア語入門』(白水社)、および授業時に配布するプリント。		①期末試験(筆記および口頭)、②出席などの平常点。とくに出席を重視する。	

99～02 律/国 98以前 律	中国語 I (会話) / 中国語 I (会話) *****	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国語の入門段階で最も重要なことは発音の習得です。発音の壁を越えると中国語の学習がうんと楽しくなり自信がついてきます。「耳」と「口」を精一杯駆使して根気よく練習することが大切です。会話を歌を覚えるようにそのリズムを楽しみながら暗誦すると学習効果は一段と高まります</p> <p>中国語の基礎力をつけるために発音のトレーニングをしながら会話文の基本文型とこの中で使われている初級文法事項についても学びます。</p> <p>受講者の皆さんが授業中に教師に積極的に質問することを歓迎します。</p>		<p>第1回～第3回：テキスト発音篇</p> <p>第4回～第12回：テキスト第1課～第8課</p> <p>(内容) 形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、各種疑問文、“在”、“有”の用法、“了”の用法、数の教え方、量詞、比較の表現、結果補語、可能補語、助動詞“会、可以、想”他。</p> <p>各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら、上記の範囲を学びます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：『表現する中国語』白帝社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』</p>		<p>期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢）によって総合的に評価します。</p>	

99～02 律/国 98以前 律	中国語 I (会話) / 中国語 I (会話) *****	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国語の入門段階で最も重要なことは発音の習得です。発音の壁を越えると中国語の学習がうんと楽しくなり自信がついてきます。「耳」と「口」を精一杯駆使して根気よく練習することが大切です。会話を歌を覚えるようにそのリズムを楽しみながら暗誦すると学習効果は一段と高まります</p> <p>中国語の基礎力をつけるために発音のトレーニングをしながら会話文の基本文型とこの中で使われている初級文法事項についても学びます。</p> <p>受講者の皆さんが授業中に教師に積極的に質問することを歓迎します</p>		<p>第1回～第12回：テキスト第9課～第16課</p> <p>(内容) 各種前置詞、様態補語、持続の“着”、主述述語文助動詞“能、得”、方向補語、“把”構文、存現文、受身文、兼語文、“要”の用法、その他さまざまな言い回し。</p> <p>各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら、上記の範囲を学びます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：『表現する中国語』白帝社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』</p>		<p>期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって総合的に評価します。</p>	

99～02 律/国 98以前 律	中国語 I (講読) / 中国語 I (講読) *****	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国語の入門段階でまず習得しなければならないのは発音です。ピンイン(中国語表音ローマ字)を正しく読めるように繰り返し練習します。</p> <p>次に中国語の基礎文法を学び、中国語の語順の基本を理解することによって基礎的な日常表現を習得します。</p> <p>授業は音読を重視し色々な基礎文型を頭だけでなく「耳」と「口」を使って身体で覚えるようにすることが求められます。</p> <p>受講者の皆さんが積極的に授業に参加することを期待します。</p>		<p>第1回～第3回: テキスト 中国語の発音</p> <p>第4回～第12回: テキスト第1課～第6課</p> <p>(内容)</p> <p>人称代名詞、指示代名詞、疑問詞、数量詞、動詞述語文、形容詞述語文、各種疑問文、連動文、動詞の重ね型、“是、有、在、”の用法、“也、都”の用法、月日・曜日・時刻の言い方 等等。</p> <p>各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら上記の範囲を学びます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト:『中国語ポイント42』白水社 推薦辞書:『プログレッシブ中国語辞典』小学館</p>		<p>期末試験と平常点(中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など)によって評価します。</p>	

99～02 律/国 98以前 律	中国語 I (講読) / 中国語 I (講読) *****	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に引き続き文法事項と基礎文型を学びます。</p> <p>また前期で学んだ発音の基礎をさらに強化し、文の内容を理解しながら中国語のイントネーションを身につけるよう練習します。</p> <p>テキストに出ている単語数はそれほど多くないので、テキスト別冊の「自習単語帳」なども活用して発音・意味ともしっかり覚えてしまうことが求められます。</p>		<p>第1回～第12回: テキスト第7課～第12課</p> <p>(内容)</p> <p>各種介詞、各種動詞、動作・状態の進行と持続、結果補語、状態補語、方向補語、可能補語、完了を表す“了”、時間量の表し方、“把”構文、比較の表現 等等。</p> <p>各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら上記の範囲を学びます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト:『中国語ポイント42』白水社 推薦辞書:『プログレッシブ中国語辞典』小学館</p>		<p>期末試験と平常点(中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など)によって評価します。</p>	

99～02 律/国 98以前 律	中国語Ⅱ（会話） / 中国語Ⅱ（会話） *****	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>最初の1年間で習得した単語や会話の基礎表現を復習・確認しながらさらに新しい表現を学び、コミュニケーション能力のレベルアップを目指します。</p> <p>テキストの会話文を使って日本人が中国でよく出会う場面の中で交わされる実用的で分かりやすい言い回しを勉強します。繰り返し聴き、声に出して読み、丸暗記すると学習効果が一層向上します。</p> <p>文法事項は、一部の新しいものを除きその多くの部分は1年次にすでに学んでいるので復習を重ねることで基礎文型、基礎表現をしっかり定着させることが大切です。</p>		<p>第1回～第12回：テキスト第1課～第6課</p> <p>(内 容) <場面別会話> 北京に到着 道を尋ねる 買い物 バスに乗る 新しい友達 外食</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：『2年生のコミュニケーション中国語』白水社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館</p>		<p>期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。</p>	

99～02 律/国 98以前 律	中国語Ⅱ（会話） / 中国語Ⅱ（会話） *****	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>最初の1年間で習得した単語や会話の基礎表現を復習・確認しながらさらに新しい表現を学び、コミュニケーション能力のレベルアップを目指します。</p> <p>テキストの会話文を使って日本人が中国でよく出会う場面の中で交わされる実用的で分かりやすい言い回しを勉強します。繰り返し聴き、声に出して読み、丸暗記すると学習効果が一層向上します。</p> <p>文法事項は、一部の新しいものを除きその多くの部分は1年次にすでに学んでいるので復習を重ねることで基礎文型、基礎表現をしっかり定着させることが大切です。</p>		<p>第1回～第12回：テキスト第7課～第12課</p> <p>(内 容) <場面別会話> 約束 友達に電話する 郵便局 医者に行く 家庭訪問 謝恩会</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：『2年生のコミュニケーション中国語』白水社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館</p>		<p>期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。</p>	

99～02 律/国 98 以前 律	中国語Ⅱ（講読） / 中国語Ⅱ（講読） *****	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代の中国に暮らす人々の生活や社会の状況を題材にした比較的長い文章の講読を通じて最初の1年間で習得した文法・言いまわしを復習、確認しながらさらに新しい語句や表現を学びます。</p> <p>授業では音読を重視します。文章の内容を理解した上でイントネーションに注意しながら長文の音読練習をする と中国語の発音は飛躍的に上達するからです。</p> <p>このテキストの文章を講読することによって受講者の皆さんが言葉だけでなく激しく変貌を遂げつつある今の中国に関心を持ち、理解する一助になることを期待しています。</p> <p>授業には辞書必携。</p>		<p>第1回～第12回：テキスト第1課～第5課</p> <p>（内容） 各課文の読解と課文に出てくる重要語句や少々複雑な構文を短い例文を通して学びます。 各課の「練習問題」は復習を兼ねて原則として課題とし、次の授業で受講者の皆さんが解答します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：『中国は今』 白水社		期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。	

99～02 律/国 98 以前 律	中国語Ⅱ（講読） / 中国語Ⅱ（講読） *****	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代の中国に暮らす人々の生活や社会の状況を題材にした比較的長い文章の講読を通じて最初の1年間で習得した文法・言いまわしを復習、確認しながらさらに新しい語句や表現を学びます。</p> <p>授業では音読を重視します。文章の内容を理解した上でイントネーションに注意しながら長文の音読練習をする と中国語の発音は飛躍的に上達するからです。</p> <p>このテキストの文章を講読することによって受講者の皆さんが言葉だけでなく激しく変貌を遂げつつある今の中国に関心を持ち、理解する一助になることを期待しています。</p> <p>授業には辞書必携。</p>		<p>第1回～第12回：テキスト第6課～第10課</p> <p>（内容） 各課文の読解と課文に出てくる重要語句や少々複雑な構文を短い例文を通して学びます。 各課の「練習問題」は復習を兼ねて原則として課題とし、次の授業で受講者の皆さんが解答します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：『中国は今』 白水社		期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって評価します。	

99～02 律/国 98以前 律	朝鮮語Ⅰ（文法） / 朝鮮語Ⅰ（文法） *****	担当者	朴 勇俊
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本と韓国は古来から密接な関係を保ってきており、今後とも政治、経済、社会、文化などの諸分野にわたり、特に民間レベルでのより盛んな交流の進展が期待される。さらに日本における韓国語の需要も今後ますます増えていくと思われる。このような観点から本科目では読解力、生きたコミュニケーションができる表現力、新聞や雑誌などから時事情報を得る基本的な能力の総合的な定着を目指し、多角的な授業を行う。</p>		<p>1回 本講義に対する紹介、概要説明</p> <p>2～5回 韓国語の文字・文章の理解と解説</p> <p>6～11回 次のような内容を題材に会話・読解・作文力の基礎を定着させる。</p> <p>「自己紹介」 「あいさつ」 「学校生活①」 「学校生活②」 「家族①」 「家族②」</p> <p>12回 期末試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「韓国語学習—基礎から完成まで—」朴 勇俊（プリント）		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	

99～02 律/国 98以前 律	朝鮮語Ⅰ（文法） / 朝鮮語Ⅰ（文法） *****	担当者	朴 勇俊
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本と韓国は古来から密接な関係を保ってきており、今後とも政治、経済、社会、文化などの諸分野にわたり、特に民間レベルでのより盛んな交流の進展が期待される。さらに日本における韓国語の需要も今後ますます増えていくと思われる。このような観点から本科目では読解力、生きたコミュニケーションができる表現力、新聞や雑誌などから時事情報を得る基本的な能力の総合的な定着を目指し、多角的な授業を行う。</p>		<p>1～11回 次のような内容を題材に会話・読解・作文力の基礎を定着させる。</p> <p>「友人①」 「友人②」 「買い物①」 「買い物②」 「趣味①」 「趣味②」 「海外旅行①」 「海外旅行②」 「伝統文化」 「衣食住①」 「衣食住②」</p> <p>12回 期末試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「韓国語学習—基礎から完成まで—」朴 勇俊（プリント）		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	

99～02 律/国 98 以前 律	朝鮮語 I (講読) / 朝鮮語 I (講読) *****	担当者	李 貞美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語を初めて学ぶ人を対象に韓国語と日本語の共通点、類似点を示し、学習の容易さと有用性を理解させながらハングル文字の読み書き、辞書の活用ができるようにするとともに、実用会話を入門指導する。</p> <p>会話の学習については、韓国固有の民俗、歴史生活、芸術、衣食住などのストーリー性のある題材、日常生活で当面する様々な典型的局面や節目での文型、会話を選び、そのような場面を想定、再現することで実感を深めながら反復指導する。また、写真、スライド、ビデオ等をも活用することで臨場感を深め、積極的に学習に取り組むようにする。</p>		<p>1回 本講義に対する紹介、概要説明</p> <p>2～5回 韓国語の文字・文章の理解と解読</p> <p>6～11回 次のような多様な生活場面を設定し、柔軟に対応できるような表現力の定着をめざす。</p> <p>「市場」 「スーパーマーケット」 「薬局」 「喫茶店」 「郵便局」 「洋服店」</p> <p>12回 期末試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「韓国語学習—基礎から完成まで—」朴 勇俊 (プリント)		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	

99～02 律/国 98 以前 律	朝鮮語 I (講読) / 朝鮮語 I (講読) *****	担当者	李 貞美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語を初めて学ぶ人を対象に韓国語と日本語の共通点、類似点を示し、学習の容易さと有用性を理解させながらハングル文字の読み書き、辞書の活用ができるようにするとともに、実用会話を入門指導する。</p> <p>会話の学習については、韓国固有の民俗、歴史、生活、芸術、衣食住などのストーリー性のある題材、日常生活で当面する様々な典型的局面や節目での文型、会話を選び、そのような場面を想定、再現することで実感を深めながら反復指導する。また、写真、スライド、ビデオ等をも活用することで臨場感を深め、積極的に学習に取り組むようにする。</p>		<p>1回 本講義に対する紹介、概要説明</p> <p>2～11回 次のような内容を題材に読解・作文力の基礎を定着させる。多様な生活場面を設定し、柔軟に対応できるような表現力の定着をめざす。</p> <p>「映画館」 「スポーツ」 「図書館」 「クリーニング店」 「銀行」 「役所」 「銭湯」 「美容院」 「趣味」 「国際電話」 「健康管理」</p> <p>12回 期末試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「韓国語学習—基礎から完成まで—」朴 勇俊 (プリント)		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	

99～02 律/国 98 以前 律	朝鮮語Ⅱ (総合) / 朝鮮語Ⅱ (総合) *****	担当者	李 貞美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語の読解、会話、作文力を基盤に多様かつ実用的な表現力を身につけるため、それぞれについて毎時間くわしいプリントを作成配布し、学習を進めていく。また、韓国の文学（詩や小説）や映画、音楽などを題材に取り上げることで文化や芸術に関する理解を深めるとともに多様な表現力の習得をめざす。</p>		<p>1回 本講義に対する紹介、概要説明</p> <p>2～11回 次のような内容を題材に読解・作文力の基礎を定着させる。</p> <p>「誕生日」 「遺跡」 「旅行」 「登山」 「正月の風俗」 「民族衣装」 「虎と干し柿」(民話)</p> <p>12回 期末試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「韓国語学習—基礎から完成まで—」朴 勇俊 (プリント)		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	

99～02 律/国 98 以前 律	朝鮮語Ⅱ (総合) / 朝鮮語Ⅱ (総合) *****	担当者	李 貞美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語の読解、会話、作文力を基盤に多様かつ実用的な表現力を身につけるため、それぞれについて毎時間くわしいプリントを作成配布し、学習を進めていく。また、韓国の文学（詩や小説）や映画、音楽などを題材に取り上げることで文化や芸術に関する理解を深めるとともに多様な表現力の習得をめざす。</p>		<p>1～11回 次のような内容の題材を取り上げ、読解・作文学習を行っていく。</p> <p>「農薬」 「端午」 「世宗大王」 「交通」 「記念日」 「手紙」 「済州島」 「牛になった怠け者」(民話) 「韓国の風俗」 「韓国の礼節」 「伝統芸能」</p> <p>12回 期末試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「韓国語学習—基礎から完成まで—」朴 勇俊 (プリント)		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	

99～02 律／国 98 以前 律	朝鮮語Ⅱ（講読） / 朝鮮語Ⅱ（講読） *****	担当者	朴 勇俊
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語の多面的な会話表現力の定着をめざし、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型などを身につけさせる。また、外国語は異文化の集積体であることを感得させ、背景となつて</p> <p>いる当該外国文化の諸相への関心と探求意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報を題材に選び、多様で実用的な表現力を定着させていく。</p>		<p>1回 本講義に対する紹介、概要説明</p> <p>2～11回 次のような内容を題材にクラスをいくつかのグループに分け、会話を交わす実演を通じて会話を暗唱できるようにしていく。</p> <p>「入国審査」 「外国人登録」 「両替」 「国際電話」 「地下鉄」 「ホテル」 「観光」 「名刺交換」 「伝統的行事」</p> <p>12回 期末試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「韓国語学習—基礎から完成まで—」朴 勇俊（プリント）		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	

99～02 律／国 98 以前 律	朝鮮語Ⅱ（講読） / 朝鮮語Ⅱ（講読） *****	担当者	朴 勇俊
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語の多面的な会話表現力の定着をめざし、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型などを身につけさせる。また、外国語は異文化の集積体であることを感得させ、背景となっている当該外国文化の諸相への関心と探求意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報を題材に選び、多様で実用的な表現力を定着させていく。</p>		<p>1～11回 以下のような内容の題材を取り上げ、幅広い会話力の定着をめざす。</p> <p>「出身地」 「伝言」 「ビザの延長」 「健康管理」 「演劇」 「予約」 「病状」 「余暇」 「韓国料理」 「忘れ物」 「観光地」</p> <p>12回 期末試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「韓国語学習—基礎から完成まで—」朴 勇俊（プリント）		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	

03～05 律/国	日本事情 a / 日本事情 a	担当者	新井 孝重
99～02 律/国	日本事情 I / 日本事情 I		
98以前 律	日本事情		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>◎ アジアの中の日本の歴史を、とくに前近代史を中心に概観する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 古代東アジアと日本列島 ・ 古代国家のアジア的性格 ・ 戦争と貿易の共存 ・ アジア諸国と日本の封建制 		<ol style="list-style-type: none"> 1 日本列島の形成 東アジアの自然環境 2 稲作 小国家 邪馬台国 中国国家魏 3 古墳造営 大和政権と朝鮮半島 広開土王碑 4 列島渡来文化 漢字 技術 仏教 5 隋・唐の政治制度 日本の律令制 6 日宋・日元貿易 貿易都市博多 新安沈船 7 元寇 三別抄 幕府・朝廷の外交 8 室町幕府 日明勘合貿易 倭寇・海商 9 豊臣政権 「証明構想」 朝鮮侵略 10 江戸幕府 キリスト教禁圧 鎖国 11 江戸時代の対朝鮮政策 雨森芳洲 12 世界資本主義の波 開国 欧米への意識 	
テキスト		評価方法	
適宜指摘		出席状態 試験成績	

03～05 律/国	日本事情 b / 日本事情 b	担当者	新井 孝重
99～02 律/国	日本事情 I / 日本事情 I		
98以前 律	日本事情		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>◎ アジアの中の日本の歴史を、とくに近代史を中心に概観する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 明治維新と富国強兵 ・ 近代の学術・思想・文化 ・ 自由民権論と国権論 ・ 産業革命と資本主義の発展 ・ 帝国主義と戦争 ・ 戦後改革の本質 		<ol style="list-style-type: none"> 1 徳川政権改革の失敗 大政奉還 新政府樹立 2 国政改革 権力構造 財政構造 産業育成 3 近代化を支えるヨーロッパの学術 ドイツ学協会 4 松形財政 農村崩壊 都市労働者の創出 資本蓄積 5 高まる政府批判 ブルジョア民主主義の国民要求 6 帝国議会の開設 明治憲法 絶対主義の性格 7 近代化とナショナリズム 対清戦争 対ロ戦争 8 国家主義教育 関東大震災時の民族迫害 9 植民地支配と戦争の拡大 太平洋戦争 10 良心の灯火 非戦・反戦の思想と運動 天野貞祐の「道理の感覚」 11 敗戦 戦後改革 日本国憲法 平和・民主主義 12 戦後改革の不徹底 アメリカ対日政策の変更 加害責任の曖昧化 戦前勢力の復活 	
テキスト		評価方法	
適宜指摘		出席状態 試験成績	

03～05 律/国 99～02 律/国	日本語Ⅱa / 日本語Ⅱa 日本語Ⅱ / 日本語Ⅱ	担当者	齋藤 明
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[1] 教材 公表、出版された新聞、雑誌、単行本、日本の企業や官庁などの組織の内外で使用されている様々な文書や、個人が書いた各種の文章の実例等を使用する。これらの教材は、使用時に学生に配布する。</p> <p>[2] 授業のねらい 外国人留学生のうち、日本語Ⅰを履修したもののためのより進んだ科目として、今日の日本社会に一般に通用している文章を適切に理解し、日本人とのコミュニケーションを円滑に行える能力を習得することを目的とする。</p> <p>[3] 教授法 毎時限、かならず実際に使われた文章を読んだり書きなおしたりする。文字教材のほか、音声テープやビデオテープも使用し、聴いたり話したりする能力も統合して発展させる。</p> <p>[4] その他 この科目は日本語Ⅰを履修した者が履修するために設置されている。</p>		<p>1 文書と文章 1 文章を書くとはどういうことか</p> <p>2 文書と文章 2 文章の種類</p> <p>3 文書と文章 3 文書の形式</p> <p>4 文書と文章 4 文書の役割と目標</p> <p>5 文書と文章 5 主題と与えられた課題</p> <p>6 文書と文章 6 材料 参考書 メモ カード チャート</p> <p>7 表記の技術 1 現代仮名遣い 常用漢字 送りがな</p> <p>8 表記の技術 2 地名 人名 数字 記号</p> <p>9 表記の技術 3 図表 写真</p> <p>10 表記の技術 4 原稿用紙 レポート用紙 ワープロ</p> <p>11 表記の技術 5 訂正 校正</p> <p>12 文章の構造 1 文章の構成法</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時間中に指示する。		<p>文章の全部や一部のかきかえ、一定のディスコースの要約、クイズ、スピーチ等のタスクを課す。</p> <p>前記のタスクを課した際に、常に一定の得点を与える。その得点を集積して評定の基礎とする。</p>	

03～05 律/国 99～02 律/国	日本語Ⅱb / 日本語Ⅱb 日本語Ⅱ / 日本語Ⅱ	担当者	齋藤 明
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		<p>13 文章の構造 2 記述の順序</p> <p>14 文章の構造 3 序論 本論 結論</p> <p>15 表現と論理 1 表現の方法</p> <p>16 表現と論理 2 論理の展開</p> <p>17 表現と論理 3 題目 要約 キーワード</p> <p>18 表現と論理 4 文章の流れ</p> <p>19 表現と論理 5 ディスコース パラグラフ 段落</p> <p>20 事実と意見 1 事実とはなにか</p> <p>21 事実と意見 2 意見とはなにか</p> <p>22 わかりやすさ 1 明確な主張</p> <p>23 わかりやすさ 2 簡潔な表現</p> <p>24 わかりやすさ 3 句や節の接続</p> <p>25 わかりやすさ 4 破格文 ねじれ文</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

03～05 律／国 99～02 律／国	日本語Ⅱa / 日本語Ⅱa 日本語Ⅱ / 日本語Ⅱ	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>小説を読む。</p> <p>現代日本の短編小説を毎時間とりあげる。読解の作業自体は、基本的には履修者が予習の段階でおこなうものとする。授業では、読解については、分かりにくいところ、注意すべき表現などをとりあげるだけとしたい。</p> <p>授業での活動は、小説を読んだあとの議論にむけた。そのためにクラスを半分にわけ、毎回それぞれ異なる課題作品をあたえる。その上で、授業中で、それぞれその作品を読まなかったグループに対して、作品を説明し、質問を受ける。さらにそれぞれのグループから提出された、作品の提示する問題をとりあげて、クラスで議論する。</p> <p>必要に応じて、読後の書評を書くことを求める場合がある。また期末には必ず1作品を選んで、書評を書くことを課題とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 作品(1)の読解と説明 3. 作品(1)に関する議論 4. 作品(2)の読解と説明 5. 作品(2)に関する議論 6. 作品(3)の読解と説明 7. 作品(3)に関する議論 8. 作品(4)の読解と説明 9. 作品(4)に関する議論 10. 作品(5)の読解と説明 11. 作品(5)に関する議論 12. まとめ <p>それぞれの作品は、履修者と相談して決めることとするが、できるだけ現代日本の大衆小説からとりたい。担当者が念頭においているのは、宮部みゆき、浅田次郎、唯川恵、北村薫などである。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示する。		出席と期末の課題で評価する。	

03～05 律／国 99～02 律／国	日本語Ⅱb / 日本語Ⅱb 日本語Ⅱ / 日本語Ⅱ	担当者	小川 治子
講義目的、講義概要		授業計画	
最初の授業で説明する。			
テキスト、参考文献		評価方法	

03～05 律/国 99～02 律/国	日本語Ⅱ a / 日本語Ⅱ a 日本語Ⅱ / 日本語Ⅱ	担当者	武田 明子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文章を書くということは、見えない相手（読み手）に自分を評価してもらうことである。読み手は文章を読んで、書き手の構成力、分析力、判断力といった知的活動能力を評価する。書き手は自分の文章表現で自己アピールをし、これらの能力に対する、より高い評価を得なければならない。</p> <p>自己アピールが上手にできるようになるには、論理的な文章を書くための基本的な「型」を踏襲することである。「型」は公的な文章のすべてに用意されている。目的にあった「型」を上手に応用できる者が高い評価を受けることになる。</p> <p>この講義では、読み手に自分の能力を認めさせるための「型」を理解し、上手に応用できるような技術について習熟することを目的とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. テーマを絞る 2. 基本となる型 3. 分かりやすい話題提供 4. 失敗しない立場表明 5. 読み手を納得させる根拠提示 6. 賛同が得られる結論 7. 型の発展 8. 目標規定文の意義 9. フローチャートの作成 10. 事実と考察の使い分け 11. 視点の一致 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを作成し配布		出席25%、授業内提出物25%、レポート提出25%、試験25%	

03～05 律/国 99～02 律/国	日本語Ⅱ b / 日本語Ⅱ b 日本語Ⅱ / 日本語Ⅱ	担当者	小川 治子
講義目的、講義概要		授業計画	
最初の授業で説明する。			
テキスト、参考文献		評価方法	

全カリ (春) 2002 年度以前	スポーツ・レクリエーション(アウトドアレクリエーション) 体育Ⅰ・Ⅱ(春学期および夏季集中)	担当者	青柳 多恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>社会的構造の変化や子供を含めた生活様式の変化に伴う、余暇生活の計画性が大きな社会問題である。健康・余暇についての知識と経験を積み重ねることを重視し、個人・チームの中で集団をコーディネートできる能力も養う。</p> <p>概要 自然と人間行動を十分に理解する。また人間として、自然環境の保全の意味や、責任を理解する事と、自然環境に踏み込むルール(気象の読み方・地図の見方)を学び、安全と自然体系を乱さない知識と配慮を研究し、危険防止の観点から、事前実施計画の作成と、将来にわたってのグループ形成と、楽しい企画・運営を「山」を対象として行う。</p>		<p>1: ガイダンス 2: 基礎体力測定 3: ゲームと班分け 4: 気象図の見方と地図・志賀高原ルート・尾瀬の自然観察 5: 山間を想定しての調理訓練(1) 食材の選定とごみの処理の原則 6: 自然の楽しみ方1) 山野草観察・ 7: サバイバル体験の知識と危険度について 8: 救急法 9: キャンプ地での調理訓練 事前購入とキャンプ地の安全度 10: テントの調整法と危険度について 11: 山行の個人装備品・団体装備品 山行パンフづくり 12: 事前実施計画の最終検討・参加人員決定 7月24日(日)～7月28日(木) 1案「志賀高原」にて合宿 2案「尾瀬」キャンプ トレッキング靴・雨具必携</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		出席重視・レポート作成	

全カリ (秋) 2002 年度以前	スポーツ・レクリエーション (アウトドア山岳) 体育Ⅰ・Ⅱ(春学期および夏季集中)	担当者	青柳 多恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>集中授業 (山岳) 軽登山と自然観察 班でのトレッキングと飯ごう炊飯 地域ボランティア活動 山野草・温泉見学・地域祭りに参加</p>		<p>7月定期テスト終了後 4泊5日 志賀高原 個人での携帯品 トレッキングシューズ 雨具・日用洗面用具</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	

全カリ (春) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (アウトドアレクリエーション) (春学期) 体育Ⅰ・Ⅱ (春学期および夏季集中)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>レクリエーション活動のうち、主に自然環境と関連するいくつかの種目を経験し、安全と管理、自然と環境、自由時間の意味、価値について考え、現在と将来の自由時間をデザインします。実技だけでなく講義も含み、健康について、環境についても学習します。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。</p> <p>[講義概要]</p> <p>学内の授業では、グループゲーム、アウトドアクッキング、マップ&コンパス、ペタンク、フリスビー、インラインスケート、ウォークラリー等、多くの種目を紹介し、経験します。種目については学生の要望に応じて選択しようと思います。各種目は内容と難易度などにより、各種目に当てる時間数は異なります。合宿は、新潟県佐渡島で行う海浜型野外活動、または千葉県館山市で行うウィンドサーフィンの2つの合宿のうち、どちらかに参加してもらいます。内容の詳細については、体育のホームページを見てください。日程・参加費は別に案内します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の内容と計画についての説明 2. 仲間づくりの時間：グループゲーム 3. 仲間づくりの時間：グループゲーム 野外炊飯の計画 4. 仲間づくりの時間：アウトドアクッキング 5. アウトドアレクリエーション種目 6. アウトドアレクリエーション種目 7. アウトドアレクリエーション種目 8. アウトドアレクリエーション種目 9. アウトドアレクリエーション種目 10. アウトドアレクリエーション種目 11. アウトドアレクリエーション種目 12. 合宿についてのオリエンテーション 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		出席と受講態度、レポート。	

全カリ (春) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (アウトドア海浜・ウィンドサーフィン) (夏季集中) 体育Ⅰ・Ⅱ (春学期および夏季集中)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[受講者への要望]</p> <p>集中授業は海での活動が中心になりますので、受講は心疾患、耳鼻科系疾患、皮膚科系疾患のないことを条件とします。安全管理上、あまり多くの受講生は受け入れられません。また、どちらかに集中してしまう場合には、人数の振り分けをすることもあります。</p>		<p>[集中授業] 「ウィンドサーフィン」 千葉県館山市 2005年9月前半4泊5日</p> <p>[集中授業] 「海浜型アウトドアレクリエーション」 新潟県佐渡島 2005年7月後半4泊5日</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		出席と受講態度、レポート。	

全カリ (秋) 2002 年度以前	スポーツ・レクリエーション (アウトドアレクリエーション) (秋学期) 体育 I・II (秋学期および冬季集中)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。メディアにはたびたび登場する種目ですが、体験することは難しい種目となっています。体験すると、そのスポーツに対する見方が大きく変わります。これを機会に、新しいスポーツ種目にチャレンジしてみませんか。</p> <p>秋学期と冬季集中授業の組み合わせです。春学期には、最初のオリエンテーションだけは参加してください。秋学期には、インラインスケートを使ってスケートトレーニングを行います。インラインスケートならではの技術も行います。初心者の方から受講できます。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 用具あわせ、基本動作</p> <p>第3回 フォアストロークとバリエーション その1</p> <p>第4回 フォアストロークとバリエーション その2</p> <p>第5回 ホッケーにチャレンジ その1</p> <p>第6回 ホッケーにチャレンジ その2</p> <p>第7回 バックストロークとバリエーション その1</p> <p>第8回 バックストロークとバリエーション その2</p> <p>第9回 フォアクロッシング その1</p> <p>第10回 フォアクロッシング その2</p> <p>第11回 バッククロッシング</p> <p>第12回 集中授業についてのオリエンテーション</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし		出席回数、授業への参加姿勢、課題達成度によって評価	

全カリ (秋) 2002 年度以前	スポーツ・レクリエーション (スケートトレーニング) (冬季集中) 体育 I・II (秋学期および冬季集中)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。メディアにはたびたび登場する種目ですが、体験することは難しい種目となっています。体験すると、そのスポーツに対する見方が大きく変わります。これを機会に、新しいスポーツ種目にチャレンジしてみませんか。</p> <p>秋学期と冬季集中授業の組み合わせです。春学期には、最初のオリエンテーションだけは参加してください。秋学期には、インラインスケートを使ってスケートトレーニングを行います。インラインスケートならではの技術も行います。初心者の方から受講できます。</p> <p>宿泊費ほか費用はかかりますが、必ず満足のいく内容となります。</p>		<p>[集中授業] 「氷上スポーツ」 長野県軽井沢町 2006年2月中旬予定 費用¥28000程度 (交通費別)</p> <p>3泊4日を午前と午後の6コマに分け、アイススケートとカーリングを行います。</p> <p>アイススケート4コマ、カーリング2コマの予定です。</p> <p>アイススケートは、技術の進捗度や天候によって内容を変えます。カーリングは、試合を楽しめるまでを行います。</p> <p>詳細については、オリエンテーション時に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし		出席回数、授業への参加姿勢、課題達成度によって評価	

全カリ (春) 2002 年度以前	スポーツ・レクリエーション (インラインスケート a) 体育 I・II (通年)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] インラインスケートについての知識、技術の習得。これによって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にしたいと思います。初めは慣れない道具で不自由さに戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思います。そのためには安全とモラルが大切になるでしょう。</p> <p>[講義概要] インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進捗状況・天候によって、授業計画は変えていきます。</p> <p>[受講者への要望] 自分の靴、プロテクター等があれば利用してください。大学では、22センチから28センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。初心者から受講して下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション インラインスケートとは 2 用具合わせ 立ち方・歩き方・とまり方 3 滑ることに慣れよう： フォアストローク (前方滑走) とバリエーション 4 滑ることに慣れよう： フォアストローク (前方滑走) とバリエーション 5 からだを動かしてみよう： フォアストローク (前方滑走) とバリエーション 6 からだを動かしてみよう： フォアストローク (前方滑走) とバリエーション 7 自由にからだを動かしてみよう： フォアストローク (前方滑走) とバリエーション 8 自由にからだを動かしてみよう： フォアストローク (前方滑走) とバリエーション 9 後ろ向きになれよう：バックストローク (後方滑走) とバリエーション 10 後ろ向きになれよう：バックストローク (後方滑走) とバリエーション 11 後ろ向きになれよう：バックストローク (後方滑走) とバリエーション 12 後ろ向きになれよう：バックストローク (後方滑走) とバリエーション 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>[テキスト]必要に応じて印刷物を配布します。 [参考文献]そのつど紹介します。</p>		出席と受講態度、技術の向上度、実技テスト	

全カリ (秋) 2002 年度以前	スポーツ・レクリエーション (インラインスケート b) 体育 I・II (通年)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] インラインスケートについての知識、技術の習得。これによって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にしたいと思います。初めは慣れない道具で不自由さに戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思います。そのためには安全とモラルが大切になるでしょう。</p> <p>[講義概要] インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進捗状況・天候によって、授業計画は変えていきます。</p> <p>[受講者への要望] 自分の靴、プロテクター等があれば利用してください。大学では、22センチから28センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。初心者から受講して下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 久しぶりにインラインスケート 2 自由な動き作り：カーブ 3 自由な動き作り：いくつかの種類のターン 4 自由な動き作り：いくつかの種類のターン 5 自由な動き作り：いくつかの種類のターン 6 自由な動き作り：フォアクロス 7 自由な動き作り：フォアクロス 8 自由な動き作り：バッククロス 9 自由な動き作り：バッククロス 10 インラインホッケー・実技テスト 11 インラインホッケー・実技テスト 12 インラインホッケー まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>[テキスト]必要に応じて印刷物を配布します。 [参考文献]そのつど紹介します。</p>		出席と受講態度、技術の向上度、実技テスト	

全カリ (秋) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (インラインスケート b) 体育 I・II (秋学期および冬季集中)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p>[講義概要] インラインスケートを教材とする。滑走するスポーツとして、用具を利用し、通常では味わえない感覚を経験する。基本的な滑走方法とバランス感覚を身に付けたら、インラインホッケーに挑戦する。また、冬のスポーツへの導入としてスラローム滑走、ジャンプ等も視野に入れる。</p> <p>[受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇氣。 受講にふさわしい服装の用意。</p>		<p>1 オリエンテーション 個人票の作成 授業実施上の諸注意 トレーニングルームの講習と登録</p> <p>2 用具合わせ 基本スケータリング</p> <p>3 基本スケータリング フォア、バック、ターン、ストップ</p> <p>4 基本スケータリング スラローム</p> <p>5 インラインホッケー</p> <p>6 インラインホッケー</p> <p>7 スラローム滑走 ジャンプ</p> <p>8 インラインホッケー</p> <p>9 インラインホッケー</p> <p>10 スラローム競争</p> <p>11 総合練習</p> <p>12 テスト</p> <p>*コートが使用できない場合には、教室にて講義を行うか場所を変更して実技を行う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。	

全カリ (秋) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (スノースポーツ) 体育 I・II (秋学期および冬季集中)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p>[冬期集中講義] 滑走するスポーツとして、用具を利用し、自然の斜面を利用することで通常では味わえない感覚を経験する。スノースポーツの基本的な滑走方法とバランス感覚を身に付ける。挑戦するスノースポーツは、スノーブレード・ファンスキー・ビッグフット・カービングスキー・スノーボードなど。 実施期間：2月下旬（4泊5日） 実施場所：秋田県田沢湖スキー場</p> <p>[受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇氣。 受講にふさわしい服装の用意</p>		<p>秋学期中に学内でオリエンテーションを行い、要項を配布する。 個人票の作成に伴い写真を提出する。 費用の納入など、学内授業とは異なる負担がある。</p> <p>注：02年度以前の受講生はインラインスケートとのセット履修となる。</p> <p>*不明な点は3棟1階体育準備室にて指示を受けること</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。	

全カリ (春) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (硬式テニス a) 体育 I・II (通年)	担当者	田中 茂宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>学生自身が運動種目に必要なウォーミング・アップ、クーリング・ダウンを行えるようになり、主体性を発揮、身につけることを目的とする。</p> <p>技術的には、フォア・バックのストロークを中心にラリーができるようになり、ゲームの中で必要とされる技術を身につけ、ゲームの進め方・ルールを学ぶ。レポート提出を実施することで、目的、問題意識を持たせる。</p> <p>テニスシューズを用意して出席すること。</p> <p>基本技術の練習を中心に行い、ゲーム時には結果を記録する。ダブルス・シングルのゲームを通じて、ルール・ゲームの進め方を学ぶ。</p> <p>雨天でも行いますが、コートが使用不可能な時には、3棟1階の体育掲示板・体育館の掲示板で指示する。授業に相応しい服装で出席すること(見学者も更衣後に、コートにて見学する。)</p> <p>原則として遅刻は認めない。</p>		<p>1 授業登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成。</p> <p>2 用具の準備と片付けの指示、軽い練習。</p> <p>3 基本技術の練習。</p> <p>4 //</p> <p>5 //</p> <p>6 //</p> <p>7 //</p> <p>8 ゲームを行い、ルール、ゲームの進め方を学ぶ。</p> <p>9 //</p> <p>10 //</p> <p>11 //</p> <p>12 //</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの結果、レポート等を加味して評価する。レポートについては必要だと思われる回数提出してもらう。	

全カリ (秋) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (硬式テニス b) 体育 I・II (通年)	担当者	田中 茂宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>学生自身が運動種目に必要なウォーミング・アップ、クーリング・ダウンを行えるようになり、主体性を発揮、身につけることを目的とする。</p> <p>技術的には、フォア・バックのストロークを中心にラリーができるようになり、ゲームの中で必要とされる技術を身につけ、ゲームの進め方・ルールを学ぶ。レポート提出を実施することで、目的、問題意識を持たせる。</p> <p>テニスシューズを用意して出席すること。</p> <p>基本技術の練習を中心に行い、ゲーム時には結果を記録する。ダブルス・シングルのゲームを通じて、ルール・ゲームの進め方を学ぶ。</p> <p>雨天でも行いますが、コートが使用不可能な時には、3棟1階の体育掲示板・体育館の掲示板で指示する。授業に相応しい服装で出席すること(見学者も更衣後に、コートにて見学する。)</p> <p>原則として遅刻は認めない。</p>		<p>1 授業登録の確認と授業内容の説明。軽い運動。</p> <p>2 基本技術の練習。</p> <p>3 //</p> <p>4 //</p> <p>5 //</p> <p>6 //</p> <p>7 ゲームを行い、ルール、ゲームの進め方を学ぶ。</p> <p>8 //</p> <p>9 //</p> <p>10 //</p> <p>11 //</p> <p>12 //</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの結果、レポート等を加味して評価する。レポートについては必要だと思われる回数提出してもらう。	

全カリ（春） 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション（硬式テニス a） 体育Ⅰ・Ⅱ（通年）	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p>[講義概要] 硬式テニスを教材とする。硬式テニスには、シングルスとダブルスの2つの代表的な試合形式があるが、この授業ではダブルスの試合をすることを中心とする。ダブルスの試合のルールを十分に理解し、プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合が出来るまでをビルドアップしていく。</p> <p>[受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇氣。 各自でテニスシューズを必ず用意し、受講にふさわしい服装で参加して下さい。</p>		<p>1 オリエンテーション 個人票の作成 授業実施上の諸注意</p> <p>2 受講決定の確認と個人票の写真提出 トレーニングルームの講習と登録 授業実施場所の確認</p> <p>3 基本トレーニング ラケットコントロール</p> <p>4 基本トレーニング ラケットコントロール</p> <p>5 基本戦術 サーブ・レシーブ・ストローク</p> <p>6 基本戦術 サーブ・レシーブ・ボレー</p> <p>7 試合に必要な準備 競技場の設営 審判の仕方 試合の進め方</p> <p>8 ミックスダブルスによる試合</p> <p>9 ミックスダブルスによる試合</p> <p>10 男子ダブルス・女子ダブルス</p> <p>11 男子ダブルス・女子ダブルス</p> <p>12 テスト ルール・技術・審判法</p> <p>*コートが使用できない場合には、教室にて講義をするか場所を変更して実技を行う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。	

全カリ（秋） 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション（硬式テニス b） 体育Ⅰ・Ⅱ（通年）	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p>[講義概要] 硬式テニスを教材とするが、この授業ではダブルスの試合をすることを中心とする。ダブルスの試合のルールを十分に理解し、レベルに応じて試合の楽しみ方を考える。プレーヤー、審判、コーディネーターと関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから応用的なことまでをビルドアップしていく。</p> <p>[受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇氣。 各自でテニスシューズを必ず用意し、受講にふさわしい服装で参加して下さい。</p>		<p>1 オリエンテーション 個人票の作成 授業実施上の諸注意</p> <p>2 受講決定の確認と個人票の写真提出 授業実施場所の確認</p> <p>3 基本戦術 プレーの組み合わせ ゲームプラン</p> <p>4 班に班分け 班別に練習 オーダーの検討</p> <p>5 リーグ戦（一巡目）</p> <p>6 リーグ戦（一巡目）</p> <p>7 リーグ戦（一巡目）</p> <p>8 チームとしてリーグ戦（二順目）</p> <p>9 チームとしてリーグ戦（二順目）</p> <p>10 チームとしてリーグ戦（二順目）</p> <p>11 トーナメント</p> <p>12 トーナメント</p> <p>*コートが使用できない場合には、教室にて講義をするか場所を変更して実技を行う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。	

全カリ (春) 2002 年度以前	スポーツ・レクリエーション (ゴルフ a) 体育 I・II (通年)	担当者	山中 邦夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] ゴルフの基礎技術を実習し、あわせて基礎戦術およびルール、マナーについても理解することによって、本コースでのプレーが楽しめるレベル獲得をめざす。</p> <p>[講義概要] ゴルフの理論と実際の技能とのギャップを最小化できるよう、毎時の内容を工夫しながら展開する。まず、全体の動きづくりをめざし、リズムカルなスイング、さらには力強いスイングができるよう、グループ練習、VTRを用いた分析等を用いた授業となる。</p> <p>[受講者への要望] 欠席をしないこと。初心者または初級者の受講を望む。靴はスニーカーまたはゴルフシューズを持参のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 ゴルフ競技の概要 (VTR と講義) 3 スイング、グリップ、スタンスについて (学内グラウンドで実習) 4 スイング、グリップ、スタンスについて (学内グラウンドで実習) 5 スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。 6 スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。 7 スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。 8 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に 9 番アイアン) 9 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(") 10 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(") 11 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に 7 番アイアン) 12 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(") 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		授業の出席状況、技能と理論のテストを総合して評価する。	

全カリ (秋) 2002 年度以前	スポーツ・レクリエーション (ゴルフ b) 体育 I・II (通年)	担当者	山中 邦夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] ゴルフの基礎技術を実習し、あわせて基礎戦術およびルール、マナーについても理解することによって、本コースでのプレーが楽しめるレベル獲得をめざす。</p> <p>[講義概要] ゴルフの理論と実際の技能とのギャップを最小化できるよう、毎時の内容を工夫しながら展開する。まず、全体の動きづくりをめざし、リズムカルなスイング、さらには力強いスイングができるよう、グループ練習、VTRを用いた分析等を用いた授業となる。</p> <p>[受講者への要望] 欠席をしないこと。初心者または初級者の受講を望む。靴はスニーカーまたはゴルフシューズを持参のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に 5 番アイアン) 2 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(") 3 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主にドライバー、スプーン) 4 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。(") 5 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。(") 6 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に 9、7、5 番アイアン) 7 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。(") 8 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(") 9 実技テスト：ショートアイアン (約 80m 先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) : ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格) 10 実技テスト：ショートアイアン (約 80m 先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) : ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格) 11 実技テスト：ショートアイアン (約 80m 先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) : ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格) 12 実技テスト：ショートアイアン (約 80m 先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) : ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		授業の出席状況、技能と理論のテストを総合して評価する。	

全カリ (春) 2002 年度以前	スポーツ・レクリエーション (ゴルフ a) 体育 I・II (通年)	担当者	吉田 卓司
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得する。</p> <p>[講義概要]</p> <p>ゴルフ競技をするにあたり、ゴルフの歴史、ゴルフ用具や服装、エチケットについて講義する。次に、基本的技術をビデオにより学習する。クラブの握り方、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。第7週までは、学内でプラスチック・ボールを使用して、打球する。第8週からゴルフ練習場にて、実習する。</p> <p>[受講者への要望]</p> <p>運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること (汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 ゴルフの歴史と正しいマナーについて 3 基本的技術のビデオ学習 4 ショートアイアン (8、9、PW、SW) のスウィング (グリップ、スタンス、アドレス、スウィングの方法を習得する) 5 学内でプラスチック・ボールを使用して実習 6 各人の個別指導 (正しいグリップ、スタンスの中、正しいアドレスの入り方、スウィングの方法) 7 各人の個別指導 (正しいグリップ、スタンスの中、正しいアドレスの入り方、スウィングの方法) 8 ゴルフ練習場にて実習 (ショートアイアン、ミドルアイアンの基本的なスウィングと打球) 9 (反復練習) 10 (個別指導: グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック) 11 (個別指導: グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック) 12 (個別指導: グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席を重視し、普段の履修態度や運動服装等も評価の対象とする。	

全カリ (秋) 2002 年度以前	スポーツ・レクリエーション (ゴルフ b) 体育 I・II (通年)	担当者	吉田 卓司
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得する。</p> <p>[講義概要]</p> <p>ゴルフ競技をするにあたり、ゴルフの歴史、ゴルフ用具や服装、エチケットについて講義する。次に、基本的技術をビデオにより学習する。クラブの握り方、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。第7週までは、学内でプラスチック・ボールを使用して、打球する。第8週からゴルフ練習場にて、実習する。</p> <p>[受講者への要望]</p> <p>運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること (汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ゴルフ練習場にて実習 2 アイアンショット (3、5、7、9、PW、SW) (個別指導とフォームのチェック) 3 1番ウッド (ドライバー) 3番ウッド (スプーン) の打法と練習 4 ロングアイアン (3、4) ショット練習 5 ロングアイアン (3、4) ショット練習 6 個人個人のスウィングをチェック指導 7 個人個人のスウィングをチェック指導 8 個人個人のスウィングをチェック指導 9 個人個人のスウィングをチェック指導 10 テスト (アイアン、及びウッド) 及び実習 11 テスト (アイアン、及びウッド) 及び実習 12 テスト (アイアン、及びウッド) 及び実習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席を重視し、普段の履修態度や運動服装等も評価の対象とする。テストは、アイアンとウッドについて実施する。	

全カリ (春) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (サッカーa) 体育 I・II (通年)	担当者	檜山 康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらを取りまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では、サッカーを学びながら、独自の運動文化に触れ、サッカー本来の楽しさに触れることを目標としたい。</p> <p>[講義概要]</p> <p>ゲームを中心に行っていくが、その準備段階において技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームを取り入れていく。つまり技術、戦術を個別に取り出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してもらい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。</p> <p>[受講者への要望]</p> <ol style="list-style-type: none"> 遅刻はしないようにする。特にチームで行動するので他人に迷惑がかかる。 服装はスポーツのできるものを身につけること。 アクセサリ、ピアスは外すこと。 		<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション。 ボールに慣れること。試しのゲーム。 1対1の守備。 1対1の攻撃。 オフザボールの動き。 ボールを持っていない選手に対する守備。 パス&コントロール。 ゴール前での守備。 ゴール前での攻撃。 フルコートでのゲーム。リーグ戦。 フルコートでのゲーム。リーグ戦。 フルコートでのゲーム。リーグ戦。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		授業への出席を重視する。加えて参加態度、意欲などを加味する。実技試験、レポートなどを課す場合もある。	

全カリ (秋) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (サッカーb) 体育 I・II (通年)	担当者	檜山 康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらを取りまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では、サッカーを学びながら、独自の運動文化に触れ、サッカー本来の楽しさに触れることを目標としたい。</p> <p>[講義概要]</p> <p>ゲームを中心に行っていくが、その準備段階において技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームを取り入れていく。つまり技術、戦術を個別に取り出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してもらい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。</p> <p>[受講者への要望]</p> <ol style="list-style-type: none"> 遅刻はしないようにする。特にチームで行動するので他人に迷惑がかかる。 服装はスポーツのできるものを身につけること。 アクセサリ、ピアスは外すこと。 		<ol style="list-style-type: none"> 積極的にボールを奪う守備 ビルドアップ。 CFを使った崩し。 サイドでの有効な突破 攻撃的に進めながらカウンターを受けない守備 カウンターアタック 高い位置でのプレッシャー プレッシャーの中でのフィニッシュ。 チームごとの課題練習。リーグ戦①。 リーグ戦② リーグ戦③ リーグ戦④ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		授業への出席を重視する。加えて参加態度、意欲などを加味する。実技試験、レポートなどを課す場合もある。	

全カリ (春) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (サッカーa) 体育 I・II (通年)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p>[講義概要] サッカーを教材とする。サッカーの攻守の切替の中で自然に瞬間的な判断と行動を繰り返し行い、身に付ける。サッカーの試合のルールを十分に理解し、プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合までをビルドアップしていく。</p> <p>[受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇氣。 各自でサッカーにふさわしいシューズと服装を用意すること。</p>		<p>1 オリエンテーション 個人票の作成 授業実施上の諸注意</p> <p>2 受講決定の確認と個人票の写真提出 トレーニングルームの講習と登録 授業実施場所の確認</p> <p>3 ボールコントロール</p> <p>4 簡易のゲーム</p> <p>5 〃</p> <p>6 競技規則、審判法の理解</p> <p>7 正規のゲーム</p> <p>8 〃</p> <p>9 ポジションの理解</p> <p>10 正規のゲーム</p> <p>11 〃</p> <p>12 〃</p> <p>*コートが使用できない場合には、教室にて講義を行うか場所を変更して実技を行う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。	

全カリ (秋) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (サッカーb) 体育 I・II (通年)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p>[講義概要] サッカーを教材とする。チームとしての攻守の切替の中で自然に個人の瞬間的な判断と行動を繰り返し行い身に付ける。レベルに応じてサッカーの試合の楽しみ方を考える。プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合の進め方までをビルドアップしていく。</p> <p>[受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇氣。 各自でフットサルにふさわしいシューズと服装を準備すること。</p>		<p>1 オリエンテーション 個人票の作成</p> <p>2 受講決定の確認 個人票の写真提出</p> <p>3 簡易のゲーム</p> <p>4 班分け・班別練習</p> <p>5 リーグ戦①</p> <p>6 リーグ戦②</p> <p>7 リーグ戦③</p> <p>8 リーグ戦④</p> <p>9 リーグ戦⑤</p> <p>10 リーグ戦⑥</p> <p>11 リーグ戦⑦</p> <p>12 リーグ戦⑧</p> <p>*コートが使用できない場合には、教室にて講義を行うか場所を変更して実技を行う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。	

全カリ (春) 2002 年度以前	スポーツ・レクリエーション (サッカーa) 体育 I・II (通年)	担当者	松本 光弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを通して活動量を確保し体力の向上を目標とする。内容的にはより高度なレベルを追求したく、サッカーが特に得意又は好きという学生の参加を希望する。又、自主的にチームを作り活動ができるよう主体的な学習ができるようになることも目標とする。</p> <p>[講義概要] サッカーの技術及び戦術を各時間学習し、そのまとめとして毎時間ゲームを行う。雨天時には体育館でミニサッカーを行うか、教室にて VTR を利用した講義を行う。</p> <p>[受講者への要望] ゴム底のスパイクシューズ、ストッキング、ショートパンツの用意を希望する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 体力測定、技能測定、簡単なゲーム 3 技術練習とハーフゲーム 4 〃 5 〃 6 ルールの解説 (雨天時に割り当てる) 7 個人戦術とハーフゲーム又はフルゲーム 8 〃 9 〃 10 グループ戦術とハーフゲーム又はフルゲーム 11 〃 12 サッカーの歴史 (雨天時に割り当てる) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>[テキスト]「サッカースキル (技術と戦術)」松本光弘著 学習研究社「サッカーのテクニック」スピンドラー著 松本光弘訳 ベースボールマガジン社[参考文献] 『イングランド・サッカー教程』アラン・ウェイド著 浅見俊雄訳ベースボールマガジン社</p>		出席状況を重視し、平常の授業態度及び技能の進捗度を含め総合的に評価する。	

全カリ (秋) 2002 年度以前	スポーツ・レクリエーション (サッカーb) 体育 I・II (通年)	担当者	松本 光弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを通して活動量を確保し体力の向上を目標とする。内容的にはより高度なレベルを追求したく、サッカーが特に得意又は好きという学生の参加を希望する。又、自主的にチームを作り活動ができるよう主体的な学習ができるようになることも目標とする。</p> <p>[講義概要] サッカーの技術及び戦術を各時間学習し、そのまとめとして毎時間ゲームを行う。雨天時には体育館でミニサッカーを行うか、教室にて VTR を利用した講義を行う。</p> <p>[受講者への要望] ゴム底のスパイクシューズ、ストッキング、ショートパンツの用意を希望する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 グループ戦術とハーフゲーム又はフルゲーム 2 〃 3 〃 4 特殊戦術とフルゲーム 5 〃 6 グループ戦術、チーム戦術とフルゲーム 7 〃 8 〃 9 〃 10 〃 11 〃 12 フルゲーム、評価 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>[テキスト]「サッカースキル (技術と戦術)」松本光弘著 学習研究社「サッカーのテクニック」スピンドラー著 松本光弘訳 ベースボールマガジン社[参考文献] 『イングランド・サッカー教程』アラン・ウェイド著 浅見俊雄訳ベースボールマガジン社</p>		出席状況を重視し、平常の授業態度及び技能の進捗度を含め総合的に評価する。	

全カリ (春) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション(スポーツエクササイズ a) 体育Ⅰ・Ⅱ(通年)	担当者	梶野 克之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>心身ともに健康な生涯を送るためには、積極的な身体運動が必要な時代を向かえている。日常生活の中に能動的な活動を取り入れる態度を養い、健康な生活を視野に入れた考え方を確立したい。健康であるための条件である運動・食事・環境なども考え、適正な運動量を設定して実行できるようにする。</p> <p>自己の体力の現状を認識し、その段階的な向上を目標としてトレーニング・プログラムを作成する。目標を設定して定期的に実行し、全体的な体力について考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、年間授業計画の説明、実施上の注意 2. トレーニングルームの使い方 体力測定について 3. トレーニングの理論と実践 筋力について (1) 4. トレーニングの理論と実践 筋力について (2) 5. トレーニングの理論と実践 筋力について (3) 6. トレーニングの理論と実践 最大酸素摂取量について (1) 7. トレーニングの理論と実践 最大酸素摂取量について (2) 8. トレーニングの理論と実践 最大酸素摂取量について (3) 9. トレーニングの理論と実践 筋持久性について (1) 10. トレーニングの理論と実践 筋持久性について (2) 11. トレーニングの理論と実践 筋持久性について (3) 12. トレーニングの理論と実践 体力測定及び評価 	
テキスト、参考文献		評価方法	
宮下充正『トレーニングの科学的基礎』 ブックハウス HD		授業への参加態度、トレーニングの達成度等により決定する。	

全カリ (秋) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション(スポーツエクササイズ b) 体育Ⅰ・Ⅱ(通年)	担当者	梶野 克之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>心身ともに健康な生涯を送るためには、積極的な身体運動が必要な時代を向かえている。日常生活の中に能動的な活動を取り入れる態度を養い、健康な生活を視野に入れた考え方を確立したい。健康であるための条件である運動・食事・環境なども考え、適正な運動量を設定して実行できるようにする。</p> <p>自己の体力の現状を認識し、その段階的な向上を目標としてトレーニング・プログラムを作成する。目標を設定して定期的に実行し、全体的な体力について考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. トレーニングの理論と実践 食事について (1) 2. トレーニングの理論と実践 食事について (2) 3. トレーニングの理論と実践 食事について (3) 4. トレーニングの理論と実践 体力測定および評価 5. トレーニングの理論と実践 心拍数について (1) 6. トレーニングの理論と実践 心拍数について (2) 7. トレーニングの理論と実践 心拍数について (3) 8. トレーニングの理論と実践 歩行について (1) 9. トレーニングの理論と実践 歩行について (2) 10. トレーニングの理論と実践 ジョギングについて (1) 11. トレーニングの理論と実践 ジョギングについて (2) 12. トレーニングの理論と実践 体力測定および評価 	
テキスト、参考文献		評価方法	
宮下充正『トレーニングの科学的基礎』 ブックハウス HD		授業への参加態度、トレーニングの達成度等により決定する。	

全カリ (春) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (ソフトボール a) 体育 I・II (通年)	担当者	池垣 功一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。</p> <p>[講義概要] 前半は個人技術中心の練習内容とし、後半からチームを編成して、チームごとの練習ならびに試合に移る。</p> <p>[受講者への要望] 雨天時およびグラウンド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。</p>		<p>1 年間スケジュールおよび履修上の諸注意 ソフトボールの特質、ルール等について説明</p> <p>2 キャッチボール (ソフトボールに適したボールの握り方、フォーム) ピッチング (スリングショット投法)</p> <p>3 ピッチング (スリングショット投法の復習および ウインドミル投法) トスバッティング</p> <p>4 ピッチング (各種投法の復習) ハーフバッティング</p> <p>5 守備練習 (基本的なゴロと飛球の捕り方) フリーバッティング</p> <p>6 守備練習 (各ポジションの守備方法) シートノック</p> <p>7 ベースランニングとスライディングの練習 バント練習 (内野手の連携プレー)</p> <p>8 シートノックによる守備練習 (ダブルプレーの練習) ゲーム形式のバッティング練習</p> <p>9 審判の方法についての説明 チームの編成(1) (ポジション・打順を決める) 練習試合</p> <p>10 チーム練習 (試合前の、シートノック) 試合 A~B、C~D</p> <p>11 チーム練習 (トスバッティング) 試合 A~C、B~D</p> <p>12 チーム練習 (バント) 試合 A~D、B~C</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は、出席点に技能点 (態度・努力・服装等) を加味して行なう。	

全カリ (秋) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (ソフトボール b) 体育 I・II (通年)	担当者	池垣 功一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。</p> <p>[講義概要] 試合を主とした展開となるが、適宜、チームごとにテーマを決めたチーム練習を加える。</p> <p>[受講者への要望] 雨天時およびグラウンド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。</p>		<p>1 総合的練習 (1) 審判方法の復習</p> <p>2 総合的練習 (2) スコアブックのつけ方についての説明</p> <p>3 チーム編成 (2) (以下、各々試合 3 回ごとに編成をかえる) 練習試合</p> <p>4 チーム練習 (毎週、チームごとにテーマを決めて実施する。以下同じ) 試合 E~F、G~H</p> <p>5 チーム練習 試合 E~G、F~H</p> <p>6 チーム練習 試合 E~H、F~G</p> <p>7 チーム編成 (3) チーム練習 試合 I~J、K~L</p> <p>8 チーム練習 試合 I~K、J~L</p> <p>9 チーム練習 試合 I~L、J~K</p> <p>10 チーム編成 (4) チーム練習 試合 M~N、O~P</p> <p>11 チーム練習 試合 M~O、N~P</p> <p>12 チーム練習 試合 M~O、N~P</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は、出席点に技能点 (態度・努力・服装等) を加味して行なう。	

全カリ (春) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (ソフトボール a) 体育 I・II (通年)	担当者	太田 朝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>ソフトボールは、走る、投げる、打つ等の運動の基本的要素を持ち、スピード、正確さ、力、機敏さ、注意力、判断力、勇気等を基礎としたスポーツである。その基本技術を身につけ、互いに協力し合い、安全にスポーツを楽しみながら、体力の維持、増進の一助とすることを目標に行なう。</p> <p>[講義概要]</p> <p>個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、正しいスローイング、バッティング、キャッチングを身につけ、チームプレーに於ける連携プレーの習得を目指し授業を展開し、ゲームを通し攻守のプレーを個々に確認していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 個人的技能 基本技能 キャッチング 3 スローイング 1対1での正確な技能の修得 バッティング ノックとトスバッティング 4 フリーバッティング正確なキャッチングと スローイング、バッティングをしっかりと身につける 5 ピッチング 6 集団的技能 連携プレー攻撃＝バント及び ヒットエンドラン 7 タッチアッププレー守備＝フォースプレー 8 ダブルプレーバントの処理と各野手の動き 9 カバーリング あらゆるプレーに対する フォーメーション 10 ルールの解説とスコアのつけ方 (ワンプレーに対する判定法) 11 簡易ゲーム 簡易なゲームを通し事前に練習した プレーの確認とルールの習得。 12 簡易ゲーム 簡易なゲームを通し事前に練習した プレーの確認とルールの習得。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を中心に、授業態度、技能の進歩などを加味し、総合的に評価する。・個人的技能 (捕球、送球、遠投)・ゲーム結果 (集団、個人技能) 欠席時数4回以上の者は、評価の対象としない。	

全カリ (秋) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (ソフトボール b) 体育 I・II (通年)	担当者	太田 朝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>ソフトボールは、走る、投げる、打つ等の運動の基本的要素を持ち、スピード、正確さ、力、機敏さ、注意力、判断力、勇気等を基礎としたスポーツである。その基本技術を身につけ、互いに協力し合い、安全にスポーツを楽しみながら、体力の維持、増進の一助とすることを目標に行なう。</p> <p>[講義概要]</p> <p>個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、正しいスローイング、バッティング、キャッチングを身につけ、チームプレーに於ける連携プレーの習得を目指し授業を展開し、ゲームを通し攻守のプレーを個々に確認していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 個人技能 ゲーム・個々の技量を考えチーム間の 力量の差が大きくなるようにチーム編成し、 リーグ戦を行なう。集団技能の反復練習 2 キャッチボールトス、フリーバッティングピッチング・ 簡単なスコアをつけ個々の成績 (打率、盗塁、打点 など)を集計し成績を出し、技能を競い合う 3 // 4 // 5 // 6 // 7 // 8 // 9 // 10 // 11 // 12 // 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を中心に、授業態度、技能の進歩などを加味し、総合的に評価する。・個人的技能 (捕球、送球、遠投)・ゲーム結果 (集団、個人技能) 欠席時数4回以上の者は、評価の対象としない。	

全カリ (春) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (ソフトボール a) 体育 I・II (通年)	担当者	萩野 元祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的スキルを高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。</p> <p>[講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的スキル練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。</p> <p>[受講者への要望] 技術力はともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組む、そして楽しんでもらいたい。</p>		<p>1 オリエンテーション 登録の確認と授業内容の説明。個人資料の作成など。</p> <p>2 ソフトボールの特性、基本的ルールなどの説明。個人的スキル練習。ボールの握り方、送球、捕球の基本練習</p> <p>3 前回の復習 ゲームの実施</p> <p>4 バッティング練習 (握り方、スタンス、位置、構え方、スイング) リーグ戦</p> <p>5 前回の復習。リーグ戦</p> <p>6 リーグ戦</p> <p>7 守備における送球、捕球 (ゴロ、フライ) 練習 リーグ戦</p> <p>8 前回の復習 リーグ戦</p> <p>9 リーグ戦</p> <p>10 リーグ戦</p> <p>11 リーグ戦</p> <p>12 リーグ戦</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数 1/3 回以上の者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。	

全カリ (秋) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (ソフトボール b) 体育 I・II (通年)	担当者	萩野 元祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的スキルを高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。</p> <p>[講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的スキル練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。</p> <p>[受講者への要望] 技術力はともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組む、そして楽しんでもらいたい。</p>		<p>1 基本練習。 リーグ戦</p> <p>2 基本練習。 リーグ戦</p> <p>3 集団技能 (守備)、リレープレーを練習。 リーグ戦</p> <p>4 前回の復習。 リーグ戦</p> <p>5 リーグ戦</p> <p>6 リーグ戦</p> <p>7 リーグ戦</p> <p>8 リーグ戦</p> <p>9 リーグ戦</p> <p>10 リーグ戦</p> <p>11 リーグ戦</p> <p>12 リーグ戦</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数 1/3 回以上の者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。	

全カリ (春) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (卓球 a) 体育 I・II (通年)	担当者	奥野 忠枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>卓球という球技をとおして、技術の向上はもとより、ゲームをたのしみながら、ルール、試合方法、審判法を学ぶ。ダブルス競技においては、チームワークを体験することによって、協力の態度を養う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業登録の確認 授業内容の説明と諸注意 個人資料の作成 2 競技場と用具について (準備と片付け方) ラケットの種類、持ち方 3 ボールの打ち方 ラリーの連続を行う。ミニ試合 4 サービス、レシーブの練習 ミニ試合 5 バックハンド フォアハンドの練習 シングルの試合方法と試合 6 サービスについて ボールの回転と ラケットの動きを練習 シングルス試合 7 審判法について学ぶ 8 ダブルス競技のルールを学ぶ ダブルスミニ試合 9 グループでリーグ戦形式のダブルス試合 10 上記に同じ 11 シングルス試合 12 まとめ シングルス試合 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は出席点を重視し、平素の授業態度、技能の進歩を加味し実施する。欠席はできるだけ届け出ること。	

全カリ (秋) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (卓球 b) 体育 I・II (通年)	担当者	奥野 忠枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>卓球という球技をとおして、技術の向上はもとより、ゲームをたのしみながら、ルール、試合方法、審判法を学ぶ。ダブルス競技においては、チームワークを体験することによって、協力の態度を養う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 復習 基本の動き シングルス試合 2 カットについて学ぶ シングルス試合 3 マナーについて 悪いマナー 良いマナー 4 ダブルスの作戦とパートナーとの動きについて 5 グループでダブルスの試合 6 上に同じ 7 上に同じ 8 上に同じ 9 シングルのトーナメント試合 10 シングルス ダブルスにわかれて試合 11 総復習 12 総復習と反省 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は出席点を重視し、平素の授業態度、技能の進歩を加味し実施する。欠席はできるだけ届け出ること。	

全カリ (春) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (卓球 a) 体育 I・II (通年)	担当者	本田 稔祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 敏捷性・集中力を養い、基本技術を習得して、簡単なルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献できること。</p> <p>[講義概要] 基本的練習や簡易ゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。</p> <p>[受講者への要望] 授業の前日は早寝、当日は早起をして コンディションを整えて出席するように、欠席、遅刻はその理由を届けてもらう。服装は運動服、上靴を用意し動きやすくする。初心者はフォームだけでもしっかりマスターして少しでも上達するように。尚ラケットは個人で用意することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業内容の説明と個人資料カード作成 (写真を必ず用意すること) 2 用具の準備、片付けの仕方と基本知識、動作などについて 3 能力別グループ編成と、初心者は、構え、スイング フットワークなどの基本練習 4 サーブ・レシーブ 簡易ゲーム 5 フォアハンドロング・バックハンドショート 簡易ゲーム 6 バックハンドロング・ショートカット 能力別シングルスゲーム 7 カット・スマッシュ・シングルスゲーム 8 ダブルスゲームの進め方・シングルスゲームとの違い ダブルスゲーム 9 ダブルスゲーム パートナーと動きを考える 10 ダブルスゲーム 11 シングルス・トーナメント戦 12 シングルス・トーナメント戦 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『指導者のための卓球』 I. II. III. 倉木常夫他著 不昧堂出版 他		出席点、平常点、技能点、の3つで行う。(出席点は、無欠席は特A、欠席1回A、欠席2回B、欠席3回C、欠席4回以上はFとする。平常点は遅刻、服装などで行い、特に服装の悪い者、上靴の用意のない者は「やる気」に欠けるとして減点する。技能点は進歩の度合で行う)	

全カリ (秋) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (卓球 b) 体育 I・II (通年)	担当者	本田 稔祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 敏捷性・集中力を養うとともに、基本技術を応用して、ルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献できること。</p> <p>[講義概要] シングルスゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームをはじめ、団体戦なども行い、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。</p> <p>[受講者への要望] 授業の前日は早寝、当日は早起をして コンディションを整えて出席するように、欠席、遅刻はその理由を届けてもらう。服装は運動服、上靴を用意し動きやすくする。初心者はフォームだけでもしっかりマスターして少しでも上達するように。尚ラケットは個人で用意することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 チーム編成とチーム内シングルスリーグ戦 2 キャップ・マネージャーなどの選出とシングルスリーグ戦。 3 チーム対抗戦 1 4 チーム対抗戦 2 5 チーム対抗戦 3 6 チーム対抗戦 4 7 抽選によるシングルス・予選リーグ戦 8 シングルス・予選リーグ戦 9 決勝リーグ戦 10 決勝リーグ戦 11 シングルス・トーナメント戦 12 技能テスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『指導者のための卓球』 I. II. III. 倉木常夫他著 不昧堂出版 他		出席点、平常点、技能点、の3つで行う。(出席点は無欠席特A、欠席1回A、欠席2回B、欠席3回C、欠席4回以上はFとする。平常点は遅刻、服装などで行い、特に服装の悪い者、上靴の用意のない者は「やる気」に欠けるとして減点する。技能点は進歩の度合で行う)	

全カリ (春) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (バスケットボール a) 体育 I・II (通年)	担当者	勝瀬 武
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 体育実技は実習であるから積極的に参加し、自ら活動する意欲をもって、体力の維持増進に努めてもらいたい。また、バスケットボールの授業を通して、社会性、協調性、公正な判断やルールを遵守する態度を学んでほしい。</p> <p>[講義概要] バスケットボールのルールを正確に把握し、基本技術を習得することによって、楽しくゲームが出来るようにする。また、ゲーム時には、各チームから審判、得点係等を出し、試合の進行を助け合う。個人のレベルアップとともに試合運び等を研究し、チーム全体の技術の向上を目標に努力する。</p> <p>[受講者への要望] バスケットボールを行うのにふさわしい服装で出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 基本練習 (パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート) 3. 基本練習 (パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート) 4. セットオフフェンス (ハーフコートにおける 3対2) 5. セットディフェンス (ハーフコートにおける 5対5) 6. オールコートにおける試合 (班分けをする) 7. オールコートにおける試合 (班分けをする) 8. リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう) 9. リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう) 10. リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう) 11. リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう) 12. リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席、受講態度を重視し、欠席回数が授業時数の1/3を超した者は不合格とする。	

全カリ (秋) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (バスケットボール b) 体育 I・II (通年)	担当者	勝瀬 武
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 体育実技は実習であるから積極的に参加し、自ら活動する意欲をもって、体力の維持増進に努めてもらいたい。また、バスケットボールの授業を通して、社会性、協調性、公正な判断やルールを遵守する態度を学んでほしい。</p> <p>[講義概要] バスケットボールのルールを正確に把握し、基本技術を習得することによって、楽しくゲームが出来るようにする。また、ゲーム時には、各チームから審判、得点係等を出し、試合の進行を助け合う。個人のレベルアップとともに試合運び等を研究し、チーム全体の技術の向上を目標に努力する。</p> <p>[受講者への要望] バスケットボールを行うのにふさわしい服装で出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 リーグ戦前の予備試合 (リーグのためにチームの再編成) 2 リーグ戦前の予備試合 (リーグのためにチームの再編成) 3 リーグ戦開始 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 4 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 5 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 6 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 7 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 8 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 9 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 10 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。 11 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。 12 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席、受講態度を重視し、欠席回数が授業時数の1/3を超した者は不合格とする。	

全カリ (春) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (バスケットボール a) 体育 I・II (通年)	担当者	蓬郷 尚代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] バスケットボールの競技特性を理解し、ゲームを通して集団競技の楽しさを味わい、スポーツへの関心を高めることをねらいとする。また、学年・クラスの枠を越えてチームを編成し、チームを意識しながら技術・戦術ともに上達することを目標とする。</p> <p>[講義概要] 個人技能だけでなく、チームの中における自分の役割を見いだすことでチームへ貢献することができる。ゲームが円滑に進行するよう、各チームから審判・オフィシャルなどを出しゲームの進行も学ぶ。</p> <p>[受講者への要望] バスケットボールを行うのにふさわしい服装・身なりで出席すること。知識の有無、技能レベルに関係なく積極的に授業に参加してほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 基本練習 (パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート) 3. 基本練習 (パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート) 4. オーバーナンバーの攻め方 (ハーフコートにおける 3対2) 5. マンツーマンディフェンス (ハーフコートにおける 5対5) 6. オールコートにおける試合 7. オールコートにおける試合 8. リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう) 9. リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をもらう) 10. リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をもらう) 11. リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をもらう) 12. リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をもらう) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席、受講態度を重視して評価する。2/3以上の出席で評価対象とし、遅刻は減点の対象となるので注意すること。	

全カリ (秋) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (バスケットボール b) 体育 I・II (通年)	担当者	蓬郷 尚代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] バスケットボールの競技特性を理解し、ゲームを通して集団競技の楽しさを味わい、スポーツへの関心を高めることをねらいとする。また、学年・クラスの枠を越えてチームを編成し、チームを意識しながら技術・戦術ともに上達することを目標とする。</p> <p>[講義概要] 個人技能だけでなく、チームの中における自分の役割を見いだすことでチームへ貢献することができる。ゲームが円滑に進行するよう、各チームから審判・オフィシャルなどを出しゲームの進行も学ぶ。</p> <p>[受講者への要望] バスケットボールを行うのにふさわしい服装・身なりで出席すること。知識の有無、技能レベルに関係なく積極的に授業に参加してほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 リーグ戦前の予備試合 (リーグのためにチームの再編成) 2 リーグ戦前の予備試合 (リーグのためにチームの再編成) 3 リーグ戦開始 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 4 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 5 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 6 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 7 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 8 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 9 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 10 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。 11 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。 12 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席、受講態度を重視して評価する。2/3以上の出席で評価対象とし、遅刻は減点の対象となるので注意すること。	

全カリ (春) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (バドミントン a) 体育 I・II (通年)	担当者	太田 朝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] バドミントンの特性である①性別・年齢を問わず技能レベルに応じて誰でも手軽に楽しめる生涯スポーツとして最適、②シャトルから生まれるスピードの緩急や特殊な飛び方の変化に対応するための身体的能力(敏捷性・瞬発力・全身持久力など)が必要、③空中でとらえる、空間感覚の重要性、④相手の動き、シャトルの飛び方に応じた作戦の工夫、判断力、そしてパートナーとの協調性、これらの特性を基本的なプレーの練習を通して、身につける。</p> <p>[講義概要] バドミントンに関する基本的なルールや技術について理解する。手の延長としてのラケットを使用した各種のストロークを身につける。シングルス・ダブルスの試合の実施を通して、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。ゲームの中で練習した技術が生かせるようにするとともに、試合中に生じた疑問を克服してよりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して進んで審判をつとめるとともに、全体的な試合の進行状況にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける</p> <p>[受講者への要望] 毎回授業に出席し、真面目に取り組むこと。 体育館シューズを用意すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、年間授業計画の説明、次回から開始する実技実施上の諸注意ならびに連絡事項の確認。 2 バドミントンの全般的な説明を行なう。 コート、ラケット、シャトル等についての説明。基本的なグリップと素振りを行ない、ストロークの基本を学ぶ 3 基本的技術ストローク・オーバーヘッド (バック、フォア)・サイドアーム (フォア、バック) アンダーハンド (フォア、バック) 4 基本的技術○フットワーク前後、左右フライトの理解 ラケットワークとフライト (クリアー・ドライブ) 5 身につけた技術を実際のゲームで使えるようにする。 ○ロングサービス○ショートサービス (フォア・バック) ○ショートサービスに対する対応 (プッシュ) ○基本的技術の復習 6 " 7 " 8 ○いろいろなフォーメーション ○基本的技術の復習簡単なゲーム (シングルス) 審判法の習得 9 前回までの復習 10 前回までの復習 11 前回までの復習 12 前回までの復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席4回以上の者に対しては、評価の対象としない。	

全カリ (秋) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (バドミントン b) 体育 I・II (通年)	担当者	太田 朝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] バドミントンの特性である①性別・年齢を問わず技能レベルに応じて誰でも手軽に楽しめる生涯スポーツとして最適、②シャトルから生まれるスピードの緩急や特殊な飛び方の変化に対応するための身体的能力(敏捷性・瞬発力・全身持久力など)が必要、③空中でとらえる、空間感覚の重要性、④相手の動き、シャトルの飛び方に応じた作戦の工夫、判断力、そしてパートナーとの協調性、これらの特性を基本的なプレーの練習を通して、身につける。</p> <p>[講義概要] バドミントンに関する基本的なルールや技術について理解する。手の延長としてのラケットを使用した各種のストロークを身につける。シングルス・ダブルスの試合の実施を通して、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。ゲームの中で練習した技術が生かせるようにするとともに、試合中に生じた疑問を克服してよりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して進んで審判をつとめるとともに、全体的な試合の進行状況にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。</p> <p>[受講者への要望] 毎回授業に出席し、真面目に取り組むこと。 体育館シューズを用意すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 グループ別でのシングルのリーグ戦 毎回基本的技術の復習 2 " 3 " 4 " 5 " 6 シングルの決勝リーグ戦 7 " 8 " 9 ダブルスのリーグ戦 10 " 11 " 12 " 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席4回以上の者に対しては、評価の対象としない。	

全カリ (春) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (バドミントン a) 体育 I・II (通年)	担当者	梶野 克之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、基本的なルールや技術について理解する。</p> <p>シングルス、ダブルスの試合方法について理解して実践できるようにし、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。</p> <p>練習した技術がゲームの中で生かせるようにするとともに、試合中に生じた問題点を解決し、よりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判を務めるとともに、全体的な試合の進行にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.年間授業計画の説明 実技実施上の諸注意 連絡事項の確認 2.バドミントン競技の全般的説明 クリヤーの基本 3.ハイクリヤーの基本練習 ドロップの基本 4.クリヤー、ドロップの復習 ヘアピンの基本 5.各種ストロークの復習 サービスの基本練習 6.片面シングルスの実施 カウント方法の確認 前後へのフットワークの基本 7.片面シングルス 審判法の理解 審判の実施 8.ドライブの基本 正規のシングルスゲーム 9.スマッシュの基本 シングルスゲーム 10.各種ストロークの練習 ダブルスの基本 11.ダブルスのルールの理解 試合の実施と審判 12.リーグ戦の実施 	
テキスト、参考文献		評価方法	
相沢マチ子 『やさしいバドミントンレッスン』 ベースボールマガジン社		出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。	

全カリ (秋) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (バドミントン b) 体育 I・II (通年)	担当者	梶野 克之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、基本的なルールや技術について理解する。</p> <p>シングルス、ダブルスの試合方法について理解して実践できるようにし、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。</p> <p>練習した技術がゲームの中で生かせるようにするとともに、試合中に生じた問題点を解決し、よりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判を務めるとともに、全体的な試合の進行にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.基本的なストロークの復習 ダブルスの試合方法と審判法の確認 2.ダブルスの組み合わせの決定 いくつかのグループによるリーグ戦 3.ダブルスの基本的フォーメーションの確認 ゲーム中に生かす 4.ゲーム結果の分析 問題点の整理 ダブルスゲームの実施 5.ゲームの進行状況の確認 組み合わせを変えてのリーグ戦 6.ダブルスゲームの進行 課題をゲーム内で解決 7.ダブルスゲームの進行 ゲームの面白さの理解 8.ダブルスゲームの進行 高いレベルのゲーム 9.ゲームの中での課題の練習 組み合わせの変更 10.ゲームの中での課題の練習 相手プレイヤーの動きに合わせたプレーの練習 11.ゲームの進行 ゲーム・審判とも全員が実施 12.ゲームの進行 勝敗・順位について整理 	
テキスト、参考文献		評価方法	
相沢マチ子 『やさしいバドミントンレッスン』 ベースボールマガジン社		出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。	

全カリ (春) 2002 年度以前	スポーツ・レクリエーション (バレーボール a) 体育 I・II (通年)	担当者	小川 又八朗
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。</p> <p>[講義概要] バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団の技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。</p> <p>[受講者への要望] 出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成。 2 基本技と動き (アンダー オーバー)、パスゲーム 1。 3 レシーブとトス (ボールのつなぎ)、パスゲーム 2。 4 レシーブとカバーリング (守りのフォーメーション)、パスゲーム 3 5 基本技と動き (アンダー フローターサーブ) サーブ レシーブ 基本技と動き (スパイク) 攻撃の組立、 スパイクを含んだミニゲーム 1 6 基本技と動き (スパイク) 攻撃の組立、スパイクを 含んだミニゲーム 2。 7 チーム編成 (スターティングポジションの決定) サーブレシーブのフォーメーション サーレシーブからの攻撃の組立、 スパイクを含んだゲーム。 8 ゲーム、6 チームによるリーグ戦。 9 上記と同じ。8 ゲーム、6 チームによるリーグ戦。 10 上記と同じ。 11 上記と同じ。 12 上記と同じ。まとめテスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『スポーツ・人間・社会』ライナー・マートンズ ベースボール・マガジン社『人と人の間』木村敏 弘文堂 『スポーツの倫理』体育原理分科会編 不昧堂出版		出席点を中心にして評価し授業態度、技能の進歩などを加味する。欠席時数 4 回以上の者については、評価の対象としない。交通機関及び体調等やむを得ない事由以外の遅刻は認めない。	

全カリ (秋) 2002 年度以前	スポーツ・レクリエーション (バレーボール b) 体育 I・II (通年)	担当者	小川 又八朗
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。</p> <p>[講義概要] バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団の技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。</p> <p>[受講者への要望] 出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 チーム編成 (スターティングポジションと 攻守のフォーメーション)。 2 上記と同じ。 3 サーブレシーブからの攻撃の組立、スパイクを含んだ ゲーム。 4 上記と同じ。 5 スパイクレシーブのフォーメーション、スパイクを 含んだゲーム。ゲーム (リーグ戦) 記録、チーム (特に攻撃スパイク サーブ) 6 上記と同じ。 7 上記と同じ。 8 ゲーム (リーグ戦) 記録、チーム (特に守りレシーブ ブロック)。 9 上記と同じ。 10 ゲーム (リーグ戦) 記録、攻撃の組立能力、 ゲームの評価と練習課題。 11 上記と同じ 12 ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする。ルール やセオリー審判法など知的理解度をテストする。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『スポーツ・人間・社会』ライナー・マートンズ ベースボール・マガジン社『人と人の間』木村敏 弘文堂 『スポーツの倫理』体育原理分科会編 不昧堂出版		出席点を中心にして評価し授業態度、技能の進歩などを加味する。欠席時数 4 回以上の者については、評価の対象としない。交通機関及び体調等やむを得ない事由以外の遅刻は認めない。	

全カリ (春) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (バレーボール a) 体育 I・II (通年)	担当者	小山 さなえ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義の目標】 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、基礎的技術を構成するパス、サーブ、スパイク等の個人的技術と、レシーブフォーメーションやアタックフォーメーション等の集団技術の習得をはかり、ゲームを通してその実践能力を高める。 グループ学習により、お互いに協力し自己の責務を全うする態度を養う。</p> <p>【受講者への要望】 自己の健康管理を含めた出席を重視するが、授業態度や運動服装などもチェックする。 バレーボールにふさわしい服装、シューズで授業に参加すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、 個人資料の作成。 2 基本技術と動き (アンダーハンドパス、 オーバーハンドパス) 試しのゲーム 3 アンダーハンドサーブ、レシーブ 試しのゲーム 個人のレシーブ練習 (マンツーマン) スパイク練習 5 様々な打ち方によるサーブ練習 試しのゲーム 6 サーブレシーブフォーメーション アタックレシーブフォーメーション バレーボールのルールやゲーム運営法 7 チーム編成 8 ゲーム、チームによるリーグ戦 9 〃 10 〃 11 〃 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に紹介する。		出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。	

全カリ (秋) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (バレーボール b) 体育 I・II (通年)	担当者	小山 さなえ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義の目標】 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、基礎的技術を構成するパス、サーブ、スパイク等の個人的技術と、レシーブフォーメーションやアタックフォーメーション等の集団技術の習得をはかり、ゲームを通してその実践能力を高める。 グループ学習により、お互いに協力し自己の責務を全うする態度を養う。</p> <p>【受講者への要望】 自己の健康管理を含めた出席を重視するが、授業態度や運動服装などもチェックする。 バレーボールにふさわしい服装、シューズで授業に参加すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 チーム編成 2 グループ練習 3 サーブレシーブフォーメーションとゲーム。 4 〃 5 スパイクレシーブフォーメーションとゲーム。 6 〃 7 ゲーム (リーグ戦) ルールやゲームの運営法、さらにはゲーム内容の 分析法を学習する。 8 〃 9 〃 10 〃 11 〃 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に紹介する。		出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。	

全カリ (春) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (フットサル a) 体育 I・II (通年)	担当者	檜山 康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらを取りまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では、フットサルを学びながら、独自の運動文化に触れ、フットサル本来の楽しさに触れることを目標としたい。</p> <p>[講義概要]</p> <p>ゲームを中心に行っていくが、その準備段階において技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームを取り入れていく。つまり技術、戦術を個別に取り出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してもらい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。</p> <p>[受講者への要望]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 遅刻はしないようにする。特にチームで行動するので他人に迷惑がかかる。 2. 服装はスポーツのできるものを身につけること。 3. アクセサリー、ピアスは外すこと。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション。 2. ボールに慣れること。試しのゲーム。 3. 1対1の守備。 4. 1対1の攻撃。 5. オフザボールの動き。 6. ボールを持っていない選手に対する守備。 7. パス&コントロール。 8. ゴール前での守備。 9. ゴール前での攻撃。 10. フルコートでのゲーム。リーグ戦。 11. フルコートでのゲーム。リーグ戦。 12. フルコートでのゲーム。リーグ戦。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		授業への出席を重視する。加えて参加態度、意欲などを加味する。実技試験、レポートなどを課す場合もある。	

全カリ (秋) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (フットサル b) 体育 I・II (通年)	担当者	檜山 康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらを取りまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では、フットサルを学びながら、独自の運動文化に触れ、フットサル本来の楽しさに触れることを目標としたい。</p> <p>[講義概要]</p> <p>ゲームを中心に行っていくが、その準備段階において技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームを取り入れていく。つまり技術、戦術を個別に取り出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してもらい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。</p> <p>[受講者への要望]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 遅刻はしないようにする。特にチームで行動するので他人に迷惑がかかる。 2. 服装はスポーツのできるものを身につけること。 3. アクセサリー、ピアスは外すこと。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的にボールを奪う守備 2. ビルドアップ。 3. ピヴォを使った崩し。 4. サイドでの有効な突破 5. 攻撃的に進めながらカウンターを受けない守備 6. カウンターアタック 7. 高い位置でのプレッシャー 8. プレッシャーの中でのフィニッシュ。 9. チームごとの課題練習。リーグ戦①。 10. リーグ戦② 11. リーグ戦③ 12. リーグ戦④ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		授業への出席を重視する。加えて参加態度、意欲などを加味する。実技試験、レポートなどを課す場合もある。	

全カリ (春) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (フットサル a) 体育 I・II (通年)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p>[講義概要] フットサルを教材とする。フットサルのスピーディーな攻守の切替の中で自然に瞬間的な判断と行動を繰り返し行い、身に付ける。フットサルの試合のルールを十分に理解し、プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合までをビルドアップしていく。</p> <p>[受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇氣。 各自でフットサルにふさわしいシューズと服装を用意すること。</p>		<p>1 オリエンテーション 個人票の作成 授業実施上の諸注意</p> <p>2 受講決定の確認と個人票の写真提出 トレーニングルームの講習と登録 授業実施場所の確認</p> <p>3 ボールコントロール</p> <p>4 簡易のゲーム</p> <p>5 //</p> <p>6 競技規則、審判法の理解</p> <p>7 正規のゲーム</p> <p>8 //</p> <p>9 ポジションの理解</p> <p>10 正規のゲーム</p> <p>11 //</p> <p>12 //</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。	

全カリ (秋) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (フットサル b) 体育 I・II (通年)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p>[講義概要] フットサルを教材とする。フットサルのスピーディーな攻守の切替の中で自然に瞬間的な判断と行動を繰り返し行い、身に付ける。レベルに応じてフットサルの試合の楽しみ方を考える。プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合の進め方までをビルドアップしていく。</p> <p>[受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇氣。 各自でフットサルにふさわしいシューズと服装を準備すること。</p>		<p>1 オリエンテーション 個人票の作成</p> <p>2 受講決定の確認 個人票の写真提出</p> <p>3 簡易のゲーム</p> <p>4 班分け・班別練習</p> <p>5 リーグ戦①</p> <p>6 リーグ戦②</p> <p>7 リーグ戦③</p> <p>8 リーグ戦④</p> <p>9 リーグ戦⑤</p> <p>10 リーグ戦⑥</p> <p>11 リーグ戦⑦</p> <p>12 リーグ戦⑧</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。	

全カリ (春) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (フリスビーa) 体育Ⅰ・Ⅱ (通年)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] フリスビーは商標名です。一般名はフライングディスクです。このディスクを使用したスポーツの技術を習得し、アルティメット、ガッツ、ディスクゴルフなど特徴的な種目を体験する。各個人が日常で友人や恋人に教えたり、家族とじゅうぶん楽しめるだけの実力をつけることを目標とします。</p> <p>[講義概要] フライングディスクスローイングの基本テクニックから、応用テクニックまでを習得します。またそれを利用したいくつかの種目を体験します。種目の中心は、アルティメットというアメリカンフットボールのようなルールで行うスポーツ種目です。身体接触はありませんから、安全です。あまり聞いたことがないでしょうが世界選手権大会も行われるほど海外では普及しているスポーツです。学生の進捗状況・天候によって授業計画は変わってきます。雨天の場合は別の種目を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション フライングディスクとは 2 バックハンドスローとサイドアームスロー 3 バックハンドスローとサイドアームスロー 4 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーション 5 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーション 6 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーション 7 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーション 8 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入 9 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入 10 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入 11 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入 12 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入 	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて印刷物を配布します。		出席と受講態度、技術の向上度	

全カリ (秋) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (フリスビーb) 体育Ⅰ・Ⅱ (通年)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] フリスビーは商標名です。一般名はフライングディスクです。このディスクを使用したスポーツの技術を習得し、アルティメット、ガッツ、ディスクゴルフなど特徴的な種目を体験する。各個人が日常で友人や恋人に教えたり、家族とじゅうぶん楽しめるだけの実力をつけることを目標とします。</p> <p>[講義概要] フライングディスクスローイングの基本テクニックから、応用テクニックまでを習得します。またそれを利用したいくつかの種目を体験します。種目の中心は、アルティメットというアメリカンフットボールのようなルールで行うスポーツ種目です。身体接触はありませんから、安全です。あまり聞いたことがないでしょうが世界選手権大会も行われるほど海外では普及しているスポーツです。学生の進捗状況・天候によって授業計画は変わってきます。雨天の場合は別の種目を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 後期授業についてのオリエンテーションとアルティメットについての説明 2 アルティメットのためのトレーニングとゲーム 3 アルティメットのためのトレーニングとゲーム 4 アルティメットのためのトレーニングとゲーム 5 アルティメットのためのトレーニングとゲーム 6 アルティメットのためのトレーニングとゲーム 7 アルティメットのためのトレーニングとゲーム 8 チーム編成とリーグ戦 9 リーグ戦 10 リーグ戦 11 リーグ戦 12 リーグ戦 　　まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて印刷物を配布します。		出席と受講態度、技術の向上度	

全カリ (春) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (ボールルームダンス a) 体育 I・II (通年)	担当者	青柳 多恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>ボールルームダンス (社交ダンス) とは、音楽にのって歩く (二人で) ことなのです。日常の話す・聴く・動くといった中に音楽にのって動くこと、目の前にいる人とコミュニケーションをステップという言葉で計ることなのです。太古の時代から人間は踊りを嗜んでいたことを思い起こし、ごく自然にダンス言語を駆使した時の楽しさを知って貰うことです。</p> <p>[講義概要]</p> <p>ここでは歩く事が基本。前に・後ろに、ゆっくり・速く・音楽に添ってと何回も繰り返しステップをする。言語と同様に繰り返す事が大切。一番難しいのは、右・左・右と交互に音楽にあわせて歩く事。憶えた事が脳と筋肉運動を連結させ、自然と心理的身体的充足感をもたらすもので、ストレスの知的解消法の一つであり、生涯スポーツとしての基礎として、健康に寄与することができます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション ガイダンス ダンスのVTR・班分け 2 ストレッチ・ダンスウォーキング ステップ I・スタンダード 3 ステップ I・スタンダード ワルツのステップ 4 ステップ II・Sベーシック NT・RTと音楽 5 ステップ II・Sベーシック ホールドの意味と必要性 6 ステップ III・Rベーシック リズムとバランス 7 ステップ III・Rベーシック CHA・CHAステップ 8 ステップ IV・Sベーシック クイックステップ 9 ステップ IV・Sベーシック Q・リズム遊び (ジルバ) 10 ステップ V・R・S 表現する事 11 ステップ V・R・S 楽しむ事 12 ダンスを楽しく マナー・パーティーについて 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		出席	

全カリ (秋) 2002年度以前	スポーツ・レクリエーション (ボールルームダンス b) 体育 I・II (通年)	担当者	青柳 多恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>ボールルームダンス (社交ダンス) とは、音楽にのって歩く (二人で) ことなのです。日常の話す・聴く・動くといった中に音楽にのって動くこと、目の前にいる人とコミュニケーションをステップという言葉で計ることなのです。太古の時代から人間は踊りを嗜んでいたことを思い起こし、ごく自然にダンス言語を駆使した時の楽しさを知って貰うことです。</p> <p>[講義概要]</p> <p>ここでは歩く事が基本。前に・後ろに、ゆっくり・速く・音楽に添ってと何回も繰り返しステップをする。言語と同様に繰り返す事が大切。一番難しいのは、右・左・右と交互に音楽にあわせて歩く事。憶えた事が脳と筋肉運動を連結させ、自然と心理的身体的充足感をもたらすもので、ストレスの知的解消法の一つであり、生涯スポーツとしての基礎として、健康に寄与することができます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス ダンスのVTR・班分け 2 ストレッチ・ダンスウォーキング ステップ I・スタンダード 3 ステップ I・スタンダード ワルツのステップ 4 ステップ II・Sベーシック NT・RTと音楽 5 ステップ II・Sベーシック ホールドの意味と必要性 6 ステップ III・Rベーシック リズムとバランス 7 ステップ III・Rベーシック ジャイブ・ステップ 8 ステップ IV・Sベーシック クイックステップ 9 ステップ IV・Sベーシック Q・リズム遊び (ルンバ・マンボ) 10 ステップ V・R・S 表現する事 11 ステップ V・R・S 楽しむ事 12 ダンスを楽しく マナー・パーティーについて 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		出席	